

リアホナ

総大会の説教

ガバレット長老、ゴドイ長老、
マルチネス長老、黄長老が
それぞれの母国語で
メッセージを伝える



「キリストと重い皮膚病の者たち」 J・カーク・リチャーズ画

イエス・キリストによって、目の不自由な者は見え、足の不自由な者は歩き、重い皮膚病の者は清まり、
耳の不自由な者は聞こえ、死人は生きかえり、貧しい人々は福音を聞かされている。

(マタイ II : 5 参照)

土曜午前の部会

- 4 大会へようこそ
トーマス・S・モンソン大管長
- 6 わたしたちに希望がある理由
ボイド・K・パッカー会長
- 9 どちらを向いていますか
リン・G・ロビンズ長老
- 12 聖餐——^{せいさん}霊の更新のとき
チェリル・A・エズプリン
- 14 一致して救助する
黄^{ワウ} (サム) 志康長老
- 16 とこしえに自由となり、
思いのままに行動することができ
D・トッド・クリストファーソン長老
- 22 光と真理の証を受ける
ディーター・F・ウークトドルフ管長

土曜午後の部会

- 24 教会役員の支持
ヘンリー・B・アイリング管長
- 25 違いがあっても周りの人を愛し、
受け入れる
ダリン・H・オークス長老
- 28 ジョセフ・スミス
ニール・L・アンダーセン長老
- 32 親——子供にとって最も重要な
福音の教師
タッド・R・カリスター
- 34 自信を持って神の御座に近づく
ヨーク・クレビンガット長老
- 37 はい、主よ、あなたに従います
エドアルド・ガバレット長老
- 40 わたしたちは皆、
物乞いではないだろうか
ジェフリー・R・ホランド長老
- 43 永続する平安を見だし、
永遠の家族を築く
L・トム・ペリー長老

神権部会

- 46 賢明に選ぶ
クエンティン・L・クック長老
- 50 自分自身で知っている
クレグ・C・クリステンセン長老

- 53 断食の律法——
貧しい人や助けを必要とする人の
世話をする個人の責任
ディーナ・M・デイビーズ ビショップ
- 56 「主よ、それはわたしですか」
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 59 備えの神権
ヘンリー・B・アイリング管長
- 67 故郷へ安全に導かれる
トーマス・S・モンソン大管長

日曜午前の部会

- 70 絶えざる啓示
ヘンリー・B・アイリング管長
- 74 預言者を支持する
ラッセル・M・ネルソン長老
- 77 預言者の言葉に従って生活する
キャロル・F・マッコンキー
- 80 永遠の命——天の御父と御子
イエス・キリストとを知ること
ロバート・D・ヘイルズ長老
- 83 聖餐と贖罪^{せいさん しょくざい}
ジェームズ・J・ハムラ長老
- 86 あなたの足の道に気をつけよ
トーマス・S・モンソン大管長

日曜午後の部会

- 89 船にとどまり、つかまっていなさい
M・ラッセル・バラード長老
- 92 信仰を行使することを最優先とする
リチャード・G・スコット長老
- 96 主はわたしたちのために
計画をお持ちです
カルロス・A・ゴドイ長老
- 99 家族の記録の書
アラン・F・パッカー長老
- 102 個人的に愛をもって仕える
ヒューゴ・E・マルチネス長老
- 104 神聖なものを
軽んじないようにしなさい
ラリー・S・ケーチャー長老
- 107 きてごらんさない
デビッド・A・ベドナー長老
- 110 また逢う日まで^{また}
トーマス・S・モンソン大管長

中央女性部会

- 111 まったく知られていなかった方法で
備えをしていた
リンダ・K・バートン
- 114 神の聖約の娘たち
ジーン・A・ステイブンス
- 117 光を分かち合う
ニール・F・マリオット
- 120 喜んで福音に生きる
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 64 末日聖徒イエス・キリスト教会の
中央幹部と中央役員
- 124 大会で話された実話や物語の索引
- 125 教会のニュース



第184回 半期総大会の概要

2014年10月4日 土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ボニー・L・オスカーソン。閉会の祈り——ブラッドリー・D・フォスター長老。音楽——タバナクル合唱団：指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——リチャード・エリオット、アンドリュウ・アンズワース。「夜明けだ、朝明けだ」『賛美歌』1番；「山の上に」『賛美歌』2番、ウィルバーク編曲、未刊；「み空に麗し」『賛美歌』27番、ウィルバーク編曲、未刊；「導きたまえよ」『賛美歌』41番；“If I Listen with My Heart,” デフォード、マーフィー編曲、未刊；“From All That Dwell below the Skies,” Hymns, 90番、ウィルバーク編曲、未刊。

2014年10月4日 土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——ウィルフォード・W・アンダーセン長老。閉会の祈り——エドワード・デュベ長老。音楽——ユタ州トゥエラ、グランツビル、スタンスベリーパークのステーキによる合同聖歌隊：指揮——ホルー・ベバン、ライアン・マーフィー；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ。“Arise, O God, and Shine,” Hymns, 265番、ウィルバーク編曲、オックスフォード刊；「主は生けりと知る」『賛美歌』75番、ハフ編曲、未刊；「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番；「主よ、われと共に」『賛美歌』94番、ゲーツ、ジャックマン刊。

2014年10月4日 土曜夜、神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ブルース・A・カールソン長老。閉会の祈り——ジェームズ・B・マルティノ長老。音楽——プロボ宣教師訓練センターの神権者聖歌隊：指揮——ライアン・エグゲット、エルモ・ケック；オルガニスト——クレア・クリスチャンセン。“Rise Up, O Men of God,” Hymns, 324番、ウィルバーク編曲、未刊；宣教師の曲のメドレー、「宣教師になりたい」『子供の歌集』91；「勇者になろう」『子供の歌集』85；「ニーファイのように」『子供の歌集』92；「われらは天の王に」『子供の歌集』94、エバンズ、エグゲット編曲、未刊；

「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番；「イスラエルの長老たちよ」『賛美歌』196番、スピール編曲、未刊。

2014年10月5日 日曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——ドン・R・クラーク長老。閉会の祈り——ローズマリー・M・ウィクソム。音楽——タバナクル合唱団：指揮——マック・ウィルバーク、クレア・クリスチャンセン。“Sing Praise to Him” Hymns, 70番；「たたえよ神を」『賛美歌』38番；「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番、ウィルバーク編曲、未刊；「来たれ、主の子ら」『賛美歌』31番；“Softly and Tenderly”, トンプソン、ウィルバーク編曲、未刊；「主のみ言葉は」『賛美歌』46番。

2014年10月5日 日曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——デビッド・F・エバンズ長老。閉会の祈り——ジョン・S・タナー。音楽——タバナクル合唱団：指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——ボニー・グットリフ、リンダ・マーゲッツ。“Lo, the Mighty God Appearing!” Hymns, 55番、マーフィー編曲、未刊；「み恵み数えあげ」『賛美歌』153番；「神の子です」『賛美歌』189番、マーフィー編曲、未刊；“We Ever Pray for Thee,” ウィルバーク編曲、未刊。

2014年9月27日 土曜夜、中央女性部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ローズマリー・M・ウィクソム。開会の祈り——ドーラ・ムカベラ。閉会の祈り——エイミー・キャロライン・ホワイト。音楽——ユタ州マグナ、ハンター、テイラーズビル地域のステーキに集う初等協会の少女、若い女性、扶助協会の姉妹から成る合同聖歌隊：指揮——エリン・パイク・トール；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ。“On This Day of Joy and Gladness,” Hymns, 64番、トール、マーゲッツ編曲、未刊；「神殿に行きたいな」『子供の歌集』99番、韓国ソウルの初等協会の子供たちから成る聖歌隊、ザプリスキー編曲、未刊；メドレー：“I Know That My Savior Loves Me,” ベル、クリーマー；「主は生けりと知る」『賛美歌』75番、トール、マーゲッツ編曲、未刊；「神の子です」『子供の歌集』2、ザプリスキー編曲、未刊；“Let Zion in Her Beauty Rise,” Hymns, 41番、ワード編曲、未刊。

総大会の説教の入手

総大会の説教を様々な言語で聞くことができます。インターネットで conference.lds.org にアクセスし、言語を選択してください。大会説教は「福音ライブラリー」モバイルアプリでも利用できます。通常、総大会後6週間以内に、大会の映像と音声録音したものが配送センターを通じて入手できるようになります。障がいのある会員が利用できる形式の総大会に関する情報は disability.lds.org で入手できます。

ホームティーチングや家庭訪問のメッセージ

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとして、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

表紙

表紙——写真／ナサニエル・レイ・エドワーズ
裏表紙——写真／レスリー・ニルソン

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティー——ウェルデン・C・アンダーセン、コーディー・ベル、ランディー・コリアー、ウエストン・コルトン、クレグ・ダイヤモンド、ナサニエル・レイ・エドワーズ、アシュリー・ラーセン、オーガスト・ミラー、ブライアン・ニコルソン、レスリー・ニルソン、マシュー・ライアー、クリスティーナ・スミス、バイロン・ワーナー。合衆国バージニア州アレクサンドリア——チャンス・ハンモック。合衆国ウィスコンシン州ペロナ——ジェニファー・アン・リー。合衆国ジョージア州ピーチツリー・コーナーズ——デビッド・ウインターズ。パラグアイ、サンロレンゾ——レベッカ・リオス・ベニテス。スペイン、北マリアナ諸島——デル・ベントン。メキシコ、クアウテモク——ニルサ・ビートル・サンティラン。ブラジル、ソブラル——ウェスリー・ダイアス。フィリピン、ラス・ピナス——ダニエル・サンチェス・ラバホ・ジュニア。アイルランド、ウォーターフォード——イマード・マーティン。ブラジル、カノアス——マイケル・モーリス・ジュニア。アルゼンチン、バリロッチェ——ホセ・ペナ。南アフリカ、ケープタウン——サマンサ・スケールズ。



大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: クレグ・A・カードン

顧問: マービン・B・アーンold, クリストフェル・ゴールデン, ラリー・R・ローレンス, ジェームズ・B・マルティノ, ジョセフ・W・シターティ

実務運営ディレクター: デビッド・T・ワーナー

業務ディレクター: ピンセント・A・ボーン

教会機関誌ディレクター: アラン・R・ロイボーク

ビジネスマネージャー: ガーフ・キャノン

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ライアン・カー

出版補佐: リサ・カロリナ・ロベス

執筆・編集: ブリッタニー・ピーティエ, デビッド・ディクソン, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリット, ローリー・フラー, ギャレット・H・カーフ, ラリー・ポーター・ガーント, ミンディー・アン・リービット, マイケル・R・モリス, サリー・ジョンソン・オデカーク, ジョシュア・J・パーキー, ジェン・ピンボロー, リチャード・M・ロムニー, ポール・バンテンバーグ, マリッサ・ウイティソン

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: タッド・R・ピーターソン

デザイン: ジャネット・アンドリュース, フェイ・P・アンドラス, マンディー・M・ベントレー, C・キンボール・ボット, トーマス・チャイルド, ネット・ギネス, コリー・ヒンクレー, エリック・P・ジョンソン, スーザン・ロウレン, スコット・M・ムーイ, マーク・W・ロビンソン, ブラッド・テアー, K・ニコール・ウオーケンホースト

版權および許諾コーディネーター: コレット・ネベカー・オース

制作主管: ジェーン・アン・ピーターズ

制作: ケビン・C・バンクス, コニー・バウソープ・ブリッジ, ジェリ・バーデット, プライア・W・ギューギ, デニス・カービー, キニー・J・ニコルソン, ゲイル・テート・ラファティ

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: スティーブ・R・クリスチャンセン

日本語版翻訳課長: 森田康貴

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名: 末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩 5-8-6 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-30

電話 03-3440-2351

年間予約/海外予約 950円(送料共)

普通号/大会号 100円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ liahona.lds.org からお送りください。電子メールの場合は liahona@ldschurch.org へお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。

Liahona, Rm. 2420, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスマラマ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, 中国語(簡体字), クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, キリジャ語, ハンガリー語, アイスマランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スペイン語, スワヒリ語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2014 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用することは複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada: November 2014 Vol. 38 No. 11. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 707.4.12.5). NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.



話者リスト (50音順)

アイリング, ヘンリー・B 24, 59, 70
アンダーセン, ニール・L 28
ウークトドルフ, ディーター・F 20, 56, 120
黄, 志康 (サム) 14
エスプリン, チェリル・A 12
オークス, ダリン・H 25
ガバレット, エドアルド 37
カリスター, タッド・R 32
クック, クエンティン・L 46
クリステンセン, クレグ・C 50
クリストファーソン, D・トッド 16
クレビンガット, ヨーク 34
ケーチャー, ラリー・S 104
ゴドイ, カルロス・A 96
スコット, リチャード・G 92
ステイブズ, ジーン・A 114
デイビーズ, ディーン・M 53
ネルソン, ラッセル・M 74
バートン, リンダ・K 111
バックナー, アラン・F 99
バックナー, ボイド・K 6
ハムラ, ジェームズ・J 83
バラード, M・ラッセル 89
ヘイルズ, ロバート・D 80
ベドナー, デビッド・A 107
ベリー, L・トム 43
ホランド, ジェフリー・R 40
マッコンキー, キャロル・F 77
マリオット, ニール・F 117
マルチネス, ヒューゴ・E 102
モンソン, トーマス・S 4, 67, 86, 110
ロビンズ, リン・G 9

テーマ別索引

あ 愛する 25, 80, 102, 120
証 6, 20, 28, 50, 80, 104
争い 25
憐れみ 6, 16
アロン神権 53, 59
イエス・キリスト 6, 9, 12, 14, 16, 20, 25, 37, 43, 46, 67, 77, 80, 83, 86, 92, 102, 107, 117
一致 14, 80
祈り 20, 32, 40, 92
戒め 120
疑い 104
教え 32
か 改宗・改心 37, 56, 104
回復 28
家族 32, 43, 92, 99, 117
家族歴史 99
活発化 14
家庭の夕べ 92
神, 父なる 20, 34, 80, 120
義 46, 67
希望 6
逆境 89, 110
教会組織 74
悔い改め 16, 34
敬意 25
啓示 70, 77, 111
結婚 46, 114
健康増進 34
謙遜 56
高慢 56
さ 指導者 74
従順 34, 37, 86, 111
祝福師の祝福 96
贖罪 6, 12, 16, 34, 83, 92, 107, 117
ジョセフ・スミス 6, 9, 28, 50, 53, 70, 80, 96
自立 53

神権 67
信仰 14, 50, 77, 92
真実 20, 25, 107
親切 25, 110
神殿 4, 111, 114, 117
神殿活動 92, 99
救いの計画 16, 86, 96
正義 16
聖餐 12, 83
聖文研究 20, 50, 89, 92
聖約 114
聖霊 70, 80, 104
責任 16
選択の自由 16, 46, 86, 92, 96, 104
総大会 4, 110
備え 59, 111
た 断食 40, 53
知恵 46
父親の務め 43
弟子の務め 40, 46, 56, 86, 102, 110
伝道活動 4, 37, 107
な 仲間からの圧力 9
は 背教 9, 89
母親の務め 43
バプテスマ 114
光 20, 117
評議会 14
福祉 40, 53
ふさわしさ 67
変化 34, 56
奉仕 53, 59, 102, 110, 120
ま 目標 46
物の見方 56, 96
模範 32, 67, 86, 104
や 勇気 9
誘惑 67, 86
赦し 6, 12, 34
預言者 9, 70, 74, 77, 89
ら 霊性 34



トーマス・S・モンソン大管長

大会へようこそ

わたしたちが彼らの話に耳を傾けるとき、心に感動を覚え、
信仰が増し加えられますように。

兄 姉妹の皆さん、この偉大な世界規模の大会に皆さんを歓迎できることは、何という喜びでしょう。教会の中央幹部や中央役員としてわたしたちが支持した兄弟姉妹の話聞き、彼らから学ぶために、わたしたちは世界各地で集まっています。彼らは自分が伝えるべきメッセージについて天の助けを願い求め、何を語るべきかについて靈感を受けています。

今大会は、総大会がラジオで放送されるようになって90年目に当たります。1924年10月、教会の所有するKSL放送を通して、大会の様子が初めてラジオで放送されました。また、テレビ放送が始まって65年目にも当たります。1949年10月の総大会で、KSL放送により、大会の様子が初めてテレビでソルトレーク地区に放映されました。

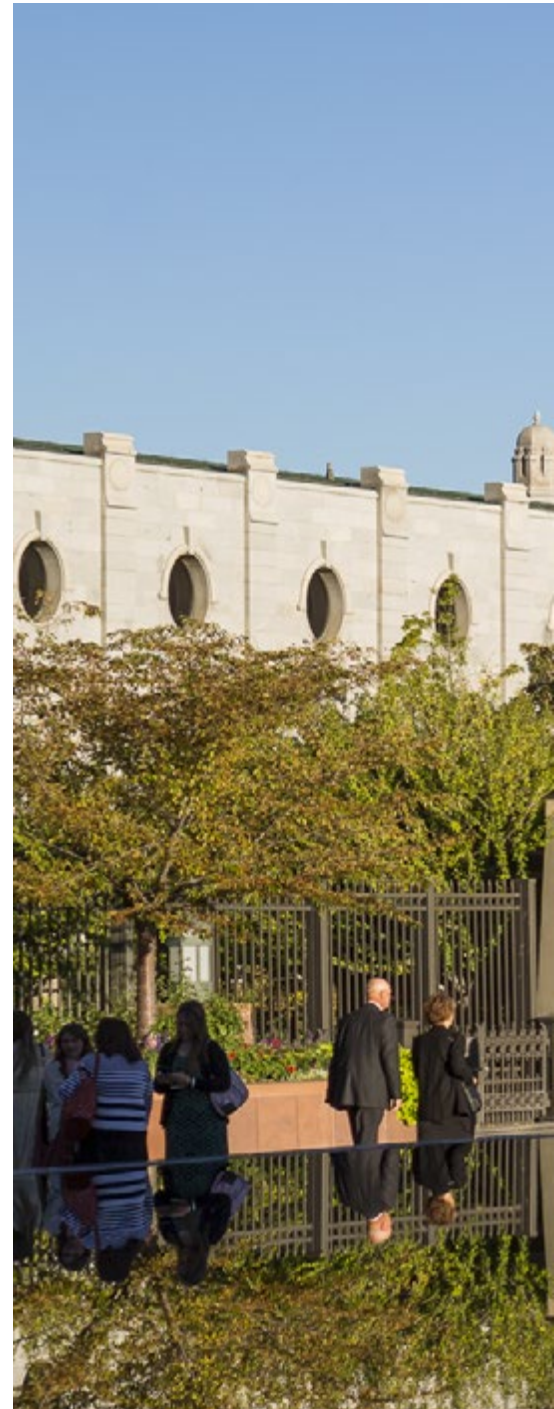
現代のメディアの進歩という祝福により、何千万という会員が総大会を視聴できることに感謝します。今週末の大会の様子は、テレビ、ラジオ、ケーブルテレビ、衛星放送、そして携帯端末でも利用可能なインターネットを通して放送されています。

前回の大会から半年の間に、一つの神

殿が奉献され、一つの神殿が再奉献されました。5月にはディーター・F・ウークトドルフ管長がフロリダ州フォートローダーデール神殿を奉献しました。その前日、青少年によるすばらしい文化式典が行われました。そして翌日の5月4日に、3つの部会にわたって神殿の奉献が行われました。

つい2週間前、わたしは恵まれて、ユタ州オグデン神殿を再奉献しました。最初の奉献は1972年にジョセフ・フィールディング・スミス大管長によって行われました。すばらしい文化式典が再奉献の前日に催され、実に多くの青少年が参加しました。式典は2部構成で、それぞれ異なる出演者によって披露されました。合計で1万6,000人の若人が参加しました。翌日、再奉献式が行われ、多くの中央幹部、補助組織の指導者、神殿会長と顧問、そしてその伴侶たちが出席しました。

わたしたちは引き続き、神殿建設の業を熱心に推し進めています。来月、新たにアリゾナ州フェニックス神殿が奉献される予定です。2015年には、少なくとも5つの神殿が奉献、あるいは再奉献される予定です。完成時期によっては、その数は増えるかもしれません。



4月にお伝えしたように、既に発表された神殿全てが建設され、奉献されると、世界中で170の神殿が運営されることになります。既に発表された神殿を完成させることを優先しているため、現時点では新たな神殿建設の発表はありませんが、将来、必要を見定め、土地を見つけて、さらなる神殿の建設が発表されるでしょう。

教会は発展し続けています。現在会員は1,500万を超え、その数は増加の一途



をたどっています。伝道の業もひるむことなく前進しています。8万8,000人の宣教師が世界各地で奉仕し、福音のメッセージを分かち合っています。再度申し上げますが、伝道の業は神権の務めであり、ふさわしく、奉仕することのできる全ての若い男性の皆さんに伝道に出るようにお勧めします。わたしたちは伝道の業に携わる若い姉妹たちに非常に感謝しています。若い男性のように奉仕する義務

は彼女たちにはありませんが、彼女たちはすばらしい貢献をしています。

さて、今日と明日、大会の部会で話す兄弟姉妹の話によく注意して耳を傾けるようにお勧めします。話す割り当てを受けた全員が、大きな責任を感じています。わたしたちが彼らの話に耳を傾けると、心に感動を覚え、信仰が増し加えられるよう、イエス・キリストの御名により、へりくだり祈ります、アーメン。■



十二使徒定員会
ボイド・K・パッカー会長

わたしたちに希望がある理由

あがな 贖いという希望に対する証は、あかし 測ったり数えたりすることができないものです。イエス・キリストは、その希望の源泉です。

数年前、わたしとパッカー姉妹はオックスフォード大学を訪問しました。7代前の曾祖父の記録を探すためです。オックスフォードにあるクライスツ・カレッジの学長であるポッペルウェル博士は、親切にも大学の公文書保管担当官に依頼し、記録を持って来てくださいました。その1583年の記録から、わたしの先祖のジョン・パッカーの名前を見つけました。

その次の年、美しく装丁された標準聖典の合本をクライスツ・カレッジの図書館に寄贈するために再びオックスフォードを訪れました。ポッペルウェル博士は少々きこない様子でした。恐らく、わたしたちは本当のクリスチャンではないと思ったのでしょう。それで博士は、その書物を受け取るためにカレッジ所属の聖職者を呼びました。

聖職者に聖典を手渡す前に、わたしは「項目別ガイド」を開き、一つの項目を彼に示しました。「イエス・キリスト」の項目です。そこには、18ページにわたって、行間を空けずに、非常に小さな文字で印刷された参照聖句が掲載されています。それは、世界の歴史を通じてこれまでに

集められた、救い主に関する参照聖句を編集した集大成の一つです。すなわち、旧約聖書と新約聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠から集めた証なのです。

わたしは彼にこう言いました。「参照聖句を左から右に、上から下に、聖典から聖典に、項目から項目にどのようにたどってみても、主の誕生、主の生涯、主の教え、主の十字架上の死、主の復活、そして主の贖罪しよくごんに関して、主イエス・キリストの使命の神性さに対する一貫して調和の取れた証を見いだすでしょう。」

救い主の教えについて幾つか聖職者と話し合った後で、わたしたちに対する彼の態度に変化が生まれました。その後、彼はわたしたちを大学の構内へ案内し、最近発掘されたローマ帝国時代に描かれた大きな壁画を見せてくれました。

「項目別ガイド」に載っている参照聖句の中で、イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書に次の聖句があります。「[わたしたちは]キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しゆるを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのであ

る。」(2ニーファイ 25:26)

救い主は、御自身の言葉でこう宣言されました。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」(ヨハネ 14:6)

また、モルモン書の中で、主はこう宣言しておられます。「見よ、わたしは、自分の民を贖うために世の初めから備えられた者である。わたしはイエス・キリストである。……わたしによって全人類は命を得る。すなわち、わたしの名を信じる者は永遠に命を得る。そして、これらの者はわたしの息子となり、娘となる。」(エテル 3:14)

死すべき世にこれまで生まれ、またこれから生まれてくる全ての人の贖い主としてのイエス・キリストの神聖な役割を宣言する参照聖句は、他にも標準聖典の至る所に非常にたくさんあります。

コリント人への手紙に書かれているように、イエス・キリストの贖罪を通して、わたしたちは皆、アダムとエバがエデンの園で禁断の実を食べたときに生じた人類の墮落から贖われます。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」(1コリント 15:22)

モルモン書はこう教えています。「贖罪が行われることは必要である。……そうでなければ、全人類が減びるのは避けられないからである。まことに、すべての人はかたくなになっており、墮落し、迷った状態にあるので、贖罪によらなければ必ず減びる。……無限にして永遠の犠牲でなければならぬ。」(アルマ 34:9-10)

わたしたちは完全な人生を送ることができないかもしれませんが、犯した間違いに対して罰がありますが、地上に来る前、わたしたちは主の律法に従うことに同意し、それらの律法に背いたときに罰があることを受け入れました。

「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリス

ト・イエスによるあがないによって義とされるのである。」(ローマ3:23-24)

救い主は贖罪を成し遂げられ、わたしたちが清くなる方法を備えられました。イエス・キリストは復活された救い主です。主がゲツセマネの園と十字架上の両方で全人類のために受けられた苦しみ、そしてわたしたち各個人のために耐えられた苦しみを思い、主を礼拝し、主を救い主として受け入れるのです。比類ない謙遜さと主御自身の神聖な役割と目的に対する永遠の理解により、主は全てのことをその身に引き受けられたのです。

罪を悔い改めて捨てる人は、主の憐れみの御腕がいつも差し伸べられていることを見いだすでしょう。主の御言葉や主が選ばれた僕の言葉に耳を傾けて心に留める人は、大きな心の痛みや悲しみの最中にあっても平安と理解を得るでしょう。主の犠牲により、わたしたちは罪の影響から解放され、罪の意識が消えて希望を

感じるができるのです。

主が贖罪を成し遂げられなかったとしたら、救いは存在しないでしょう。わたしたちの間違いが決して赦されず、わたしたちが自らを聖めて前進することがまったくできないとしたら、この世は生きていくのが難しいところとなることでしょう。

イエス・キリストの憐れみと恵みは、間違ったことをした罪や正しいことをしなかった罪に限定されるものではなく、主と主の教えを受け入れ、従う全ての人に永遠の平安の約束が与えられることも含みます。主の憐れみには力強い癒やし力があり、それは他の人が犯した罪の犠牲になった人にさえ及びます。

最近、人生で大きな苦しみに耐えているというある女性から1通の手紙を受け取りました。その苦しみがどのようなものかは明らかにしていませんが、彼女に対してひどい間違いが犯されたようです。彼女は激しい嫌悪の念と戦っていることを

認めていました。怒りを抑え切れず、心の中でこう叫んだのです。「誰かがこのひどい間違いの償いをすべきだわ。」この悲しみと疑問の極限のときに、彼女の心に次の答えがすぐに与えられたと書いています。「もう既に誰かが償っています。」

わたしたちが救い主の犠牲の効力に気づかなければ、正しくないことをした、人を傷つけたという後悔の念を引きずって人生を過ごすことになるかも知れません。間違いに伴う罪の意識は洗い流すことができます。主の贖罪を理解しようと努めるならば、主イエス・キリストに対して、地上における主の働きに対して、そして救い主としての主の神聖な使命に対して深い畏敬の念を持つようになるでしょう。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、救い主の生涯と教えに関する知識を全世界に広めるために回復されました。このすばらしい大会は、衛星放送を通じて94の言語により102か国で放送されていますが、





スペイン、北マリアナ諸島

教会が存在するあらゆる国でインターネットを通じて視聴することもできます。教会には3,000以上のステークがあります。専任宣教師は8万8000人を超え、教会の会員総数は1,500万人を超えています。この数字は、「人手によらずに山から切り出された石」が転がり進み続け、ついには「全地」に満ちることの証拠となっています（教義と聖約65：2）。

しかし、教会の組織がどんなに大きくなっても、数百万人の会員が教会に加入したとしても、そしてどんなに多くの大陸や国々に宣教師が派遣され、どんなに多くの言語を話そうとも、イエス・キリストの福音に関する本当の成功は、会員個人の霊的な強さにより測られるのです。キリストに忠実な全ての弟子が心に抱いている信念という強さが必要です。

贖いという希望に対する証は、測ったり数えたりすることができないものです。イエス・キリストは、その希望の源泉です。

わたしたちは、青少年、年配者、既婚者、独身者の証を強めるように努めています。男性、女性、子供たち、あらゆる人種とあらゆる国籍の人々、豊かな者と貧しい者にイエス・キリストの福音を教える必要があります。新しい改宗者と初期の開拓者の伝統を受け継ぐ会員の両方が必要で

す。福音に生きる道から迷い出た人を探し出し、羊の群れに戻る助けをする必要があります。全ての人の知恵と洞察と霊的な強さが必要です。この教会の会員一人一人は個人として、この教会本体の重要な構成員なのです。

「からだの一つであっても肢体は多くあり、また、からだのすべての肢体が多くあっても、からだは一つであるように、キリストの場合も同様である。

……一つ一つの御霊によって、一つ一つのからだとなるようにバプテスマを受け……る。

実際、からだは一つの肢体だけではなく、多くのものからできている。」（1コリント12：12－14）

会員はそれぞれ、イエス・キリストの生涯と教えの証人としての役割を果たします。わたしたちは、敵対する者の力と戦っています。そして、わたしたちが行うように救い主が備えられた御業に成功を取めようとするなら、全ての会員一人一人が必要なのです。

「わたしに何かできますか。わたしはただの一人の人間にすぎません」と皆さんは思うかも知れません。

確かに、ジョセフ・スミスはときどき強い孤独を感じました。ジョセフは偉大な業を成し遂げましたが、それは次のように

問いかける14歳の少年のときに始まりました。「これらすべてのうちのどの教会に加わるべきですか。」（ジョセフ・スミス—歴史1：10参照）救い主に関するジョセフの信仰と証は、わたしたちが「ここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を加えて」（2ニーファイ28：30；教義と聖約128：21も参照）成長しなければならないのと同じように成長しました。ジョセフはひざまずいて祈りました。その祈りと最初の示現の結果、本当に驚くべきことが起こりました。

十二使徒の一人として、主イエス・キリストに関する証を述べます。主は生きておられます。主はわたしたちの贖い主、救い主です。「キリストの贖罪により、全人類は……救われ得る」のです（信仰箇条1：3）。主はこの教会を管理しておられます。主は主の僕にとって見ず知らずの御方ではありません。わたしたちが静かな確信をもって将来に向かって歩むとき、主の御霊がわたしたちとともにあります。真理と義を求める人の生活を祝福し、導く主の力に限りはありません。イエス・キリストの御名により、主を証します、アーメン。■



七十人
リン・G・ロビンズ長老

どちらを向いて いますか

神を喜ばせる前に、人を喜ばせようとするのは、一番大切な戒めと二番目に大切な戒めの順番を逆にすることです。

「どちらを向いていますか。」ボイド・K・バッカー会長の謎めいた質問に、わたしは驚いてしまいました。新たに召された七十人として初めての割り当てを受け、バッカー会長の訪問に同行したときのことで。質問の前後関係について何の説明もなく、どう答えてよいか分かりませんでした。バッカー会長はこう続けました。「七十人は、人を代表して預言者に語るのではなく、預言者を代表して人に語ります。どちらを向いているか決して忘れないように。」それは大きな教訓となりました。

神を喜ばせる前に、人を喜ばせようとするのは、一番大切な戒めと二番目に大切な戒めの順番を逆にすることです(マタイ 22:37-39 参照)。どちらを向くべきかを忘れるということです。しかし、誰もがこの過ちを犯します。人を恐れるからです。イザヤ書で、主は次のように警告しておられます。「人のそしりを恐れてはならない。」(イザヤ 51:7。2 ニーファイ 8:7 も参照) リーハイの夢では、大きく広々とした建物の中にいる人々からあざけりの指でさされることによって、この恐れが引き起こされます。その結果、大勢の人がどちらを向くべきかを忘れ、「恥じるかのよう

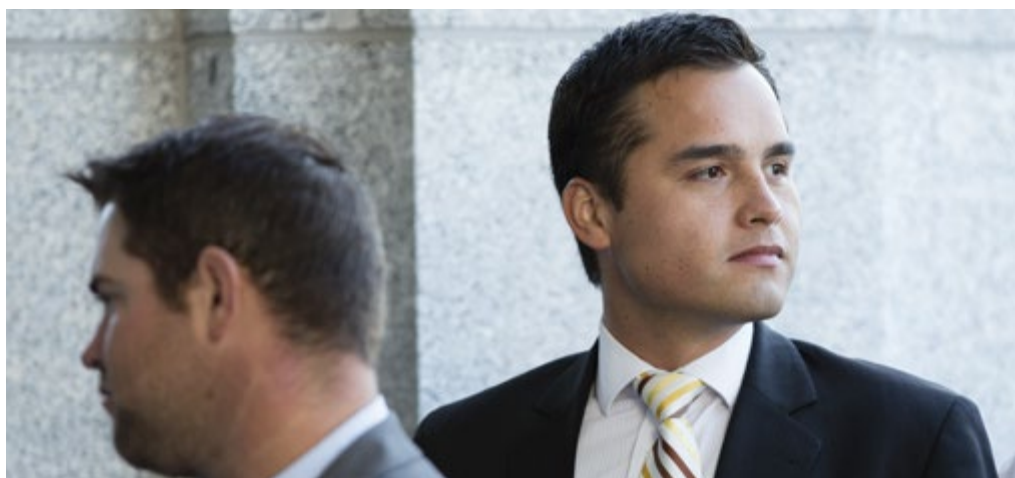
に」命の木から離れて行きます。(1 ニーファイ 8:25-28 参照)

こうした周囲からの圧力は、相手の気分を害しては申し訳ないという気持ちを抱かせることで、人の行動とまではいかないまでも、心の思いを変えようとします。人に対するこの恐れは、罪を大目に見るようわたしたちを誘惑し、箴言の書によれば、「わな」となります。(箴言 29:25 参照) 巧妙に仕掛けられたこのわなは、わたしたちの同情心に訴えかけます。そうすると、神が非難してこられたことを黙認したり、さらには承認したりするようになり

ます。信仰が弱い人にとって、このわなは大きなつまずきとなり得ます。例えば、伝道中にこうした恐れを抱き、不従順な同僚の気分を害したくないがために、同僚の、目に余る不従順について伝道部会長に報告しない若い宣教師もいます。賢明な判断は、一番大切な戒めと二番目に大切な戒めの正しい順序を覚えておくことで、下すことができます。(マタイ 22:37-39 参照) どちらを向けばよいのか戸惑っている宣教師が、同僚ではなく、神に対して責任があることに気づくならば、向きを 180 度変えることができるはず

です。ジョセフ・スミスですら、まだ若かった 22 歳の頃、どちらを向くべきかを忘れたことがあります。マーティン・ハリスに 116 ページの原稿を貸すことを、繰り返し何度も主に懇願したときのことで。ジョセフは、恐らく、よく助けてくれるマーティンに感謝の気持ちを示したかったのでしょう。自分について広まっていたうそや偽りに悩まされていたジョセフが、自分を支持してくれる証人を心から切望していたことがわかります。

ジョセフの理由がどうであれ、どれほどもっともらしく聞こえても、主に受け入れられることはなく、ジョセフは厳しい叱責を受けました。「あなたは何としばしば……背き、人々の説き伏せに乗ってきたこ



とか。見よ、あなたは人を神よりも**恐れ**てはならなかった。」(教義と聖約3:6, 7; 強調付加) この痛烈な経験のおかげで、ジョセフはその後永遠に、どちらを向くべきか忘れませんでした。

人に対する**面目を保**とうとして、知らず知らずのうちに神に対する**面目を失**うことがあります。神を喜ばせると同時に人の不従順を大目に見ることができるという考え方を中庸とは言いません。そのような人は裏表あるいは二面性のある、もしくは「二人の主人に兼ね仕え」ようとする人です。(マタイ6:24; 3 ニーファイ13:24)

確かに、危機と向かい合うには**勇気**が必要ですが、真の勇気を示す勲章は、人に対する恐れを克服した者に与えられます。例えば、ダニエルは祈りの力によってライオンに立ち向かうことができましたが、彼が勇猛だったのは、ダリウス王に従わなかったからです。(ダニエル第6章参照) そのような**勇気**は、祈りをささげた**神を恐**れる人に授けられる御霊の賜物です。王妃エステルは、祈ることでそれと同じ**勇気**を得、危険にさらされることを知りながらも、夫であるアハシュエロス王に立ち向かいました。(エステル4:8-16参照)

勇気は単なる基本的な美德の一つではありません。C・S・ルイスは次のように述べています。「**勇気**は、試練に遭ったとき、すべての美德がとる形態なのだ。……ピラトは慈悲深くあることによって自らに危険が及びかねない状況になるときまでは、慈悲深い人間であった。」¹ ヘロデ王は、バプテスマのヨハネの首を切っただけと頼まれて悲しみました、「列座の人たち」を喜ばせたいと思いました。(マタイ14:9) ノア王は、アビダナイを釈放しようとしたのですが、邪悪な祭司たちの圧力で心がぐらついてしまいました。(モーサヤ17:11, 12参照) サウル王は、「民を恐れ、その声に聞き従った」ため、戦利品を捨てず、主の言葉に従いませんでした。(サムエル上15:24) アロンは、シナイ山のふもとで、反抗的なイスラエル

をなだめるために、金の子牛の像を造り、どちらを向くべきかを**忘れ**ました。(出エジプト第32章) また新約聖書時代の総指揮官たちについて、次のように記されています。「[主を]信じた者が多かったが、パリサイ人をはばかり、告白はしなかった。会堂から追い出されるのを**恐れ**ていたのである。彼らは神のほまれよりも、人のほまれを好んだからである。」(ヨハネ12:42-43) 聖文には、このような例が随所に記されています。

次に紹介する靈感あふれる例に耳を傾けてください。

- はじめに、モルモン——「見よ、わたしは神から授けられた権能を持っているので、大胆に語る。わたしは人のすることは**恐れ**ない。完全な愛はあらゆる恐れを取り除くからである。」(モロナイ8:16; 強調付加)
- ニーファイ——「したがってわたしは、俗世の人々にとって喜ばしいことを書き記さないで、神にとって喜ばしいことや、俗世のものでない人々にとって喜ばしいことを書き記す。」(1ニーファイ6:5)
- 司令官モロナイ——「まことに、わたしはあなたがたの司令官、モロナイです。わたしは権力を求めず、むしろそれを引き倒そうとしています。わたしは世の誉れを求めず、むしろ神の栄光とわたしの国の自由と幸いとを求めています。」(アルマ60:36)

モロナイは、偉大な**勇気**を持ち、自分がどちらを向くべきかを**忘れ**ませんでした。



彼については次のように記されています。「もし過去、現在、未来のすべての人がモロナイのようであれば、見よ、地獄の力でさえもとこしえにくじかれてしまい、また悪魔は決して人の子らの心を支配する力を持たないであろう。」(アルマ48:17)

歴代の預言者は、指をさされ、あざけり笑われ、いつも攻撃にさらされました。どうしてでしょうか。聖文によると、「罪のある者は真理が胸の底まで刺し貫くので、真理を厳しいものと思う」からです。(1ニーファイ16:2) あるいは、ハロルド・B・リー大管長も述べているように、「撃たれた鳥は羽を羽ばたかせる」からです。² あざけり笑うという反応は、実は、罪悪感を抱いている自分を安心させようとする行為なのです。最終的に次のように言って自分の非を認めたコリホルと同じです。「わたしは神がましますことを前から知っていました。」(アルマ30:52) コリホルは、人々を欺く説得力に長けていたので、自分自身のうそを信じるに至ったのです。(アルマ30:53参照)

あざけり笑う人々は、預言者のことを、今が21世紀であることを忘れているとか、偏屈だと言って責めます。教会を説得し、さらには圧力をかけ、神の標準を自分たちの不適切な行いのレベルにまで下げようとします。ニール・A・マックスウェル長老の言葉を借りれば、そのような人々は「自分の改善や悔い改めを求めず、自己満足を増長させるのです。」³ 主の標準を社会での不適切な行いのレベルにまで下げること、それは背教です。ニーファイ人の中にあつた教会の多くは、救い主の訪れから2世紀がたち、ホランド長老の表現を借りれば、教義に「手を加え」⁴ 始めたのです。

第4ニーファイの次の言葉に耳を傾け、現代に共通するものを見つけてください。「さて、第二百十年が過ぎたとき、国中に多くの教会があつた。すなわち、キリストを知っていると公言する教会がたくさんあつた。それらの教会はキリストの福音



の大半を否定し、あらゆる悪を受け入れ、また神聖なものを、ふさわしくないので与えてはならないと禁じられた者にまで与えた。」(4 ニーファイ 1: 27)

末日にも同じことが起こっているのです！自分が同じわなに陥っていることに気づかず、福音の文化とは相容れない、地域や民族に伝わる「先祖の言い伝え」を認めるよう働きかける会員もいます。(教義と聖約 93: 39) さらには、自分を欺いたり、否定したりして、神殿推薦状や学校の承認あるいは宣教師申請書の標準を下げるようビショップに懇願したり、要求したりする人もいます。そのようなプレッシャーのもとでビショップを務めるのは容易なことではありません。しかし、神聖さを守るために神殿を一掃した救い主のように(ヨハネ 2: 15 - 16 参照)、今日のビショップにも、神殿の標準を雄々しく守る勇気が求められています。救い主は次のように言われました。「わたしは憐れみをもってこの家でわたしの民にわたし自身を現すであろう。……わたしの民がわたしの戒めを守り、この聖なる家を汚さなければ……。」(教義と聖約 110: 7 - 8)

偉大な模範者である救い主は、いつも御父の方を向いておられました。主は御自身に従う者、特に、救いの手を求める者を愛し、そのような人々に仕えられました。が、こう言っておられます。「わたしは人からの誉を受けるとはしない。」(ヨハネ 5: 41) 主は御自分から教えを受ける者が御自分に従うことは望まれましたが、その人から好意を受けることは求められませんでした。例えば、病人への癒やしなど、慈愛に満ちた行為をされたときのように、賜物を授けても、多くの場合、「だれにも話さない」ようにと言われたのです。

(マタイ 8: 4; マルコ 7: 36; ルカ 5: 14; 8: 56) それは一つには、極力避けようと努めても付いてくる評判をお避けになるためでした。(マタイ 4: 24 参照) 主は、人に見られるだけの目的で良い業を行うパリサイ人を非難されました。(マタイ 6: 5 参照)

かつてこの地上に生を受けた中で唯一完全な御方である救い主には、何の恐れもありませんでした。大勢の人から責められる目に遭われましたが、指をさされ、あざけり笑われても、屈されたことは決してありませんでした。主は、どちらを向くべきか一度たりとも忘れたことのないただ一人の御方です。「わたしは、いつも〔御父〕のみこころにかなうことをしている……。」(ヨハネ 8: 29; 強調付加) そして「わたし自身の考えですのではなく、わたしをつかわされたかたの、み旨を求めているからである。」(ヨハネ 5: 30)

第3 ニーファイの11章から28章までの間で、救い主は「御父」という称号を少なくとも150回用いておられます。これは御自分が御父を代表しているということを示すためです。また、ヨハネ書の14章から17章までで、救い主は、少なくとも50回、御父に言及しておられます。ありとあらゆる点で、主は御父の完全な弟子であられました。主は、これ以上ないほど完全に御父を代表されたので、救い主を知ることは、つまり御父を知ることでした。御子の姿を見ることは、つまり御父の姿を見ることでした。(ヨハネ 14: 9 参照) 御子の声を聞くことは、つまり御父の声を聞くことでした。(ヨハネ 5: 36 参照) 主は、本質的に、御父と区別することのできない御方となっておられたのです。御父と御子は

一つであられました。(ヨハネ 17: 21 - 22 参照) 主はどちらを向くべきか完全に知っておられたのです。

主の靈感あふれる模範によりわたしたちが強められ、外からやってくるへつらいという落とし穴、あるいは内から生まれるおごりに立ち向かうことができますように。また勇気を授けられ、わたしたちを威圧する者を前にして、決して恐れたり、こびへつらったりすることがありませんように。そして鼓舞され、でき得る限り人知れず、また「人の誉れを得ることを望〔む〕」ことなく、良い働きをすることができますように。(教義と聖約 121: 35) また比類のない主の模範により、どの戒めが「いちばん大切な、第一のいましめ」であるかをいつも覚え、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛〔する〕」ことができますように。(マタイ 22: 37, 38) 他の人から神の戒めに反することに同意を求められたときに、自分が誰の弟子か、どちらを向くべきかをいつも覚えておくことができるよう祈ります。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

注

1. C・S・ルイス, *The Screwtape Letters*, 改訂版 (1982年), 137 - 138
2. ハロルド・B・リー, *Mine Errand from the Lord: Selections from the Sermons and Writings of Boyd K. Packer* (2008年), 356
3. ニール・A・マックスウェル「悔い改め」『聖徒の道』1992年1月号参照
4. ジェフリー・R・ホランド「キリストに似た者となるという召し」『リアホナ』2014年6月号, 35



中央初等協会会長会第二顧問
チェリル・A・エスプリン

せいさん 聖餐—— 霊の更新のとき

御霊によりわたしたちは癒やされ、霊が更新されます。聖餐に伴う約束とは、「いつも御子の御霊を受けられる」ことなのです。

あ る若い女性たちにこう聞かれたことがあります。「わたしたちの年齢のときに知っていたらよかったと思うことは何ですか。」今その質問に答えるとすれば、こう言うでしょう。「皆さんくらいの年の頃、もっと聖餐の大切さを理解していればよかったと思います。ジェフリー・R・ホランド長老の次の言葉のように聖餐について理解していたらどんなによかったでしょう。『聖餐の儀式に含まれる招きの一つは、聖餐を通して、真に霊的な経験をして、神聖な交わりを持ち、霊を更新することです。』¹

毎週、聖餐を通して「真に霊的な経験

をして、神聖な交わりを持ち、霊を更新する」にはどうすればよいのでしょうか。

聖餐の祈りに耳を傾け、聖約を新たに交わすときに、聖餐は霊的に強められる時間となります。そのために、わたしたちは進んでイエス・キリストの御名を受けなければなりません。² この約束について、ヘンリー・B・アイリング管長はこのように教えています。「すなわち、自分を主のものと思なすのです。生活の中で主を最優先します。自分の望みや、世の中がわたしたちに望むように教えていることではなく、主が望まれることを求めるのです。」³

わたしたちは聖餐を受けるとき、イエ

ス・キリストを「いつも…覚え」⁴ するという聖約も交わします。キリストは十字架に架けられる前夜、使徒たちを集めて聖餐を定められました。パンを割き、祝福し、こう言われました。「取って食べなさい。これはあなたがたのために贖いとして与えるわたしの体を記念するものである。」⁵ 次に主はぶどう酒の入った杯を手に取り、感謝した後、使徒たちに渡して飲むように言われました。「これは、……わたしの名を信じるすべての人のために流すわたしの……血を記念するものである。」⁶

ニーファイの民の中で、また末日に主の教会が回復されたときにも、主は、御自身を記念するために聖餐を取るべきであると繰り返し言われました。⁷

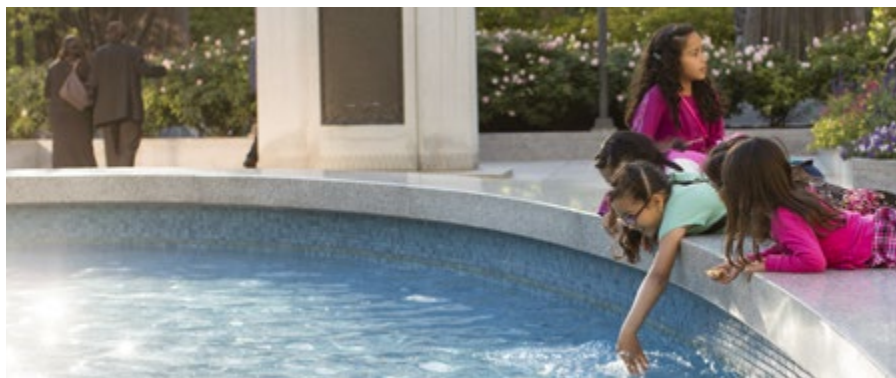
聖餐を取るとき、わたしたちは聖餐の儀式の短い間だけでなく、いつも御子を覚えていることを神に証明します。つまり、常に救い主の模範と教えに従って考え、選択し、行動するということです。⁸

聖餐の祈りはまた、「御子が与えてくださった戒めを守」⁹ らなければならないことを思い起こさせてくれます。

イエスは、「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」¹⁰ と言われました。聖餐は、内省し、心と意志を神に向け直す機会となります。戒めに従うことにより、福音の力が生活にもたらされ、一層大きな平安と霊性を得ます。

救い主の贖罪を通してもたらされた、人を贖う力と、人に能力を授ける力について深く考えるときに、聖餐は真に霊的な経験をする時間となります。最近、ある若い女性の指導者は、深く考えながら聖餐を取るよう努めるときに受ける力について学びました。彼女は「成長するわたし」の条件を達成するために、聖餐の賛美歌と祈りの言葉に注意を払うという目標を立てました。

彼女は、毎週聖餐会で自己評価を行いました。自分が犯した間違いを思い出し、翌週改善することを約束しました。主





の御名を受け、主の戒めを守る努力を新たにすると約束したのです。彼女は、自分の道を正し、清くなれることに感謝していました。この経験を振り返って、彼女はこう言います。「わたしは、贖罪の中の、悔い改めに関わる部分を実践していました。」

ある日曜日、彼女は自己評価をした後に憂鬱で悲観的な気持ちになりました。毎週同じ過ちを何度も繰り返していることに気づいたのです。しかしそのとき、彼女は贖罪の重要な部分、つまり人に能力を授けるキリストの力を見過しているというはっきりとした印象を受けました。彼女があるべき姿になり、自分の力以上に奉仕できるよう、救い主が幾度となく助けただけだったことを忘れていたのです。

このことを念頭に、彼女はもう一度前の週について考えてみました。彼女はこうに言っています。「主がたくさんの機会と能力を授けてくださったことに気づき、憂鬱な気持ちが喜びに変わりました。分かりづらい時でも我が子の必要に気づけるようにしてくださったことを思い出し、感謝しました。また、一分の余裕もないと思っていた忙しい日に、友人に励ましという言葉がかかることができたことに気づきました。いつもなら忍耐を示せない状況で忍耐を示せたこともありました。」

彼女はこう結論づけています。「人に能力を授ける救い主の力がわたしの生活にあることを神に感謝しているうちに、その時に実践していた悔い改めの過程にもっと楽観的な気持ちで臨めるようになり、新たな希望をもって翌週に目を向けられるようになりました。」

メルビン・J・バラード長老は、聖餐は癒やしと清めをもたらすと教えています。

「安息日から次の安息日までの間に、言葉や思い、行いにより自らの霊を傷つけない人が一人でもいるでしょうか。わたしたちは、後になって悔やむようなことや、赦してほしいと望むようなことをしてしまいます。……赦しを得るには、自分の罪を

悔い改め、罪を犯した相手のもとへ行って赦しを得てから、聖餐を受けるために戻ります。心から悔い改め、適切な状態に身を置くことができたなら、赦され、心に霊的な癒やしを与えられます。……

聖餐式が執行されている時に御霊がぐだり、そのぬくもりが頭から足の先まで広がることを証します。霊の傷が癒やされ、重荷が軽くなるのを感じるでしょう。この霊的な食物にあずかりたいと心から望む、ふさわしい人には慰めと幸福が与えられるのです。」¹¹

傷ついた心は癒やされ、更新されます。なぜなら、パンと水は救い主の体と血の犠牲を思い起こさせてくれるからだけでなく、これらの象徴のおかげで、主が常にわたしたちの「命のパン」¹²と「生ける水」¹³となってくださることを思い起こせるからです。

イエスはニーファイ人に聖餐を施した後、にこのように言われました。

「このパンを食べる者は、自分のためにわたしの体を食べるのであり、このぶどう酒を飲む者は、自分のためにわたしの血を飲むのである。その者は決して飢えることも渴くこともなく、満たされるであろう。」

さて、群衆は皆食べ終え、飲み終えると、見よ、彼らは御霊に満たされた。」¹⁴

御霊がわたしたちの霊を癒やし、更新す

ることを、キリストはこれらの言葉でわたしたちに教えておられます。聖餐の約束された祝福とは、わたしたちが「いつも御子の御霊を受けられる」ことなのです。¹⁵

聖餐を取るとき、わたしはある絵を思い浮かべることがあります。復活された救い主が腕を広げ、わたしたちをその愛に満ちた腕で受け止めようとされているかのように描かれている絵です。わたしはこの絵が大好きです。聖餐が執行されるときにこの絵について考えると、心が高められ、救い主が次のように語る声が聞こえてきそうな気がします。「見よ、わたしの憐れみの腕はあなたがたに向けて伸べられている。わたしは来る者をだれでも受け入れよう。わたしのもとに来る者は幸いである。」¹⁶

アロン神権者は、聖餐を準備し、祝福し、配るときに、救い主の代理となります。神権者が腕を伸ばして聖なる象徴を差し出すとき、それは救い主ご自身が憐れみの腕を延べて、主の大いなる贖いの犠牲を通してもたらされた尊い愛の賜物を受け取るよう、わたしたち一人一人に招いているのと同じです。主の愛の賜物とは、悔い改め、赦し、慰め、希望の賜物です。¹⁷

聖餐の大切さについて深く考えれば考えるほど、聖餐が神聖で意義深いものとなります。ある96歳の父親は息子に次のように尋ねられました。「父さんは何のた

めに教会に行くの。目は見えないし、耳も遠いし、歩くのも大変なのに、何のために教会に行くの？」父親はこう答えました。「聖餐があるからだよ。聖餐を取るために教会に行くんだ。」

わたしたちが準備をして聖餐会に臨み、「真に霊的な経験をして、神聖な交わり持ち、霊を更新する」ことができますように。¹⁸

わたしは天の御父と救い主が生きておられることを知っています。聖餐を通して御^お二^{ふた}方^{かた}の愛を感じ、御霊を受ける機会があることに感謝しています。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ジェフリー・R・ホランド, *Christ and the New Covenant: The Messianic Message of the Book of Mormon* (1997年), 283
2. 教義と聖約 20:77 参照
3. ヘンリー・B・アイリング「わたしたちが一つとなれるように」『リアホナ』1997年7月号, 71
4. 教義と聖約 20:77, 79
5. ジョセフ・スミス訳—マタイ 26:22 (『聖句ガイド』より)
6. ジョセフ・スミス訳—マタイ 26:24 (『聖句ガイド』より)。マタイ 26:26–28, マルコ 14:22–24; ルカ 22:15–20 も参照
7. 3 ニーファイ 18:7, 11; 教義と聖約 20:75 参照
8. 「いつも救い主を覚えるという聖約を守るにはどうすればよいでしょうか」日曜学校教科課程『わたしに従ってきなさい』: lds.org/youth/learn/ss/ordinances-covenants/remember; 『真理を守る—福音の参考資料』(2004年), 123–135 参照
9. 教義と聖約 20:77
10. ヨハネ 14:15
11. メルビン・J・バラード, *Melvin J. Ballard: Crusader for Righteousness* (1966年), 132–133 参照
12. ヨハネ 6:48
13. ヨハネ 4:10
14. 3 ニーファイ 20:8–9
15. 教義と聖約 20:77
16. 3 ニーファイ 9:14
17. この原則に関するアン・マドセンの洞察に感謝いたします。
18. ジェフリー・R・ホランド, *Christ and the New Covenant*, 283



七十人
ウオン チ・ホン
黄(サム) 志康 長老

一致して救助する

救い主を助けるためには、わたしたちは結束し、一致して働かなければなりません。どの人も、どの召しも大切です。

わたしたちは、モンソン大管長が「救助の手を差し伸べる」と言うのを何度も耳にします。¹ 新約聖書にある記述が思い浮かびます。これは、会員と宣教師が救助の手を差し伸べるために、ワードの評議会を通してどのように協力できるかを示す最適な例です。その話はマルコ 2 章 1 節から 5 節にあります。ある教義や原則をわたしたちに教えるためにイエスが用いられた経験談は、いつも、最も感動的で分かりやすいです。

この話の登場人物の一人は中風を患っている男性で、助けなしに自分で動くことができず、家で救助を待つことしかできませんでした。

現代なら次のようになるのでしょうか。4 人の人たちがビショップから中風の男性の家に行くように割り当てを受けて、そ

れを果たしていました。彼らが、扶助協会から一人、長老定員会から一人、アロン神権者から一人、そして最後になりますが重要な一人の専任宣教師の計 4 人であることが目に浮かびます。つい最近のワード評議会では、ワードの必要について評議した後、ビショップが「救助の割り当て」を要請しました。この男性を助けるという割り当てを受けたのがこの 4 人です。男性が自分で教会に来るのを待つことはできない状態でした。皆でその人の家に行き、彼を見つけなければならませんでした。それで、彼らは出かけて行ったのです。男性がイエスのところに連れて来られました。

「すると、人々がひとりの中風の者を四人の人に運ばせて、イエスのところに連れてき[まし]た。」(マルコ 2:3)





しかし、部屋は人がいっぱい、ドアから入ることができません。彼らは思いつく限りの手段を尽くしたに違いありません。でも、中に入れず、計画どおりにはいきませんでした。「救助」の過程には障害物がありました。しかし、4人は諦めませんでした。男性をドアのそばに置き去りにすることはせず、どうしたらその人をイエス・キリストのもとに連れて行って癒やしてもらえるのか、そのために次はどうすればよいか話し合いました。イエス・キリストの救いの業を助けることが難しすぎるなどということは、少なくとも彼らにとっては、あり得ませんでした。ある計画を思いつき、簡単ではありませんが、彼らはそれを実行しました。

「ところが、群衆のために近寄ることができないので、イエスのおられるあたりの屋根をはぎ、穴をあけて、中風の者を寝かせたまま、床をつりおろし〔ました〕。」(マルコ2:4)

彼らは男性を屋根に引き上げました。外には屋根に上がるための階段などなかったでしょうから、全員が屋根に上がるまで時間がかかったことでしょう。こんな様子ではなかったでしょうか。まず、ワードの若い男性が屋根に上がったことでしょう。若くて元気いっぱいの彼には難しいことではなかったでしょう。彼の

ホームティーチングの同僚で長老定員会の兄弟と背が高くたくましい専任宣教師が、下から一生懸命彼を押し上げたでしょう。扶助協会の姉妹が気をつけるよう声をかけ、励ましの言葉をかけたでしょう。それから男性たちは屋根をはがしました。その間、自分の力で動いて、自由になるために癒やされるのを待っているその男性を姉妹は慰め続けていたことでしょう。

この救助の割り当てには全員の一致した働きが求められました。中風の男性を屋根から降ろすという正念場では、注意深く、力を合わせなければならなかったはずでした。4人は一致し、協調しながら作業しなければなりません。どんな不和も許されず、中風の人をそれぞれが同じ速度で降ろさなければならなかったはずでした。誰かが他の三人より早く綱を放していたら、その人はベッドから落ちてしまったことでしょう。その人は力が弱いために、自分の力でつかまっていることができなかったのです。

救い主を助けるためには、わたしたちは結束し、一致して働かなければなりません。どの人も、どの召しも大切です。わたしたちは主イエス・キリストにあって一致していなければならないのです。

ようやく、中風の方はイエスの前に寝か

されました。「イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、『子よ、あなたの罪はゆるされた』と言われた。」イエスはその人に憐れみを示されて、肉体だけでなく、霊的にも癒やされました。「子よ、あなたの罪はゆるされた。」(マルコ2:5) なんとすばらしいことでしょうか。わたしたち皆にも同じことが起きてほしいと思いませんか。わたしなら絶対にそう思います。

わたしたちの生活の中で、霊的な中風を患っている人、つまり、自分自身の力では教会に戻ってくるのでない人を知りませんか。その人は、わたしたちの子供の一人かもしれません。親や伴侶、あるいは友人かもしれません。

教会の各ユニットに、以前よりかなり多くの専任宣教師がいる現在、ビショップや支部会長がワード、あるいは支部評議会をより効果的に活用するのは賢明なことです。ビショップはワード評議会に参加する会員に、助けを必要としている人たちの名前リストを持って来るように勧めてください。ワードの評議会の参加者は、助けるための最善の方法を入念に話し合います。ビショップはそこでの提案を注意深く聞き、責任を割り当てます。

ワードにとって、こうした救助の取り組みに大きな力となるのが専任宣教師たちです。宣教師たちは若く、力にあふれて

います。彼らは、ともに働く一人一人の名前を載せたリストを喜んで受け取ってくれます。ワードの会員と協力して働くことは宣教師にとって楽しいことなのです。宣教師たちは、こうしたことが新しい求道者を見つけるすばらしい機会となることを知っています。彼らは主の王国を確立することに自らをささげています。彼らは、このような救助の取り組みに加わるとき、自分たちがよりキリストのようになるという強い証あかしを持っています。

最後に、この聖典の話に隠されているもう一つの宝について話したいと思います。5節に「イエスは彼らの信仰を見て」(強調付加)と書かれています。彼らの信仰という点に、以前は気づきませんでした。一つとなったわたしたちの信仰は、他の人々の幸福にも影響を与えます。

イエスは誰について話したのでしょうか。そこに含まれていたのは、中風の人を運んだ4人、中風の人自身、彼のために祈った人々、そして、その場でイエスの説教に耳を傾け、間もなく起こる奇跡に心の中で静かに喜びの声を上げていた全ての人たちだったことでしょう。さらに、伴侶、親、息子あるいは娘、宣教師、定員会会長、扶助協会会長、ビショップ、そして遠くにいる友人も含まれていたかもしれません。わたしたち皆が互いに助け合うことができます。わたしたちはいつも、困っている人たちを救助することに熱心に携わらなければなりません。

イエス・キリストが奇跡の神であられることを証します。イエス・キリストはわたしたち全員を愛しておられ、肉体と霊の両方を癒やし、救う力をお持ちです。人々を救う使命を果たされる主をわたしたちが助けるとき、わたしたちもその過程の中で救助されるのです。主イエス・キリストの聖なる御名みことによって証します、アーメン。■

注

1. トーマス・S・モンソン「救助の責任」『リアホナ』2013年10月号, 5参照



十二使徒定員会
D・トッド・クリストファーソン長老

とこしえに自由となり、 思いのままに行動する ことができ

神の御心みことは、わたしたちが物質的にも霊的にも潜在能力を開花させて自由な男女となることです。

ウィリアム・シェイクスピアの史劇『ヘンリー五世』には、フランス軍との戦闘を翌日に控えたイングランド軍がアジンコートで過ごした夜について描かれています。ヘンリー5世は、数の上でかなり劣る自軍の兵士の士気を探ろうと、暗がりの中で変装し、兵士たちに話しかけます。王とは知らない兵士たちは思いのままに話しました。彼らは戦争で自分の身に何か起きたときにその責任を取るのには王か自分かということに及びました。

会話の中で、ヘンリー王は言います。「おれは王様のおそばで死ねればそれがいちばんの本望だ、今度の戦いくさは正義の戦だから。」

マイケル・ウィリアムズはこう返答します。「そんなことはおれたちの知ったこっちゃないな。」

彼の同僚も同調します。「というか、知ろうとしなくたっていいことだよ。おれたちは王様の家来だってことさえ知ってりゃ十分なんだ、かりに大義名分が王様にな

くたって、おれたちは家来として服従したんだってことで罪は消えるんだ。」

ウィリアムズが付け足します。「そのかわり、大義名分がなけりゃあ王様自身がひどい責任をしょいこむことになるぜ。」

当然ながら、ヘンリー王は反論します。「臣下一人一人の尽くすべき義務は王様のものだが、臣下一人一人の魂は自分のものだ。」¹

シェイクスピアは劇中でこの議論に結論を出そうとしてはいません。しかし人生で起こる出来事の責任は誰が負うのかという議論は、さまざまな形で現代に引き継がれています。

悪いことが起きたとき、人は他人や神でさえも責めてしまいがちです。時には権利意識が高じて、自分の福利を守る責任を他人や政府に押しつけようとする人や団体も現れます。霊的な面についても、神は人を「ありのままに」愛して下さっているのだから、努力して改善する必要などないと思える人もいます。

しかし神は御自分の子供たちに、彼らに授けた道徳的に選択する能力を用いて

行動するよう期待しておられます。それは「各々が裁きの日に自分自身の罪に対する責任を負うようにするため」です。² 人生をどのようなドラマにするのか決める役割を自分で担うことが、神の計画と御心です。神は人の人生を代わりに生きること、ルシフェルがかつて提案したように、人を操ることもなさいません。神の預言者も神の代わりに人を操る役割を引き受けることはありません。ブリガム・ヤングはこう述べています。「地上でも天でも、わたしは全ての末日聖徒に対して、何であれわたしの行動によって満足を得るのではなく、主イエス・キリストの御霊、すなわち啓示の霊によって満足を得るようにと願っています。わたしは彼らに自分自身で知り、自分自身で理解してほしいと望んでいるのです。」³

第1に、神は人を「ありのまま」救われることはありません。なぜなら、「ありのままの」人は汚れていて、「清くない者は……神の前に住むことができないからである。アダムの言葉で、聖なる人とは神の名である。また、神の独り子の名は、「聖なる」人の子……である」からです。⁴ 第2に、神は、人が自分でなろうとしない人物に作り上げることをなさいません。神は心から人を愛しておられます。その愛のゆえに、人を強制することも見捨てることもなさいません。むしろ、神は人を助け導かれます。確かに、神のまことの愛は神の戒めの中に表されているのです。

自ら選択して行動しその結果を刈り取る、聖句を借りれば「善を尊ぶことを知るために、苦さを味わう」⁵ ように定められた、神の計画を喜ぶべきです（事実、喜んでいます。）救い主の贖罪によって原罪が克服され、アダムのとがの罰を受けずにこの世に生まれていることに対する感謝は尽きることがありません。⁶ そのように墮落から贖われているので、人は神の御前に清い状態で人生を始め「とこしえに自由となり、善悪を知るようになって……思いのままに行動することができ、強いられ



ることはない」のです。⁷ 人は自分の望むような者になることができ、神の助けがあれば、神のようにさえなれるのです。⁸

イエス・キリストの福音は、人の可能性の道を開きます。現世で常に、完全に日の栄えの律法を守ることができなくとも、イエス・キリストの贖罪と恵みを通してその過ちをぬぐい去っていただくことができます。しかし、正義の要求により、個人の同意と参加がなければこれらの祝福を得ることはできません。これまで常にそうでした。肉体を得て地上にいることは、わたしたち一人一人が御父の計画に参加することを選択した結果です。⁹ このように、救いとは神の気まぐれで起こるものでも、神の御心だけで起こるものでもないのです。¹⁰

正義は、神の本質的な属性の一つです。神を信じることができるのは、神が完全に信頼できる御方だからです。聖文には「神は曲がった道を歩まず、右にも左にも曲がらず、また述べたことからそれることはない。それゆえ、神の道はまっすぐであり、その道は一つの永遠の環である」とあります。¹¹ また、「神は人をかたよりに

ないかたで、神を敬い義を行う者はどの国民でも受け入れて」くださいます。¹² わたしたちは、正義という神の属性を信頼して、信仰と確信と希望を持つことができます。

しかし、完全な正義の御方である神であられるがゆえにおできにならないことがあります。誰を救い、誰を追い出すかを適当に決めることがおできにならないのです。「ほんのわずかも罪を見過ごしにする」こともできず、¹³ 憐れみが正義を打ち負かすのもお許しになれません。¹⁴

神が対となる憐れみの原則を定められたことは、神の正義が表す力強い証拠です。正義の御方であるからこそ、神は憐れみが人の永遠の行く末に重要な役割を果たすことができるようにされたのです。それで、今、「正義は正義のすべての要求を働かせ、また、憐れみは憐れみを受ける資格のあるすべての者について権利を主張する」のです。¹⁵

わたしたちは「罪を犯したことがなく、〔御父〕が御心にかなうとされた者の、苦しみと死……〔御父の〕子が流した血」¹⁶ が正義の要求を満たし、憐れみをもたらし、人を贖うことを知っています。¹⁷ そう



ではあっても、「正義によれば、贖いの計画は……悔い改めるといふ条件がなければ成し遂げられ」ません。¹⁸ 悔い改めるように求め、その機会を与えることで、正義を踏みじることなく憐れみがもたらされるのです。

キリストは見境なしに救うためではなく、悔い改めの機会を提供するために亡くなられたのです。人は悔い改めの過程で「人を救う力を備えておられるこの御方の功德にひたすら頼」っています。¹⁹ しかし悔い改めとは、自分の意志で変わることです。ですから、悔い改めが恵みの賜物を受ける条件であるがゆえに、人は自分に対して責任を負う立場に置かれているのです。悔い改めは、人の善悪を選択する能力を尊重し、保っているのです。「このように、憐れみは正義の要求を満たし、これらの人々を腕に包み込んで保護する。一方、悔い改めを生じる信仰を少しも働かせない人は、正義を要求するすべての律法にこたえなければならぬ。したがって、偉大な永遠の贖いの計画は、悔い改めを生じる信仰のある人のためにだけ備えられている。」²⁰

神の正義と憐れみを誤解することと、神の存在と主権を否定することは別ですが、両者ともわたしたちにあたえ与えられている完全で神聖な潜在能力を少ししか発揮できなかったり、ほとんど発揮できなくします。神が何も要求しないとしたら、

そのような神は存在しないも同然です。人を治め完成させるために善悪に関わる律法を定められた生ける神が存在しない世界は、究極の真理や正義のない世界です。それは道徳的な相対主義が、最高の権威を持つ世界です。

相対主義の下では、各自が自分自身の最高権威者になります。もちろん、無神論者だけがこの理論を支持しているわけではありません。神は信じるが、善悪を判断するのは自分自身であると信じている人もいます。ある若者がこう言いました。「ヒンドゥー教の教えやカトリック教の教え、または監督教会の一員であることが間違いだと言うことはできません。それは何を信じているかということで、善と悪などないと思います。」²¹ 自分の信仰の土台について尋ねられた別の若者がこう答えました。「結局は自分自身です。人の信仰に対して権威を主張できる人なんていません。」²²

何でも真実になり得ると信じている人には、客観的、固定的、普遍的な真理の宣言は強制的に感じられます。「気に入らない真理を信じるように強制されるべきではない」と思うのです。しかし、それでも真理は変わりません。重力の法則が嫌いだとしても、崖から足を踏み出せば落下します。永遠の律法と正義に関する真理も同じです。真理を拒むのではなく、真理を適用することにより自由が得られ

ます。神御自身の力もこの土台の上にあるのです。不変の真理が現実存在しなければ、行動の結果を予測することも予期することもできないので、選択の自由の賜物は無意味になります。リーハイが言ったようにです。「もし律法がないと言うならば、罪もないと言わなければならない。もし罪がないと言うならば、義もないと言わなければならない。そして、もし義がなければ、幸福はない。そして、義も幸福もなければ、罰も不幸もない。そしてこれらのものがなければ、神は実在しない。神が実在しなければ、わたしたちは存在せず、大地もない。なぜならば、作用するものも作用されるものもなく、事物の創造はあり得なかったからである。そこで、すべての事物は消えうせていたに違いない。」²³

物質的にも霊的にも、個人の責任を受け入れる機会是天与の賜物であり、それなしには、神の娘息子としての潜在能力を完全に開花させることはできません。自分に対する責任は、常に守らなければならない権利であり義務でもあります。それは創造の前から常に攻撃にさらされてきました。（時に最善を意図しながらも）依存者を作ってしまう個人や制度から、自己の責任能力を守らなければなりません。また、才能や能力、キリストのような性質を刈り取るための努力を避けようとする自分自身の弱さから、自己の責任

能力を守らなければなりません。

まったく自分で動こうとしない男の話を知りました。何から何まで面倒を見てほしいという人です。彼の考えはこうです。「教会、政府か、またはその両方は、税金と什分の一を納めてきた自分の生活を保護する義務を負っている。」彼には食糧がありませんでしたが、動くことを拒みませんでした。彼を助けようとした人たちは、自分が生きるために指一本動かさずとしない彼に業を煮やし、墓地に連れて行って勝手に死なせたほうがよいと考えました。墓地へ行く途中で、一人の男性が言いました。「こんなことはできないよ。俺のトウモロコシを彼にやろう。」

彼らはその男にそう言うと、男は「皮はむいてくれたのか」と尋ねました。

彼らは「いいや」と答えました。

「じゃあ、墓場へ運んでくれ」と男は言いました。

神の御心は、わたしたちが物質的にも霊的にも潜在能力を開花させて自由な男

女となり、貧困という屈辱的な足かせや罪の束縛から自由になり、自尊心と自立を満喫し、神の日の栄えの王国に入って神に会う全ての備えをすることです。

これらのことを神から絶えず受ける非常に多くの助けなしに自分の努力だけで達成できるという幻想を、わたしは抱いてはいません。「わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に、神の恵みによって救われることを知って」います。²⁴ また、神の助けを受ける前に最低限の能力や善良さに達していなければならないという基準もありません。従順の道のどの辺りにいるかによらず、毎日、毎時間、神の助けを受けることができます。しかし、神が正義にかなって、また、善悪を選択する力の使い方に応じて、わたしたちの生活に作用することがおできになるように、神の助けを願うよりも、各自が努力をして、悔い改め、神に従うことを選ばなければならないことをわたしは知っています。神の助けを得られるように、わたしたちが責任を

引き受け、実践することを願っています。

父なる神が生きておられること、御子イエス・キリストが贖い主であること、聖霊がわたしたちとともにおられることを証します。御三方が助けたいと願っておられることに疑いの余地はなく、その能力には限りがありません。「目を覚まして地から立ち上がり、……永遠の御父が〔わたしたちに〕立てられた聖約が果たされ」ますように。²⁵ イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ウィリアム・シェイクスピア「ヘンリー五世」『シェイクスピア全集 III』、第4幕、第1場、195 - 196、小田島雄志訳、白水社
2. 教義と聖約 101:78
3. プリガム・ヤング "Sermon," *Deseret News*, 1855年10月31日、267で引用; テリル・ギブズとフィオナ・ギブズ, *The Crucible of Doubt: Reflections on the Quest for Faith* [2014年], 63
4. モーセ 6:57
5. モーセ 6:55
6. 信仰箇条 1:2 参照。2 ニーファイ 2:25; モーセ 6:53 - 56 も参照
7. 2 ニーファイ 2:26。教義と聖約 93:38 も参照
8. 3 ニーファイ 12:48; 27:27 参照。ローマ 8:16 - 17; 教義と聖約 84:37 - 38 も参照。
9. 黙示 12:7 - 9; 教義と聖約 29:36 - 38; モーセ 4:3 - 4 参照
10. 教義と聖約 93:29 - 31 参照
11. 教義と聖約 3:2
12. 使徒 10:34 - 35
13. 教義と聖約 1:31
14. アルマ 42:25 参照
15. アルマ 42:24
16. 教義と聖約 45:4
17. モーサヤ 15:9 参照
18. アルマ 42:13, 強調付加
19. 2 ニーファイ 31:19
20. アルマ 34:16
21. クリスマン・スミス, *Souls in Transition: The Religious and Spiritual Lives of Emerging Adults* (2009年), 156
22. スミス, *Souls in Transition*, 156
23. 2 ニーファイ 2:13
24. 2 ニーファイ 25:23
25. モロナイ 10:31

アルゼンチン・バリロケ





大管長会第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ管長

光と真理の証あかしを受ける

光と真理について得た個人の証は、死すべき世にある間に皆さんと子孫を祝福するだけでなく、永遠に皆さんとともに歩み続けるでしょう。

航 空会社のパイロットだったわたしは、夜の闇の中、数え切れない時間を海や陸を横断して過ごしました。操縦室の窓から夜空を、特に天の川を眺めるとき、神の創造物の広大さと深遠さに目を見張ることがよくありました。それはまさに、聖文に記されている「無数の世界」でした。¹

今から1世紀足らず前、ほとんどの天文学者は、わたしたちの住む銀河系が宇宙で唯一の銀河系であると信じていまし

た。² 銀河系のかなたに広がるのは、空っぽで冷たい、星も光も生命も存在しない巨大な無、終わりのない空間だけだと信じていたのです。

望遠鏡の精度が上がり、宇宙に打ち上げ可能な望遠鏡が出て来ると、天文学者たちは、理解の範疇はんちゆうを超えるような壮大な真理を把握し始めました。つまり宇宙は、それまで考えられていたより気が遠くなるほど大きく、天には、想像を超えるほどはるか遠くに、それぞれ数千億個の星を有する無数の銀河が存在するという真理です。³

宇宙に対するわたしたちの理解は、非常に短期間で永遠に変わりました。

今日、このように遠くにある銀河の一部を見ることができます。⁴

わたしたちはその存在を知っています。実は、それらははるか昔から存在していたのです。

しかし、人類が天の光を集める強力な道具を作り、そのような銀河が見られるようになるまで、わたしたちはその存在を信じませんでした。

宇宙の広大さが急に変わったわけではありません。この真実を見て理解するわたしたちの能力が劇的に変わっただけで

す。さらに大いなる光によって、人類はそれまで想像さえしなかった栄光に満ちた光景を目にしたのです。

見えないものを信じるのは難しい

時をさかのぼって1,000年前、あるいは100年前の人と話ができたとしましょう。今わたしたちが当たり前のように思っている科学技術を当時の人に説明することを想像してみてください。例えば、ジャンボジェット機や電子レンジ、膨大な電子資料を内蔵する携帯端末、孫のビデオを世界中の数百万人の人と瞬時に共有できる動画などについて話したら、彼らはわたしたちのことをどう思うでしょうか。

信じる人もいるかもしれませんが、ほとんどの人はあざけったり、反論したりするでしょう。さらにはわたしたちを黙らせようとしたり、危害を加えようとしたりする人さえいるかもしれません。中には彼らなりの論理や根拠や事実を駆使して、わたしたちが間違っている、愚かである、あるいは危険であることを証明しようとするかもしれません。心を惑わそうとしたとして、とがめるかもしれません。

しかし、もちろん彼らは完全に間違っていることになります。彼らは善意のある誠実な人々かもしれませんし、自分の意見が正しいと確信しているかもしれません。しかし、もっと完全な真理の光を受けていない彼らの目には、物事ははっきりと見えていないのです。

光の約束

間違っていないでも正しいと思ひ込むのは人間の特質のようです。もしそれが本当なら、わたしたち人間に希望はあるのでしょうか。自らの偏見を寄せ集めて作った粗末ないかだに乗り、相反する情報の海を漂い続ける運命にあるのでしょうか。

真理は見いだせるのでしょうか。

あらゆる真理を御存じの万軍の主であられる神は、その子供たちに、自分で真理を知ることができるかと約束されました。

操縦室の窓から夜空を、特に天の川を眺めるとき、神の創造物の広大さと深遠さに目を見張ることがよくありました。



わたしの話の目的は、その喜ばしいメッセージを宣言することにあります。

この約束の重要性について考えてみてください。

永遠で全能の神であり、この広大な宇宙の創造主が、誠心誠意願ひ求める人に語りかけてくださるのです。

神は夢や示現を通して、また、思いや感情を通して語りかけてくださいます。

主は、人の経験を超越した、間違いのない方法でお話しになります。また、個人の生活のために天から導きと答えを授けてくださいます。

当然、そのようなことは不可能だ、たとえ神がいたとしても、一人の人の祈りを聞いてこたえるより神にはもっと優先すべきことがあるはずだとあざける人たちもいるでしょう。

しかし、わたしは皆さんにお伝えします。神は皆さんのことを心にかけておられます。皆さん一人一人の質問に耳を傾け、こたえてくださいます。祈りの答えは、神御自身の方法で、神御自身の時に与えられます。だからこそ、主の御声を聞けるようになる必要があるのです。神は皆さん

に御自身のもとへ帰る道を見つけてほしいと望んでおられます。救い主はその道であります。⁵ 神は皆さんに、神の御子イエス・キリストを知り、主の弟子としての道に従うことで得られる大きな平安と喜びを味わってほしいと望んでおられるのです。

愛する皆さん、古代の聖典に記されている、神の保証付きの、実に簡単な実験があります。望むなら、男性、女性、子供の区別なく、誰でも試すことができます。

第1に、神の御言葉を探求しなければなりません。つまり、聖文を読み、回復されたイエス・キリストの福音について古代と現代の預言者の言葉を研究するのです。疑ったり、批判したりするためではなく、心から真理を知りたいという望みをもって研究するのです。そのときに感じることに深く考え、真理を受けられることができるよう、心を備えてください。⁶ 「たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。〔神の〕言葉の一部でも受け入れることができる……まで、その望みを育ててゆけ。」⁷

第2に、アダム時代から今日まで、主

がどれほどその子供たちを憐れんでこられたかを思い、深く考え、恐れを抱かずに努めて信じようとし、⁸ 感謝しなければなりません。主は預言者、聖見者、啓示者を備えて神の教会を導き、わたしたちが神のみもとへ帰る道を見いだせるようにしてくださいからです。

第3に、末日聖徒イエス・キリスト教会が真実であるかどうか御子イエス・キリストの御名によって天の御父に尋ねなければなりません。キリストを信じながら誠心誠意尋ねてください。⁹

救い主がお授けになった**第4の**段階もあります。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこのおしえが神からのものか、それともわたし自身から出たものか、わかるであろう。」¹⁰ つまり、福音の原則が正しいかどうか検証する際は、まずその原則を実践しなければならないということです。福音の教義と教会の教えを実践して、その真価を問うてください。誠心誠意、神を信じる、尽きない信仰をもって試してください。

以上のことをするならば、神は聖霊の力によって真理を明らかにしてくださいと約

束しておられ、神はその約束を守る義務を負っておられます。¹¹ 神は皆さんに、より輝かしい光を授け、人の目では見るのできない、想像を絶するようすばらしい光景を、暗闇を見通して見えるようにしてください。

そのような段階を踏むのは難しすぎるとか、努力するだけ無駄だと言う人もいるかもしれません。しかし、この人生において、福音と教会について個人の証を得るほど大切なものはないので。証はこの世で祝福と導きを与えてくれるだけでなく、永遠にわたって皆さんの人生に直接影響を与えてくれるからです。

霊に関わることは御霊によらなければ理解できない

科学者は長い間、宇宙の大きさを理解しようと苦勞していました。それは観測機器の進歩によってもっと多くの光を集めることができ、さらに完全な真理を理解できるようになるまで続きました。

使徒パウロは霊に関わる知識について同じような原則を教えています。「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない」とパウロはコリントの弟子たちに書き送っています。「それは彼には愚かな

ものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」¹²

言い換えれば、もし霊的な真理を知りたいと望むなら、正しい機器を使わなければならないということです。霊的な真理を感知できない機器では、そのような真理を理解することはできないからです。

救い主は現代のわたしたちにこう教えておられます。「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」¹³

心と思いを神に向ければ向けるほど、天の光が与えられます。そして、熱心に進んでその光を求めるたびに、わたしたちはさらなる光を受ける備えができていることを神に示します。ぼやけて、暗く、遠くに見えていたものが、徐々にはっきりとした、輝きのある、慣れ親しんだものになります。

同様に、福音の光から離れると、1日や1週間のうちにはなく長い時間をかけて徐々にですが、わたしたちの光は輝きを失っていきます。やがて振り返ってみると、どうして福音が真実であると信じてい

たのかさえ理解できなくなってしまうのです。以前の知識が愚かにすら思えるのは、かつてあれほどはっきり見えていたものが、再びぼやけ、かすんで、遠くになってしまったからです。

だからこそパウロは、福音のメッセージは滅びゆくものには愚かだけれども、「救にあずかる〔者たち〕には、神の力である」と強調したのです。¹⁴

リトマス試験紙はない

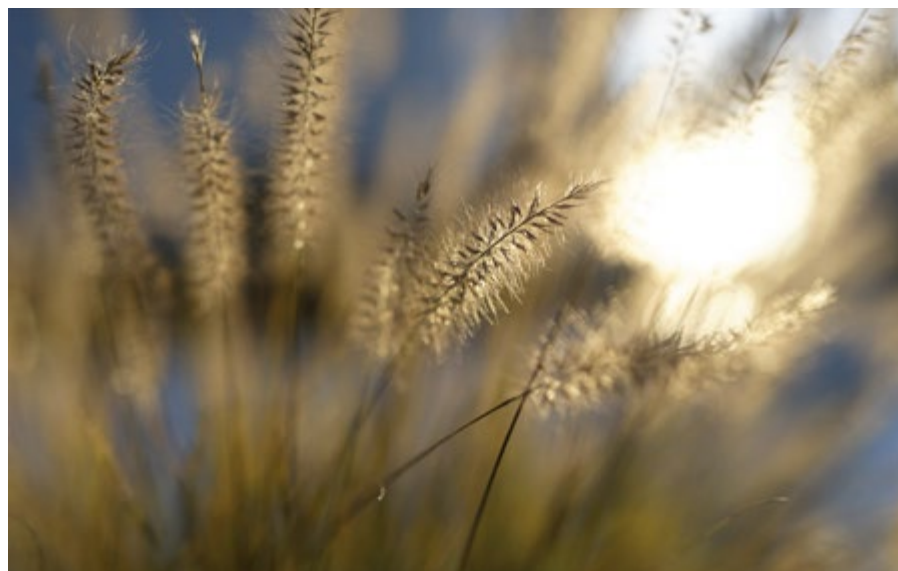
末日聖徒イエス・キリスト教会はさまざまな証を持つ人の集う場所です。心の中に明るく燃える、確かな証を持つ教会員もいれば、まだ自分自身で知ろうと努力している途中の人もいます。教会は、証が強いか弱いかに関係なく、全ての人がかともに集う場所です。集会所のドアに「この基準以上の証のない方お断り」という貼り紙はありません。

教会は完全な人だけのためにあるのではなく、全ての人がか「キリストのもとに来て、キリストによって完全にな〔る〕」ためにあります。¹⁵ 教会は皆さんやわたしのような人のためにあるのです。教会は人を分け隔てしたり批判したりする場ではなく、人を歓迎し育む場です。わたしたちが個人として神の真理を求め続けるときに、互いに手を差し伸べて励まし、元気づけ、支え合う場です。

突き詰めると、わたしたちは皆、神の光を求めつつ弟子としての道を歩む巡礼者なのです。光の多い少ないによって人を責めることなどしません。むしろ、どのような光の人をも養い励まし、はっきりと明るく輝く本物の光になれるように助けます。

全ての人への約束

覚えておきましょう。多くの場合、証は一朝一夕では得られません。一度得たらそれで終わりでもありません。霊的な光を集める過程は一生にわたって続くのです。



皆さんが生ける神の御子と主の回復された教会である末日聖徒イエス・キリスト教会について証を得たいと望んでも、すぐには得られないかもしれません。しかし、皆さんが自分の役割を果たすなら、証は必ず得られると約束します。

そしてそれは栄光に満ちる

個人的に証します。霊的な真理は皆さんの心を満たし、霊に光をもたらしてくれます。すばらしい喜びと無上の平安とともに、わたしたちに純粋な英知を注いでくれます。わたし自身、これを聖霊の力によって体験したことがあります。

古代の聖文が約束しているように、神の御霊の存在を言葉にできないほどははっきりと感じるとき、皆さんは贖いをもたらす愛の歌を歌い、¹⁶ 天を見上げて、避け所、希望、守護者、御父であられるいと高き神を声高らかにほめたたえることでしょう。求めるならば見いだすであろうと、救い主は約束しておられます。¹⁷

これが真実であることを証します。神の真理を求めるならば、今はぼんやりとして、焦点が合わず、遠くに思えるものが、神の恵みの光によって徐々に明らかにされ、はっきりと見え、心に迫ってきます。人の想像をはるかに超えた、栄光に満ちた霊的な展望が皆さんの目の前に開かれることでしょう。

この霊的な光は神の子供一人一人の手の届くところにあると証します。その光は、皆さんの思いを啓発し、心を癒やし、人生を喜びで満たします。愛する皆さん、神の業、すなわち光と真理の業について個人の証を得て、それを強めることを後回しにしないでください。

光と真理について得た個人の証は、死すべき世にある間に皆さんと子孫を祝福するだけでなく、世々限りなく、永遠に皆さんとともに歩み続けます。イエス・キリストの御名によって証し、祝福を受けます、アーメン。■



注

1. モーセ 1:33
2. マーシャ・パートシアク, *The Day We Found the Universe* (2009年), xii 参照。わたしがいつも驚くのは、人が自分の出した結論にこれほど自信が持てるということである。時にはその大きな自信のゆえに、全ての真理を手にかけていると思ってしまうことがある。例一「19世紀後半にアメリカ天文学会会長であったサイモン・ニューカムは、1887年、天文台の落成式において次のように述べている。『天文学に関しては、……知識の限界にどんどん近づいているようだ。……その結果、天文学者の注意は新たな発見よりも、既に知られている事柄を精微化することに注がれている。』」(パートシアク, xv)
3. このような「最近」の発見に照らしてモーセ 1:33と35を考えるのは興味深い。「高価な真珠」のモーセ書は、1830年6月に預言者ジョセフ・スミスに啓示されたものである。それはエドウィン・ハッブルが遠く離れた銀河系を発見したことを発表する、およそ1世紀前のことであった。
4. 例として、heritage.stsci.edu/gallery/gallery.html の the Hubble Heritage Image Gallery を参照
5. ヨハネ 14:6 参照
6. 3ニーファイ 17:3 参照
7. アルマ 32:27
8. 教義と聖約 67:3 参照

9. モロナイ 10:3-5 参照
10. ヨハネ 7:17。詩篇 25:14: ヨハネ 3:21も参照
11. 教義と聖約 82:10 参照
12. 1コリント 2:14
13. 教義と聖約 50:24
14. 1コリント 1:18
15. モロナイ 10:32。教義と聖約 20:59も参照
16. アルマ 5:26 参照
17. 教義と聖約 88:63 参照



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長による提示

教会役員の支持

わたしたちは預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを、大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ウークトドルフを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・パッカーを、また同定員会会員として、

ボイド・K・パッカー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセンを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

大管長会顧問と十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議し

ます。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

わたしたちはカーロス・H・アマードー長老、ウィリアム・R・ワーカー長老を、そのすばらしい奉仕の働きに対して感謝の意を込めて七十人第一定員会会員から解任し、名誉中央幹部に任命するよう提議します。

これらの兄弟たちの献身的な働きに対して、わたしたちとともに感謝を示してくださる方は、その意を表してください。

地域七十人から解任されたアライク・V・ミナシャン長老とガビド・センカンス長老の働きに対して、感謝の意を表してくださるよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

その他の中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会を現在のまま支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの信仰とわたしたちのための祈りに感謝します。■





十二使徒定員会
ダリン・H・オックス長老

違いがあっても周りの人を 愛し、受け入れる

キリストに従う者として、わたしたちは異なる価値観を有する人や、自分たちにとって基本となる教えを受け入れない人とも平和に暮らす必要があります。

I.

この世における務めを終えようとしていたとき、イエスは弟子たちに、「新しいいましめ」と呼ばれるものをお与えになりました(ヨハネ 13:34)。3度繰り返されたこの戒めは、簡潔でありながらも難しい戒めでした。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ 15:12。17節も参照)互いに愛し合うという教えは、救い主の教導の業にあって、最も大切な教えでした。2番目に大切なのは次の戒めでした。「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」(マタイ 22:39) イエスはさらにこう教えられました。「敵を愛し[なさい]。」(マタイ 5:44) イエスが御自身に従う人々を愛されたように、周囲の人々を愛するという戒めは、いにしへの弟子たちにとって、また今日の弟子であるわたしたちにとって、他に類のないチャレンジとなりました。トーマス・S・モンソン大管長は、今年の4月に、こう語りました。「実際、愛はまさに福音の真髄であって、イエス・キリストはわたしたちの模範でられます。主の生涯は愛の遺産です。」¹

互いに対してキリストのような愛を持つことは、なぜそれほど難しいのでしょうか。

か。それはわたしたちが、信仰、価値観、聖約の義務を共有しない人々とともに暮らさなければならないからです。十字架にお掛かりになる直前にささげられた執り成しの祈りの中で、イエスは御自身に従う者たちのためにこう祈られました。「わたしは彼らに御言^{みことば}を与えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世のものではないように、彼らも世のものではないからです。」(ヨハネ 17:14) また、御父にこう嘆願されました。「わたしが願うのは、彼らを世から取り去るのではなく、彼らを悪しき者から守って下さることであります。」(同 15節)

わたしたちは世の中で生活しますが、世のものとなつてはなりません。世の中で生活しなければならないのは、イエスがたとえて教えられたように、神の王国は

「パン種のようなもの」であって、その影響力によって世の中全体を高める務めがあるからです(ルカ 13:21; マタイ 13:33 参照。1コリント 5:6-8も参照)。主に従う者たちが、同じ信仰や慣習を持つ人々とだけ付き合っているだけでは、そのような務めを果たすことができません。しかし、救い主は、主を愛するならば、主の戒めを守らなければならないとも教えておられます(ヨハネ 14:15 参照)。

II.

福音には、異なる信仰や慣習を持つ人々の中で生活しながら戒めを守ることにに関して、たくさんの教えがあります。争いに関する教えは、その中核を成します。復活されたキリストは、ニーファイ人がバプテスマの様式について争っていることに気づき、この儀式を執行する方法について明確な指示をお与えになりました。それから次の偉大な原則を教えられたのです。

「これまでであったような論争が、今後は決してあなたがたの中であってはならない。また、わたしの教義の要点について、これまでであったような論争が、今後決してあなたがたの中であってはならない。

まことに、まことに、あなたがたに言う。争いの心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔につく者である。悪魔は互いに怒って争うように人々の心をおり立てる。

見よ、……このようなことをやめるようにというのが、わたしの教義である。」(3ニーファイ 11:28-30、強調付加)





救い主が争いをやめるように警告されたのは、バプテスマに関する戒めを守っていない人々だけではありませんでした。あらゆる人々に争いを禁じられたのです。戒めを守る人々であっても、怒って争うように人々の心をあおりたててはならないのです。悪魔は「争いの父」であり、救い主は平和の君であられます。

同様に、聖書は「知恵ある者は怒りを静める」と教えています（箴言 29:8）。初期の使徒たちは、「平和に役立つこと……を、追い求め」（ローマ 14:19）、「愛にあって真理を語〔る〕」よう勧めています（エペソ 4:15）。「人の怒りは、神の義を全うするものではないからで〔す〕。」（ヤコブの手紙 1:20）現代の啓示で、主は回復された福音の喜ばしい知らせを、「各人がそれぞれ隣人に、穏やかに、かつ柔和に」（教義と聖約 38:41）、また「謙遜の限りを尽くして……ののしる者にののしり返すこと〔なく〕」宣言するよう命じられました（教義と聖約 19:30）。

III.

柔和になり争いを避けるよう努めるときでも、自分たちの理解する真理に向ける献身の度合いを妥協したり、弱めたりするようなことがあってはなりません。わたしたちの立場や価値観を放棄してはなりません。イエス・キリストの福音やわたしたちが交わした聖約のゆえに、真理と誤りの間で繰り返られる永遠の戦いにお

いて戦士としての役割を果たすことは避けて通れません。この戦いに中立地帯は存在しないのです。

救い主は、御自身に敵対する者たちが、「姦淫^{かんいん}の場でつかまえられ〔た〕」女性^{かんいん}のことで詰め寄ったときに、道を示されました（ヨハネ 8:4）。自らの偽善を恥じ入った告発者たちは、イエスのもとを離れ、その女性だけが残りました。イエスは、この女性に思いやりを示し、その場で罰することはなさいませんでした。しかし、同時に、「今後はもう罪を犯さないように」と、確固として指示されました（ヨハネ 8:11）。愛にあふれる優しさは必要ですが、キリストに従う者は救い主と同様、確固として真理を守るのです。

IV.

救い主と同様、救い主に従う者は、罪深い行為と向き合わなければならないこともあります。今日では、自分たちの理解に基づく善悪の捉え方を貫こうとすると、「頑固者」あるいは「狂信者」と呼ばれることもあります。末日聖徒にそのような難題を課すこの世間的な価値観や慣習が数多くあります。その中でも際立っているのが、同性婚を合法化する強い風潮です。この風潮は、合衆国やカナダの数多くの州や世界中の国々で見られます。また、世の中には結婚の正当性をまったく信じていない人々や、子供を持つことに懐疑的な人々もいます。ポルノグラフィや危険な

薬物を規制することに反対する人々もいます。ほとんどの信者にとって身近なもう一つの例は、信仰を持たない伴侶や家族とともに生活するというチャレンジ、あるいは信仰を持たない職場の同僚と付き合うというチャレンジです。

奉獻された場所、例えば、神殿、礼拝の家、自分自身の家において、わたしたちは回復された福音によって明らかにされた救いの計画を通じて理解したとおりに、真理と戒めを簡潔かつ完全に教える必要があります。そうする権利は憲法が保証する言論と宗教の自由により、また憲法による正式の保証がない国々でも尊ばれているプライバシーの原則により守られています。

宗教を信じる人々が公の場で何かを語り、行う場合、他の人々の信じていることにも配慮しなければなりません。宗教の自由な実践は、ほとんどの公的活動に適用されますが、他の人々の信条や慣習を受け入れるという前提の上に成り立っているのです。性的な搾取^{さくしゆ}や暴力、あるいはその他のテロ行為など、一般的に、正しくないあるいは受け入れがたいと認められている行為は、たとえ過激派が宗教の名の下で行った場合でも、法律によって禁じることができます。しかし、一部の信者にとっては受け入れがたくても、モルモン書の預言者の言葉を借りれば、「民の声」で合法化された場合、それほど深刻でない行為については、黙って忍耐しなければなら

いこともあります(モーサヤ 29:26)。

公の場での話し合いについて言えば、隣人を愛し、争いを避けるという福音の教えにわたしたち皆が従うべきです。キリストに従う人々は、礼節の模範となるべきです。わたしたちは全ての人々を愛し、良い聞き手となり、相手の誠実な信念に関心を示すべきです。賛成はできなくても、攻撃的になってはなりません。意見の分かれるテーマについては、争いを引き起こすような態度を執ったり、発言したりするべきではありません。わたしたちは、知恵を使って、教会員としての立場を説明、追求し、影響力を行使しなくてはなりません。その際、わたしたちの真心からの宗教的信条や宗教の自由な実践が人を不快にさせないようにと願っています。わたしたち全員が救い主の黄金律を実践するように、すなわち「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりに〔する〕」ようにお勧めします(マタイ 7:12)。

わたしたちの立場が優勢でないときも、望ましくない結果を丁重に受け入れ、敵対者に対して礼儀正しく振る舞うべきです。どのようなことが起ころうとも、全ての人に親切な態度である一方で、人種、民族、宗教的信仰あるいは不信仰、性的指向の違いに基づく迫害を含めて、いかなる種類の迫害も拒むべきです。

V.

これまで一般的な原則について話してきましたが、救い主の教えにさらに忠実に従うべきさまざまな身近な状況で、その原則をどのように応用すればよいか、これから話したいと思います。

まず、幼い子供たちが遊びの中で学ぶことから始めましょう。ここユタ州では、自分たちの子供が宗教の異なる子供と友達付き合いするのを許さない一部の教会員のために、教会員でない人たちが傷つき、疎外感を味わう事例があまりにも頻繁に起きています。自分と異なる人々に対し、接触を避けさせたり、失礼な態度を執らせたりすることなく、子供に価値観や行動の標準を教えることは確かにできます。

教会でも学校でも教師たちの多くが、末日聖徒の青少年を含む一部の10代の若人の互いへの接し方を見て、嘆いています。互いに愛し合うという戒めには、宗教の枠や、民族、文化、経済の枠を超えて愛し敬うことも含まれているはずですが、わたしたちは、全ての青少年にチャレンジします。いじめ、侮辱、意図的に他の人に苦痛を与える言葉遣いや慣習を避けてください。このような行いは全て、互いに愛し合うという救い主の戒めに反しています。

争いは悪魔の道具であると救い主は教えられました。これが今日の政治におけ

る一部の言葉遣いや慣習とは対照した教えであるのは確かです。方針の違いに対処することは政治に不可欠な要素ですが、方針が違うからと言って政府の運営を妨げたり、参加者に罰を加えたりするような個人への攻撃は必要ないのです。わたしたちは皆、憎しみに満ちた言葉のやり取りをやめ、意見が違っていても礼儀正しく振る舞うべきです。

争いを慎み、相違に対する敬意を実践するための最も大切な環境は、わたしたちの家庭であり、家族関係です。大小の差こそあれ、違いは避けられないものです。大きな違いとしては、例えば、家族の誰かが異性と同棲関係にあるような場合が考えられます。この場合、家族の一員に対する愛、そして戒めを守る決意という二つの大切な価値観の間で葛藤が起こります。救い主の模範に従うとき、わたしたちは愛にあふれる優しさを示しつつも、確固として真理を守ることができます。そのためには、自分たちが間違っていると知っていることを助長したり、大目に見たりするような行動は取らないことです。

最後に、家族関係に関するもう一つの実例を紹介します。10年ほど前にアメリカ中西部で行われたステーキ大会で、わたしは一人の姉妹に出会いました。この姉妹の夫は12年間、一緒に教会に来てくれましたが、教会には入っていないということでした。どうしたらよいのでしょうかと彼女に尋ねられました。わたしは、これまでどおり正しいことを全て行い、夫に忍耐と思いやりを示すように勧めました。

1か月ほどたって、その姉妹から次のような手紙が届きました。「わたしは12年間よく忍耐したつもりでしたが、はたして思いやりを示しながら忍耐していたと言えるか分かりませんでした。そこで、1か月以上本気で頑張りました。その結果でしょうか、夫はバプテスマを受けたのです。」

思いやりは大きな力を発揮します。家庭という環境では、特にそうです。彼女は続けてこう書いています。「今、わたしは



これまで以上に思いやりを示そうと努力しています。今年、神殿で夫婦の結び固めを受けるために準備しているからです。」

6年後、彼女からもう1通の手紙が届きました。「[先日]夫が[ワードの]ビショップに召され、任命を受けました。」²

VI.

人生で経験する、実に多くの人間関係や状況で、わたしたちは違いを受け入れなければなりません。重要な状況において信念の違いを自分から否定したり、捨てたりするべきではありません。しかし、キリストに従う者として、わたしたちは異なる価値観を有する人や、自分たちにとって基本となる教えを受け入れない人とも平和に暮らす必要があります。預言者への啓示で示された御父の救いの計画により、わたしたちはこの地球という環境に置かれ、そこで主の戒めを守らなければなりません。そしてこの計画の中には、主がわたしたちを愛されたように、わたしたちも文化や信条の異なる隣人を愛するというチャレンジが含まれているのです。モルモン書の預言者が教えたように、わたしたちは「神とすべての人を愛して」力強く進まなければならないのです(2ニーファイ31:20)。

混乱の多い世の中で生きていくのは難しいことですが、救い主がわたしたちを愛しておられるようにわたしたちも互いに愛し合うという戒めは、わたしたちにとって、恐らく最大のチャレンジかもしれません。わたしたちがこの教えを理解し、あらゆる人間関係、あらゆる活動で実践しようと努力できますように。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

注

1. トーマス・S・モンソン「愛——福音の真髄」『リアホナ』2014年5月号, 91
2. ダリン・H・オークス長老への手紙, 2006年1月23日付および2012年10月30日付



十二使徒定員会
ニール・L・アンダーセン長老

ジョセフ・スミス

イエス・キリストは、聖なる人、義にかなった人を選び、御自身の完全な福音を回復する業を委ねられました。それがジョセフ・スミスです。

天使が17歳の預言者ジョセフ・スミスを初めて訪れたとき、ジョセフを名前で呼び、こう告げました。自分はモロナイであり、神のみもとから遣わされた使者であって、神がジョセフのなすべき業を備えておられると。自分の名が「良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられる」¹と告げられたときのジョセフの気持ちを想像してみてください。ジョセフの目に動揺を見て取ったのか、モロナイは再び、彼が良くも悪くも全ての民の中で語られるようになると告げました。²

ジョセフ・スミスが良く語られるのは遅く、悪く語られるのはすぐに始まりました。ジョセフはこう書いています。「名もない……少年が……最も激しい迫害……を[与え]ようとする思いを……起こすほどの重要人物と思われようとは、何とも不思議なことである。」³

ジョセフを愛する人々が増える一方、敵意を抱く人々も増えていきました。38歳のとき、彼は顔を黒く塗った150人の暴徒によって殺害されました。⁴ 預言者の生涯は突然絶たれましたが、ジョセフの名は良くも悪くも末永く語られるようになりました。

彼の悪口を聞くのは驚くべきことでしょうか。使徒パウロは気が狂っていると呼ばれました。⁵ 神の御子である愛する救い主は、食をむさぼる者、大酒を飲む者、悪霊

に取りつかれた者と見なされていました。⁶

主はジョセフに彼の行く末について告げられました。

「地の果ての人々があなたの名を尋ね、愚かな者はあなたをあざ笑い、地獄はあなたに激怒するであろう。

一方、心の清い者と、知恵のある者と、……徳高い者は、絶えずあなたの手から……祝福を求めるであろう。」⁷

どうして主は、悪く語る人と良く語る人が共存するようになさるのでしょうか。一つの理由は、神に敵対する人がいるからこそ、真理を求める人はへりくだらなければならないからです。⁸

ジョセフ・スミスは回復の預言者です。彼の霊的な働きは、御父と御子が御姿をお見せになった時から始まりました。その後、天からの訪れが何度となく繰り返されます。ジョセフは神の御手に使われる者となり、神聖な聖典や失われていた教義を世に送り出し、さらに神権を回復しました。ジョセフの業の重要性を知るには、知的な考察だけでは不十分です。わたしたちもジョセフのように、「神に願い求め」⁹ なければなりません。霊に関わる質問には霊を通して神から答えが与えられます。

回復の業を信じようとしない人の多くは、天にいる人が地上の人と言葉を交わすことを信じません。金版が天使によって



届けられ、神の力によって翻訳されたなど、不可能だと彼らは言います。それが信じられないためにジョセフの証をすぐさま拒否します。残念ながら、中には彼の生涯について信憑性を失わせることや、預言者であった彼の人格を否定することに躍起になる人さえいます。

特に悲しいのは、かつてジョセフ・スミスを尊敬していた人がその信念を捨て、預言者であった彼を批判する側に回るときです。¹⁰

ニール・A・マックスウェル長老はこう言っています。「教会から離反した人々の目を通して教会について学ぼうとするのは、ユダの言葉からイエスを知ろうとするようなものです。離反した人が語るのは常に、脱退してきた組織についてよりも、彼ら自身のことなのです。」¹¹

イエスは「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」¹²と言われました。ジョセフ・スミスを批判する人々に思いやりを示しましょう。同時に、ジョセフが神の預言者であったという確信を持ち、全てがモロナイによって預言されていたことに慰めを見いだしましょう。

心から真理を求めている人で、預言者ジョセフ・スミスに関する否定的な意見が気になる人には、どのように話したらよいでしょうか。もちろん、わたしたちは誠実で心からの質問を歓迎しています。

ジョセフの人格に関する疑問には、ジョセフを個人的に知り、彼が設立を助けた

業に生涯をささげた数多くの人々が、彼についてどう語っているかを紹介してもよいでしょう。ジョセフを殺害した暴徒によって4発の銃弾を受けたジョン・テラーは、後にこのように宣言しています。「わたしは神と天使と人々の前で証します。ジョセフは善良で、誉れある、徳高い人物でした。——……〔そして〕ジョセフの人格は公私ともに非難の余地がなく——神の人……として生き、そして死んだのです。」¹³

心から真理を求めている人には、インターネット上の情報には誤りもあることを知らせる方がいいでしょう。どんなに説得力のある情報でも、誤りは誤りです。

何年前に、マーティン・ハリスが書いたと言われる手紙が発見されたという『タイム』(“Time”)誌の記事を読みました。その手紙と、モルモン書の金版の発見にまつわるジョセフ・スミスの話に食い違いがあるという内容でした。¹⁴

わずかながら、この手紙が理由で教会を離れた人たちがいました。¹⁵

残念なことに、彼らの決断は時期尚早でした。数か月後、手紙はまったくの偽物であるという鑑定結果が出たのです(偽造した人物も自白しました)。¹⁶報道されるニュースの信憑性を疑うのは差し支えありませんが、神の預言者の証は絶対に疑う必要のないものです。

ジョセフに関する情報の中には、真実ではあるけれども、時代的背景や状況が

まったく考慮されていないものもあることを、真理を求めている人に指摘するとよいでしょう。

ラッセル・M・ネルソン長老はこのように説明しています。「わたしは、ジョージア州アトランタにある国立疾病対策センターで、合衆国政府のコンサルタントを務めていました。あるとき、会議が終わって空港へ行くタクシーを待つ間、わたしは芝生に寝転び、寒さの厳しいユタに戻る前に、少しだけ温かな日差しを楽しむことにしました。後になって、郵便で1枚の写真が送られてきました。芝生でくつろぐわたしの姿を望遠レンズで撮影したものでした。写真の下には『対策センターで働く政府のコンサルタント』という見出しがありました。写真にも見出しにも間違いはありません。しかし、真実は誤った印象を広める意図で利用されていたのです。」¹⁷ まだ理解していないことがあるからといって、真実と分かっていることを捨ててはいけません。

真理を求めている人には、天使の訪れを受けたのはジョセフだけでないことを指摘するのもよいでしょう。

モルモン書の証人たちはこう書いています。「一人の天使が天から降って来て、……わたしたちはその版……を見たことを謹んで言明する。」¹⁸ 他にも数多くある資料を引用することもできます。¹⁹

心から真理を求める人には、回復された福音が広まっているのは預言者ジョセフを通して始まった主の業が成就しているからだと分かるはずです。

現在、世界中に2万9,000のワードまたは支部があり、8万8,000人の宣教師が福音を教えています。何百万人もの末日聖徒がイエス・キリストに従って、高潔な生活を送り、貧しい人の世話をし、人を助けるために時間と才能を使うよう努めています。

イエスは言われました。

「良い木が悪い実をならせることはないし、悪い木が良い実をならせることはでき



皆さん自身の霊的な酸素マスクを調節し、真理を求めている人々を助けられるよう備えてください。

ない。……

……このように、あなたがたはその実によって彼らを見わたるのである。」²⁰

このような説明には説得力がありますが、心から真理を求める人はそれだけに頼ってよしとするべきではありません。

信じる人々はそれぞれ、預言者ジョセフ・スミスが天から受けた使命とその人格について霊的な確認を受ける必要があります。それはどの世代でも同じです。霊に関わる質問には霊を通して神から答えが与えられます。

最近わたしがアメリカ合衆国の東部に行ったときに、一人の帰還宣教師に話しかけられました。預言者ジョセフ・スミスについて聞いた情報に幻滅して、教会を離れようとしている友人がいると言います。友人と何度か話し合った結果、その帰還宣教師自身も疑問を抱き始めたようでした。

彼が友人を強められればよいが、と思いましたが、わたしは彼自身の証が心配でした。兄弟姉妹の皆さんに警告します。自分の信仰がしっかりと根を張っていないならば、他の人々の助けにはあまりなれないでしょう。

数週間前、わたしは南アフリカ行きの飛行機に乗りました。客室乗務員から機内安全ビデオを見るよう案内がありました。「機内の気圧が下がりますと、お座席の頭上のパネルが開き、酸素マスクが降りてまいります。手を伸ばしてマスクを手元に引き、鼻と口を覆ってください。ゴムひもを頭の上からかぶり、必要ならば長

さを調節してマスクを固定してください。」それから、このような警告がありました。「まずご自分のマスクを調節してから、他の人を助けるようご注意ください。」

救い主の再臨の日が近づくにつれ、預言者ジョセフ・スミスに関する否定的な意見が増えていきます。半端な真理や巧妙なうそが減ることはありません。皆さんの助けを必要とする家族や友人が出て来ます。今こそ、皆さん自身の霊的な酸素マスクを調節し、真理を求めている人々を助けられるよう備えをする時です。²¹

預言者ジョセフ・スミスについての証が与えられる方法は、人それぞれ違うかもしれません。それを得られるのは、ひざまずいて祈り、彼が真の預言者であったことを確認してください。神にお願いするときかもしれません。最初の示現について語る預言者の言葉を読んでいるときかもしれません。モルモン書を繰り返し読むうちに、証が少しずつ心に蓄えられるからかもしれません。預言者について自分の証を述べるときかもしれませんし、神殿にいて、地上に神聖な結び固めの権能が回復されたのはジョセフ・スミスを通してであったと気づくときかもしれません。²² 信仰を持ち誠心誠意願うならば、預言者ジョセフ・スミスについての皆

さんの証は強められます。第三者がひっきりなしに投げつける水風船によって濡れることはあっても、赤々と燃える皆さんの信仰の火を消すようなことは決してさせてはなりません。

今日この話を聞いている、あるいは後日この話を読む青少年の皆さんに特別な勧めをさせていただきます。預言者ジョセフ・スミスについて個人的な証を得てください。皆さんの声で、預言者の名が良く語られるというモロナイの預言が成就するよう助けてください。そのためのアイデアを二つ提示しましょう。まず、モルモン書の中から、完全に真実だと感じ、そうだと知っている聖句を見つけてください。家庭の夕べ、セミナーや、若い男性あるいは若い女性のクラスで家族や友人にそれを分かち合い、ジョセフが神の御手に使われる者であったことを知らせてください。次に、高価な真珠にある預言者ジョセフ・スミスの証を読んでください。現在158か国語で入手できるパンフレットにも載っています。Lds.org からオンラインで、あるいは宣教師から、それを入手することができます。それは、実際にあった出来事について語ったジョセフ・スミス自身の証です。何度も読んでください。ジョセフ・スミスの証を自分の声で録音し

『預言者ジョセフ・スミスの証』は現在158か国語で入手できます。





て、定期的に聴いたり、友人に紹介したりしてもよいでしょう。預言者の証を自分の声で聴くことで、求めている証が得られるかもしれません。

この先、すばらしく輝かしい日々が待っています。トーマス・S・モンソン大管長はこう言っています。「この大なる大義は進み行き、人々の生活を変え、祝福をもたらし続けるでしょう。世界中のいかなる……力も神の業を止めることはできません。何が来ようと、この大義は前進するのです。」²³

わたしはイエスがキリストであり、救い主、贖い主であると証します。主は聖なる人、義にかなった人を選び、御自身の完全な福音を回復する業を委ねられました。それがジョセフ・スミスです。

ジョセフ・スミスは正直で徳高い人物であり、主イエス・キリストの弟子であったことを証します。父なる神と御子イエス・キリストは確かにジョセフに御姿を現され、ジョセフは神の賜物と力によってモルモン書を翻訳しました。

死の幕の向こうでわたしたちは、預言者ジョセフ・スミスの神聖な召しと神から与えられた使命をはっきりと理解することになります。さほど遠くない将来、「ジョセフを世はまた知る」²⁴ 日が来るのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ジョセフ・スミス——歴史 1: 33
2. ジョセフ・スミス——歴史 1: 29 - 46 参照
3. ジョセフ・スミス——歴史 1: 23
4. 教義と聖約 135: 1 参照
5. 使徒 26: 24 参照
6. マタイ 11: 19; ヨハネ 10: 20 参照
7. 教義と聖約 122: 1 - 2
8. ディーター・F・ウークトドルフ管長はこう述べている。「自分の信仰について疑いを持つ前に、その疑いを疑ってみよう心からお願ひします。疑念のとりこになって、神の愛や平安、主イエス・キリストの信仰のもたらす賜物を遠ざけてしまうことのないようにしなければなりません。」（「ともに集いましょう」『リアホナ』2013年11月号, 23）ジェフリー・R・ホランド長老はこう言っている。「これは現在進行している神の業です。その中のあちこちに現れや祝福があふれているので、ときどき、検討し、理解し、解決しなければならない問

題が発生しても、どうか過剰に反応しないようにしてください。問題は今も発生し、これからも発生します。この教会では、わたしたちが知っていることの方が、知らないことよりも常に大切です。また、この世界では、全ての人は信仰によって歩まなければならないことを覚えておいてください。」（「主よ、信じます」『リアホナ』2013年5月号, 94）

9. ヤコブの手紙 1: 5。ジョセフ・スミス——歴史 1: 11 - 13 も参照
10. ダニエル・タイラーは次のように回想している。「わたしはアイザック・ペフニン兄弟と連れ立って預言者の家を訪ねました。預言者が受けた迫害の話になりました。預言者は、背教者……が述べた、一貫性に欠ける幾つもの矛盾した偽りの主張を繰り返し語りました。また、拘束されていたとき、預言者の命を奪っていたであろう役人たちのほとんどが、面識を得ると預言者に好意を持つようになったと話してくれました。……
……ペフニン兄弟は言いました。『もしわたしがこの教会を離れることがあるとしても、それらの人々のような行動は取りません。モルモンの教えについて聞いたことのある人がいない、どこか遠い所に行って住みます。そうすれば、わたしがモルモンの教えについて知っていることは誰にも知られることはないでしょう。』
すると〔ジョセフ〕は即座にこう述べました。「ペフニン兄弟、あなたがどのような行動を取るのか、自分では分らないのですよ。恐らくこれらの人々も、かつてはあなたと同じように思っていたでしょう。この教会に加わる前、あなたは中立の立場にいました。……そしてこの教会に加わったとき、あなたは神に仕える者となりました。そのときあなたは中立の立場を離れたのであり、もう決してそこに戻ることはできません。仕えたと決めた主人を捨てるなら、それは悪魔にそそのかされたのであり、あなたは悪魔の命令に従い、その僕となるのです。』（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』323 - 324）
11. ニール・A・マックスウェル、「All Hell Is Moved」（ブリガム・ヤング大学ティポソナル, 1977年11月8日）: speeches.byu.edu
12. マタイ 5: 44
13. 『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』83。教義と聖約 135: 3 も参照
14. リチャード・N・オストリング、「Challenging Mormonism's Roots,」*Time*, 1985年5月20日号, 44
15. リチャード・N・オストリング、「Challenging Mormonism's Roots,」44 参照。ゴードン・B・ヒンクレー「主よ、わたしたちの信仰を強

めてください」『聖徒の道』1988年1月号, 56; ニール・L・アンダーセン「信仰の試し」『リアホナ』2012年11月号, 39 も参照

16. リチャード・E・ターリー・ジュニア, *Victims: The LDS Church and the Mark Hofmann Case* (1992年)
17. ラッセル・M・ネルソン, "Truth——and More," *Ensign*, 1986年1月号, 71
18. 「三人の証人の証」『モルモン書』
19. ジョセフ・スミス——歴史 1: 71, オリバー・カウドリによる脚注を参照。教義と聖約 76: 23 も参照
20. マタイ 7: 18, 20
21. ヘンリー・B・アイリング管長は、疑いを抱く人々について次のように語っている。「彼らへの愛ゆえに、彼らの求めるものを与えようとするかもしれません。彼らの疑いに同調し、その疑いを一掃する証拠や論理を見つげようとしたくなるかもしれません。疑いを抱く人は多くの場合、疑いを抱ききっかけになった事柄に関して事実だと思っていることや、それに関する議論について、そしてどれほど自分が傷ついているかについて話したがりです。……
皆さんもわたしも、生徒たちが疑問の源だと考える事柄について長く話を聞かない方が賢明でしょう。……生徒たちの問題は、彼らが自分で見えていると思うことにはないからです。問題は彼らにまだ見えていないことにあります。……最善の方法は、早めに会話を心に関する事柄に向けさせることです。霊の目を開かせるのは心の変化だからです。」（“And Thus We See”: Helping a Student in a Moment of Doubt” [CES 宗教教育担当者への説教, 1993年2月5日, 1993年], 3, 4: si.lds.org)
22. ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように語っている。「ずっと昔、わたしは12歳で執事に聖任されたとき、当時ステーキ会長だった父に連れられて初めてのステーキ神権会に出席しました。〔開会の歌は『たたえよ、主の召したまひし』でした。〕預言者ジョセフ・スミスについて歌っている神権者の声を聞いてみると、この時代の偉大な預言者への愛と確信が胸に押し寄せてきました。……そのとき、聖霊の力によって、わたしはジョセフ・スミスが確かに神の預言者であることを知ったのです。」（“Praise to the Man,” *Ensign*, 1983年8月号）
23. トーマス・S・モンソン「再び集うとき」『リアホナ』2012年5月号, 4
24. 「たたえよ、主の召したまひし」『賛美歌』16番



中央日曜学校会長
タッド・R・カリスター

親—— 子供にとって最も重要な 福音の教師

結局、イエス・キリストの福音を教える理想的な場所は家庭なのです。

ベン・カーソンは自身のことを「5年生のクラスで一番成績の悪い生徒だった」と語っています。ある日、ベンは30問の算数のテストを受けました。後ろの席の生徒が点数をつけて返すと、担任のウィリアムソン先生が生徒一人一人の名を呼び、点数を尋ねました。そして、ついにベンの名を呼びました。恥ずかしさのあまり、口ごもりながら答えると、彼が「9点(nine)」と言ったと勘違いしたウィリアムソン先生は、30問中9問正解したのならベンにとってはすばらしい進歩だと言いました。すると、ベンのは後ろの席にいる生徒がこう叫びました。「9点(nine)ではありません。0点(none)です。」ベンは穴があったら入らなかったと言います。

同じ時期、ベンの母親のソニアも様々な問題にぶつかっていました。24人きょうだいで、3年生までしか学校に行ったことのないソニアは文字が読めませんでした。13歳で結婚したものの離婚し、デトロイトのスラム街で二人の息子を育てていました。そのような状況にあっても、彼女は非常に自立心が強く、自分たちの務めをきちんと果たせば、神が自分と息子たちを助け

てくださると固く信じていました。

ある日、ソニアと息子たちに転機が訪れます。彼女が家の清掃を請け負っていた成功を収めている人たちの家には書庫があり、彼らが様々な書物を読んでいることに気づいたのです。仕事が終わって帰宅したソニアは、ベンと弟が見ていたテレビを消しました。そして、おおむね次のようなことを言いました。「あなたたちはテレビを見すぎだわ。これから週に3つの番組だけ見てもいいことにしましょう。時間があるときは図書館に行きなさい。毎週2冊の本を読んで、どんな本だったかわたしに報告してちょうだい。」

息子たちは衝撃を受けました。ベンは、学校で必要なとき以外は本などまったく読んだことがなかったと言います。二人は

反論し、不平を言い、母の考えを変えようと説得しましたが、無駄でした。ベンはこう回想しています。「鶴の一声でした。わたしはそのルールを気に入りませんでした。わたしはわたしたちの成長を見たいという母の決意によってわたしの人生の進路が変わりました。」

確かにベンの人生は大きく変わりました。中学1年生になる頃にはクラスでトップの成績を取り、その後奨学金を受けてイェール大学に入学し、さらにジョンズ・ホプキンス医科大学に入りました。33歳のとき、同大学で小児神経外科の医長ならびに世界的に有名な外科医となりました。どうやって実現したのでしょうか。大部分は、あまり境遇に恵まれなかった母親が親としての務めを尊んで大いなるものとしたおかげでした。¹

聖文には、親の務めが書かれています。すなわち、子供たちに「悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマとあんじゆ按手による聖霊の賜物の教義」を教えることが親の義務です。(教義と聖約 68:25)。

わたしたちは親として、子供にとって最も重要な福音の教師および模範となるべきです。ビショップや日曜学校の教師、若い女性や若い男性の指導者ではなく、模範となるべきは親です。子供たちの最も重要な福音の教師として、贖罪の力とそのしよくざい真実性、彼らが何者であるか、また自分たちの神聖な行く末について彼らに教えます。そうすることで彼らが将来信仰を築くための堅固な土台を据えることができます。結局、イエス・キリストの福音を教え





る理想的な場所は家庭なのです。

約1年前、わたしは割り当てを受けてレバノンのベイルートに行きました。そこに滞在中、サラという12歳の少女について知りました。彼女の両親と年上のきょうだい二人はルーマニアで教会に改宗しましたが、サラがちょうど7歳のときに母国へ戻らなければならなくなりました。母国には教会はなく、組織されたユニットも、日曜学校も、若い女性のプログラムもありませんでした。5年間が過ぎ、この家族はベイルートに支部があることを知り、わたしが到着する直前に、年上のきょうだいを同伴させて、バプテスマを受けられるように12歳の娘サラを送り出しました。わたしはベイルートでのディボーションで救いの計画について話しました。サラは度々手を挙げて質問に答えてくれました。

教会とほとんど接点のない環境に彼女がいたことを知っていたわたしは、集会の後、彼女に声をかけました。「サラ、質問の答えをどうして知っていたのですか」と尋ねると、サラは即座にこう答えました。「母が教えてくれました。」住んでいる地域に教会はありませんでしたが、彼らの家庭には福音があり、母親が最も重要な福音の教師だったのです。

エノスはこのように述べています。「かつてわたしは、父が永遠の命と聖徒たちの喜びについて語るのを度々聞いていたのだが、その父の言葉が、そのときになってわたしの心に深くしみ込んできた。」(エノス1:3) エノスにとって最も重要な福音の教師が誰だったか、考えるまでもありません。

わたしも自分の父親が暖炉のそばでくつろぎ、聖典やその他の良い書物を読んでいたことを覚えています。わたしはよく父のそばで横になったものです。父は、聖句やシェークスピアの名言、新しい単語をカードに書き留めてはシャツのポケットに入れ、暗記して学んでいました。夕食を食べながら福音についての質問や話をしたことを覚えています。また、父に連れられ

何度も高齢者を訪問しました。ある人のためにアイスクリームを、別の人には鶏肉料理を買って持って行ったり、別れ際に相手と握手するときさにさりげなくお金を渡したりしていた父の姿を覚えています。そのときに良い気持ちが出て、父のようになりたいたいと思ったことを思い出します。

90歳くらいになった自分の母親が、マンションのキッチンで料理をして、それをお盆に載せて出かけようとしていたことを覚えています。どこに行くのか尋ねると、母は「高齢者に食べ物を持って行くの」と答えました。わたしは心の中で「母さんも高齢者だよ」と思いました。わたしの最も重要な福音の教師だった両親には感謝し尽くせません。

親としてできる最も大切なことの一つは、祈りの習慣だけでなく、祈りの力について教えることです。わたしが17歳くらいのとき、寝る前にベッドの横にひざまずいて祈っていました。知らぬ間に、母が部屋の戸口に立っていました。祈り終わったとき、母はこう言いました。「タッド、いい奥さんを見つけるのを助けてくださるよう、主をお願いしてる?」

母がそんな質問をするとは思いませんでした。わたしが結婚について考えたことは毛頭なく、当時はバスケットボールと学校のことで頭がいっぱいでした。ですから、「お願いしていない」とわたしが答えると、母はこう言いました。「祈った方がいいわ。あなたがする一番大切な決断になるから。」その言葉はわたしの心に深くし

み込んだので、それから6年間、わたしは良い妻を見つけるのを助けてくださるよう神に祈りました。そして、主は確かにその祈りにこたえてくださいました。

親は、子供たちに永遠の結果をもたらす事柄について祈ることを教えることができます。すなわち、困難の多い世の中で道徳的に清くいるための強さを得られるように、従順になれるように、そして正しいことを擁護する勇気を持てるように祈ることを教えることができるのです。

ほとんどの青少年が寝る前にはきつと祈っていることでしょう。しかし、恐らく多くの青少年が朝個人的に祈る習慣をうまく作れないでいます。彼らの最も重要な福音の教師である親として、わたしたちはこれを変えることができます。モルモン書の時代に、敵からの致命的になりかねない打撃から守ってくれる胸当てや盾、剣を持たせずに息子たちを戦いの最前線に送り出した親がいたでしょうか。しかし、何人の親が、祈りから得られる守りの力という霊的な胸当てや盾や剣を持たせずに子供たちを家庭から最も危険な戦地に送り出し、サタンとその無数の誘惑に立ち向かわせているのでしょうか。主はこのように言われました。「サタンに打ち勝つために、……常に祈りなさい。」(教義と聖約10:5) わたしたちは親として、子供たちが朝の祈りの習慣とそれがもたらす力を身に付けるのを助けることができます。

さらに、子供たちに時間を賢明に使うように教えることもできます。時折、ソニア・

カーソンのように、愛をもちながらも確固とした態度で、子供がテレビを見る時間や電子機器を使う時間を制限する必要があるでしょう。これらは子供たちの生活時間の多くを奪っています。代わりにもっと建設的で、福音に基づいた活動に時間を注ぐように導く必要があるかもしれません。最初は反抗されたり、文句を言われたりするかもしれませんが、ソニア・カーソンのように、わたしたちは先見の明と絶えず実行する意志を持つ必要があります。いつか子供たちが親の努力を理解し、感謝する日が来るでしょう。わたしたちがしなければ、誰がするのでしょうか。

次のように自問するとよいでしょう。子供たちはわたしたちから最高の霊的、知的、創造的な働きかけを受けているでしょうか。それとも、教会の召しや仕事を追い求めることに全力を注いだ後の、残った時間や才能を受けているでしょうか。来世で、ビショップや扶助協会会長などの肩書きが残るか分かりませんが、夫や妻、父や母という肩書きは世々限りなく続き、敬われることをわたしははっきりと知っています。この理由も含めて、地上で親としての責任を尊ぶことは非常に大切であり、そうすることで来るべき世でさらに大きな、けれども似たような責任を受けることに備えることができます。

親として、わたしたちは神がわたしたちを放っておかれることはないという確信をもって進むことができます。神は、天の助けなしにわたしたちに責任をお与えになることは決してありません。そのことをわたしは証します。親としての神聖な役割において、神と力を合わせて、子供たちの最も重要な福音の教師および模範となれますように。イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。■

注

1. ベン・カーソン, *Gifted Hands: The Ben Carson Story* (1990年) 参照



七十人
ヨーク・クレビンガット長老

自信を持って 神の御座に近づく

耳を傾け、行動するならば、イエス・キリストの贖罪を応用することによって、今日から霊的な自信を高めることができます。

神の御前に立ったときに、自分の霊的な自信のレベルは1から10の間で、どれくらいあると思いますか。末日聖徒として、今の自分の働きが永遠の命を受けるために十分だという個人的な証がありますか。天の御父が自分のことを喜んでくださっていると心の中で言うことができますか。今から1分後に救い主との個人面接があるとしたら、皆さんは何を考えるでしょうか。自分の罪や後悔、弱点ばかりに目が向いてしまうでしょうか。それとも喜びに満ちて心待ちにするでしょうか。主と目を合わせるでしょうか。それとも目を背けるでしょうか。皆さんは扉のところで立ちすくむでしょうか。それとも自信を持って主のみもとに進み行くでしょうか。

サタンには、不完全でありながらも努力している皆さんのような聖徒たちに、一人一人を思う愛に満ちた神への信仰を捨てるよう説得できないときがあります。サタンは、そのようなときはいつも、悪意に満ちた作戦を使い、皆さんを神からできるだけ引き離そうとします。サタンは、イエス・キリストを信じる信仰、つまり、途絶えることのない深い憐れみをもたらし、大きな奇跡さえ起こす信仰が、正義を選ぼうとする個人の自信と密接に関係しているこ

とを知っています。そのため、サタンは皆さんの心に入り込む手段を探し、天の御父はあなたに失望している、あなたは贖罪を受けることができない、努力しても意味がない、他の皆の方が優れている、あなたはふさわしくない、などというそや、それと同じような何千通りもの邪悪なことを告げるのです。

このような声に心を惑わされるのを許す限り、神の御座に本当の自信を持って近づくことはできません。何をしたとしても、何について祈ったとしても、奇跡に対してどのような望みを持っていたとしても、皆さんの信仰をむしばむには十分な自己不信が生じ、それは神に対する信仰だけでなく、自分自身に対する自信をもむしばんでしまうのです。このような方法で福音に従い、生活をしてもまったく楽しくありませんし、あまり健全ではありません。そして何よりも、それはまったく必要のないことなのです。変わるという決意は皆さんがすることであり、皆さんにしかできないことなのです。

ここで皆さんに6つの実践的な提案をしたいと思います。これらを心に留めるならば、邪悪な声を退け、平安に満ちた確信と霊的な自信を取り戻すことができます。皆さんが望むならば、それを得ること



ができるのです。最初の1から10の評価で、皆さんがどこに点数をつけたかにかかわらず、耳を傾け、行動するならば、イエス・キリストの贖罪を応用することによって、今日から霊的な自信を高めることができます。わたしは大胆に話しますが、皆さんの気分を害さず、教化することができるように願っています。

1. 自分の霊的な健康に責任を持ってください。他人や周りの状況のせいにするのをやめ、自分を正当化したり、従順になる努力を怠っていることについて言い訳をしたりするのをやめましょう。自分が「肉においては自由」であり、「自由と永遠の命を選ぶことも……自由である」ことを認めてください(2ニーファイ2:27)。主は皆さんの状況を完全に御存じです。また、単に皆さんが、福音に完全に従った生活をしないことを選ぶかどうか完全に御存じです。もしそうであるならば、正直にそれを認め、自分の状況の範囲内で完全になれるように努力してください。イエス・キリストの贖罪を日々の生活に応用しながら自分の霊的な健康に責任を持つときに、**霊的な自信は高められます。**

2. 自分の肉体的な健康に責任を持ってください。人は体と霊から成っています(教義と聖約88:15参照)。魂を養うときに、宮である肉体のことをおろそかにしてしまうと、霊と肉体の不和や、自尊心の

低下につながります。もし自分の健康管理ができていない、あるいは自分の体に自信がもてなくても、何かできることがあるならば、それを行ってください。ラッセル・M・ネルソン長老はわたしたちが「肉体を自分自身の宮であると考えよう」ように、また「適切な食事を取り、健康のために運動をする」ように教えました(「わたしたちは神の子である」『リアホナ』1999年1月号、95-96)。

ポイド・K・バックナー会長は「わたしたちの体が精神の宿る器となり、人格を築く基盤となるように、わたしたちの霊と体は結ばれている」と教えました(“The Instrument of Your Mind and the Foundation of Your Character”, [CES ファイヤサイド, 2003年2月2日], 2; speeches.byu.edu)。ですから、正しい判断力を用いて、何を食べるか、特にどれほど食べるかを決め、体が必要とする適切な運動を定期的に行ってください。身体的に可能ならば、今日から自分の体を治める者となり、自分の能力に合った定期的で長期的な運動を始め、より健康的な食事を取ることを決めてください。**救い主の助けを受けつつ、自分の霊が自分の中の生まれながらの人を治めるときに、霊的な自信は高められます。**

3. 自発的に心から従順になることを生活の一部として喜んで受け入れてくだ

さい。神を愛するならば、神の戒めをも愛さなくてはならないことを認識してください。主の標準は明確で簡潔です。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」(ヨハネ14:15)。えり好みの従順には、部分的な祝福しか伴いません。また、より悪いことに比べるとそこまで悪くないことを選んでいても、それは結局悪いことを選んでいっているのです。悪い映画を見たときに、すぐく悪いものを見なかったからといって高潔な思いを抱くことができると期待してはいけません。幾つかの戒めを忠実に守っていても、それは他の戒めをおろそかにしていい理由にはなりません。アブラハム・リンカーンの次の言葉は真理を突いています。「良いことをしたときには良い気持ちができる。悪いことをしたときには悪い気持ちができる。」(ウィリアム・H・ハーンドン、ジェシー・ウィリアム・ワイク、*Herndon's Lincoln: The True Story of a Great Life*, 第3巻, [1890], 3:439から)。

また、正しいことを正しい理由で行ってください。主は「心と進んで行く精神を求め」(教義と聖約64:34)、「心の思いと志とを見分ける者」(教義と聖約33:1)であられるため、皆さんがなぜ教会に行くのか、そしてただ物理的にそこにいるのか、それとも心から礼拝しているのかを



御存じなのです。日曜日に「バビロン、バビロン、いざさらば」と歌いながら、その後すぐにバビロンを再び求めたり、許したりしてはなりません（「イスラエルの長老たちよ」『賛美歌』196番）。霊的な事柄を軽く捉えることは決して喜びをもたらしません。教会と回復された福音を、表向きの社会生活の一部ではなく、人生の全てとしてください。皆さんが仕える者を今日選ぶということは、実際に福音に従って生活しない限り、口先だけのものとなってしまいます（ヨシュア 24：15 参照）。不完全であっても、正しい理由で心から努力し、自らをささげて生活するときに、霊的な自信は高められます。

4. 完全に、そして早く悔い改めることが上手にできる人になってください。イエス・キリストの贖罪はとても実践的であり、使い切ってしまうということはないので、毎日毎時間いつでも惜しみなく応用すべきです。偉大な医者である主の指

示に従い、イエス・キリストの贖罪と悔い改めを日々の生活の中で心から待ち受け、応用するものとして喜んで受け入れてください。自ら選んだ生活習慣として、悔い改めを続けて、楽しく、喜んで行う態度を身につけてください。その中で、引き延ばしという誘惑に気をつけ、周りが励ましてくれることを期待しないでください。救い主に目を向け、主が皆さんのことをどう思われているかについてもっと心を留めて、それに伴う結果を受け入れてください。イエス・キリストの贖罪を応用し、小さな罪でも大きな罪でも、即座に自ら喜んで悔い改めをするときに、霊的な自信は高められます。

5. 救うことが上手にできる人になってください。「主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし、あなたがたには、全ての人を赦すことが求められる」（教義と聖約 64：10）。全ての人、全てのことについていつでも赦してくださ

い。または少なくともそうするよう努力し、赦しが自分の生活にもたらされるようにしてください。恨みを抱いたり、容易に怒ったりせず、すぐに赦して忘れ、この戒めが自分に当てはまらなると決して考えないでください。自分が他の人に対して悪い気持ちを抱いていないのを救い主が御存じだと分かるときに、霊的な自信は高められます。

6. 試練や失敗、そして「予想外」のことを、この世の人生で経験するものとして受け入れてください。皆さんがここにいるのは、主に従順であることを証明し、試しを受け、「主なる〔皆さん〕の神が命じられる全てのことを〔皆さん〕がなすかどうかを見〔る〕」ためです（アブラハム 3：25）。これに「どんな状況においても」という言葉をつけ加えたいと思います。何百万人もの兄弟姉妹がこれまでや、現在試しを受けている中、皆さんがその例外となることがあり得るでしょうか。試練には自分の不従順や怠慢から来るものがあります。また他の人の怠慢や、単にこの世が墮落していることによるものもあります。これらの試練が来たときに、サタンの手下たちは、あなたが間違ったことをしたからだとか、これは罰だとか、これは天の御父があなたを愛しておられない証拠だ、などということを一斉に語りかけてきます。そういったことは無視してください。代わりに、無理やり笑顔を作って、天を見上げてこう言ってください。「主よ、分かっています。これが何であるか知っています。わたし自身の従順さを証明する機会なのですよ。」そしてその後、最後までよく堪え忍べるように、主と協力してください。「試練や艱難はしばしば、正しいことを行っているがために〔人生〕の中に訪れるもの」だということを受け入れるときに、霊的な自信は高められます。（グレン・L・ペース、"Crying with the Saints" [Brigham Young University devotional, 1987年12月13日], 2, speeches.byu.edu）

ウクライナ・キエフ伝道部を管理してい

たとき、わたしは最も忠実な姉妹宣教師の一人に、どうしてそれほどいつも自分に厳しくしているのか、どうしていつも小さなことで自分を責めるのかと聞きました。彼女の答えは間違った声に耳を傾けてしまった者の典型的な答えでした。彼女はこう言いました。「そのことで他の誰かに責められないようにするためです。」

兄弟姉妹の皆さん、この姉妹にしたのと同じ助言を皆さんにしたいと思います。自分の弱さを認め、それと向き合ってください。しかし、弱さのために身動きが取れなくなるようにしてください。なぜなら、地上での生活を終えるまでずっと付き合う弱さもあるからです。皆さんがどんな状況にあっても、自ら進んで正直に、喜んで日々悔い改めをするを選び、最善を尽くし、最良の自分になれるよう努力をするならば、その瞬間から、救い主の贖罪の力が皆さんを包み、どこまでも付いてくることでしょう。このような生活を送っていれば、毎日、どの瞬間においても「いつも罪の赦しを保[つ]」ことができ(モーサヤ4:12)、常に完全に清く、主に受け入れられる状態となることができます。

もし皆さんが望むならば、皆さんには特権があります。その特権とは、皆さんの弱さにもかかわらず、神が皆さんのことを喜んでおられることを今日、あるいは近いうちに、自分自身で知ることができるということです。愛ある救い主は、わたしたちに戒めに従った生活をしてほしいと期待しておられると証します。また、愛ある救い主は、恵みと憐れみを与えたいと切に願っておられると証します。また、愛ある救い主は、わたしたちが正しい方向に向かっていくという穏やかで喜びに満ちた確信を持ち、主の贖罪を日々の生活に応用するときに、喜ばれると証します。そして、愛ある救い主は、「神の前においてあなたの自信[が]増[す]」ことを心から願っておられることを証します(教義と聖約121:45)。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



七十人
エドアルド・ガバレット長老

はい、主よ、 あなたに従います

「わたしのもとにきなさい」「わたしに従いなさい」「わたしとともに歩みなさい」と、主はさまざまな動詞を使ってわたしたちを招かれます。どれも行動を促す招きです。

見よ、主はすべての国民に、その国民を使い、その国民の言葉を使って主の御言葉を教えることを許されるからである。¹ わたしに、母国語で気持ちを伝える機会が与えられた今日、再びこの聖句は成就されます。

1975年、わたしは若い宣教師としてウルグアイ・パラグアイ伝道部で奉仕していました。伝道地での最初の月、ゾーンリーダーたちはある福音の原則を説明する活動してくれました。ゾーンの宣教師全員が目隠しをされ、道をたどって多目的ホールに行くよう言われました。歩き始める前のある一人のリーダーの声を聞かされて、わたしたちはその声について行くのですが、その途中には、わたしたちを混乱させ、道からそらせようと、いろいろな声が聞こえるという警告を受けました。

数分間物音や話し声が聞こえましたが、その中に、「わたしについて来なさい」と言う声がありました。自分は正しい声に従っているという自信がありました。礼拝堂の多目的ホールに着くと、目隠しを外すように言われました。すると、そこには二つのグループができていて、わたしが間違った声に従ったグループにいることが

分かりました。「正しい声によく似ていたのに」と心の中で思いました。

39年前のこの経験は長く心に残りました。「もう決して間違った声にはついて行かないぞ」と自分に言い聞かせ、「はい、主よ、あなたに従います」と心の中で唱えました。

この経験を、救い主のわたしたちへの優しい招きと関連して話したいと思います。

「わたしはよい羊飼であって、わたしの羊を知[っている]。……」

わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。²

「主に従う」という招きは、わたしたちが受けるどんな招きよりも簡潔かつ率直で力があります。明瞭な声から発せられ、他の声と混同することがありません。

「わたしのもとにきなさい」「わたしに従いなさい」「わたしとともに歩みなさい」と、主はさまざまな動詞を使ってわたしたちを招かれます。どれも受け身の招きではなく、行動を促す招きです。それは預言者の中の預言者、教師の中の教師、神の御子、メシヤである主から全ての人類に向けての言葉です。



「わたしのもとにきなさい」という招き

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」³

まだ教会員でない皆さんは宣教師の声を通して、「モルモン書を読んでもくださいますか」「祈ってくださいますか」「教会に出席してくださいますか」「イエス・キリストの模範に従って、権能を持った人からバプテスマを受けてくださいますか」⁴と言うこの招きを受けるでしょう。今日この招きを受けたら皆さんはどう応えますか。⁵

皆さんには、このメッセージを聞き、「はい、主よ、あなたに従います」と言って受けるようにお招きします。

ウルグアイ、ミナスに住むカルロス・バディオラとその家族は宣教師と会い、福音のレッスンでたくさんの質問を受けました。そこで、近くに住む教会員ではないノルマという名前の、かわいい14歳の子に来てもらい、質問に答えるのを助けてもらうことにしました。ノルマは勉強熱心な高校生でした。その年は学校で聖書を勉強していたので、宣教師が質問をしたとき、ノルマは質問に答えました。彼女はとても備えられた最高の求道者でした。その日は知恵の言葉についてのレッスンをしました。

宣教師とのレッスンを終えて帰宅したノ

ルマは、何をすべきか知っていました。彼女は母親に言いました。「お母さん、これからは牛乳入りのコーヒーは要らないわ。ただ牛乳だけちょうだい。」これは、キリストに従うようにという宣教師からの招きを受け入れたいと願う彼女の気持ちが表れた行動でした。

カルロス・バディオラとノルマはバプテスマを受けました。その後ノルマの模範に倣^{なら}って、彼女の母親と父親、きょうだいたちもバプテスマを受けました。ノルマとわたしは小さいけれど強い支部で一緒に成長し、わたしが伝道から帰ってから結婚しました。彼女がそばにいれば、救い主に従うことがもっと容易にできるだろうということは、いつも分かっていました。

教会の会員でこの招きを受け入れている人は、聖餐を取ることでこの決意を毎週新たにしています。⁶ この決意には、戒めを守ることが含まれています。そうすることで、「はい、主よ、あなたに従います」と言っているのです。⁷

「わたしに従いなさい」という招き

「わたしに従いなさい」は、裕福な年若い役人に向けた主の招きでした。この裕福な男性はそれまでずっと戒めを守ってきました。他に何ができるかを尋ねた彼が受けた答えは、「わたしに従ってきなさい」

という、はっきりとした招きでした。⁸ しかし、単純な招きであっても、そこには犠牲が伴います。決心と行動が伴った努力が必要です。

預言者ニーファイは、自らを省みるよう勧めて尋ねました。「〔イエス〕は、『わたしに従いなさい』と人の子らに言われた。それゆえ、愛する同胞よ、進んで御父の戒めに従わないで、わたしたちはイエスに従うことができるだろうか。』⁹

「わたしのもとに来て」、主の声に聞き従いなさいという招きは、宣教師が初めから伝えるメッセージで、多くの人の生活を良い方向に変える助けとなりました。

50年前、宣教師たちが時計を修理に預けるために父の時計店にやって来ました。良い宣教師がするように、彼らもこの機会を利用してわたしの両親に福音について話しました。父は宣教師を受け入れ、母はメッセージとキリストに従いなさいという招きを受け入れました。それから今日まで、母はずっと活発な教会員です。母は言ったのです。「はい、主よ、あなたに従います。」

人が努力して主のみもとに行こうとするとき、生活における肉体的もしくは霊的重荷を軽くする力を得、前向きな内なる変化を経験し、それが幸福になる助けとなります。

「わたしとともに歩みなさい」という招き

エノクは、難しく、心がかたくなな民に福音を伝える召しを受けましたが、自分には資格がないと感じました。それができるかどうか、疑問だったのです。主は「わたしとともに歩みなさい」という招きを通してその疑いを軽くし、彼の信仰を強められました。目の見えない人にとっての杖のような、あるいは友人の腕のようなその招きは、頼りなげな足元を導くことができるのです。救い主の腕を取り、主とともに歩むことで、エノクは自分の足取りが確かになることを知り、すばらしい宣教師、そして預言者となりました。¹⁰

「わたしのもとにきなさい」「わたしに従いなさい」という招きに応えようとする決心は個人的なものです。この招きを受け入れるとわたしたちの決意の度合いが高まり、そうしてわたしたちは「主とともに歩む」ことができます。この段階まで来れば救い主との関係は近くなります。それが最初の招きを受けることに対する報酬なのです。

ノルマとわたしは、「わたしのもとにきなさい」、そして、「わたしに従いなさい」という招きを個人として受け入れました。その後は互いに支え合いながら、主とともに歩むことができるようになりました。

主を求め、主に従う努力と決意は報われて、わたしたちの必要な祝福が与えられます。

その例が、大変な努力をして救い主の衣に触ることができた女性の話¹¹や、目の見えないバルテマイの固い決意が要因となって人生に奇跡を起こした話¹²です。どちらも、肉体と霊の癒やしが与えられた例でした。

手を伸ばし、主の衣に触ってください。主の招きを受け入れ、「はい、主よ、あなたに従います」と言ってください。そして、主とともに歩むのです。



アルゼンチン・バリロケ

「わたしのもとにきなさい」「わたしに従いなさい」「わたしとともに歩みなさい」という招きには、その招きを受け入れる人に対し、特有の力が伴います。この力は皆さんの人生を変え、「〔わたしは〕悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つ〔っています〕」と言えるように皆さんを導く内なる変化を起こす力です。¹³

その変化の表れとして、「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひびを強め〔たい〕」¹⁴という強い願いを感じるようになります。

今日「主とともに歩む」ためにどのような段階を踏めばよいでしょうか。

1. キリストのもっと良い従者となる望みを養う。¹⁵
2. 主を信じる信仰が大きくなるという望みを持てるように祈る。¹⁶
3. 聖文から知識を得て道を照らし、変化する望みを強める。¹⁷
4. 今日、行動する決心をし、「はい、主よ、あなたに従います」と言う。知識を行動に変えない限り、真理を知っているだけでは自分の世界は変わりません。¹⁸

5. 日々これらの原則を実践して、自ら決心したことを行い続ける。¹⁹

愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長の言葉を聞いて、救い主の招きを受け入れる望みをもって行動しようとするわたしたちの意欲が高められますように。モンソン大管長はこう語りました。「この栄光の王、この万軍の主はどなただったのでしょ。この御方こそ、わたしたちの主、救い主、神の御子、救いの源であります。この御方は『わたしに従ってきなさい』と招き、『あなたも行って同じようにしなさい』と教え、『わたしの戒めを守り……なさい』と嘆願しておられます。」²⁰

わたしたちがさらに深く礼拝すること、神への献身を強めることを今日決心し、大きくはっきりと「はい、主よ、あなたに従います」と応える声が届きますように。²¹ 主イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

注

1. アルマ 29:8
2. ヨハネ 10:14, 27
3. マタイ 11:28。イザヤ 55:3も参照
4. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』31, 195-202 参照
5. 使徒 2:37-38 参照
6. 教義と聖約 20:37, 77-79 参照
7. 教義と聖約 42:29 参照
8. マルコ 10:22
9. 2 ニーファイ 31:10
10. モーセ 6:33-35 参照
11. ルカ 8:43-48 参照
12. マルコ 10:46-52 参照
13. モーサヤ 5:2
14. 教義と聖約 81:5。イザヤ 35:3も参照
15. アルマ 22:15-16; ダリン・H・オークス「望み」『リアホナ』2011年5月号, 42-45 参照
16. アルマ 34:17-27; 37:37 参照
17. 詩篇 119:105; ヒラマン 3:29 参照
18. モーサヤ 5:5 参照
19. ラルフ・ウォルド・エマソンはこう言っている。「継続して行う事柄は、容易に行えるようになる。それは物事の性質が変わるからではなく、わたしたちの力が増すからである。」(ヒーバー・J・グラント *Gospel Standards*, G・ホーマー・ダーハム編集〔1941年〕, 355で引用)
20. トーマス・S・モンソン「人生の旅路に喜びを見いだす」『リアホナ』2008年11月号, 88
21. 「われ主を愛して」『賛美歌』134 参照



十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド長老

わたしたちは皆、 物乞いではないだろうか

貧富の別なく、乏しい人に対して「できる限りのこと」をする必要
があります。

総 大会の新たな構成として、何と
すばらしい要素が加わったこと
でしょうか。エドアルド、見事で
したよ。

イエスはその務めを始められて間もな
い頃、自分が育ったナザレの会堂で立ち
上がり、かつてイザヤが預言し、後にルカ
による福音書に記録される言葉をお読み
になりました。「主の御霊がわたしに宿っ
ている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさ
せるために、わたしを聖別してください
からである。主はわたしをつかわして、囚
人が解放され……ることを告げ知らせ、
……打ちひしがれている者に自由を得さ
せ……るのである。」¹

このように救い主はメシヤとしての御自
身の務めを初めて公言されました。し
かしこの言葉は、贖罪の犠牲と復活とい
う究極の業が行われるまでの間は、メシ
ヤとしてのイエスの最大の務めが、心の貧
しい人も含め、貧しい人々を祝福するこ
とであると明示したのです。

イエスは初めから、貧しい人々や、恵ま
れない人々を並外れた方法で愛されまし
た。イエスは貧しい両親のもとに生まれ、
貧しい人々の中で成長されました。生活
の詳細は分かりませんが、イエスはかつて
「きつねには穴があり、……鳥には巣があ

る。しかし、人の子にはまくらす所がない
」と言われました。² 天地と「その中に
ある万物」³ を創造された御方の少なくと
も成人後の生活は、住居のないものだっ
たようです。

人類の歴史を通じて、貧困は最も蔓延
している最も大きな試練の一つであると
見なされてきました。貧困は明らかに物
質的な苦痛を与えますが、それはまた、霊
的、情緒的に一層大きな苦痛を与えるこ
とがあります。その重荷を持ち上げる業に
加わるように、偉大な贖い主は絶えず
呼びかけてこられました。エホバとして、
イエスはイスラエルの家を厳しくとがめら
れました。それは「貧しい者からかすめ
とった物は、あなたがたの家にある。

なぜ、あなたがたはわが民を踏みにし
り、貧しい者の顔をすり砕くのか。」⁴ と主
が言われたとおりでからです。

箴言の著者は、そのことを非常に明確
に述べています。「貧しい者をしえたげ
る者はその造り主を侮る。……耳を閉じ
て貧しい者の呼ぶ声を聞かない者は、自
分が呼ぶときに、聞かれない。」⁵

現代においては、回復されたイエス・キリ
ストの教会が設立されて1年に満たないう
ちに、主は会員に「貧しい者と乏しい者の
世話をし、彼らが苦しみを受けることのな

いように……しなければならぬ」⁶ と戒
められました。「しなければならぬ」と
いう強い調子に注目してください。神はこ
のことを非常に重視しておられるのです。

この世の不公平に対処するという途方
もない試練を目の前にして、一人の個人に
何ができるでしょうか。主御自身がその
答えを与えておられます。裏切りと十字架
上の死の前に、マリヤがイエスの頭に非常
に高価な香油を注ぎかけました。イスカ
リオテのユダはその浪費に抗議し、彼女を
「きびしくとがめ」しました。⁷

「イエスは言われた、『……なぜ女を困
らせるのか。わたしによい事をしてくれた
のだ。……

この女はできる限りの事をしたのだ。』⁸

彼女はできる限りのことをしたのです！
何と簡潔な方法でしょう！ かつて、ある
ジャーナリストが、カルカットで貧しい
人々を助けていたマザーテレサに問いか
けました。「統計的に見ると、あなたは何
も成し遂げていませんね。」この小柄な
驚くべき女性はこう答えました。「わたし
の仕事は統計ではなく、愛なのです。」自
分の手の及ばない人は大勢いるが、自分
の手の及ぶ人に対してできることを行う
ならば、神と隣人を愛するという戒めを守
ることができると、彼女は言いました。ま
た、別の折にこう言いました。「わたした
ちがしていることは大海の一滴にすぎま
せんが、それをしなければ、大海はその
一滴を失うことになるのです。」⁹ その
ジャーナリストは目が覚めた思いで、キリ
スト教の精神は統計とはまったく無関係
であると結論づけました。悔い改めを必
要としない99人のためよりも、悔い改めを
した一人の罪人のために、天において大き
な喜びがあるとすれば、神が数字その
ものにそれほど興味を持たれないのは
明らかであると、彼は述べています。¹⁰

では、わたしたちはどうすれば「できる
限りのこと」ができるでしょうか。

一つは、ベニヤミン王が教えたように、
貧しい人々は自分でその不幸を招いた



のだと考えて助けを差し控えることのないようにすることです。自分で困難を招いた人もいるでしょうが、それはわたしたちも同じではないでしょうか。だからこそ、この哀れみ深い王は「わたしたちは皆、物乞いではないだろうか」¹¹と問うているのではないのでしょうか。わたしたちは皆、助けや希望や祈りの答えを乞い求めているのでしょうか。自分の犯した過ちや問題について赦しを求めているのでしょうか。恵みによって自分の弱点が補われるように、少なくとも自分の場合には憐れみが正義に勝ってくれるようにと願っていないのでしょうか。哀れみ深い神に願い求めることで罪の赦しを受けることができるけれども、罪の赦しを保つためには自分に助けを願い求めてくる貧しい人々に哀れみ深く応じる必要があるとベニヤミン王が教えているのも、不思議なことではありません。¹²

貧しい人のために憐れみ深い行いをするだけでなく、彼らのために祈る必要もあります。ゾーラム人の中で同胞から、聖文からの言葉で言えば「汚れ」や「かす」のように見なされていた人々は、「衣服が粗末であるために」会堂から追い出されていました。モルモンは彼らを「この世のもの

に関して貧しく、心が謙遜であった」と述べています。¹³ この二つはたいい共存します。宣教師の同僚であるアルマとアミュレクは、粗末な衣服のために拒絶された人たちに、たとえどのような特権を奪われようと、畑でも、家でも、家族といるときも、心の中でも、いつも祈ることができると教えました。¹⁴

しかし、それからアミュレクは、まさに同胞から追い払われていた人々に言いました。「これらのことを〔祈っても〕、〔あなたがたが〕 乏しい人や着る物のない人を追い払ったり、病気の人や苦しんでいる人を見舞わなかったり、自分には持ち物がありながら、それを必要としている人々に分け与えなかったりするならば、あなたがたに言うが……あなたがたの祈りはむなしく、何の役にも立たない。あなたがたは信仰を否定する偽善者と同じである。」¹⁵ これは、貧富の別なく、乏しい人に対して「できる限りのこと」をする必要があることを思い出させるすばらしい教えです。

さて、わたしが非現実的な世界規模の社会制度を提案しているとか、物乞いをするに賛成していると誤解されないように、わたしは勤勉、節約、自立、向上心という原則を、誰にも負けないほど大切に

しているということを再度はっきりお伝えします。わたしたちは常に、人に助けを求める前に自分で努力することが期待されています。さらに、自立しようとし、あるいはいつも自立できるわけではない人に対する責任を皆さん一人一人がどのように果たすべきかについて、具体的な考えがあるわけではありません。しかし、神は御存じであり、もし皆さんが、神が何度も与えてこられた戒めを守るために誠実に望み、祈り、方法を探しているならば、神は皆さんを助け、弟子としての哀れみ深い行動へと導いてくださるでしょう。

わたしが今、教会の会員の粋をはるかに超えた難しい社会的ニーズについて話していることを皆さんは気づいているでしょう。幸いにも、教会員を支える主の方法は比較的容易です。肉体的に断食の律法に従うことのできる全ての人にイザヤはこう書いています。

「わたしが選ぶところの断食は、……

くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ、……飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これに着せ〔る〕などの事ではないか。」¹⁶

断食の律法に従う人々には霊的にも物



質的にも奇跡が訪れることを^{あかし}証します。そのような奇跡がわたしにも訪れたことを証します。まさに、イザヤが記しているように、わたしが何度も断食して叫び求めたときに神は「わたしはここにおる」と応えてくださいました。¹⁷ 少なくとも月に一度、その神聖な機会を大切に、状況が許す限り惜しみなく、断食献金やその他の人道、教育、伝道のための献金をささげましょう。わたしは約束します。神は皆さんを惜しみなく祝福し、皆さんの援助を受けた人は永遠にわたって皆さんを祝福された人と呼ぶでしょう。昨年、75万人の会員が、献身的なビジョップと扶助協会会長を通して断食献金から助けを受けました。非常に多くの末日聖徒が感謝しました。

兄弟姉妹の皆さん、わたし自身も人生の中で、物質的にも霊的にも身に余る祝福を絶えず受け続けてきたことを率直に認めます。皆さんと同じように、わたしも財政上の不安を感じたことがありますが、

貧しさを経験することも、貧しい人の気持ちを知ることもありませんでした。また、誕生や健康、教育や経済的な機会などの境遇が、人によって大きく異なる理由も分かりません。しかし、多くの人々の窮状を見るたびに、「神の恵みがなければわたしもそこにいた」ことを知っています。¹⁸ また、たとえわたしは兄弟の番人ではないとしても、わたしは兄弟の兄弟であり、「主の恵み〔を〕人にも分か〔ち〕」合わなければならないことを知っています。¹⁹

そのことについて、わたしはトーマス・スペンサー・モンソン大管長を称賛します。恵まれて彼を親しく知るようになって47年になります。わたしが一生忘れないであろう彼の姿は、当時経済的に荒廃した東ドイツから帰る飛行機にスリッパ履きで搭乗した彼の姿です。彼は予備のスーツと着替えのシャツだけでなく、自分が履いていた靴をも貧しい人に与えたのです。「よきおとずれを伝え、平和を告げ、〔空港内をパタパタという足音をさせて歩く〕者

の足は山の上にあって、なんと麗しいことだろう。』²⁰ わたしの知っている他の誰よりも、モンソン大管長は、夫に先立たれた女性と父親のいない子供たちや貧しい人、しいたげられた人のために、「できる限りのこと」を果たしてきたのです。

1831年の預言者ジョセフ・スミスへの啓示の中で、主は、貧しい人々はいつの日か彼らを救い出すために「力と大いなる栄光とのうちに」²¹ 来る神の王国を見らるであろうと言われました。わたしたちがその預言を成就する助けとなることができますように。そのためにわたしたちがイエス・キリストのまことの教会の会員として力と栄光のうちに来て、人々の足かせとなり、非常に多くの夢を打ち壊す貧困から人々を解放するためにできる限りのことができますよう、憐れみ深いイエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。■

注

1. ルカ4:18
2. マタイ8:20
3. 2ニーファイ2:14; 3ニーファイ9:15
4. イザヤ3:14-15
5. 箴言14:31; 21:13
6. 教義と聖約38:35
7. マルコ14:3-5 参照。マタイ26:6-9; ヨハネ12:3-5も参照
8. マルコ14:6, 8, 強調付加
9. Mother Teresa of Calcutta, *My Life for the Poor*, . . . ホセ・ルイス・ゴンザレス・バラード, ジャネット・N・ブレイフット共編 (1985年), 20
10. マルコム・ムゲリッジ, *Something Beautiful for God* (1986年), 28-29, 118-119 参照。ルカ15:7も参照
11. モーサヤ4:19
12. モーサヤ4:11-12, 20, 26 参照
13. アルマ32:2-3
14. アルマ34:17-27 参照
15. アルマ34:28, 強調付加
16. イザヤ58:6-7
17. イザヤ58:9
18. ジョン・ブラッドフォード *The Writings of John Bradford*, オーブリー・タウンSEND編集 (1853年), xliii より
19. 「主の恵み、人にも分かたん」『賛美歌』138番 © Harper San Francisco
20. イザヤ52:7
21. 教義と聖約56:18; 19節も参照。



十二使徒定員会
L・トム・ペリー長老

永続する平安を見だし、 永遠の家族を築く

わたしたちが永続する平安を見だし、永遠の家族を築くことのできるこの土台を与えてくださるのは、イエス・キリストの福音にほかなりません。

わたしたちは人生を旅する中で、良い時期も悪い時期も経験します。いずれの時期にも、異なるチャレンジが伴います。わたしたちがそのようなチャレンジに対応できるかどうかは、わたしたちがどのような土台を築いているかに左右されます。わたしたちの主であり救い主であられる御方の福音は、確かに堅固な土台を与えてくれます。その土台は、主が神の子供たちのために準備してくださった永遠の計画に関する知識をわたしたちが身につけるごとに、少しずつ形成されます。救い主は偉大な教師であられます。わたしたちはこの御方に従います。

聖文はこの御方について証し、わたしたちが従うべき完全な義の模範を示してくれます。以前、大会で会員の皆さんに紹介したことがあります。わたしは母が扶助協会のレッスンを準備するために使っていた資料を記録したノートを何冊か持っています。このノートに記されていることは、その当時だけでなく、現代にも当てはまります。イエス・キリストの特質についてチャールズ・エドワード・ジェファソンが1908年に記した引用もその

一つです。こう書かれています。

「クリスチャンになるということは、真心から、また熱烈にイエスを愛し敬い、イエスのようにになりたいという強い願望を抱いて、全生涯をイエスにささげることです。

わたしたちはイエスが話された言葉、イエスがなされた行い、さらにはイエスの沈黙の言葉を通じて、イエスを知るようになるのかもしれませんが。また、第一に御自身の友人、第二に御自身の敵、そして第三に御自身と同時代に生きた人々がイエスから受けた印象を通じて、イエスを知るようになるのかもしれませんが。

20世紀の生活に特徴的なことの一つ、それは不満と困難です。

世の人々は何かを求めているのですが、それが何なのか分かりません。富裕な社会となり、人間の技術と才能により生みだされた数々の発明が世を満たしていますが、人々は依然として落ち着くことができず、満たされず、混乱しています。しかし新約聖書を開けば、そこに次のような言葉が記されています。『わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは命のパンである。わたしは世の

光である。だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。わたしの平安をあなたがたに与える。あなたがたは力を受ける。あなたがたの心は喜びに満たされるであろう。』(The Character of Jesus [1908年], 7, 11, 15 - 16.)

人は自分がともに暮らそうと決めた人からある程度影響を受けます。自分が尊敬し、見習おうとする人からも影響を受けます。イエスは偉大な模範です。イエスに頼って生きることによるのみ、永続する平安を見出すことができるのです。

イエスのどのような点が、わたしたちにとって価値ある研究対象となるのでしょうか。

「新約聖書の著者は、……[イエス]の容姿、イエスが着ておられた衣服、あるいはイエスが住んでおられた住居については何の関心も抱いていませんでした。……イエスは馬屋でお生まれになり、大工の作業場で働かれ、3年間教えられ、十字架上で亡くなられました。……新約聖書を記したのは、わたしたちが……主に心を向けていると信じた人々でした。」(The Character of Jesus, 21 - 22) また、主は確かに過去にも現在にも神の御子、世の救い主、贖い主であるという確信を持っていました。

救い主のたとえ話の一つは、特に、今の時代にも当てはまると思います。

マタイ13章に、こう記されています。

「人々が眠っている間に敵がきて、麦の中に毒麦をまいて立ち去った。

芽がはえ出て実を結ぶと、同時に毒麦もあらわれてきた。

僕たちがきて、家の主人に言った、『ご主人様、畑におまきになったのは、良い種ではありませんでしたか。どうして毒麦がはえてきたのですか。』

主人は言った、『それは敵のしわざだ。』すると僕たちが言った『では行って、それを抜き集めましょうか。』

彼は言った、『いや、毒麦を集めようとして、麦も一緒に抜くかも知れない。』

収穫まで、両方とも育つままにしておけ。収穫の時になったら、刈る者に、まず毒麦を集めて束にして焼き、麦の方は集めて倉に入れてくれ、と言いつけよう。』(25-30節)

いにしえより存在するあの全人類の敵は、思いつく限りたくさんの方法を使って、至る所に毒麦をまいています。さまざまな方法を使って、神聖なわたしたちの家庭内に毒麦を入り込ませているのです。邪悪でこの世的な方法が蔓延^{まんえん}していて、その影響を取り除く現実的な手段はないかのように見えます。その影響は、有線や無線の回線を経て、まさにわたしたちの教育と楽しみのために開発されたさまざまな機器に侵入して来ます。麦と毒麦は近くで一緒に成長しています。この畑を管理する僕は、全力を尽くして良い麦を育て、それを強く美しくし、結果的に、毒麦がわたしたちの目や耳に何の影響力も持たないように、養わなければなりません。実に幸いなことに、主の教会の会員であるわたしたちは、生活を築くことのできる土台としてわたしたちの主であり救い主であられる御方の貴い福音を与えられています。

モルモン書のニーファイ第二書には、こ

う記されています。「見よ、わたしは、もう一度あなたがたに言うておく。あなたがたがその道によって入り、聖霊を受けるならば、聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。」(2ニーファイ 32:5)

わたしたちは世の騒音が、あの静かな細い声を圧倒し押さえ込むようなことを決して許してはなりません。

わたしたちは今の時代に直面している出来事について、これまで確かに警告を受けてきました。わたしたちに与えられているチャレンジは、主が今後必ず起こると言われたもろもろの出来事にどのように備えるかということです。

家庭の崩壊は、問題を抱えた世界に悲しみと失望のみをもたらすことでしょう。この悩める社会に住む人々の中には、このことを理解している人が大勢います。教会員として、わたしたちは社会と永遠の基本単位としての家族を維持し守る責任があります。歴代の預言者たちは、家庭の価値が低下するという避けられない破壊的結果について、あらかじめ警告してきました。

世の人々の目が教会員であるわたしたちに絶えず向けられる中、わたしたちの模

範が、確実に、この現世に住む神の子供たちのために主が立てられた計画を支持し支えるものとなるようにしましょう。何よりも偉大な教えは、義にかなった模範によって教えられなくてはなりません。わたしたちの家庭は、この世のさまざまな圧力に立ち向かうための神聖な場所であればなりません。主のあらゆる祝福の中で最も大きな祝福は、義にかなった家族を通してもたらされ、義にかなった家族に与えられるということを忘れないでください。

わたしたちは、親としての功績を慎重に評価し続けなければなりません。子供が受ける最も影響力のある教えは、思いやりのある義にかなった父親と母親からもたらされるのです。まず母親の役割について考えてみましょう。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の引用に耳を傾けてください。

「家を単なる物理的な建物としてではなく、慰めと愛のある家庭にする女性は、大きな軍隊を指揮する人、あるいは高名な企業の長として立つ人よりもはるかに大きな社会貢献をしています。母親が子供に、祖母が子孫に、あるいはおばや家族の他の姉妹が親族に与える影響に値札を付けることのできる人がいるでしょうか。

それぞれの方法で、堅固な家庭生活を築き、永遠に価値あることのために将来の世代を養い育てる女性の影響力を測定したり、計算したりすることはできません。この世代の女性が下す決断は、永遠の結果をもたらすことでしょう。こう考えてみてはどうでしょうか。今日の母親にとって、家庭を強めるために全力を尽くすことほど、偉大な機会、重大なチャレンジはないのです。」(Standing for Something: 10 Neglected Virtues That Will Heal Our Hearts and Homes [2000], 152)

では、父親がわたしたちの生活の中で果たす役割について考えてみましょう。

父親は子供たちのために祝福を与え、神聖な儀式を行います。これは子供たち



の生活において霊的に重要な部分となります。

父親は個人として積極的に、家族の祈り、毎日聖文を読むこと、毎週の家庭の夕べを導きます。

父親は家族全員が参加する旅行や外出の計画を積極的に助けることで、家族の伝統を築きます。一緒に過ごすこうした特別な時間についての思い出は子供たちの胸にいつまでも残ります。

父親は定期的な子供たち一人一人と話し合う機会をつくり、福音の原則を教えます。

父親は息子や娘に労働の価値を教え、それぞれの人生においてふさわしい目標を立てられるよう助けます。

父親は福音で教えられている忠実な奉仕の模範を示します。

兄弟の皆さん、イスラエルの父親としての神聖な召し、決して解任されることのない最も重要な召しをどうぞ忘れないでください。

何年も前にステーキ大会で、紹介したメッセージのテーマを分かりやすく説明するために、ある映像を見せたことがあります。1年を通して見ると、割り当てられたステーキ大会への訪問で教会を巡回するうちに、わたしたちはこの映像の内容を細部にわたって理解するようになりました。ほぼ暗唱できるほどでした。そのメッセージは、長い年月を経た今でもよく覚えています。映像の語り手はハロルド・B・リー大管長で、娘の家庭で起こった出来事について述べていました。大体、次のような内容です。

ある日の夜、この家の母親は、果物の瓶詰を作り終えようと、てんてこ舞いでした。子供たちはやっとのことで寝る支度ができ、落ち着きました。ようやく果物の瓶詰に取りかかれる時間ができたのです。果物の皮をむいて種を取り除く作業を始めたとき、二人の小さい息子が台所に入って来て、寝る前のお祈りをする準備ができたことを知らせました。



母親はじゃまされたくなかったので、息子たちに早口でこう言いました。「今夜は自分たちでお祈りしたらどうかしら。お母さんはこの果物から手が離せないから。」

すると長男の方が立ち去ろうとせずに、次のように尋ねました。「お祈りと果物とどっちが大切なの。」(『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』150 参照)

わたしたちはふとしたときに、幼い子供の人生に永続する効果を及ぼす教訓を与える機会にあずかることがあります。果物よりも祈りの方が大切なのは言うまでもありません。親として成功したいのであれば、忙しすぎて、子供の人生で大切な教訓を与えることのできる瞬間を逃すということがあってはなりません。

わたしの長い生涯で、天の御父の子供たちが忠実で献身的な親による導きの手をこれほどまでに必要としている時代はないと確信しています。わたしたちには、次の世代が自分たちよりもさらに大きな機会に恵まれるよう、家族を信仰と勇気を持って養育できる場所を見つけるために、所有するものをほとんどすべて捨てた偉大で高貴な親の受け継ぎがあります。わたしたちは自らの内に、それと同じ確固た

る精神を見だし、その同じ犠牲の精神で、目の前に立ちはだかるチャレンジを克服しなければなりません。わたしたちは、将来の世代に、主であり救い主であられる御方の教えに対するさらに強い信頼の念を植え付けなければならないのです。

「わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の雹と大嵐があなたたちを打つときにも、それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人はその基の上に築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」(ヒラマン5:12)

わたしたちが永続する平安を見だし、永遠の家族を築くことのできるこの土台を与えてくださるのは、イエス・キリストの福音にほかなりません。このことについて、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■



十二使徒定員会
クエンティン・L・クック長老

賢明に選ぶ

「悪を捨て、善を選ぶ」(イザヤ7:15)

愛する兄弟の皆さん、今晚、わたしは決断と選択についていささかの勧告をしたいと願っています。

わたしは若い頃、サンフランシスコ湾岸地域で弁護士をしていました。勤めていた事務所は、チャーリー・ブラウン休日特別番組の制作会社の法律業務をしていて、¹わたしは作者のチャールズ・シュルツと、チャーリー・ブラウンやルーシー、スヌーピーなどが登場する『ピーナッツ』のファンになりました。

わたしの大好きな漫画の一こまに、ルーシーが登場していました。わたしの記憶では、チャーリー・ブラウンの野球チームが試合で大切な局面を迎えていて、ルーシーはライトを守っていました。そして高いフライが上がって彼女のところへ飛んでいったのです。9回もツーアウトでした。ルーシーがそのボールをキャッチできたら、彼女のチームの勝利です。もしルーシーが落としたら、相手チームが勝つのです。

そしてこれは漫画ならではのことですが、チーム全員がルーシーの周りに集まり、落ちてくるボールを見詰めています。ルーシーは考えます。「もしこのボールをキャッチできたら、わたしは英雄だわ。でも失敗したら、間抜けだわ。」

ボールが落ちてきました。チームメイトが一心に見詰める中、ルーシーはボールを落しました。チャーリー・ブラウンはグ

ローブを地面にたたきつけて、悔しがります。するとルーシーはチームメイトを見渡して、腰に手を当て、こう言います。「わたしがキャッチできるとでも思ってたの？我が国の外交政策が気がかりでそれどころじゃないわ。」

ルーシーはフライを何年も取り損ねていました。彼女はそのたびに新しい言い訳を考えます。²いつもユーモラスではあるものの、彼女の言い訳は正当化でしかありません。ボールを落とした理由にはまったくなっていないのです。

トーマス・S・モンソン大管長は、その教えの中で、度々、決断は行く末を決めると言っています。³今晚、わたしは同じ思いで、いかなる正当化も良しとしないよう勧告します。正当化は義にかなった決断、特にイエス・キリストに仕える決断の妨げとなります。イザヤ書では、わたしたちは「悪を捨て、善を選ぶ」⁴よう教えられています。

この教えは今の時代において特に重要であると感じます。今は、サタンが数多くの新しい巧妙な方法を使って人の心の中で荒れ狂っているため、自分の公言する目標や目的からずれないよう、選択と決断を慎重に行わなければならない時代です。戒めに対する確固たる決意と、神聖な聖約に厳格に従うことが必要です。正当化によって、神殿のエンダウメントや、伝道、





神殿結婚が妨げられるなら、正当化は特に有害です。そうした目標の価値を信じていると公言しながら、その目標の達成に必要な日々の実践を怠っているとしたら、実に悲惨なことです。⁵

若い人の中には、神殿で結婚することが目標だと公言しながら、神殿結婚にふさわしい人と付き合っていない人もいます。率直に言えば、デートすらしない人もいるのです。独身男性の皆さん、皆さんが適齢期を超えてある程度円熟し、なお独身でいるとしたら、その期間が長くなればなるほど、独身であることが気楽になってきます。しかし、実際には**気楽ではいられなくなるはず**なのです。どうぞ、神殿結婚という目標に結びつく霊的かつ社交的な活動に「熱心に携わる」⁶ ようにしてください。

中には、教育を修めて仕事に就くまで結婚を引き延ばす人もいます。世の中で広く受け入れられているこの考え方は、信仰を反映したものでも、現代の預言者の勧告に従うものでも、健全な教義と両立するものでもありません。

最近わたしはすばらしい10代の若い男性と知り合いました。彼の目標は、伝道に出て、教育を受け、神殿で結婚して、信仰深い幸福な家族を作ることでした。わたしはその目標を心からうれしく思いました。しかし、話が進むにつれ、彼が実際にしている行為や選択が目標とは矛盾していることが明らかになってきました。彼が心から伝道に出たいと思っていること、そのために伝道に出られなくなるような重大な背罪は犯さないように努めていることは感じられました。しかし、彼の日々の行動は、やがて直面するであろう肉体的、情緒的、社会的、知的、霊的な課題への備えとはなっていなかったのです。⁷ 熱心に働くということが身につけていませんでした。学校やセミナーでも真面目に勉強していませんでした。教会には出席していましたが、モルモン書を読んではいませんでした。膨大な時間をテレビゲームやソーシャルメディアに使っていたのです。伝道に出

るだけで十分だと考えていたようです。若い男性の皆さん、どうぞ、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの使者となるために、ふさわしい行いを積み、真剣に備えようと、改めて決意してください。

わたしが心配しているのは、大きな節目ごとの決断だけでなく、その間の決断のことも含まれます。つまり、わたしたちが一生の大半を過ごす日常の世界にあって下す一見ありふれた決断のことです。こうした決断を下す際には、節度とバランス、とりわけ知恵を重視する必要があります。正当化を決して良しとせず、最善の選択をすることが大切です。

節度とバランスと知恵を必要とする好例の一つは、インターネットを活用するときです。インターネットは伝道活動を行ったり、神権の責任を支援したり、神殿の神聖な儀式のために大切な先祖を探し出したり、その他たくさんのことに利用できます。善を行うためにいくらかでも可能性が上げられそうです。同時に、インターネットには、ボルノグラフィーや残酷な言葉⁸、匿名者によるうわさなど、多くの邪悪な内容を伝える力もあります。愚行を無限に続けることもできるのです。先の総大会でランドール・L・リッド兄弟がインターネットについて力強く教えたように、「時間を浪費し、皆さんの可能性を摘み取ってしまうようなつまらないことに、際限なく捕らわれてしまう」可能性もあるのです。⁹

気をそらすもの、義に敵対するものは、インターネット上だけでなく、至る所に存在します。その影響は、青少年だけでなく全ての人に及んでいます。わたしたちの住む世界は、現在、文字どおり混乱の中にあります。¹⁰ 「果てしない娯楽」と不道徳と崩壊した生活の病的な描写が周囲を取り巻いています。これらは、メディアの中では普通のこととして扱われているのです。

最近、デビッド・A・ベドナー長老は、教会員に対して、ソーシャルメディアを活用する際に自分を偽らないように警告しま



した。¹¹ 著名な思想家であるアーサー・C・ブルックス氏もこの点を強調しています。氏の言葉によれば、ソーシャルメディアを使うとき、わたしたちには、学校や職場でのつらい面よりも、楽しい面を詳しく伝える傾向があります。描写される生活は部分的で、時には誇張や見せかけが入ります。そのような生活ぶりをシェアし、「ソーシャルメディア仲間のほとんど見せかけの生活」を見て時間を浪費します。ブルックス氏はさらにこう続けています。「自分を実際より幸福に見せることに時間の一部を費やし、自分よりも幸福そうな人を見ることに残りの時間を費やすなら、間違いなく気分が悪くなるでしょう。」¹²

ときどき、わたしたちは軽薄な愚行と、意味のない騒音と、終わりのない論争の海に溺れていると感ずることがあります。音量を落とし、実態を調べたら、義にかなった目標に向かう永遠の進歩のためになるものはほとんどないのです。ある父親は、こうした気をそらすものに触れたがる子供の度重なる要求に、賢明に答えています。ただこう問うのです。「それをやっただらもっと立派な人間になれるのかい？」

大小にかかわらず、回復された福音の精神と相いれない間違った選択を正当化し始めると、必要な祝福や守りを失い、しばしば罪のわなに陥り、あっさりと道を見失ったりします。

特に心配しているのは、愚かな行い¹³と「何でも新しい流行に」引かれることです。教会では、あらゆる種類の真理や知識の獲得を奨励し、称賛しています。しかし、神の幸福の計画とイエス・キリストの不可欠な役割から、文化や知識や社会習慣が離れると、社会の崩壊は避けられなくなってきました。¹⁴ 現在、多くの分野、特に科学

と通信の分野で空前絶後の進歩が見られる反面で、肝心の基本的な価値観が脅かされ、総体的な幸福福利が衰えています。

アテネのアレオパゴス評議所で話すよう招かれた使徒パウロは、知性を誇りながらも真の知恵に欠ける点で現代人と同じ人々がいることに気づきました。¹⁵ 使徒行伝にはこう記録されています。「いったい、アテネ人もそこに滞在している外国人もみな、何か耳新しいことを話したり聞いたりすることのみに、時を過ごしていたのである。」¹⁶ パウロが強調したのは、イエス・キリストの復活でした。パウロの話が宗教的なものだとなると、ある人は彼をあざけり、ある人は彼を無視して「この事については、いずれまた聞くことにする」と言いました。¹⁷ パウロは**何ら成功を収めることなく**、アテネを去りました。このアテネ訪問についてフレデリック・ファラー司教はこう書いています。「パウロはアテネには教会を設立せず、アテネ人に向けた書簡も残しませんでした。度々アテネの近くを通過しましたが、再び足を踏み入れることはありませんでした。」¹⁸

ダリン・H・オークス長老の「良いこと、より良いこと、最も良いこと」¹⁹を区別しようという霊感あふれるメッセージは、選択肢や優先順位を評価するうえで実に効果的な方法だと信じています。多くの選択があること自体は、悪いことではありません。しかし、そのために全ての時間が奪われたり、最も良い選択ができなくなったりとしたら、そのときは油断のならないものとなるのです。

努力する価値のあるものであったとしても、それが最も良い目標から気をそらすものとなっていないか判断するために、評価する必要があります。わたしは10代の頃

に父としたある会話が忘れられません。若い人々は、就職や家族の扶養といった長期的で重要な目標に十分に関心を寄せて準備をしてはいないと、父は考えていました。

意義ある学業と将来に備えた労働経験は、常に、父の薦める優先順位の上位に入っていました。ディベートや生徒会などの課外活動は、わたしの重要な目標と直接関係があると考えていました。わたしがフットボールやバスケットボール、野球や陸上競技にかなりの時間を費やしていることについては、父はやや懐疑的でした。父は運動が体力と忍耐力を養い、チームワークも教えてくれることを知っていましたが、一つの競技を短期間に集中して行う方が良いと考えていたようです。スポーツは良いものだが、**わたしにとって、最も良いものではない**と、父は考えていました。大切な長期目標を犠牲にしてまで地域の名声を得ることを重視するスポーツもあることを心配していました。

そのような経験から、ルーシーの野球の場面をわたしが好むのは、父に言わせれば、わたし自身ボールを取れるか心配するよりも、外交政策を勉強すべきだったからです。ただし、母の方はスポーツを愛していて、入院でもしない限り、わたしの試合を見逃すことなどあり得ないほどでした。

わたしは父の忠告に従い、大学ではスポーツはしないと決意していました。ところが、高校のフットボール部の監督から連絡があって、スタンフォード大学のフットボール部の監督がマーリン・オルセンとわたしに会いたがっているというのです。若い皆さんはマーリンを知らないかもしれませんが、ローガン高校のフットボールチームでプレーした彼は全米級のディフェンシブタックルでした。わたしも同じチームでクォーターバックやセーフティをして、蹴り上げられたボールをつかみ突進しました。マーリンは高校在学中、有力なフットボール部を持つ全米のほとんどの大学から勧誘

を受けました。大学時代に彼は全米最高のラインマンとしてアウトランドトロフィーを受賞しました。マーリンは最終的には、全米フットボール連盟(NFL)のドラフトで第3位の指名を受け、実にすばらしいことに、14年連続でプロボウルの出場選手に選ばれました。1982年にプロフットボールの殿堂にその名を刻みました。²⁰

スタンフォード大学の監督との会食は、ユタ州ローガンのブルーバードというレストランで行われました。監督は最初に握手を交わした後、二度とわたしと視線を合わせようとはしませんでした。マーリンに話しかけて、わたしのことは眼中になかったようです。昼食の終わり頃、初めてわたし



の方に向き直りましたが、もうわたしの名前を覚えてはいませんでした。それからマーリンにこう告げました。「もし君がスタンフォード大学を選んで、君の友人も一緒に連れて来たかったら、彼は学校の成績は優秀だから、何とかしてあげられると思うよ。」この経験があって、わたしは父の賢明な忠告に従うべきだと確信したのです。

わたしの本意は、スポーツへの参加や、若い人々が行っているインターネットやその他の価値ある活動に水を差すことではありません。そうした活動には、節度とバランスと知恵が必要だと言いたいのです。賢明に活用すれば、人生を豊かなものにしてくれます。

しかしながら、年齢を問わず全ての人々に申し上げたいのは、目標や目的をもう一度見直し、さらに自制しようと努める必

要があるということです。わたしたちの日々の行いや選択は、目標と一致したものでなければなりません。正当化や気をそらすものを乗り越える必要があります。とりわけ、義をもってイエス・キリストに仕えるという聖約と矛盾しない選択をすることが大切です。²¹ いかなる理由があろうとも、わたしたちは目標から目を離すことはできないのです。

この世の生涯は神に会う備えをする時です。²² わたしたちは幸福で喜びあふれる民です。優れたユーモアのセンスを評価していますし、友人や家族とのんびり過ごす時間も大切にしています。しかし、わたしたちが認識しなければならないのは、人生をどう過ごすのか、あらゆる選択にどう対応するのかということの基となる真面目な目的があるということです。気をそらすものや正当化は、進歩を妨げるという点で相当に有害です。しかし、それがイエス・キリストとその教会を信じる信仰を弱めるとしたら、実に悲惨なことです。

神権を持つわたしたちが、主の奉仕の業に働く者に求められる気高い目的に一致した行いができるように祈っています。あらゆる面で「イエスの証に雄々しく」あるかどうかということが、日の栄えの王国へ行くのか、月の栄えの王国へ行くのかを振り分けるテストなのだということを忘れないようにする必要があります。²³ その振り分けの結果、日の栄えの側にいたいものだと願っています。主の使徒の一人として、贖罪が現実のものであることを、そしてわたしたちの救い主イエス・キリストが神の業を行っておられることを熱く証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. リー・メンデルソン・ビル・メレンデス制作、テレビ特番
2. 「土星の衛星のせいで気がそれたのよ」から「グループに毒素が含まれていないかどうか心配だったのよ」に至るまで、ルーシーはボールを落とした理由をいつも正当化した。
3. “Decisions Determine Destiny,” *Pathways*

to Perfection: Discourses of Thomas S. Monson, (1973年), 第8章 57 - 65 参照

4. イザヤ 7: 15
5. 「いいことをするのがいいことを知ると同じぐらいやさしいものなら、小さな礼拝堂は大きな教会に、貧乏人の小屋は王様の宮殿になっているわ。」(ヴェニス商人)『シェイクスピア全集II』第1幕第2場、小田島雄志訳、白水社、353)
6. 教義と聖約 58: 27 参照
7. 『宣教師の生活に適應する』(小冊子) 23 - 49 参照
8. ステファニー・ローゼンブルム “Dealing with Digital Cruelty,” *New York Times*, 2014年8月24日付, SR1 参照
9. ランドール・L・リッド「選びの世代」『リアホナ』2014年5月号, 56
10. 教義と聖約 45: 26 参照
11. デビッド・A・ベドナー “To Sweep the Earth as with a Flood” (ブリガム・ヤング大学教育週間で行われた説教, 2014年8月19日) 参照; lds.org/prophets-and-apostles/unto-all-the-world/to-sweep-the-earth-as-with-a-flood
12. アーサー・C・ブルックス “Love People, Not Pleasure,” *New York Times*, 2014年7月20日付, SR1
13. 残念なことに、現在増加している傾向の一つに、恐ろしいまでの愚行が挙げられる。人を汚すものとして救い主が幾つか採り上げておられるが、そのときに「愚痴」としてこの愚かしさも含まれた(マルコ 7: 22 参照)。
14. 同じことがモルモン書の文明だけでなく、古代のギリシャでもローマでも起こった。
15. フレデリック・W・ファーラー, *The Life and Work of St. Paul* (1898年), 302 参照。当時はあらゆる種類の哲学者がいた。快楽主義者、禁欲主義者、それと競合するグループが存在し、異教徒のパリサイ派、サドカイ派と呼ぶ者もいた。クエンティン・L・クック「的のあなたに目を向ける」『リアホナ』2003年3月号, 21 - 24 も参照
16. 使徒 17: 21
17. 使徒 17: 32
18. ファーラー, *The Life and Work of St. Paul*, 312
19. ダリン・H・オークス「良いこと、より良いこと、最も良いこと」『リアホナ』2007年11月号, 104 - 108 参照
20. マーリン・オルセンはフットボールの名選手であり、俳優であり、NBC放送局のNFL解説者でもあった。ユタ州立大学在籍時、アウトランドトロフィーを受賞した。プロフットボールのロサンジェルス・ラムズでプレーした。テレビでは『大草原の小さな家』でマイケル・ランドンの友人ジョナサン・ガーベ役を演じ、後に *Father Murphy* という自身の番組を持った。マーリンは既に他界している(2010年3月11日没)が、今なお彼を惜しむ声は多い。
21. 教義と聖約 76: 5 参照
22. アルマ 34: 32 参照
23. 教義と聖約 76: 79



七十人会長会
クレグ・C・クリステンセン長老

自分自身で知っている

イエス・キリストの回復された福音が真実であることを自分で知ることは、人生最大の喜びに満ちた経験の一つです。

愛する兄弟の皆さん、わたしたちはトーマス・S・モンソン大管長の個人的な模範と神権の奉仕により絶えず鼓舞されています。先日、数人の執事が次のような質問を受けました。「モンソン大管長のどのような点を最も尊敬しますか。」ある執事は大管長が子供の頃、貧しい友達におもちゃをあげたことだと言いました。もう一人は夫を亡くした多くのワード会員を世話したことを挙げました。そして3人目は、若くして使徒に召されてからずっと世界各地の人々を祝福してきたことを話しました。それから、ある若い男性がこう言いました。「一番すばらしいと思うのは、モンソン大管長の強い証あかしです。」

本当にわたしたちは皆、救い主イエス・キリストに対する大管長の特別な証と、御霊たまの導きに常に従う献身的な姿勢を感じてきました。大管長は経験を語るたびに、福音を一層十分に実践し、個人の証を求め、強めるように勧めています。最近の総大会でこの壇上から言われたことを思い出してください。「間違った方向へ引き込むあらゆる力……に抵抗する強さを持つために、わたしたちは個人の証を持つ必要があります。12歳であれ、112歳

であれ、あるいはその間の何歳であれ、皆さんはイエス・キリストの福音は真実であることを自分で知ることができます。」¹

今晚のわたしのメッセージは112歳よりも12歳に近い人たちに向けたものですが、お話しする原則は誰にでも当てはまります。モンソン大管長の言葉に答えて、皆さんに聞きたいと思います。わたしたちは皆、福音が真実であることを自分で知っているのでしょうか。自分の証が本当に自分のものであると確信をもって言えるのでしょうか。再びモンソン大管長の言葉から引用しましょう。「救い主と福音に対する強い証が、[周囲の罪悪から守って



れる] ことをはっきりと申し上げます。……これらの証をまだ持っていなければ、その証を得るために必要なことをしてください。自分の証を得ることは不可欠です。人の証にいつまでも頼ることはできないからです。」²

自分自身で知っている

イエス・キリストの回復された福音が真実であることを自分で知ることは、人生最大の喜びに満ちた経験の一つです。初めのうちは、他の人の証に頼らなくてはならないかもしれません。それは「わたしたちは、母たちがそれを知っていたことを疑いません」³と言ったあの若い兵士たちと同じです。それは証を築くための良い出発点ですが、そこからさらに先へ進まなければなりません。力強く福音に生きるには、自分の証を受け、強める以上に大切なことはありません。アルマが言ったように、「自分自身で知っている」⁴と断言できるようにならなければなりません。

「あなたがたは、わたしがどのようにしてこれらのことが確かであるのを知ったと思うか。」アルマは続けています。「見よ、わたしはあなたがたに言う。これらのことは、神の聖なる御霊によってわたしに知らされているのである。見よ、わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日もの間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であるのを、わたしは今、自分自身で知っている。」⁵

父の見たことをわたしも見たいと望む

アルマのようにニーファイも自分で真理を知る者となりました。父親が多くの霊的な経験を語るのを聞き、ニーファイは父親が知っていることを知りたいと思いました。単なる好奇心ではなく、飢え渇くように求めたのです。ニーファイは「とても若かった」にもかかわらず、「神の奥義を知りたいという大きな望みを抱いて」⁶ いました。「聖霊の力によってこのようなことを見聞きし、また知りたいと思った」⁷ の



です。

ニーファイは「思いにふけりながら腰を下ろしていたとき、主の御霊に捕えられて、……非常に高い山へ連れて行かれ」「あなたは何を望んでいるのか」と問われました。ニーファイの答えは明確でした。「父の見たことをわたしも見たいと望んでいます。」⁸ ニーファイは信じる心と熱心な努力のゆえに、すばらしい経験をしました。将来起こる救い主イエス・キリストの降誕、生涯、十字架上の死についての証を受け、末日にモルモン書が世に出て、福音が回復される示現を見ました。これは全て、自分で知りたいと心から望んだ結果です。⁹

このような個人的な主との交わりは、その後すぐに直面する逆境や訓練にニーファイを備えました。このような経験のおかげで、ニーファイは家族が苦しんでいるときも強くあることができました。それは彼が自分で経験し、自分で知っていたからです。彼は自分の証によって祝福されたのです。

神に願い求める

ニーファイのように、預言者ジョセフ・スミスも「とても若かった」頃、霊的な真理について「心の中で深く考え」ました。その頃ジョセフは「大きな不安」を感じていました。宗教に関して相反する教えに囲まれていたからです。ジョセフはどの

教会が正しいか知りたと思いました。¹⁰ そして、「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、……神に、願い求めるがよい」という聖書の言葉に心を動かされ¹¹、答えを見つけるために自ら行動しました。1820年の春、ある晴れた日の朝、森に入ってひざまずき、祈ったのです。ジョセフの信仰のゆえに、また神がジョセフに特別な任務を用意しておられたために、ジョセフは父なる神と御子イエス・キリストの栄光あふれる示現を受け、自分が何をすべきか自分で知ることができたのです。

ジョセフの経験の中に、自分の証を得る、または強める際に应用できる手本があることがお分かりでしょうか。ジョセフは聖文が心に深くしみ込むようにしました。聖文について深く考え、自分の状況に当てはめました。そして、学んだことを実行したのです。その結果はすばらしい最初の示現とその後続く全ての出来事でした。この教会はまさしく、14歳の農家の少年をはじめ、誰でも「神に願い求め」、祈りの答えを受けられるという原則の上に建てられたのです。

では証とは何か

福音についての証は自分にとって最も大切なものである、と教会員が述べるのをよく耳にします。証とは、聖霊の力によって授けられる神からの神聖な賜物です。

福音について学び、祈り、福音に生きるときに受ける穏やかな揺るぎない確信です。自分が学び行っていることが正しいということを、聖霊がわたしたちの心に証言してくださっているという気持ちです。

証とは、照明器具のスイッチのようなものだと言う人もいます。つけるか消すか、どちらかのように、証は持っているか、いないかのどちらかだと言うのです。実際には、証は木のようにさまざまな段階を経て成長します。合衆国西部のレッドウッド国立公園に、地上で最も高いセコイアの木があります。そうした巨木の下に立ち、それが小さな種から生長したことを考えると、驚嘆せざるを得ません。わたしたちの証もそれと同じです。初めは一つの霊的な経験かもしれませんが、長い時間をかけて絶えず養い育て、霊的な経験を重ねるうちに、成長して大きくなっていくのです。

ですから、預言者アルマが証を育てる方法を説明するとき、種が生長して木になることについて語ったのはごく自然なことです。アルマはこう述べています。「もしあなたがたが心の中に場所を設けて、種をそこに植えるようにするならば、見よ、それがほんとうの種、すなわち良い種であり、またあなたがたが……不信仰によってそれを捨てるようなことがなければ、……その種はあなたがたの心の中でふくらみ始めるであろう。そして、あなた



南アフリカ、ケープタウン

がたは種がふくらみつつあるのを感じると、心の中で次のように思うであろう。「これは良い種、すなわち御言葉は良いものに違いない。これはわたしの心を広げ、わたしの理解力に光を注ぎ、まことに、それはわたしに良い気持ちを与え始めている。」¹²

多くの場合、証はこのようにして始まります。光が注ぎ込むような神聖な確信は、神の御言葉が真実であることを示しています。こうした気持ちはすばらしいものですが、まだ始まりにすぎません。証を育てる努力は続きます。セコイアの小さな芽が地面から出ただけでは、巨木に生長するためのプロセスが完了していないのと同じです。最初に経験する霊的な促しを無視するなら、また、聖文を研究し、祈り、御霊を感じる経験を求めることによって、霊的な促しを養い育てないなら、確信は弱まり、証は消えてしまうのです。

そのことをアルマはこう述べています。「もしあなたがたがその木に構わず、養い育てることに心を配らなければ、見よ、それが根付くことはないであろう。そして、太陽の暑さが及んでその木を熱すると、その木はまったく根がないので枯れてしまうであろう。そこであなたがたは、その木を抜いて捨てる。」¹³

大抵の場合、わたしたちの証は木が生長するのと同じように、絶えず世話をして熱心に努力する成果として、少しずつ、ほとんど気づかないうちに成長します。ア

ルマはこう約束しています。「しかし、あなたがたが御言葉に養いを与えようとするれば、つまり、その木が生長を始めるときに、非常な熱意と、忍耐を伴う信仰を働かせてその実を期待しながら養いを与えようとするれば、それは根付くであろう。そして見よ、それは生長して永遠の命をもたらす木になるであろう。」¹⁴

今がその時、今日がその日である

わたし自身の証は、モルモン書に書かれた教えについて研究し、深く考えることにより成長し始めました。ひざまずいて謙遜に神に祈り求めると、読んでいる書物が真実であると聖霊が心に証してくださいました。最初に感じたこの証がきっかけとなり、福音のその他の真理の証も得られました。モンソン大管長の次の教えのとおりです。「モルモン書が真実であることを知れば、ジョセフ・スミスが確かに預言者で、永遠の父なる神とその御子イエス・キリストにまみえたことを知るようになります。さらに、ジョセフ・スミスを通じてこの末日に福音が回復され、アロン神権とメルキゼデク神権が回復されたことを知るようになります。」¹⁵ その日以来、わたしは聖霊の導きにより、イエス・キリストが世の救い主であられ、主の回復された福音が真実であると確信する神聖な経験を数多くしてきました。アルマとともに、自分で知っていることと確信をもって言うことができます。

若い友人の皆さん、福音が真実であるということ自分で学び、再確認しましょう。今がその時、今日がその日です。わたしたちには一人一人、なすべき大切な業があります。その業を成し遂げるには、また、絶え間なく不気味に迫るこの世の影響から守りを受けるには、アルマ、ニーファイ、そして若きジョセフ・スミスが持っていた信仰を持ち、自分の証を得て成長させなければなりません。

冒頭で述べた若い執事のように、わたしもモンソン大管長の強い証を尊敬しています。それはそびえ立つセコイアの木のように、大管長の証も時間をかけて成長しました。モンソン大管長のように、わたしたちも自分で、イエス・キリストが救い主、世の贖い主であられることを知り、ジョセフ・スミスが回復の預言者であり、わたしたちが持っている神聖な神権も彼を通して回復されたことを知ることができるのです。以上のことを学び、自分で知ることができますよう、へりくだり、イエス・キリストの神聖な御名により祈ります、アーメン。■

注

1. トーマス・S・モンソン「一人でも気高く立ち」『リアホナ』2011年11月号, 62
2. トーマス・S・モンソン「神権の力」『リアホナ』2011年5月号, 66
3. アルマ 56:48
4. アルマ 5:46
5. アルマ 5:4-6
- 6.1 ニーファイ 2:16
- 7.1 ニーファイ 10:17
- 8.1 ニーファイ 11:1-3
- 9.1 ニーファイ 11-14 章参照
10. ジョセフ・スミス—歴史 1:8-10 参照
11. ヤコブの手紙 1:5
12. アルマ 32:28
13. アルマ 32:38
14. アルマ 32:41
15. トーマス・S・モンソン「リアホナ」2011年11月号, 67



管理ビショップリック第二顧問
ディーン・M・デイブズビショップ

断食の律法——貧しい 人や助けを必要とする 人の世話をする個人の 責任

救い主の弟子であるわたしたちは、貧しい人と助けを必要としている人の世話をする責任を負っています。

愛する兄弟の皆さん、わたしは神権を愛しています。また、皆さんとともに集う機会が好きです。この偉大な大義においてともに働けることに心から感謝しています。

わたしたちはすばらしい時代に生きています。医学や科学、テクノロジーの驚くべき発達により大勢の人の生活の質が向上しました。一方で、人々が大きな苦しみや悩みを抱えていることも明らかです。戦争と戦争のうわさに加え、洪水や火災、地震、疫病などの自然災害の増加は、世界中の多くの人々に影響を及ぼしています。

教会の指導者は、あらゆる地に住む神の子供たちの福利に気を配っており、よく知っています。時と場所が許す限り、教会は助けを必要としている人に緊急物資を提供しています。例えば、昨年11月には台風ハイエンが島国フィリピンを襲いました。

カテゴリ5のこの猛烈な台風は、甚大な被害と苦しみをもたらしました。幾つもの町が壊滅的な被害を受け、多くの命が失われ、何百万もの家屋が大破したり、倒壊したりしました。水や下水道、電気などの機



時と場所が許す限り、教会は助けを必要としている人に緊急物資を提供しています。

能も停止しました。

この災害から数時間後には教会の物資が届けられました。フィリピンに住む教会員たちが、兄弟姉妹を救済するために力を合わせ、食料品や水、衣類、衛生キットを会員にも会員でない人々にも提供したのです。

教会の集会所は、家を失った何千もの人の避難所となりました。地域会長会および地元の神権指導者の指示の下、全会員の状況と安否を確認するための調査が行われました。その神権指導者の多くは、全てを失った被災者たちでした。靈感により策定された計画が実行に移され、会員が一定の生活環境を取り戻し自立できるよう助けました。

簡素な資材が教会員に提供され、木造の住まいを再建するのに役立てられました。無償で提供されたわけではありません。会員は訓練を受け、まず自分のために、それから他の人のために、必要な労力を提供したのです。

その結果、会員は大工仕事や配管工事、そのほかの工事関連の技能を身につけ、近隣の町や村が再建を開始したときに、有意義な仕事に就くことができました。

貧しい人や助けを必要とする人の世話をすることは、基本的な福音の教義であり、永遠の救いの計画に欠かせない要素です。

エホバは地上での務めに先立ち、預言者を通じてこのように宣言されました。「貧しい者はいつまでも国のうちに絶えることがないから、わたしは命じて言う。『あなたは必ず国のうちにいるあなたの兄弟の乏しい者と、貧しい者とに、手を開かなければならない。』」¹

この時代において、貧しい人と助けを必要とする人の世話をすることは、神から教会に託された4つの責任の一つであり、個人と家族が昇栄する資格を得るよう助けるものです。²

貧しい人と助けを必要とする人の世話には、物質的な救いと霊的な救いの両方が

関わります。教会員が個人的な奉仕として貧しい人と助けを必要とする人の世話をする場合、教会の公式な福祉活動として神権の権能を通して実施される場合があります。

貧しい人と助けを必要とする人の世話をするための主の計画の中心を成すのは、**断食の律法**です。「主は御自分の民を祝福するために、また、民が助けを必要としている人々に奉仕する方法を提供するために、断食の律法と断食献金を設けられ〔まし〕た。」³

救い主の弟子であるわたしたちは、貧しい人と助けを必要とする人の世話をする責任を負っています。あらゆる地に住む忠実な教会員は、毎月断食をすることにより支援します。24時間飲食を控え、少なくとも食べなかった食事分に相当する金額を断食献金として教会に納めるのです。



全ての家庭で、イザヤの次の言葉についてよく祈って、考え、教えるべきです。

「わたしが選ぶところの断食は、悪のなわをほどこき、くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを折るなどの事ではないか。

また飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これを着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。」⁴

イザヤは続けて、断食の律法に従う人に主が約束されたすばらしい祝福の数々を挙げて、こう述べています。

「そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。

また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。……

飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼のようになる。

主は常にあなたを導き、良き物をもってあなたの願いを満ち足らせ……る。」⁵

この聖句について、ハロルド・B・リー大管長はこう述べています。「あらゆる神権時代において、〔断食が〕豊かな祝福をもたらすことがはっきりと示されてきました。この聖句の中で、主は、断食を行う理由と、断食からもたらされる祝福について、この偉大な預言者を通して語っておられます。……イザヤ書の58章を分析すると、なぜ主がわたしたちに断食し断食献金を納めるよう望んでおられるかが分かるでしょう。その理由とは、主を呼び、主にこたえていただく資格を得るためなのです。主に祈るとき、主は『わたしはここにおる』とこたえてくださるでしょう。」

リー大管長はこう付け加えています。「主を呼び求めても主にこたえていただけないような状況に身を置きたいと思うで

しょうか。苦難の中で叫び求めても主がともにいてくださらないとしたらどうでしょう。今こそこの基本原則について考えるときだと思います。なぜなら、主の助けと祝福をさらに必要とし、裁きが全地にありのままに注がれる日がやがてやって来るからです。」⁶

愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長はこれらの原則について、自分の経験から得た証を述べました。「困っている人々に必要なものを提供する手助けをしたことがある教会員の中に、その経験を忘れて、後悔したりする人は誰もいません。勤勉、儉約、自立、そして他の人々と分かち合うことは、わたしたちにとって耳新しいことではありません。」⁷

兄弟の皆さん、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、聖約を交わし、戒めを守る民です。わたしは、忠実に律法を守る人にとって、断食の律法以上に守りやすく、大きな祝福をもたらしてくれる律法や戒めを他に思いつきません。断食し正直に断食献金を納めるときに、わたしたちは主の倉に、食事代の対価を寄付するのです。通常消費する以上の金銭的な犠牲は必要としません。同時に、先に触れたような比類ない祝福を約束されているのです。

断食の律法は全ての教会員に適用されます。幼い子供にも断食を教えることができます。1食の断食から始め、断食の律法を理解できるようになり肉体的にも可能になったら2食断食するとよいでしょう。夫と妻、独身会員、青少年、子供たちは、祈りで断食を始め、断食をしている間、与えられている祝福に感謝し、主の祝福と力を求めます。断食の律法は、主の代理人であるビショップの手に断食献金を渡して初めて完成します。

ビショップの皆さんはワードの福祉の業を導きます。皆さんは、貧しい人を見つけ出し世話をしよう神から命じられています。皆さんの目標は、扶助協会の会長およびメルキゼデク神権定員会の指導者



の助けを得ながら、会員の自立を助けることです。皆さんは、親戚や公共の支援を補完するための一時的な援助として慎重に断食献金を使うことにより、会員の物質的および霊的な必要を満たします。よく祈りながら神権の鍵と識別の力を用いて貧しい人や助けを必要とする人を助けるならば、生活水準（ライフスタイル）ではなく生活（ライフ）を支えるという、断食献金の適切な使い方が分かるようになります。

アロン神権定員会会長の皆さんは鍵を保持し、外形上の儀式を執行する力を持っています。ビショップと協力しながら、定員会の会員に神権の義務と、断食献金を納める機会を与えることのできる教会員を探し出す義務について教えます。アロン神権者である皆さんが神権の責任を尊んで大いなるものとし、この機会を全ての教会員に提供するならば、約束された断食の祝福を、最も必要としている人々のもとに度々届けることができるでしょう。貧しい人と助けを必要とする人の世話をする精神には、いつもはかたくなな心をやわらげ、教会にあまり活発に集っていない会員の生活に祝福をもたらす力があることを目の当たりにするでしょう。

モンソン大管長はこのように言いました。「アロン神権定員会に断食献金を集めてもらうよう取り計らうビショップは、この神聖な責任をさらによく果たすことができるでしょう。」⁸

ビショップの皆さん、地域ごと、国ごとに、状況は大きく異なることを覚えておいてください。アロン神権定員会の会員が家々を回ることが現実的ではない地域もあるでしょう。しかし、わたしたちは皆さんにお勧めします。預言者の勧告についてよく祈って考え、皆さんのワードのアロン神権者たちが断食献金を集める業に携わることにより神権を尊んで大いなるものとするところのできる適切な方法について、靈感を求めてください。

第三ニーファイ第 27 章で、復活された主は「あなたがたはどのような人物であるべきか」と尋ねておられます。主の答えはこうです。「あなたがたに言う。わたしのようでなければならぬ。」⁹ わたしたちがキリストの御名を受け、主に従おうと努力するならば、わたしたちは主の面影を受け、主にさらに似た者となるでしょう。貧しい人や助けを必要とする人の世話をすることは、救い主の務めと切り離すことのできないものです。主は何をするときに

もそうされます。全ての人に手を差し伸べ、人々を高められます。主のくびきは負いやしく、主の荷は軽いのです。皆さんにお勧めします。断食の律法を忠実に守り、惜しみなく断食献金を納めることを通して、貧しい人や助けを必要とする人の世話をし、さらに救い主のようになりましょう。貧しい人や助けを必要とする人の世話をすることは霊的な成熟度を示し、与える側と受ける側の双方を祝福することを、イエス・キリストの聖なる御名により、へりくだり証します。アーメン。■

注

1. 申命 15:11
2. 『手引き 第 2 部—教会の管理運営』 2.2 参照
3. 『手引き 第 2 部』 6.1.2
4. イザヤ 58:6-7
5. イザヤ 58:8-11
6. ハロルド・B・リー, “Listen and Obey” (Welfare Agricultural Meeting, 1971 年 4 月 3 日, タイプ打ち原稿, 14); 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティ
7. トーマス・S・モンソン「備えているでしょうか」『リアホナ』2014 年 9 月号, 4
8. トーマス・S・モンソン, 管理ビショップリックとの集会, 2014 年 2 月 28 日
9. 3 ニーファイ 27:27



大管長会第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ管長

「主よ、それはわたしですか」

わたしたちは高慢を捨て、虚栄に目もくれず、謙虚に「主よ、それはわたしですか」と問いかけなければなりません。

愛 する救い主の現世での最後の夜、全人類の贖い^{あがな}として御自身をささげられる日の前夜のことでした。主がパンを裂きながら言われたことに、弟子たちは大きな驚きと深い悲しみを覚えたに違いありません。「あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ろうとしている」と。

弟子たちは主が言われたことは本当かと疑うことも、周囲を見回し他の人を指して「彼ですか」と問うこともしませんでした。

それどころか、「非常に心配して、つぎつぎに『主よ、それはわたしですか』と言い出した」のです。¹（訳注：この部分は、口語訳聖書では「主よ、まさか、わたしではないでしょう」と訳されているが、欽定訳聖書〔英文〕の“Lord, is it I?”の本来の意味で訳出している。）

救い主からそう言われたら、わたしたちはどうするでしょうか。周囲を見回して、心の中でこう言わないでしょうか。「多分ジョンソン兄弟のことだ。いつも彼のことが気になっていた。」あるいは、「ブラウン兄弟がこの場にいてよかった。彼にはこのメッセージが必要だ。」それとも昔のその使徒たちのように、自らを省みて、こ

の意義深い問いかけをしようとするでしょうか。「それはわたしですか」と。

「それはわたしですか」というこの簡潔な言葉は、知恵の初めであり、個人の改心と継続的な変化に通じるものです。

タンポポのたとえ

かつて家の近所で夕方の散歩を楽しんでいた人がいました。特に隣の家の前を通るのが楽しみでした。その隣人は芝生をいつもきれいにしており、常に花をきれいに咲かせ、立派に育った木々は木陰を



作っていました。その隣人が美しい芝生にするためにあらゆる努力を払っていたことは明らかでした。

ところがある日、彼は隣人の家の前を歩いていたとき、この美しい芝生の中に大きな黄色いタンポポが1本生えていることに気づきました。

それがひどく場違いに見え、彼は驚きました。なぜこの隣人はそれを抜かなかったのだろうか。目に入らなかったのだろうか。タンポポの種が飛んで何十本にも増えるのを知らないのだろうか。

彼はこのたった1本のタンポポがとても気に入り、どうにかしたいと思いました。それを抜こうか。除草剤をかけようか。夜暗くなったら内緒で抜き取れるかもしれない。

彼は自宅に戻りながら、心はすっかりこの思いに捕らわれていました。彼は家に入るとき、自宅の前庭に目をやることもしませんでした。ところが前庭は、数多くのタンポポで覆われていたのです。

はり 梁とちり

この話から救い主の言葉を思い出さないでしょうか。

「なぜ、兄弟の目にあるちりを見ながら、自分の目にある梁を認めないのか。

……まず自分の目から梁を取りのけるがよい。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からちりを取りのけることができるだろう。」²

この梁とちりの話は、自分をしっかり見詰める力のないわたしたちと密接に関係があるように思われます。自分の問題を知るのには苦勞することが多いのに、他の人々の問題をとてもよく分析して解決法を提言できるのはなぜか、わたしには分かりません。

何年前かに、顔にレモン汁を塗ればカメラに写らないと信じていた男についてのニュース記事がありました。男は顔の全体にレモン汁を塗って出かけ、二つの銀行で強盗をしました。間もなく、その映像

が夜のニュースで放映され、男は逮捕されました。警察官から監視カメラのビデオを見せられたとき、男は自分の目を疑いました。「でも、顔にレモン汁を塗っていたんだ」と言って抗議しました。³

コーネル大学の科学者はこの話を聞いたとき、人が自分の無能さに哀れなほど気づかないことがあるということに興味をそそられました。これが一般的な問題かどうか調べるために、二人の研究者が大学生たちに、生活に必要なさまざまな能力に関する一連のテストへの参加を求め、次いで各自にその結果を評価してもらいました。よくできなかった学生たちは、自分の成果の評価も正しくできていませんでした。実際より5倍も高い点数をつけた学生もいました。⁴

この研究は多くの方法で繰り返し行われ、何度となく同じ結論が確認されました。わたしたちの多くは、実際の自分を知ることが難しいのです。また、しっかりした人々でさえ、自分の貢献を過大評価し、他の人々の貢献を過小評価します。⁵

車の運転がどれほど上手か、あるいはゴルフボールをどれだけ遠くへ飛ばせるかについての過大評価は、それほど大きな影響を与えないかもしれません。しかし、家庭や職場、教会での自分の貢献は実際以上に大きいと思い始めると、わたしたちは、意義深いすばらしい方法で自分を改善する機会や祝福に目を向けなくなります。

霊的な盲点

わたしの友人がかつて教会における最高の統計記録を幾つか残したワードに所属していました。出席率は高く、ホームティーチングの数は多く、初等協会の子供たちの行儀は良く、すばらしいごちそうが並んだワードの食事会で会員たちは集会所の床にほとんどのものをこぼしませんでした。教会のスポーツ活動で悪口を言い合うことも決してなかったことと思います。

その友人夫妻は後に伝道に召されまし



た。3年後に帰って来たとき、驚いたことに、この夫妻が伝道でいなかった間に11組の夫婦が離婚していました。

表面上はあらゆる点で忠実で強いワードに見えていましたが、会員の心と生活の中に残念なことが何か起こっていたのです。問題なのは、この状況が珍しくないということです。教会員が福音の原則から離れるようになると、このように悲惨な、往々にして必要ではないことが起こります。表面的にはイエス・キリストの弟子であるように見えるかもしれませんが、内面で彼らの心は救い主と救い主の教えから離れています。御霊みたまに関わる事柄から次第に離れ、この世のことに近づいているのです。

かつてふさわしい生活をしていた神権者たちが、教会は自分のためではなく、女性と子供のために良いものだと言いに言い聞かせ始めます。あるいは、会員の中に、多忙なスケジュールや個人の事情があるので、自分は御霊に近くあるための日々の愛と奉仕の行いを免除されると確信するようになる人がいます。自己正当化と自己中心主義のこの時代においては、祈りによって神に定期的に近づこうとしないこと、聖文研究を先延ばしにすること、教会の集会と家庭の夕べを避ける

こと、正直じょうみんに什分の一を納めないことについて、非常に創造力豊かな言い訳を考えだすのは容易なことです。

愛する兄弟の皆さん、自分の心の中を振り返り、こう簡潔に問いかけてください。「主よ、それはわたしですか?」と。

皆さんはわずかでも「祝福に満ちた神の……福音」から離れていませんか。「この福音〔は皆さんに〕委ねられてい〔ます〕」⁶「この世の神」に思いをくらまされて、「キリストの栄光の福音の輝き」が見えなくなっているませんか?⁷

愛する友人、兄弟の皆さん、「わたしの宝はどこにあるのか」と自分に問いかけてください。

皆さんはこの世の便利なものに執着していますか。それとも、勤勉なイエス・キリストの教えに心を集中していますか。「あなたがたの宝のある所には、心もあるからで〔す〕」⁸

神の御霊が皆さんの心の中にとどまっていますか。皆さんはキリストと同胞の愛に「根ざし愛を基として」いますか。結婚生活と家族に幸せをもたらすことに十分な時間と想像力を用いていますか。回復されたイエス・キリストの福音の「広さ、長さ、高さ、深さ」⁹を理解し、それに従って生活するという崇高な目標にエネ



ルギーを使っていますか。

兄弟の皆さん、「信仰、徳、知識、節制、忍耐、兄弟愛、信心、慈愛、謙遜、〔奉仕〕」¹⁰というキリストのような特質を伸ばしたいと切に願うならば、天の御父は皆さんを、多くの人を救うために御手に使われる者としてくださいませ。¹¹

自分の生活を吟味する

兄弟の皆さん、正しい進路から外れているときに、それを認めたい人は誰もいません。わたしたちはしばしば、自分の心の中を深く掘り下げて、自分の弱さ、限界、不安を直視するのを避けようとしません。その結果、自分の生活を吟味するときに、先入観と言いつい、自分に都合のいい話というフィルターを通して見て、ふさわしくない思いと行いを正当化しようとするのです。

しかし、自分をしっかり見詰めることが、霊的な成長と健康にとって不可欠です。自分の弱さと欠点が曖昧なまま残されると、救い主の贖いの力がそれらを正して強さとすることはできません。¹² 皮肉なことに、わたしたちは人としての自分の弱さに目を向けないとき、御父がわたしたち一人一人の中に育むように求めておられる神聖な可能性に気づけなくなるのです。

それでは、どうすれば神の真理の純粹な光を自分の中に輝かし、神が見られるように自分を見ることができるのでしょうか。

わたしは皆さんにお勧めします。聖文と

総大会で述べられる話を、自分を吟味するために用いる有効な鏡としてください。

古代と近代の預言者の言葉を聞いたり読んだりするとき、それが他の人にどう当てはまるかを考えることなく、むしろこう簡潔に問いかけてください。「主よ、それはわたしですか」と。

わたしたちは砕かれた心と素直な思いをもって永遠の御父に近づかなければなりません。進んで学び、変わらなければなりません。天の御父が意図しておられる生き方をしようと思決意することで、わたしたちは何と多くのものを得ていることでしょう。

学び、変わりたいと思わない人々は、実際に何も学んだり、変わったりすることはなく、教会が自分に何か与えてくれているだろうかと思ひ始めます。

しかし、改善を図って進歩したいと思う人々、救い主について学んで救い主のようになりたいと思う人々、^{おきなご}幼子のようにへりくだって、自分の思いと行いを天の御父の御心^{みこころ}に合ったものにしようとする人々、このような人々は、救い主の贖罪^{しよくざい}の奇跡を経験することでしょう。また神の素晴らしい御霊を必ず感じることでしょう。柔和でへりくだった心のもたらす実である、言葉に表せない喜びを味わうことでしょう。そしてイエス・キリストのまことの弟子となる望みと自制心を祝福されることでしょう。

善の力

これまでの生涯で、わたしは、この世において非常に有能で知的な何人もの男女と知り合う機会がありました。若いときにわたしは、教養があり、洗練され、成功を収め、世の称賛を得た人々に感動したものです。しかし年を重ねるにつれて、真に善良で偽りのない、すばらしい、祝福された人々にもっと大きな感銘を覚えている自分に気づくようになりました。

そして福音こそが、そのような善良なものであり、それをもたらすものではないでしょうか。福音は良い知らせであり、わたしたちが善い人になるのを助けてくれます。

使徒ヤコブの言葉は今日のわたしたちに当てはまります。

「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う……。

主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるのである。」¹³

兄弟たち、わたしたちは高慢を捨て、虚栄に目もくれず、謙虚に「主よ、それはわたしですか」と問いかけなければなりません。

主の答えが、「息子よ、あなたには改善すべきことがある。そしてあなたが克服できるようにわたしが助けられることがある」というものであれば、へりくだってこの答えを受け入れ、罪と欠点を認め、より良い夫、父親、息子になることによって行動を変えるようにしてください。これから

先、救い主の祝福された道を確認として歩むように、力の限り努力できますように。自分をしっかり見詰めることは知恵の初めだからです。

そうするときに、慈悲深い神は手を引いて導いてくださいます。わたしたちは「強くされ、高い所から祝福を受け〔るでしょう〕。』¹⁴

愛する友人の皆さん、まことの弟子としてのこのすばらしい、充実した道に踏み出す第一歩は、まず次の簡潔な問いかけをすることです。

「主よ、それはわたしですか。」

わたしはこのことを証し、皆さんに祝福を残します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. マタイ 26:21-22 参照、強調付加
2. マタイ 7:3, 5
3. エロール・モリス, "The Anosognosic's Dilemma: Something's Wrong but You'll Never Know What It Is," *New York Times*, 2010年6月20日付 参照: opinionator.blogs.nytimes.com/2010/06/20/the-anosognosics-dilemma-1
4. ジャスティン・クルーガー、デビッド・ダニング 共著, "Unskilled and Unaware of It: How Difficulties in Recognizing One's Own Incompetence Lead to Inflated Self-Assessments," *Journal of Personality and Social Psychology*, 1999年12月, 1121-1134 参照。「4回の研究で、著者たちは、ユーモアと文法、論理のテストで下位4分の1の点数であった参加者たちが自分のテストの成績と能力を著しく過大評価していることを発見した。彼らのテストの成績は下位12パーセントだったが、彼らは自分について62パーセントだと評価した。」(psycnet.apa.org/?&fa=main.doiLanding&doi=10.1037/0022-3514.77.6.1121の要旨より)
5. マーシャル・ゴールドスミス, *What Got You Here Won't Get You There* (2007年), 第3章参照。研究者は3人の共同経営者に、会社の成長に果たした自分の貢献度を評価するように依頼した。彼らの貢献の自己評価点は合計で150パーセントだった。
6. 1テモテ 1:11
7. 2コリント 4:4
8. ルカ 12:34
9. エペソ 3:18
10. 教義と聖約 4:6
11. アルマ 17:11 参照
12. エテル 12:27 参照
13. ヤコブの手紙 4:6, 10
14. 教義と聖約 1:28



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

備えの神権

神権の備えにおいては、「教える」よりも「示す」方がはるかに大切なのです。

世界各地に住む神権者の皆さんとともに集えることに感謝しています。わたしは皆さんの信仰や奉仕、そして祈りに対して、心から感謝しています。

今晚わたしはアロン神権についてお話します。これは、聖文中で「小神権」¹と記述されている神権を持つ者に対して、主の約束されたことが実現するよう助けているわたしたち全員へ向けたメッセージです。この神権は「備えの」神権とも呼ばれていますが、わたしが今晚お話しするのは、その栄光に満ちた備えについてです。

御業を進めるための主の計画は、備えに満ちています。わたしたちが試練を経験し、この世の生涯の機会に恵まれるよう、主は地球を備えられました。またわたしたちは、この地上にいる間、聖文で言う「準備の状態」²にあります。

預言者アルマは、永遠の命を得るための備えが極めて重要であり、その永遠の命とは父なる神とイエス・キリストとともに、家族として永遠に住まうことであると説いています。

アルマは備えの必要性について次のように説明しました。「そして、わたしたちの知っているように、現在、死が人類に及

んでいる。まことに、アミュレクが語った死、つまり肉体の死が及んでいる。にもかかわらず、人が悔い改めることができるように、猶予期間が与えられた。したがって、この世の生涯は試しの状態、すなわち神にお会いする用意をする時期、わたしたちが前に語った死者の復活後に訪れるあの無窮の状態に対して用意をする時期となった。」³

わたしたちが、この死すべき世で生きるために与えられている時間は、神にお会い





する備えをするための時間です。それと同様に、わたしたちがアロン神権を使って人々に奉仕するために与えられている時間は、人々に大切な助けを与えるための方法を学べるよう、わたしたちを備えさせる機会でもあるのです。ちょうどわたしたちがこの世の生涯の試練に打ち勝てるよう、必要な助けを備えてくださっているのと同じように、主はわたしたちが神権の備えをするためにも助けを送ってくださるのです。

わたしのメッセージは、アロン神権を持つ人だけでなく、アロン神権者を備えるために主が送ってくださっている人にも向けられたものです。つまり、父親の皆さんにも、ビショップの皆さんにも、さらに、神権の備えをしている若い男性にとって信頼できる仲間となり教師となって働いているメルキゼデク神権者の皆さんにも語りかけています。

国境を越え、時間を超えてこのメッセージを聞いてくださっている多くの皆さんに賛美と感謝を贈ります。

もしここでわたしが、自分の青少年時代の支部会長やビショップに触れなかったとしたら、失礼になってしまうでしょう。わたしはアメリカ合衆国の東部にある小さな支部で12歳のときに執事になりました。その支部は本当に小さく、アロン神権者はわたしと兄しかいませんでした。やがて、支部会長を務めていたわたしの父が一人の中年の男性を誘い、その人は教会に入りました。

その新しい改宗者はアロン神権を受け、それとともに、アロン神権者を見守る召しを受けました。わたしは今でもそれ

を昨日のこのように覚えています。あのときの美しい紅葉の様子をはっきりと思い浮かべることができます。その新しい改宗者は兄とわたしを伴って、夫に先立たれたある姉妹を手伝うために出かけました。それがどんな活動だったのかは覚えていませんが、神権の力がともにあるという気持ちを味わったことをよく覚えています。後になって学んだことなのですが、その神権の力が、罪の赦しを受けて、主とお会いする備えをするためにわたしたち皆が行う必要があると主が言われた事柄を行う助けとなったのです。

今振り返って考えてみて、わたしは改めて支部会長に感謝しています。会長は、二人の少年が将来ビショップとなり、貧しい人や助けを必要としている人の世話をし、備えの神権を管理する日のために、主が彼らを備えられるのを手伝えるように、新しい改宗者を召したのです。

わたしは家族でユタ州の大きなワードに引っ越したときも、まだ執事でした。そのときにわたしは初めてアロン神権の定員会の定員が満たされたときの力を実感しました。実際、そのような定員会を見るのは、そのときが初めてでした。さらにその後初めて、祭司定員会を管理するビショップがいることの力と祝福を実感したのです。

そのビショップはわたしを祭司定員会の第一補佐に召しました。忙しく、他に有能な人を教師に召すことができたにもかかわらず、ビショップが自ら定員会を教えていたことをよく覚えています。彼は教室の椅子を丸く並べ、わたしを彼の右側に座らせました。

わたしは彼が教えている様子を、よく彼の肩越しに見ていました。彼はときどき目を落として、膝の上に置かれた小さな革製のバインダーにとじてある、入念に書き込まれたメモを見たり、もう一方の膝に置かれた、印のたくさんついた使いこんだ聖典を見たりしていました。わたしは彼がダニエル書の中の勇気の物語について語り、救い主イエス・キリストについて証あかしをしてくれたときの感動を今でもよく覚えています。

わたしは、主が備えの神権を持つ者のために注意深く同僚を召してくださることをいつまでも覚えていることでしょう。

わたしのビショップには力強い顧問が召されていたにもかかわらず、当時のわたしには理解できなかった理由のために、ビショップは度々家に電話をかけてきて、わたしにこう言いました。「ハル、ちょっと訪問をするんだが、君にぜひ同僚として一緒に行ってほしいんだよ。」あるときは、一人住まいで、食料が家の中にまったくない、夫に先立たれた姉妹の家までわたしを連れて行ってくれたことがあります。その帰途、ビショップは車を止めると、聖典を開き、まるで彼女が今自立する力を持っていて、いつの日か他人を助けさえるようになる可能性があるかのように彼女に接したのはなぜかを教えてくれたのです。

あるときは、教会から長く遠ざかっている男性を訪問しました。ビショップは彼に、聖徒たちとの交わりに戻るよう勧めました。無愛想で、反抗的な敵のように思えた人でしたが、彼に対するビショップの愛を感じました。

また別のときにある家を訪問すると、

二人の幼い女の子がアルコール依存症の両親に言われて玄関口まで出迎えてくれ、網戸を通じて、両親は眠っているとしました。ビショップは、二人に話し続けました。ほほえみを絶やすことなく、二人ともいい子で勇敢だと言って褒め続けたのです。わたしには10分以上続いたように思えました。ともに帰ろうとするとき、ビショップは静かにこう言いました。「いい訪問だった。あの女の子たちは、わたしたちが訪問したことを決して忘れないだろう。」

先輩同僚の神権者が与えることのできる祝福を二つ挙げるとすれば、それは信頼と思いやりの模範です。わたしの息子がホームティーチングの同僚を割り当てられたときのことで。息子の先輩同僚は、息子と比べて神権者としてはるかに幅広い経験を積んでいた人物でした。伝道部会長を2度務め、他にも指導者として奉仕をした経験のある人でした。

二人が割り当てを受けているある家族を訪問するとき、この経験豊かな神権指導者は息子に、事前に我が家を訪問してよいか尋ねました。わたしも一緒に話を聞いていました。先輩同僚は祈りで集会を始め、助けを求めました。息子に向かってこのようなことを言ったのです。「わたしは、この家族に対しては悔い改めを呼びかけられるようなレッスンをしたらいいと思うんだ。わたしが教えても受け入れないと思う。君からメッセージを伝えた方が受け入れてくれると思うんだが。それについてはどう思う？」

わたしは息子の目が恐れていたのを見ています。息子がその信頼を受け入れたときに味わった幸せな気持ちを、今でも思い出します。

ビショップがその二人を同僚としたのは、単なる思いつきではありませんでした。また、先輩同僚が入念な備えをしたからこそ、教えようとしているその家族の思いについて理解できたのです。そして靈感に従い、彼は一歩退いて、一人の未熟

な若者に信頼を託し、自分より年上の神の子供たちに、悔い改め、安全なところへ戻るようにとの呼びかけをさせたのです。

わたしは、そのときの訪問の結果がどうなったのかは知りません。しかし、わたしが確かに知っていることは、メルキゼデク神権者であるビショップと、主が、一人の少年が一人前の神権者に、そして将来のビショップになれるよう、備えてくださっていたのだということです。

さて、このような神権の備えに関する成功談は、皆さん自身も生活の中で、見聞きしたり、経験したりしたことでしょう。皆さんもそのようなビショップや同僚、親を知っているでしょうし、皆さん自身がそうである人もいます。主は皆さんがこれまで引き受けてきた神権の義務を御存じであり、そのために備えるときに、皆さんは主の御手がそこに存在することも見てきたことでしょう。

神権を持つわたしたちは皆、主が人を備えるのを支援する義務を負っています。その中で、わたしたちに行うことのできる最も大切なことが幾つかあります。教義を教える際に、言葉を使うよりもはるかに強力なのは、教義に従って生きているというわたしたちの模範です。

神権者の奉仕の中で何よりも大切な

は、信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊を受けることによって、キリストのもとへ来るよう勧めることです。例えばトーマス・S・モンソン大管長は、そうした教義全般について心を奮い立たせるような説教を何度もされましたが、大管長がカナダのトロントで伝道部を管理していたときに、人々や宣教師や教会の友人のためになされた行為が、わたしを行動へと駆り立てています。

神権の備えにおいては、「教える」よりも「示す」方がはるかに大切なのです。

神権の備えをするときに聖文がきわめて大切なのは、そのためです。聖文には実例が満載されています。わたしは、アルマが天使の命令に従い、かつて自分を拒んだアモナイハの邪悪な人々に教えるために急いで戻って行く様子が、まるで目の前で展開しているかのように実感できます。⁴ 預言者ジョセフが神から、あなたは見守られているのだから勇気を出しなさい、と告げられたときの、牢獄の部屋の寒さを実感できます。⁵ そのような聖句の場面を心に留めていれば、奉仕をする中で困難があっても、それに耐え忍ぶための備えができるのです。

若い神権者が自分の父親やビショップ、ホームティーチングの先輩同僚から信頼されていることを示される時、その若者





の生涯は変わります。わたしの父はかつて十二使徒定員会の一員から、科学と宗教に関して短い論文を書くように依頼されたことがあります。父は有名な科学者であり、また信仰深い神権者でもありました。わたしは今でも、父が書き上げた論文をわたしに渡して、こう言ったときのことをよく覚えています。「これを十二使徒に郵送する前に、君に読んでもらいたんだ。君なら間違ったことが書かれているかどうか分かるだろうから。」父はわたしよりも32歳も年上で、想像もできないほど聡明で、深い知性の持ち主でした。

わたしは今でも、偉大な父親であり神権者であった父からの信頼によって強められています。わたしは、父が信頼を置いたのはわたしではなく、神が正しいことをわたしに教えることもおできになるし、そうなさるはずだという思いだったということを知っていました。経験を積んだ皆さんは、そのような信頼を示すことによって、備えの段階にある同僚の若い神権者に祝福をもたらすことができます。若者は、そのような助けを受けて、いつの日か、医師に死を宣告された子供の頭に手を置いてその子を癒やす祝福を結び固めるときに、靈感がもたらすあの優しい思いに信頼を置くようになることでしょう。わたしはそうした信頼に助けられたことが一度ならずあります。

神権者として人を備えることができるかどうかは、わたしたちがどの程度その人を愛するかによって比例します。それは、わたしたちが彼らの過ちを正すときに、特に当てはまることです。アロン神権者が、聖餐のテーブルで儀式を行うときに何か間違いを犯すときのことを考えてみてください。

これは重大なことです。時にはその過ちを公に正す必要があることもあります。その場合、怒りが湧いたり、屈辱だと感じたり、場合によっては拒まれたと感じることがあるかもしれません。

主の勧告を思い出してください。「聖霊に感じたときは、そのときに厳しく責めなさい。そしてその後、あなたの責めた人があなたを敵視しないために、その人にいっそうの愛を示しなさい。」⁶

このいっそうのという言葉は、誤りを正す必要がある場合、神権者を備えさせることについて特別な意味を持ちます。「いっそうの」ということは、既に存在していた愛が増加するということです。「示す」ためには、増加しなければなりません。神権者を備えさせている者は、彼らの失敗を見ることでしょう。彼らは正される前に、早い段階から、着実に、あなたの愛を感じる必要があります。あなたから正される前に、あなたに称賛されていると感じる必要があるのです。

主御自身は、小神権にある者が持つ可能性や価値に敬意を示しておられました。アロン神権が回復されたときにバプテスマのヨハネによって語られたこの言葉を聞いてください。「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。これは天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。また、レビの子らが再び義をもってさざげ物を主にさざげるまで、これは決して再び地上から取り去られることはないであろう。」⁷

アロン神権はさらに大なるメルキゼデク神権に付属するものです。⁸ 大管長は

あらゆる神権の長として、備えの神権も同様に管理しています。これまで何年にもわたって、救助に赴くことについて語ってきた大管長のメッセージは、悔い改めとバプテスマの福音を携えて他の人々のもとへ行くというわたしたちの義務と、完全に合致しています。

執事、教師、祭司のそれぞれの定員会は、その会員が皆、主に近くあることができるように、定期的に評議の場を設けます。会長会は、信仰と愛をもって手を差し伸べることができるよう、会員たちに割り当てを行います。執事は、聖餐を配るときに、その聖なる象徴を頂く会員たちが、贖罪の効果を実感し、戒めを守るという決意ができるよう、敬虔さと信仰とをもって、それを行います。

教師と祭司は、教会員を見守るという責任を果たすために、同僚とともに一人一人のために祈ります。そして同僚と一緒に祈ることによって、家族の長の必要と望みとを知ることができます。そのようにするときに、彼らは自分の家族の中で父親として信仰をもって管理するという大なる日のために備えられることになるのです。

わたしは、神権にあって一緒に奉仕をする人々は皆、主が御自分の教会に降臨されるためのために人々の備えをしているのだと、証します。父なる神は生きておられます。わたしは、イエスがキリストであり、わたしたちを愛しておられることを知っています。知っているのです。トーマス・S・モンソン大管長は主の生ける預言者です。イエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 84 : 26, 30 ; 107 : 14
2. アルマ 42 : 10, 13
3. アルマ 12 : 24
4. アルマ 8 : 14 - 18 参照
5. 教義と聖約 122 : 9 参照
6. 教義と聖約 121 : 43
7. 教義と聖約 13 : 1
8. 教義と聖約 107 : 14 参照



末日聖徒イエス・キリスト教会の中央幹部と中央役員

大管長会



第一顧問
ヘンリー・B・アイリング



大管長
トーマス・S・モンソン



第二顧問
ティーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



デビッド・A・ベドナー



クエンティン・L・クック



D・トッド・クリストファアーソン



ニール・L・アンダーセン

七十人会長会



ロナルド・A・ラスバンド



L・ハイットニー・クレイトン



ドナルド・L・ホールストロム



リチャード・J・メイクス



クレーグ・C・クリステンセン

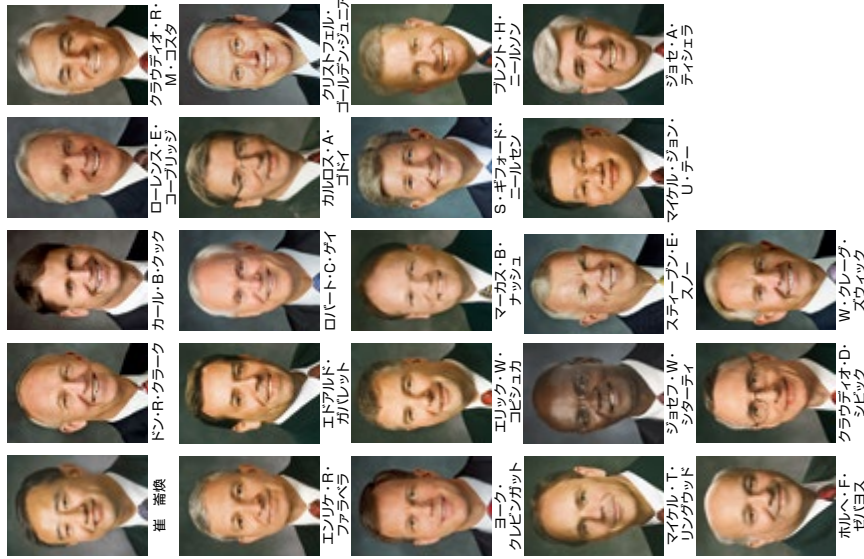


ウォリセス・ソアリス

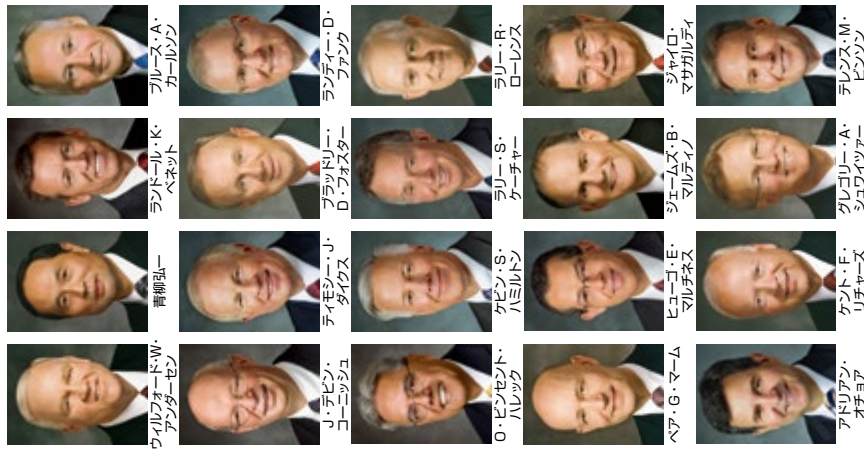


リン・G・ロビンス

七十人第一定員会 (アルファベット順)



七十人第二定員会 (アルファベット順)



管理ビショップリック



日曜学校



若い女性



扶助協会



初等協会



若い男性



中央役員





会員と宣教師たちの写真(左上から時計回りに)——合衆国, バージニア州アレクサンドリア; 南アフリカ, ヨハネスブルグ; メキシコ, クアウテモク; スペイン, 北マリアナ諸島; 合衆国, ジョージア州ピーチツリー・コーナース; ブラジル, カノアス; パラグアイ, サン・ロレンゾ; 合衆国, ウィスコンシン州ベロナ; アイルランド, ウォーターフォード。





トーマス・S・モンソン大管長

故郷へ安全に導かれる

目を天に向けるならば、賢明でふさわしい方向に進路を取ることができるでしょう。

兄弟の皆さん、わたしたちはこうして、力強い神権者の一団として、カンファレンスセンターと世界各地に集っています。皆さんにお話しする責任を頂いて、光栄に感じるとともに、へりくだる思いです。皆さんにお話しする間に、主の御霊がともにあるよう祈ります。

75年前の1939年2月14日、ドイツのハンブルクで国の祭日が祝われていました。熱烈な演説に群衆が喝采を上げ、愛国心をかき立てるように国歌が演奏される中、新しい戦艦「ビスマルク」がエルベ河に進水しました。この最強の戦艦、よろいを着た巨大な機械は、息をのむほどの光景でした。380ミリ口径、2連装、レーダー制御の主砲の建造には、5万7,000枚以上の図面を要しました。船内に巡らした配線の長さは4万5,000キロメートル、装甲板の重量は3万5,000トン以上にも達しました。壮大な外観と桁違いの巨大さ、恐ろしいほどの破壊力を備えたビスマルクは、決して沈まないと考えられていました。

それから2年以上が過ぎた1941年5月24日は、「ビスマルク」にとって運命の日への序章となります。イギリス海軍最強の戦艦「プリンス・オブ・ウェールズ」と巡洋艦「フッド」が、「ビスマルク」およびドイツ軍の巡洋艦「プリンツ・オイゲン」と交戦したのです。4分もしないう

ちに、「ビスマルク」は「フッド」とその乗組員を大西洋に沈めます。1,400人以上の乗組員のうち生存者は3人でした。もう1隻のイギリス戦艦「プリンス・オブ・ウェールズ」は、ひどい打撃を受けて敗走しました。

その後3日にわたって、「ビスマルク」は幾度となくイギリスの軍艦および戦闘機との戦いを繰り返しました。強大な「ビスマルク」を見つけて海底に葬るべく、イギリス軍は5隻の戦艦と、2隻の航空母艦、11隻の巡洋艦、そして、21隻の駆逐艦を差し向けました。

これらの戦闘で、次々に砲弾を受けても、「ビスマルク」はかすり傷ほどの打撃しか受けませんでした。この船は本当に沈まないのでしょうか。その後、1発の魚雷がたまたま「ビスマルク」に命中し、舵が動かなくなりました。修復の努力は実を結びませんでした。砲撃の態勢は整っていましたが、「ビスマルク」はただゆっくりと円を描くことしかできませんでした。ドイツ空軍の援護が受けられる範囲まであとわずかでした。「ビスマルク」は安全な母港にたどり着くことができませんでした。海路に従って進む能力を失ったため、「ビスマルク」は必要な避難所へ向かうことができませんでした。舵も、援護も、港もありません。終焉の時が刻々と迫ります。イギリス軍の砲撃に遭い、かつては威容を誇った戦艦は、逃げ惑う乗組員もろとも沈没しました。大西洋の波は飢えた獣のように船体をなめ、やがて、ドイツ海軍の誇りを飲み込みました。「ビスマルク」は海のもくずと消えました。¹

「ビスマルク」が工学技術の結晶であるように、わたしたち一人一人も奇跡の存在と言えます。しかし人の創造は、人間の能力の限界を超えています。人間はきわめて複雑な機械を作り出すことはできて



も、それに命や理性や判断力を与えることはできません。それは、神のみがお与えになることのできる神聖な賜物たまものなのです。

兄弟の皆さん、船に舵が欠かせないように、人間にも旅の方向を決める一つの方法が与えられています。主の灯台は、人生の大海原を航海するわたしたちを導いてくれます。帰るべき港は日の栄えの王国です。その方角を目指してまっすぐに舵を取る必要があります。目的を持たない人は、舵のない船のように、故郷の港にたどり着けません。灯台からの信号は、「航路を確認せよ、帆を張れ、舵を取れ、前進せよ」というものです。

強大な「ビスマルク」の有り様は、人間



にも当てはまります。タービンやプロペラから推進力が得られても、舵がなければ、方向感覚を持つことも、エネルギーを利用することも、力に方向性を与えることもできません。舵は隠れた所にあり、比較的小さいものですが、その働きは絶対に不可欠です。

天の御父は、大海原を渡る船乗りたちを導くために、太陽、月、星、銀河を与えてくださいました。御父はまた、人生を旅するわたしたちに、明確な地図を与えてくださり、目的地までの道を示しておられます。回り道、落とし穴、わなに注意するよう、警告してくださいます。道からそれさせようとする者、至る所で罪に誘い込む笛を吹き鳴らす悪賢い者に欺かれてはなりません。立ち止まって祈り、「わたしに従ってきなさい」²と言われる主の穏やかな招きの声を心の奥に伝える、静かな細い声に耳を傾けるのです。

しかし、聞こうともせず、従う意志も持たず、自ら作り上げた道を歩もうとする人がいます。彼らは、全ての人を取り囲む、実に魅惑的な誘惑に、あまりにも頻繁に屈しています。

神権者として、わたしたちは困難な時代に地上に生を受けました。わたしたちは、衝突や対立の多い複雑な世界に生きています。政治的な陰謀は国家の安寧を脅かし、独裁者は権力を得ようと躍りになっています。一部の人々はいつまでも虐げられ、機会を奪われたまま、敗北感を味わっているように思われます。耳には人の哲学が鳴り響きます。罪がわたしたちを取り囲んでいます。

わたしたちの責任は、天の御父が用意しておられる全ての栄えある祝福にふさわしくあることです。どこへ行こうとも、神権はわたしたちから離れません。わたしたちは聖なる場所に立っているのでしょうか。皆さんにとっても、神権にとっても、ふさわしくない場所にあえて行き、そこで行われる活動に参加して皆さん自身と皆さんの神権を危険にさらす前に、立ち止

まってその結果を考えてください。

神の神権に聖任されたわたしたちには、違いを生み出す力があります。個人の清さを保ち、神権を尊ぶなら、わたしたちは、人々が従うべき義の模範になることができます。使徒パウロはこう教えています。「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」³ また、キリストに従う者は「星のようにこの世に輝く」⁴ べきであるとも書いています。義の模範を示すことにより、暗さが増しているこの世を照らす力とされるのです。

皆さんの多くは、4人の大管長の顧問として仕えた、N・エルドン・タナー管長を覚えていることでしょうか。タナー管長は、ビジネス界においても、カナダ政府においても、イエス・キリストの使徒としても、確固とした義の模範を示しました。タナー管長は、次の靈感に満ちた勧告を与えています。「福音の教えに従って生活すること以上に、大きな喜びと成功をもたらすものはありません。模範になってください。良い影響を及ぼしてください。」

そしてこう続けています。「わたしたちは皆、選ばれた〔神の〕僕として、御業のために予任されています。神はわたしたちを、御自分の御名によって行動する神権と力を与えるにふさわしい者と見ておられます。皆さんに指導を仰ごうとして、人々が常に注目していることを忘れないでください。皆さんは良くも悪くも人々の生活に影響を与えており、その影響は来るべき世代にも及ぶのです。」⁵

今の世の最大の力は、人を通して現れる神の力であるという真理によって、わたしたちは強められます。現世の海を安全に航海するには、永遠の航海士である大いなるエホバの導きが必要です。天の助けを受けるために、天に手を伸ばすのです。

アダムとエバの息子のカインは、天に手を伸ばさなかった人の例として有名です。大きな可能性を持ちながらも意志の弱



かったカインは、欲望、ねたみ、不従順、ついには殺人の罪により、安全と昇栄へと導く自分の舵を壊してしまいました。天を見上げる代わりに、足元を見たのです。そして、カインは落ちました。

別の時代に、一人の神の僕が邪悪な王に試みられました。ダニエルは、天の導きを受け、壁の文字を王に解き明かしました。王位や金の首飾りといった褒美を差し出されたとき、ダニエルは王にこう述べました。「あなたの賜物は、あなたご自身にとっておき、あなたの贈り物は、他人にお与えください。」⁶ ダニエルに差し出された巨大な富や権力は、全てこの世の物であり、神のものではなかったため、ダニエルはそれらを拒み、忠実であり続けました。

後に、禁じられていたにもかかわらず、神を礼拝したダニエルは、ししの穴に投げ入れられます。聖書にはこうあります。翌朝「ダニエルは穴の中から出されたが、その身になんの害をも受けていなかった。これは彼が自分の神を頼みとしていたからである。」⁷ 窮地に追い込まれても正しい進路に舵を取る決意を曲げなかったダニエルは、神から守られ、身の安全を

祝福されたのです。わたしたちも、永遠の故郷を目指して正しい進路に舵を取るならば、そのような守りと安全を得るでしょう。

歴史という時計は、砂時計のように、刻々と時の経過を刻みます。それぞれの時代に、新しい役者が舞台に立ちます。今日のさまざまな問題は不気味な影を落としています。この世の歴史を通じて、サタンは救い主に従う者を滅ぼそうと動き続けています。サタンの誘惑に屈するならば、あの巨大な「ビスマルク」のように、安全へと導く舵を失うでしょう。しかし、現代の非常に便利な生活の中で決して方向を誤ることのないように、目を天に向けるならば、賢明でふさわしい方向に進路を取ることができるでしょう。わたしたちの真心からの願いに、天の御父は必ずこたえてくださいます。「ビスマルク」とは違い、わたしたちの舵は、天の助けを求める限り、失われることはないのです。

わたしたちが人生の大海を渡るときに、それぞれが安全に進めますように。罪や誘惑に取り囲まれても、ダニエルのような勇気を持ち、忠実であり続けられますように。ニーファイの弟ヤコブのように、深く、

強い証^{あかし}を持つことができますように。あらゆる方法で信仰を打ち砕こうとする者から挑まれたときにも、「わたしは……動揺することはなかった」⁸ と、ヤコブは宣言しています。

兄弟の皆さん、信仰の舵があれば、故郷への安全な道を見いだし、永遠に神とともに住むことができるでしょう。わたしたち一人一人がそのようにできますように、救い主、贖い主^{あがな}イエス・キリストの聖なる御名によって祈ります、アーメン。■

注

1. ルドビック・ケネディー、*Pursuit: The Chase and Sinking of the Bismarck* (1974年) 参照
2. ルカ 18 : 22
3. 1テモテ 4 : 12
4. ビリビ 2 : 15
5. N・エルドン・タナー「彼らは神のほまれよりも人のほまれを好んだからである」『聖徒の道』1976年2月、106 参照
6. ダニエル 5 : 17
7. ダニエル 6 : 23
8. モルモン書ヤコブ 7 : 5



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

絶えざる啓示

人の判断力や論理では人生で最も重要な質問の答えを導き出せません。神からの啓示が必要なのです。

今日、わたしたち全員が神の愛と光を感じられるように願っています。今日、聞いている皆さんの中にも、愛ある天の御父から個人の啓示という祝福を受ける差し迫った必要を感じている方がたくさんいることでしょう。

伝道部会長なら、問題を抱えて悩む宣教師を励ます方法を知りたいと懇願しながら祈るかもしれません。世界の中で戦禍に取り巻かれている地域に住む父親や母親は、家族で安全な地に移るか、それともそこにとどまるべきか、どうしても知る必要があるかもしれません。今日の何百人ものステーキ会長やビショップは、失われた羊を主が救助なさるのを助ける方法を知りたいと祈っています。そして預言者は、主が、教会と混乱している世界に向けてどんな言葉を語るよう望んでおられるか知ろうとします。

誰もが知っているように、人の判断力や論理では人生で最も重要な質問の答えを導き出せません。神からの啓示が必要なのです。それも、問題のあるときに1回だけ啓示を受けるのではなく、絶えず受ける必要があります。一瞬のひらめきや慰めではなく、神との交わりという祝福を継続して受けることが必要なのです。

まさにこの教会自体も、真実を知ろうとした少年によって始まりました。若いジョ

セフ・スミスは、加わるべき教会を自分だけでは判断できないと知っていました。そこで、ヤコブ書に書かれていたとおり、神に尋ね求めたのです。すると、父なる神と愛する御子が森の中で御姿を現され、ジョセフが自力では答えられない疑問にお答えになりました。

このとき、イエス・キリストのまことの教会を設立するためにジョセフが神から召されただけでなく、神の啓示を継続的に受けられるように聖霊を招く力が教会に回復されました。

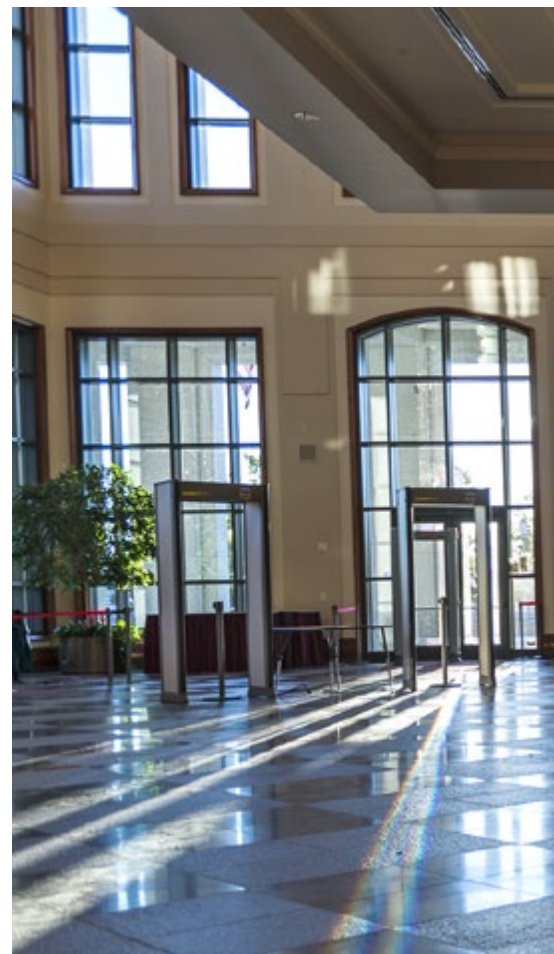
ボイド・K・パッカー会長は、まことの教会を特定するためのしるしについてこのように説明しています。「啓示は今も教会の中で与えられ続けています。預言者は教会のために、ステーキ会長はステーキのために啓示を受けます。伝道部会長は伝道部のために、定員会会長は定員会のために受けます。ビショップはワードのため、父親は家族のため、個人は自分のための啓示を受けるのです。」¹

このような驚くべき啓示のプロセスは、わたしたちが個人の啓示を受けている限り、始まったり、終わったり、続いたりします。リーハイの息子である、偉大なニーファイの例を見てみましょう。父親が夢を見たところ、ニーファイの家族の他の人たちはリーハイの夢を精神的な錯乱の証拠

と見なしました。その夢には、約束の地に携えて行けるように、リーハイの息子たちが大きな危険を冒してエルサレムへ戻り、神の言葉の載っている版を取って来なさいという命令が含まれていました。

父親にエルサレムに戻るよう頼まれたときの、ニーファイの勇気ある言葉をわたしたちはよく引用します。皆さんもよく御存じの言葉です。「わたしは行って、主が命じられたことを行います。」²

聖句には、ニーファイのこの言葉を聞いたリーハイは「非常に喜んだ」と書かれています。³ 彼が喜んだのは、自分の夢が神からの真の交わりであるという確認の啓示をニーファイが受けたことが分かったからです。ニーファイは、「わたしは行って、



父に頼まれたことを行います」とは言わず、「わたしは行って、主が命じられたことを行います」と言ったのです。

皆さんも家族との経験から、リーハイが「非常に喜んだ」理由が分かることでしょう。彼は、ニーファイが確認の啓示を受けたことを知って喜んだのです。

多くの親は、10代の子供に対して門限を決めています。しかし、数週間前に家を離れて暮らし始めた子供が、自分で門限を決めただけでなく、実家にいるときと同じように安息日を守っていることが分かったら、親はどれほど喜ぶことでしょう。親が受ける啓示は、個人の啓示として子供の中で永続的な効果を発揮し続けます。

わたしの母はその啓示の原則をきっと理解していたのでしよう。わたしが若い男性のとき、夜遅く帰宅した日は裏口の扉をととても静かに閉めました。自分の部屋へ行くには母の部屋の前を通り過ぎなければなりません。どんなに静かにつま先で歩いて、扉が半分開いている母の部屋の前に差しかかると、静かな声でこう呼び止められました。「ハル、ちょっとお入りなさい。」

わたしは中に入って、母のベッドの端に座りました。部屋の中は真っ暗でした。皆さんが聞いていたら、人生について優しく論じているだけだと思ったことでしょう。しかし、母の言葉は今でも、祝福師の祝福文を読んだときと同じ力強さでわた

しの心にはっきりとよみがえります。

そのような夜にわたしの帰りを待ちながら、母が何を祈り求めたか分かりません。祈りの一部ではわたしの無事を祈ったことでしょう。しかし、祝福を受ける前の祝福師のように祈ったのだらうと確信しています。祝福師は自分の語る言葉が、自分の言葉としてではなく、神の言葉として相手に伝わるように祈ります。同じ祝福を求めた母の祈りはかなえられ、わたしの心に刻まれました。母が霊界に行ってから40年以上たちます。願ったとおりに、自分の勧めを通して神の命令が息子に響いたことを、彼女は非常に喜んでいることでしょう。そして、わたしも行って、母が望んだとおりに行おうと努めてきました。



わたしは絶えざる啓示を受けるという同じ奇跡を、教会のステーク会長やビショップの姿にも見てきました。家族を導く人々に与えられる啓示と同じように、啓示の貴さは、導かれる人々が確認の啓示を受けることに懸かっています。

わたしは、1976年にアイダホ州のティートンダムの決壊によって災害が起きた後にも啓示の奇跡を見ました。皆さんの多くはこの出来事について御存じでしょう。一人のステーク会長が受けた絶えざる啓示に関する模範は、今後も全ての人にとって祝福となるでしょう。

住宅が破壊された数千人の人が避難所に身を寄せました。災害支援活動の指揮は地元のあるステーク会長に託されました。彼は農夫でした。災害が起きてわずか数日後、わたしはリックスカレッジの教室に行きました。連邦災害対策機関の指揮官が到着したところで、指揮官と補佐たちが大きな部屋に行くと、ステーク会長が招集したビショップたちや現地の他の教会の牧師もいました。わたしが学長を務めていた大学の敷地内では生存者の多くを世話し受け入れていたため、わたしも同席しました。

打ち合わせが始まり、連邦災害対策機関の代表者が立って、威厳のある口調でこれから取りかかるべき事項を伝え始めました。必須事項として彼が5つか6つのことを挙げると、ステーク会長は「それらはもう完了しています」と静かに答えました。

数分後、連邦災害対策機関から来た男性は、「それなら、しばらく座って見学しようと思います」と言い、彼と補佐たちは、各ビショップや各長老定員会会長が完了済みの作業について報告するのを聞いていました。各ビショップや各会長は指導者から受けた指示の内容と、どのような方法で実行したかを説明しました。また、いろいろな家族を見つけ、助けるための指示を実行したときに何をどのように靈感を受けたか話しました。その日は既

に遅い時間になっていました。誰もが人々への愛以外に、あまり感情を表せないほど疲れ切っていました。

ステーク会長は最後にビショップたちに幾つかの指示を出しました。そして、翌朝の早い時間に次の報告会を開くことを発表しました。

次の朝、報告と割り当ての会が始まる予定の20分前に連邦災害対策チームの指揮官がやって来ました。わたしはすぐそばに立っていました。すると、彼がステーク会長に静かにこう言うのが聞こえました。「会長、わたしやわたしのチームに何をしてほしいでしょうか。」

世界各地で苦痛や試練が起きるたび、わたしはその指揮官が見たのと同じ光景を見てきました。パッカー会長が語ったとおり、絶えざる啓示はステーク会長に与えられ、彼らの知識と能力以上の働きを引き出します。主はさらに、会長が導く人々に対し、彼の指示が聖霊を通して、完全ではない一人の人間に与えられているという確認の証あかしをお与えになるのです。

人生の大半、わたしは恵まれて、靈感を受けた指導者に従うことが求められる召しを受けてきました。とても若い頃、長老定員会会長の顧問に召されました。その後、二人の地方部会長や教会の管理ビショップの顧問、十二使徒定員会の一員、そして教会の二人の大管長の顧問を務めてきました。わたしは彼らに啓示が与えられ、それが彼らに従う者たちによって確

認されるのを目にしてきました。

このような「受け入れることに関する個人の啓示」を誰もが望んでいますが、それは容易に受けられるものでも、単に求めればすぐに与えられるものでもありません。神からこのような確信を受ける能力に関して、主は次の標準をお与えになりました。それは個人の啓示を求める全ての人のための導きとなるものであり、わたしたち全員が行うべきことです。

「あなたの心が、すべての人に対して、また信仰の家族に対して、慈愛で満たされるようにしなさい。絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。そうするとき、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のように滴るであろう。

聖霊は常にあなたの伴侶とな〔る〕……であろう。」⁴

この言葉には、全ての人に当てはまる勧めがあります。神の預言者に対して抱く愛を軽視してはなりません。教会の中でどこに行っても、そのときの預言者が誰でもあっても、会員から次のように頼まれます。「教会本部に戻ったら、わたしたちが預言者をとても愛していることを伝えてください。」

これは英雄を崇めることや、英雄的な人物に対して抱く憧れの気持ちをはるかに超えたものです。預言者への愛は神の賜物たまものです。これによって、預言者が主の預言者として語るとき、皆さんは確認の啓示を一層受けやすくなるでしょう。皆さんが感じる愛は、御自身を代弁するどの預言者に対しても主が抱いておられる愛です。

この愛を継続的に感じることは容易ではありません。主はしばしば人にとって受け入れにくいことを勧めるように預言者に命じられるからです。わたしたちの霊の敵は、預言者に反対し、彼が神から召されていることを疑うように仕向けることでしよう。

わたしは、確認の啓示によってイエス・キリストの謙遜な弟子を守るために聖霊





が柔和な心に触れる様子を目にしたことがあります。

あるとき、預言者に遣わされて、遠く離れた小さな町にいる男性に神聖な結び固めの力を授けました。神の預言者は、主が前任使徒のペテロに授けられた神聖な力を受ける人を決めるための鍵を持っています。わたしも同じ結び固めの力を受けていますが、教会の大管長の指示があった場合にのみ、他の人に授けることができます。

ですから、ソルトレークから遠く離れた教会堂の一室で、結び固めの力を受ける人として預言者が選んだ男性の頭にわたしの手を置きました。彼の手には、つましい生活を支えるために長年にわたって土を耕してきた跡が刻まれていました。彼の小柄な妻が近くに座っていましたが、彼女も夫と肩を並べて長年懸命に働いてきたことがうかがえました。

わたしは預言者から預かった言葉を述べました。「今日、地上であらゆる神権の鍵を持つ（預言者の名前）から託された権能と責任により、わたしはあなた（その男性の名前）に、（彼が結び固め執行者として奉仕する神殿名）における結び固めの力を授けます。」

男性の頬に涙があふれ出て、彼の妻がすすり泣いている姿も見えました。わたしは二人が落ち着くまで待ちました。す

ると、男性の妻が立ち上がり、わたしに近づいて来ました。彼女はわたしを見上げて、うれしいけれど寂しいと言いました。夫とともに神殿に行くのが大好きでしたが、神が夫をこれほど栄光あふれる、神聖な務めにお選びになったので、もう自分と一緒に行くべきでないと思うと言いました。自分は読み書きができないので夫の神殿参入に付き添うにはふさわしくないと感じたそうです。

わたしは彼女に、あなたには強い霊的な力があるので、ご主人と一緒に神殿に行くことを光栄に思うでしょうと言いました。そして、つたないながらも彼女の母国語で、神が彼女に地上の学問をはるかに超える事柄を明らかにされたことを伝えました。

男性の妻は、神がその預言者を通して愛する夫に崇高な力を託されたことを、御霊の賜物により知りました。その結び固めの力を授ける鍵は、会ったことがないけれども、神の生ける預言者であると彼女も確信している男性によって与えられたことを知りました。また、誰かの証言がなくても、預言者が彼女の夫の名前について祈り、神がその召しをお与えになったことも知りました。

夫が執行する儀式によって、人々が日の栄えの王国で永遠に結び固められることも知りました。彼女の思いと心には、主

がペテロにお与えになった約束が今も教会にあるという確信がありました。「あなたが地上でつなぐことは、天でもつなげられる。」⁵ 彼女は神からの啓示によってそれを知ったのです。

始めの言葉に戻りましょう。「啓示は今も教会の中で与えられ続けています。預言者は教会のために、ステーク会長はステークのために啓示を受けます。伝道部会長は伝道部のために、定員会会長は定員会のために受けます。ビショップはワードのため、父親は家族のため、個人は自分のための啓示を受けるのです。」⁶

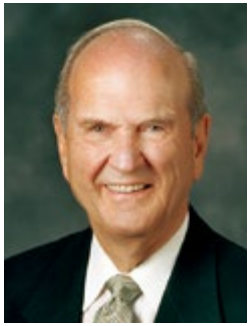
この言葉が真実であることを証します。天の御父は皆さんの祈りを聞いておられ、皆さんを愛し、皆さんの名前を御存じです。イエスはキリスト、すなわち神の御子、ならびに贖い主であられます。主は人知をはるかに超えて、皆さんを愛しておられます。

神は聖霊を通して、御自身の子供たちに啓示を豊かに注がれます。地上における御自身の預言者に、現在はトーマス・S・モンソンに語られます。預言者が地上のあらゆる神権の鍵を持っており、行使していることを証します。

この大会で、神に代わって語るために召された人々の言葉を聞くとき、皆さんが天へ戻って結び固められた家族とともに永遠に住む道を見つけるために必要な確認の啓示を受けられますように。イエス・キリストの神聖な御名により、アーメン。■

注

1. ボイド・K・パッカー「われらは、すべて神のこれまでに啓示したまいしことを信ず」『聖徒の道』1974年12月号、564参照
2. 1ニーファイ3:7
3. 1ニーファイ3:8
4. 教義と聖約121:45-46
5. マタイ16:19
6. ボイド・K・パッカー『聖徒の道』1974年12月号、564参照



十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン長老

預言者を支持する

わたしたちが預言者を支持するというのは、個人的な決意であって、預言者の示す優先順位を支持するために、最善を尽くすということなのです。

アイリング管長の教えと靈感に満ちたメッセージに感謝しています。愛する兄弟姉妹の皆さん、皆さんの信仰と献身に感謝しています。昨日、一人一人がトーマス・S・モンソンを、主の預言者として、また主の教会の大管長として支持する機会にあずかりました。わたしたちは度々「感謝を神にささげん、預言者の導き」¹と歌いますが、皆さんもわたしもこの歌の意味を本当に理解しているのでしょうか。神からその預言者を支持する特権が与えられていることについて考えてみてください。その預言者の勧告は、汚れることもなく、純粹で、人の野心で動かされることもなく、完全に真実なのです。

では、本当の意味で預言者を支持するとはどういうことでしょうか。ジョセフ・F・スミス大管長は、大管長に召されるずっと以前に次のように説明しました。「教会の管理役員を支持するために挙手をする聖徒たちには、単なる形式として手を挙げるだけでなく、行いとまことをもってそれを実行するという大切な義務が課せられています。」²

わたしは、預言者を支持するのに、実に珍しい「行い」をしたことをよく覚えています。わたしは医師として、また心臓外科医として、1972年にスペンサー・W・キンボール大管長の開胸手術を担当するとい

う責任を受けたことがあります。当時、大管長は十二使徒定員会会長代理でした。大管長には非常に複雑な手術が必要な状態でした。しかし、わたしは心臓疾患を持つ77歳の患者に対してそのような手術を施した経験はありませんでした。わたしは「手術はお勧めできません」とキンボール会長と大管長会に申し上げました。しかし、キンボール会長は、信仰をもって、手術を受けることを選択しました。大管長会からそのように助言されたという理由だけでそうしたのです。それは、キンボール会長が指導者たちを心から支持していた一つの証拠です。そして、彼の決断にわたしは震え上がりました。

主のおかげで、手術は成功しました。キンボール会長の心臓が鼓動を再開したとき、それは実に力強い鼓動でした。まさにその瞬間、わたしはこの人こそいつの日か教会の大管長になる人だと、御霊による証を受けたのです。³

その結果については皆さんが御存じのとおりです。それからわずか20か月後に、キンボール会長は教会の大管長となり、長年にわたって、力強く、勇気ある指導を行いました。

そのとき以来、わたしたちはエズラ・タフト・ベンソン大管長、ハワード・W・ハンター大管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、そして現在はトーマス・S・モン

ソン大管長を、教会の大管長として支持しています。あらゆる点において、真の預言者たちです。

愛する兄弟姉妹の皆さん、神はその子供たちに話しかけるのをおやめになったという、言い古された神話は、回復により崩壊しました。これはまさに真実なのです。アダムからこのかた、どの神権時代においても預言者は神の教会の頭として立ってきました。⁴ 預言者たちはイエス・キリストについて証し、また、イエスの神性について、そして、イエスの地上での使命と教導の業について証しています。⁵ わたしたちは、預言者ジョセフ・スミスをこの最後の神権時代の預言者として敬っています。そして、大管長として彼の後を継いだ人々を皆敬っています。

わたしたちが預言者や他の指導者を支持するとき⁶、同意の律法を行使します。それは主が次のように言っておられるからです。「だれか権能を持つ者によって聖任され、そして権能を持っていることと、教会の長たちによって正式に聖任されたことが教会員に知られないかぎり、だれもわたしの福音を宣べ伝えるために出て行くこと、あるいはわたしの教会を築き上げることは許されない。」⁷

この聖句により、わたしたちは、主の教会の会員として、主の声に聞き従うために聖文で命じられていることを守る努力をするときに、信頼と信仰を得ることができません。⁸ 主の声はその僕である預言者を通してもたらされるからです。⁹ 主の教会の指導者は皆、正しい権能によって召されています。その点について言えば、この教会ではいかなる預言者や他の指導者も、自





分自身を召した人はいません。また選挙で選ばれた預言者もいません。主はその点について次のように明確にされました。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んで聖任したのである。」¹⁰ 皆さんも、わたしも、いかなる場合でも、教会の指導者に「投票」したりはしません。しかしながら、彼らを支持する特権は確かに享受しています。

主の道は人の道とは異なっています。人の道なら、ある人々が年齢を重ねたり、働けなくなったりしたら、その職や業務を剥奪します。しかし、人の道は主の道と一致してはおらず、今後も一致することはありません。わたしたちが預言者を支持するというのは、個人的な決意であって、預言者の示す優先順位を支持するために、最善を尽くすということなのです。わたしたちが支持するということは、誓いにも似た行為であって、預言者としての彼らの召しが正統であって、拘束力があると認めることなのです。

教会の大管長に就任する26年前、当時は十二使徒だったジョージ・アルバート・スミス長老は次のように言っています。「わたしたちが……手を挙げるときに引き受ける義務は、非常に神聖な義務です。その意味するところは、黙ってついて行き、主の預言者がこの御業を導くように望むことではありません。それはつまり、

……彼を支援し、彼のために祈り、彼の名声を擁護し、彼が……主の導きに従ってわたしたちに与える指示を実行するように努めるということなのです。」¹¹

生ける主が生ける教会を導いておられます。¹² 主は教会に対する御心を預言者に啓示されます。昨日、わたしたちはトーマス・S・モンソンを教会の大管長として支持するよう招かれましたが、同時に、大管長と大管長会の顧問、十二使徒定員会の会員を、預言者、聖見者、啓示者として支持する特権にも浴しました。そのことを考えてみてください。わたしたちは15人の人々を神の預言者として支持するのです。彼らは、この神権時代に人に授けられてきた神権の全ての鍵を持っています。

15人が聖なる使徒職に召されているということは、わたしたち教会員が大いに守られているということになります。なぜでしょう。これらの指導者の決定が全会一致でなければならないからです。¹³ 全会一致の結論を導き出すために、御霊がこの15人の人々にどれほど働きかける必要があるか、皆さんは想像したことがあるでしょうか。この15人は、教育の面でも、職業の面でもその背景は多様です。数多くの事柄について、意見も様々に異なっています。わたしを信頼してください。預言者、聖見者、啓示者である、この15人は、

全会一致になったときには、主の御心が何であるかを知ることができます。彼らは決意をして、主の御心が間違いなく行われるよう、見守っています。主の祈りは、この15人一人一人にとって、祈りをささげるときの模範となっています。「御心が天で行われるように、地でも行われますように。」¹⁴

使徒の職にある者のうち在任期間が最も長い使徒が管理をします。¹⁵ この聖任順という制度があるために、通常、教会の大管長の職には年配の人が就くことになります。¹⁶ それにより、主の導かれるままに、継続性、成熟度、経験、そして長期にわたる準備といった資質が備えられることとなります。

今日の教会は、主御自身によって組織されています。主は、その統治のために実に優れた体系を立ち上げられました。そこでは、常に代替手段や人が控えており、補充が行われます。年齢を重ねるにつれて、避けることのできない病や、体力の減退があったとしても、このシステムのおかげで預言者からの指導は途絶えることがありません。¹⁷ また、教会が決して誤った道に導かれることがないよう、バランスと防衛の機能が常に働きます。先任の指導者たちは常に指導を受け、いつの日か、最も高い評議の席に着くことができるよう備えます。彼らは、御霊のささやき



を通して主の声を聞く方法を学ぶのです。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、この世での生涯が終わりに近づいていたエズラ・タフト・ベンソン大管長の第一顧問として奉仕していたとき、次のように説明しました。

「主の教会を管理するために主が定められた原則と手続きには、そのような状況のための規定が設けられています。大管長が病気であったり十分に責任が果たせなかったりする場合に、教会の管理と預言者としての賜物の行使に関して、特に、教会の諸事やプログラムを管理する際の靈感や啓示を受ける権能について、疑いや心配をなくしておくことは重要です。

大管長会と十二使徒評議会は、神権の鍵を持つ者として召され聖任されていて、教会を管理し、儀式を執行し、教義を解釈し、慣例を設け維持する権能と責任を与えられています。」

ヒンクレー大管長は続けて次のように言っています。

「大管長が病気のときや、その職に関わるすべての責任を十分に果たすことがで

きない場合、二人の顧問が大管長会定員会を構成し、大管長の日常の業務を遂行します。……

……しかし、方針、手続き、プログラム、または教義に関する主要な問題については、大管長会と十二使徒会と一緒に祈りをもって慎重に検討します。」¹⁸

昨年、モンソン大管長が教会の大管長として節目の5年という奉仕の期間に達したとき、使徒としての50年の奉仕を振り返って、次のように言いました。「老化による衰えは誰であっても必ず忍び寄って来ます。しかし、わたしたちは次の言葉を述べたベニヤミン王とともに声を上げて申し上げます。『わたしはあなたがたと同じで、心身ともにあらゆる弱さを持っている。それでもわたしは……選ばれ、父によって任じられ……た。そして、主から授かった勢力と思いと力を尽くしてあなたがたのために努めるように、主のたくいなる力によって守られてきたのである（モーサヤ2:11）。』」

モンソン大管長はさらに続けています。「やがて誰にでも訪れるであろう健康の

問題があったとしても、また肉体や知性に陰りが見えたとしても、わたしたちは力の限りを尽くして仕えます。わたしは皆さんに断言します。教会は正しい道を歩んでいます。大管長会と十二〔使徒〕定員会の評議会のために定められたシステムが保証していることは、教会がこれからも正しい道を歩んでいくということです。そして、何が起ころうとも、心配することも恐れることもないということです。わたしたちが従い、わたしたちが礼拝し、わたしたちが仕える救い主であるイエス・キリストが舵を取っておられるのです。」¹⁹

モンソン大管長、わたしたちはこうした真理にあずかっていることを大管長に感謝しています。また、生涯にわたって模範を示し、献身的な奉仕をしてくださっていることに感謝します。世界中の教会員を代表し、心をつなげて、心の底から大管長に感謝の意を伝えたいと思います。わたしたちは大管長を尊敬し、愛しています。手を挙げるだけではなく、心を込め、神聖な努力を重ねることによって、大管長を支持します。心からへりくだり、思いを込めて、「わたしたちは愛する預言者のために祈ります。」²⁰ イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番
2. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』211、強調付加。この言葉は、スミス管長が大管長会の第二顧問であった1898年に語られたものである。
3. 詳細については、スペンサー・J・コンディー、*Russell M. Nelson: Father — Surgeon — Apostle* (2003年)、153 - 156 参照
4. 『聖句ガイド』「神権時代」の項参照
5. 多くの預言者が主の降臨について預言している。例えば、次のような預言者がいる。リーハイ (1ニーファイ1:19参照)、ニーファイ (1ニーファイ11:31 - 33; 19:7 - 8参照)、ヤコブ (モルモン書ヤコブ4:4 - 6参照)、ベニヤミン (モーサヤ3:5 - 11, 15参照)、アビナダイ (モーサヤ15:1 - 9参照)、アルマ (アルマ40:2参照)、そしてレーマン人サムエル (ヒラマン14:12参照)。救い主がベツレヘムに降誕される前から、彼らは主の贖いの犠牲や続いて起きる復活について予見していたのである。
6. 指導者を支持するという原則は、主の教会に

おける基本となっている。人は支持を受けてから、任命されたり、神権の職に聖任されたりする。

7. 教義と聖約 42:11. 指導者を支持するという慣行は、教会が組織された1830年4月6日に導入された。そして1836年3月、大管長会と十二使徒定員会の会員が預言者、聖見者、啓示者として支持された (*History of the Church*, 第1巻, 74-77; 第2巻, 417参照)。
8. モルモン書では、預言者の教えを無視することがどれほど危険かを警告している。モルモン書にはこう書かれている。「そこでわたしは、あの大きく広々とした建物が世の人々の高慢であることを見て、その証をする。その建物は崩れて、その崩れ方は非常に甚だしかった。主の天使が……言った。『小羊の十二使徒と戦うすべての国民、部族、国語の民、民族の滅亡は、まさにこのようになるであろう。』」(1ニーファイ 11:36)
9. ダニエル 9:10; アモス 3:7; 教義と聖約 21:1, 4-5; 124:45-46 参照
10. 欽定訳ヨハネ 15:16. 信仰箇条第5条は、次のように明確に述べている。「わたしたちは、福音を宣べ伝え、その儀式を執行するためには、人は預言によって、また権能を持つ者による按手によって、神から召されなければならないと信じる。」
11. 『歴代預言者の教え——ジョージ・アルバート・スミス』63-64, 強調付加。これは、1919年の総大会でのジョージ・アルバート・スミス長老の説教からの引用である。教会の大管長になったのは1945年のことである。
12. 教義と聖約 1:30, 38 参照
13. 教義と聖約 107:27 参照
14. 3ニーファイ 13:10. マタイ 6:10; ルカ 11:2も参照
15. 教会の大管長の死去に際しては、大管長会は解散し、顧問たちは十二使徒定員会に在籍する。その後、大管長会が再組織されるまで十二使徒定員会が教会を管理する。この期間は、大管長の不在期間と呼ばれ、歴史を眺めてみると、4日から半年に及んでいて、長さもまちまちである。
16. もちろん、この継承の形式は、ジョセフ・スミスの召しの場合には当てはまらなかった。ジョセフ・スミスは、回復の預言者として、また教会の初代大管長として予任されていたからである (2ニーファイ 3:6-22 参照。アブラハム 3:22-23も参照)。
17. 主御自身は御自分の望まれるときに、わたしたちの誰であっても、みもとに呼び寄せることがおできになることを、わたしたちは知っている。
18. ゴードン・B・シンクレイ「神がかじを取っておられます」『聖徒の道』1994年7月号, 59-60. ゴードン・B・シンクレイ「主はまどろみも眠ることもされない」『聖徒の道』1983年7月号, 7も参照
19. "Message from President Thomas S. Monson," *Church News*, 2013年2月3日付, 9
20. "We Ever Pray for Thee," 『賛美歌』(英文) 23番



中央若い女性会長会第一顧問
キャロル・F・マッコンキー

預言者の言葉に従って生活する

天の神聖な目的に沿うために、わたしたちは預言者を支持し、預言者の言葉に従って生活することを選びます。

天の御父は御自身の全ての子供たちを愛し、彼らが幸福の計画を知って理解するように望んでおられます。そのために、御父は預言者を召されました。彼らは御父の子供たちを救うために聖任されており、神の御名によって行動する力と権能が授けられています。彼らは義の使者であり、イエス・キリストとその贖罪の持つ無限の力を証する証人です。預言者は地上における神の王国の鍵を持ち、救いの儀式を執行する権限を与えます。

主の真の教会で、「この力とこの神権の鍵を授けられる者は、地上において同時期にただ一人しかい[ません]。』¹ わたしたちはトーマス・S・モンソン大管長を預言者、聖見者、啓示者として支持します。大管長は主の御言葉を明らかにし、教会全体を導き、管理します。J・ルーベン・クラーク管長が説明したとおり、「教会全体のために啓示を受ける権能を有するのは大管長だけです。」²

生ける預言者について、主は御自身の教会の会員たちにこう命じておられます。

「彼がわたしの前を完全に聖く歩み、わたしの言葉と戒めを受けるとき、あなたがたの教会員は、彼があなたがたに与えるそれらのすべてを心に留めなければならない。

あなたがたは忍耐と信仰を尽くして、あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない。

これらのことを行えば、地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはないからである。」³

天の神聖な目的に沿うために、わたしたちは預言者を支持し、預言者の言葉に従って生活することを選びます。

わたしたちはまた、モンソン大管長の顧問と十二使徒定員会の会員を預言者、聖見者、啓示を受ける者として支持します。彼らは大管長の管理の下、[主の] 思いや御心を宣言する権利と力と権能を持っています。⁴ 彼らはキリストの御名によって話し、キリストの御名によって預言し、イエス・キリストの御名によって全てのことを行います。彼らが話す言葉に、わたしたちは主の声を聞き、救い主の愛を感じます。「そして、何であろうと聖霊に感じて語ることは、聖文となり、……救いを得させる神の力となる」⁵ のです。主御自身がこう語っておられます。「わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」⁶

わたしたちは教会に感謝しています。それが「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・

イエスご自身が隅のかしら石である」⁷からです。主の家は秩序の家であり、わたしたちは疑問の答えを求めるべきところについて惑わされたり、誰の声に聞き従うべきか不安に思ったりする必要はありません。「様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりする」⁸ ことがないのです。神は御自身の言葉を聖任された僕に明らかにし、「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と〔御子〕を知る知識の一致とに到達〔する〕」⁹ ようになさいます。預言者の言葉に従って生活することを選ぶなら、わたしたちは永遠の完成へと通じる聖約の道を歩んでいるのです。飢饉の時を生き延びようと苦勞していたひとり親の女性から、預言者を支持するとはどういうことかを学ぶことができます。主は預言者エリヤにザレバテに行くよう命じ、そこで、神が彼を養うよう命じられた一人のやもめに会うだろうと言われま

した。エリヤが町の外に近づくと、薪を拾っている女が見えたので、声をかけて言いました。「『器に水を少し持ってきて、わたしに飲ませてください。』」¹⁰

彼女が行って、それを持ってこようとした時、彼は彼女を呼んで言った、『手に一口のパンを持ってきてください。』

彼女は言った、『あなたの神、主は生きておられます。わたしにはパンはありません。ただ、かめに一握りの粉と、びんに少しの油があるだけです。今わたしはたきぎ二、三本を拾い、うちへ帰って、わたしと子供のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです。』

エリヤは彼女に言った、『恐れるにはおよばない。行って、あなたが言ったとおりにしなさい。しかしまず、それでわたしのために小さいパンを、一つ作って持ってきなさい。その後、あなたと、あなたの子供のために作りなさい。』¹¹

預言者がこの飢えた母親に頼んでいることがどれだけ困難なことか少し想像して

みてください。当然、神は御自身で忠実な僕に食べ物を与えることがおできになったはずですが、しかし、エリヤは、主の御名によって命じられたとおりに行き、神の愛する娘に預言者を支え養う(sustain)ために自分の持っている物を犠牲にするよう頼んだのです。

しかし、エリヤは従順に対する祝福も約束しました。「『……かめの粉は尽きず、びんの油は絶えない』とイスラエルの神、主が言われるからです。』¹² 主は、預言者の言葉を信じて従うことを選ぶ機会をこのやもめにお与えになったのです。

義の飢饉と霊の飢餓にさらされる世にあって、わたしたちは預言者を支持する(sustain)ように命じられています。預言者の言葉に耳を傾け、それを守り、支持するとき、わたしたちは主の御心と英知に、そして主の時に、へりくだって自らを委ねる信仰があることを証明するのです。

それが不合理で、不都合で、居心地悪く感じられても、わたしたちは預言者の言葉に聞き従います。世の標準から見れば、預言者に従うのは不人気だったり、不適切だったり、あるいは社会的に受け入れられないことだったりするかもしれませんが、しかし、預言者に従うことは常に正しいのです。なぜなら、「天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。』¹³ 「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない」¹⁴ とあるからです。

主は預言者の言葉に聞き従う人たちをたたえ、目をかけてくださいます。ザレバテのやもめの場合、エリヤへの従順さは彼女の命を救っただけでなく、最終的に息子の命をも救うことになりました。預言者が約束したとおりに、「彼女と彼および彼女の家族は久しく食べた。……主がエリヤによって言われた言葉のように」¹⁵ になったのです。

「主は主を信頼する人たちを養ってくださいませ。』¹⁶ わたしたちの魂にとって、預



言者の言葉はマナのようなものです。それを食べるとき、わたしたちは物心両面で祝福され、守られ、必要が満たされます。その言葉をよく味わうとき、キリストのもとに来て生きる方法を学ぶことができます。

ブルース・R・マッコスキー長老は次のように記しています。預言者を通して「主は救いに関する真理を明らかにしてください。救いはキリストにあり、キリストが永遠の命に通じる進路を決められます。どのような時代にも、主の民が危機に瀕したときは、主が彼らに必要な導きを与えてくれました。将来にもきっと、天から降り注ぎ、預言者の口から発せられる神の英知によらなければ、神の民が救われない時がやってくることでしょ。」¹⁷

ローレルの教師が教えてくれた預言者の言葉が、聖約によって結び固められた結婚生活についてのビジョンをわたしに与えてくれました。預言者の言葉は、自分も幸せな家庭生活のために備え、それを手に入れることができるという信仰と希望を与えてくれました。古代と現代の預言者の教えを学び続けることによって支えられ、わたしは7人の子供を産み、教え、育てるといふ非常に困難で、疲労困憊することの多い年月を乗り切ることができました。預言者の言葉は、聖典にあるものも説教壇から教えられるものも、わたしたち全員に慰めと愛と力と元気を与えてくれます。

預言者の言葉に従うとき、わたしたちは永遠に変わることのない確かな土台の上に家庭と生涯を築くことができます。その土台は「神の御子でありキリストである贖い主の岩の上〔の〕基〔であり〕、……悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の雹と大嵐があなたたちを打つときにも、それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とすこと〔がありません〕。」¹⁸

わたしたちは選ぶことができます。聖任された主の僕によって語られるキリスト



の御言葉を無視したり、軽んじたり、踏みにじったり、それに敵対することを選ぶこともできます。しかし、救い主はそのようなことをする人は主の聖約の民から絶たれると教えておられます。¹⁹

キリストを信じる信仰をもって、誠心誠意、祈りの気持ちで預言者の神聖な言葉を読んで研究するとき、聖霊がわたしたちの思いと心に真理を語ってくださいます。神の奥義が明らかになるよう、耳と心と思いを開いて聞き、理解することができますように。²⁰

ジョセフ・スミスが過去も現在も神の預言者であり、地上にイエス・キリストの福音と神権を回復したことを証します。現在モンソン大管長という、神の真の預言者にわたしたちが導かれていることを証します。わたしたちが預言者とともに立ち、彼らの言葉に従って生活することを選び、信仰によって結ばれ、キリストにあって聖められ、神の御子の知識で満たされますように。イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 132:7; 「手引き 第2部——教会の管理運営」2.1.1も参照。こう書かれている。「イエス・キリストは御自身の教会にかかわるすべての神権の鍵を持っておられる。主

は地上における神の王国にかかわるすべての鍵を御自身の使徒一人一人に授けてこられた。生ける先任使徒、すなわち教会の大管長は、神権のすべての鍵を行使することが許されている地上で唯一の人物である」

2. J・ルーベン・クラーク・ジュニア, "When Are the Writings and Sermons of Church Leaders Entitled to the Claim of Scripture?" (セミナーおよびインスティテュートの職員への説話, プリガム・ヤング大学, 1954年7月7日)
3. 教義と聖約 21:4-6; 強調付加
4. J・ルーベン・クラーク・ジュニア "When Are the Writings and Sermons of Church Leaders Entitled to the Claim of Scripture?" 参照
5. 教義と聖約 68:4
6. 教義と聖約 1:38
7. エペソ 2:20
8. エペソ 4:14
9. エペソ 4:12-13
10. 列王上 17:10
11. 列王上 17:11-13; 強調付加
12. 列王上 17:14
13. イザヤ 55:9
14. 箴言 3:5
15. 列王上 17:15-16
16. ロジャー・ホフマン "Consider the Lilies of the Field" (1991年)
17. ブルース・R・マッコスキー "A New Witness for the Articles of Faith" (Deseret Book Company, 1985年), 478; 句読点の用法のみ修正; 許可を得て使用。
18. ヒラマン 5:12
19. 3ニーファイ 20:23 参照
20. モーサヤ 2:9 参照



十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老

永遠の命—— 天の御父と御子イエス・ キリストとを知ること

神とキリストは文字どおり父と子であって、完全に同じ目的を持つ別個の異なる御方であられます。

何年も前のことですが、各神権時代の最後の預言者の証を調べる機会がありました。どの預言者も父なる神とその御子イエス・キリストに対する力強い証を述べていました。

長年それらの証や同様の証を読んできましたが、御自分の長子に向けられた天の御父の深い愛と、イエスが天の御父の御心に従うことによって示された愛を感じて、いつも胸を打たれてきました。御二方を知り、御二方相互の愛を知るために必要なことを行うならば、「神のあらゆる賜物の中で最も大なるもの」¹、つまり永遠の命が得られることを証します。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ること」² だからです。

永遠の命という賜物はどうしたら得られるのでしょうか。それは、今朝話され説かれた個人の啓示を通してもたらされます。

皆さんは、神が実在することを初めて知り、神の愛を初めて感じたときのことを覚えていませんか。子供の頃、わたしは満天

の星を見上げて深く考え、神の存在を感じたものです。小さな虫からそびえ立つ大木まで、神の見事な創造物をまじまじと見て感激しました。この地球の美しさを知り、天の御父がわたしを愛しておられることを知りました。自分が文字どおり神の霊の子供であり、わたしたち人類が、皆、神の息子娘であることを知ったのです。

どのようにしてそれを知ったのかと皆さんは尋ねるかもしれません。聖典の教えはこうです。「ある人には、イエス・キリストが神の子であり、世の罪のために十字架につけられたことを知ることが、聖霊によって許される。ほかの人には、続けて忠実であれば自分もまた永遠の命が得られるように、彼らの言葉を信じるのが許される。」³ わたしの考えでは、これは他の人の証に永遠に頼る人がいるという意味ではありません。

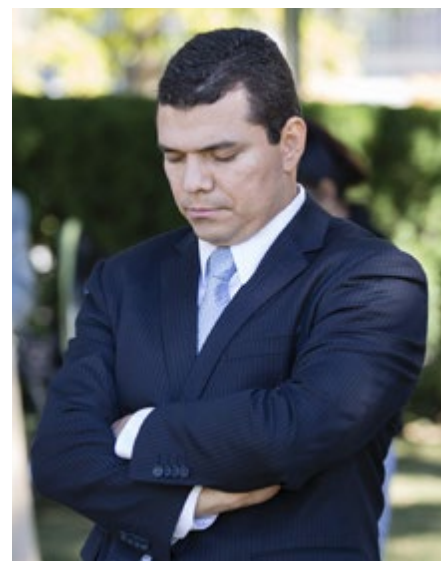
わたし自身の証は、天の御父と救い主について学ぶことによって育まれました。両親や教師、熱心に読んだ聖文の教えと証から学び、特に聖霊から学んだのです。信仰を働かせて戒めを守ると、学んでい

ることは本当だと聖霊が証してくださいました。わたしは、このようにして自分で知るようになりました。

この過程では、個人の啓示を求めることが鍵となります。ニーファイは、「キリストの言葉をよく味わうように」わたしたち一人一人に勧めています。「見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」⁴

8歳の誕生日の前、わたしはバプテスマについてもっとよく知りたくて、聖文を読んで祈りました。確認の儀式を受けるときに聖霊の賜物を授かることが分かりました。また、神とキリストが文字どおり父と子であって、完全に同じ目的を持つ別個の異なる御方であられることも理解できるようになってきました。「わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。」⁵ 御二方が互いに愛し合い、わたしたちのために一緒に働かれる様子がいろいろな箇所に書かれていました。この真理を教えている数多くの聖句から幾つか読みますので、聞いてください。

前世についての教えの中で、天の御父はイエス・キリストを「初めからわたしが愛し選んだ者であるわたしの愛する子」⁶



と呼んでおられます。御父は「独り子によって」⁷ 地球を創造されました。

イエスの母、マリヤは、「いと高き者の子」⁸ を産むだろうと告げられました。そして、イエスは子供の頃、母親に、自分は自らの父の業を行っている⁹ と言われました。その後何年もたって救い主がバプテスマを受けられたとき、天の御父が天から語り、こう言われました。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」¹⁰

弟子たちに祈りの方法を教えるため、イエスは次の言葉を語られました。

「天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。

御国がきますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように。」¹¹

イエスはニコデモにこう教えられました。「神はそのひとり子を賜^{たま}ったほどに、この世を愛して下さった。」¹² そして、御自身が行う奇跡について、次のように説明されました。「子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。父のなさることであればすべて、子もそのとおりにするのである。」¹³

贖罪の時が近づくと、イエスは祈られました。「父よ、時がきました。……わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。」¹⁴ そして、罪の重荷が降りかかろうとする際に、こう嘆願されました。「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままではなく、みこころのままになさって下さい。」¹⁵ 十字架での最期のときに、イエスは「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」と祈り、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」¹⁶ と叫ばれました。

そして、死んだ者たちの霊を訪れられたのです。霊界で、「彼らに力を与えて、彼らが、主が死者の中から復活された後に



出て来て、御父の王国に入[る]」¹⁷ ことができるようにするためでした。救い主は復活した後にマグダラのマリヤに現れて、「わたしは、わたしの父またあなたがたの父……のみもとへ上って行く」と言われました。¹⁸

救い主がアメリカ大陸の人々を訪れられたとき、御父は「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた」¹⁹ と言って救い主を紹介されました。イエスは、神殿にいた人々の中に下って行くと、御自分を紹介してこう言われました。「見よ、わたしはイエス・キリストであり、……世の罪を自分に負うことによって父に栄光をささげた。」²⁰ そして御自分の教義を教え、次のように説明されました。

「これから述べるのがわたしの教義であり、父がわたしに与えてくださった教義

である。わたしは父のことを証し、父はわたしのことを証され[る]。』²¹

「まことに、……父とわたしは一つである。」²²

以上挙げてきた、御父と御子が別個の異なる御方であられることを証している聖句に、あるパターンがあることが分かるでしょうか。御二方はどのように「一つ」なのでしょう。御二方は、同一の御方だという意味で「一つ」ではありませんが、目的において「一つ」であり、「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」²³ 業に等しく献身しておられるのです。

イエスは神ではありますが、御父に祈り、御父の御心を行っていると言われることによって、御父とは別の御方であることを常に示しておられます。イエスはニューファイ人たちの中で教え導いていたとき、次のように嘆願されました。「父よ、わたし



は世のためではなく、信仰があるということであなたが世から選んで、わたしに与えてくださった者たちのためにお願いします。』²⁴

このことを考えると、福音の回復が栄光ある御一方ではなく御二方の現れによって始まったことは驚くに当たらないことが分かります。最初の示現についてジョセフ・スミスはこう証しています。「そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。』²⁵

若き預言者は、どの教会に入るべきか知るために、揺るぎない信仰をもって森に行き、唯一のまことの神と、神が遣わされたイエス・キリストに関する知識と証を得て森から出て来ました。それ以前の預言者と同様、ジョセフも永遠の命に導く知識を世に回復するために御手に使われる者となったのです。

皆さんも聖文を読み、この総大会の話聞いて、天の御父と、「預言者たちと使徒たちが〔証〕してきたイエス」²⁶を求めてください。個人の証、個人の啓示を求めるならば、自分で真理を知ることができるよう、天の御父が特別な方法を用意してくださっていることが分かるでしょう。それは、神会の第3の御方、つまり「聖霊」として知られる霊の御方を通して知るという方法です。

また、今日わたしが話したことも含めて、「この記録を受けるとき、これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてくださる。

そして聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を〔確信をもって〕知るであろう。』²⁷

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちがこの知識を今求めることを、天の御父が望んでおられることを証します。ヒラマンの次の言葉がちりの中から叫んでいます。「覚えておきなさい。あなたがたは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。……人はその基の上に築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」実際、わたしたちは倒れることがないので。²⁸

この確かな土台とは、イエス・キリストです。イエスは「天の岩」²⁹であられるのです。イエスの上に家を建てるならば、末日の雨が降ろうと、洪水が来ようと、風が吹こうと、わたしたちは倒れません。倒れることがないので。なぜなら、わたしたちの家庭と家族は、キリストを土台として

いるからです。³⁰

そのような家庭は「栄光の家」³¹であ

ることを証します。わたしたちはそこに集まり、御父の愛する御子イエス・キリストの御名によって、天の御父に祈ります。そこでわたしたちは御二方をあがめ、御二方に感謝をささげます。そのような家庭でわたしたちは聖霊を受け、「永遠の命、すなわち日の栄えの王国の栄光について、〔主〕が〔わたしたち〕に与える約束」³²を受けるのです。

わたしは特別な証を述べます。イエス・キリストはわたしたちの救い主であり、生きておられます。わたしたちの永遠の父なる神はわたしたちを愛し、わたしたちを見守っておられます。わたしたちには、この神権時代に預言者トーマス・S・モンソン大管長がいて、わたしたちを導いてくれています。聖霊は、行って知識を求める者に、これらが真実であることを証してくださいませ。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 14 : 7
2. ヨハネ 17 : 3
3. 教義と聖約 46 : 13 - 14
4. 2 ニーファイ 32 : 3
5. 1 ヨハネ 4 : 19
6. モーセ 4 : 2
7. モーセ 2 : 1
8. ルカ 1 : 32
9. ルカ 2 : 49 参照
10. マタイ 3 : 17
11. マタイ 6 : 9 - 10
12. ヨハネ 3 : 16
13. ヨハネ 5 : 19. 17 節も参照
14. ヨハネ 17 : 1, 4
15. マタイ 26 : 39
16. ルカ 23 : 34, 46
17. 教義と聖約 138 : 51
18. ヨハネ 20 : 17
19. 3 ニーファイ 11 : 7
20. 3 ニーファイ 11 : 10 - 11
21. 3 ニーファイ 11 : 32
22. 3 ニーファイ 11 : 27
23. モーセ 1 : 39
24. 3 ニーファイ 19 : 29
25. ジョセフ・スミス一歴史 1 : 17
26. エテル 12 : 41
27. モロナイ 10 : 4 - 5
28. ヒラマン 5 : 12
29. モーセ 7 : 53
30. 3 ニーファイ 14 : 24 - 25 参照
31. 教義と聖約 88 : 119 ; 109 : 8, 16
32. 教義と聖約 88 : 4



七十人
ジェームズ・J・ハムラ長老

せいさん しよくざい 聖餐と贖罪

聖餐の儀式は、わたしたちにとってさらに神聖なものとなる必要があります。

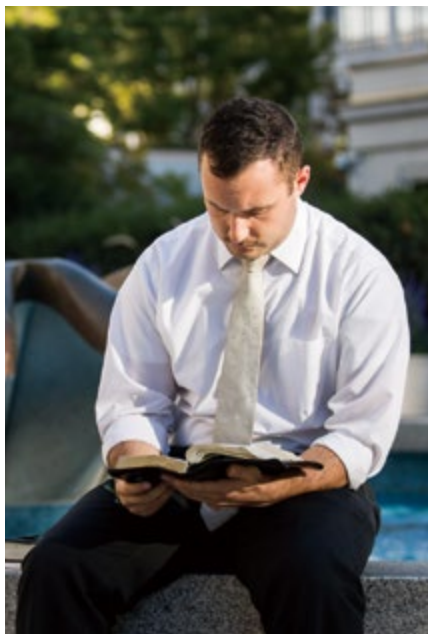
ゲツセマネの園とカルバリの丘における業の前夜、最後にもう一度礼拝を行うため、イエスは使徒をお集めになりました。ある弟子の家がエルサレムにあり、その家の2階で、^{すきこし}過越の食事をする時期でした。¹

使徒たちの前には、伝統的な過越の食事が置かれました。この食事は、イスラエルがかつて経験した奴隷の境遇と死²からの救い、いづれ成就する^{あがな}贖い³を象徴する犠牲の子羊、ぶどう酒、そして種入れぬパンから成っています。食事が終わりに近づいた頃、イエスはパンを取り、祝福してこれを裂き⁴、使徒たちに与えて、こう言われます。「取って食べよ。」⁵「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。」⁶同様に、ぶどう酒の杯を取り、祝福して、使徒たちに回し、こう言われます。「この杯は……わたしの血で立てられる新しい契約である。」⁷「[この血は]、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である。」⁸「わたしを記念するため、このように行いなさい。」⁹

このような簡潔でありながらも深遠な方法で、イエスは神の聖約の民のために新たな儀式を設けられました。将来来られるキリストの贖いの犠牲を待ち望みながら動物の血を流したり、動物の肉を食べたりすることはなくなりました。¹⁰ その

代わりとして、既に来られたキリストの贖いの犠牲を覚えるために、キリストの裂かれた肉体と流された血の象徴を取り、口にするようになったのです。¹¹ この新しい儀式を受けることは、すべての人にとって、約束されたキリストとしてイエスを厳粛に受け入れ、イエスに心から喜んで従い、その戒めを守ることを意味します。そのような精神で、そのように生きるならば、霊の死は「過ぎ越[し]」、永遠の命が保証されるのです。

その後、イエスはゲツセマネの園に入



り、カルバリの丘に連れていかれ、アリマヤのヨセフの墓から勝利のうちに出てこられました。イエスが天に昇られた後、エルサレムとエルサレム周辺にいたイエスの忠実な弟子たちは、週の初めの日に集まり、「パンをさ[き]」¹²、「ひたすら」¹³ その儀式を守り続けました。そうしたのは、もちろん、自分たちのもとを去られた主を覚えるためだけではなく、主の驚くべき贖いに感謝と信仰を表すためでもありました。

意義深いことに、イエスはアメリカ大陸の弟子たちを訪れたときに、彼らの間でも聖餐を設けられました。¹⁴ そうするに当たって、イエスはこう言うておられます。「あなたがたは、……いつもこれを行うように努めなさい。」¹⁵ 「それは、あなたがたがいつもわたしを覚えているということ^{あかし}を、父に示す証となるであろう。」¹⁶ 回復の幕開けとともに、再び、主は聖餐の儀式を設け、いにしへの弟子たちに与えたのと同じ指示をわたしたちに与えられました。¹⁷

聖餐の儀式は「教会における最も神聖な儀式」¹⁸ と呼ばれてきました。聖餐の儀式は、わたしたちにとってさらに神聖なものとなる必要があります。イエス・キリスト御自身が、この儀式を設けられました。わたしたちを贖うために主がなされたことを思い起こさせ、どのようにイエスの贖いの効力を受け、それによって再び神とともに住めるかを教えるためでした。

裂かれ、砕かれたパンによって、わたしたちはイエス・キリストの肉体、すなわち、あらゆる苦痛と苦難と試練にさいなまれた肉体¹⁹、あらゆる毛穴から血を流す²⁰ほどに激しい苦しみの重荷を負った肉体、十字架上で肉が裂け、心臓が砕かれた肉体²¹を思い起こすと表明します。その同じ体が、死んで葬られたものの、墓から再びよみがえり、二度と再び、病気や衰え、死を経験することがなくなったことを信じると表明するのです。²² 聖餐のパンを取るときに、キリストの死すべき体と同様、わたしたちの体も死の縄目を解かれ、勝利のうちに墓からよみがえり、永遠の霊

に回復するということを認めるのです。²³

小さなカップに入った水によって、わたしたちはイエスが血を流し全人類のために霊的な苦しみに耐えられたことを思い起こすと表明します。苦痛によりゲツセマネの園で多くの血が滴ったことを思い起こします。²⁴ 捕らえた者たちに殴られ、むち打たれても、耐えられたことを思い起こします。²⁵ カルバリの丘で、その手、足、脇から血を流されたことを思い起こします。²⁶ また、御自分が受けられた苦しみに関する次の御言葉^{ごごば}を思い起こします。「これらの苦しみがいかにつらいか、あなたは知らない。いかに激しいか、あなたは知らない。まことに、いかに堪え難いか、あなたは知らない。」²⁷ 水を飲むとき、わたしたちはイエスの血と苦しみがわたしたちの罪を贖ったことを認めるとともに、福音の原則と儀式に喜んで従い受け入れるならばイエスがわたしたちの罪の代価を支払ってくださることを認めます。

これまで述べたように、パンと水によって、わたしたちはキリストがわたしたちを死と罪から贖ってくださったことを思い起こします。パンの次に水を取るという順序は重要です。パンを取るときに、わたしたちは最終的に自分が復活することを思い起こします。この復活は、単に肉体と霊の回復から成るものではありません。「復活^{みまご}」の力によって、わたしたちは皆、神の御前に連れ戻されるのです。²⁸ この現実には、わたしたちに人生に関する根本的な質問を突きつけます。わたしたちの誰もが向き合う根本的な質問とは、わたしたちが死後も生きるかどうかではなく、死後、誰とともに生きるかという質問です。わたしたちの誰もが神の御前に戻りますが、わたしたちの誰もが神とともに住むわけではないのです。

現世の生涯を通して、わたしたちの誰もが、罪と背きで汚れます。²⁹ 徳に反したことを考えたり、言ったり、行ったりしてしまいます。³⁰ 要するに、清くない者となります。神の御前で清くない者が招く結果に

ついて、イエスは明確にしておられます。「清くない者は……神の前に住むことができない。」³¹ 息子アルマは、この現実をはっきりと思い知らされます。彼は清い天使と向かい合い、自らの汚れに苦しみ、悩み、責めさいなまれた挙げ句、「霊と肉体がともになくなって……神の御前に立たされ……ること〔が〕ない」³² ように願ったほどでした。

聖餐の水を取るときに、わたしたちはどのように罪と背きから清められ、神の御前に立つことができるか教わります。罪なき血を流すことで、イエス・キリストはあらゆる罪と背きに対する正義の要求を満たされました。そして、わたしたちに悔い改めるに足る御自身への信仰があるならば、清められるためにバプテスマをはじめとする救いの儀式と聖約をすべて受け入れ、聖霊を受けるよう求められます。聖霊を受けると、わたしたちは洗い清められます。イエスは次の教義を明らかにしておられます。

「清くない者は、決して〔神の〕王国に

入ることができない。……わたしの血により衣を洗われた者のほかには、父の安息に入る者はいない。……

さて、戒めは次のとおりである。地の果てに至るすべての者よ、悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を受けて聖められ、終わりの日にわたしの前に染みのない状態で立てるであろう。」³³

これがキリストの教義です。³⁴ この教義を受け、それに従った生活を送るときに、わたしたちは、本質的に、キリストの血によって洗われ、清くなります。³⁵

聖餐の祈りを通して、わたしたちはキリストのこの教義を受け入れたこと、また、それに従った生活を送ると決意したことを示します。永遠の父なる神に祈り求めるとき、わたしたちは御父の貴い御子を「いつも覚え〔る〕」と宣言します。そうすることによって、イエス・キリストおよび、死と罪からの主の贖いを信じる信仰を行使することを、厳粛に決意するのです。





わたしたちは、さらに「御子が与えてくださった戒めを守る」と宣言します。それは悔い改めるといふ厳粛な決意です。この1週間の思いや言葉、行動が、しかるべき標準を外れたものだったとしたら、今後、生活を主の標準にさらに近づけると、もう一度決意します。

次に、わたしたちは「進んで御子の御名を受け〔る〕」³⁶と宣言します。それは主の権威に従い、主の業を行うといふ厳粛な決意です。この業には、自分自身のために、すべての救いの儀式と聖約を受けることも含まれます。³⁷

これらの原則を守ると決意するとき、聖餐の祈りの中で、「御子の御霊を受け」³⁸という約束を受けます。御霊を改めて受けるということは、至高の祝福です。なぜなら、御霊はわたしたちを罪と背きから洗い清める働きをしてくださるからです。³⁹

兄弟姉妹の皆さん、永遠にわたって最も大切な出来事は、イエス・キリストの贖罪です。贖罪を成し遂げられた主は、わたしたちに聖餐の儀式を与え、この贖罪というこの上ない恵みの行為によってもたらされる祝福を思い起こすだけでなく、求めることができるようにしてくださいました。欠かすことなく熱心にこの神聖な儀式を受けることによって、わたしたちはバプテスマを受けた後も続けてキリストの教義を受け入れ、それに従った生活を送ることができ、それによって、聖めのプロセスを追求し、全うすることができるので

す。実に、聖餐の儀式は、忠実に最後まで堪え忍び、イエスと同じように、恵みに恵みを加えられ、御父の完全を受ける助けとなるのです。⁴⁰

わたしは全ての人を死と罪から贖うイエス・キリストの力について、また聖餐を含む神権の儀式の力について証します。この力は、「神、すなわち父の御顔を見て、なお生きていること〔が〕でき」⁴¹るように、わたしたちを備えさせてくれます。来週そして毎週、この儀式を受けることにより、わたしたちが望みと熱意を増し加えることができますように、主イエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。■

注

1. マタイ 26:17-20; マルコ 14:12-17; ルカ 22:7-18 参照
2. 出エジプト 12 章; 民数 28:16-25; Bible Dictionary. "Feasts" 参照
3. 出エジプト 13:12-13; モーサヤ 2:3-4; モーセ 5:5-8 参照
4. マタイ 26:26; マルコ 14:22; ルカ 22:19; 1コリント 11:24 参照。これらの聖文とは対照的に、復活後、ニーファイ人の中で聖餐を設けたときには、主はまずパンを裂き、それから祝福しておられる (3 ニーファイ 18:3 参照)。
5. マタイ 26:26; マルコ 14:22; 1コリント 11:24
6. ルカ 22:19。1コリント 11:24 も参照
7. ルカ 22:20。マタイ 26:28; マルコ 14:24; 1コリント 11:25 も参照
8. マタイ 26:28
9. ルカ 22:19。3 ニーファイ 18:11 も参照
10. 2 ニーファイ 11:4; 25:24-25; モルモン書 ヤコブ 4:5; アルマ 34:14; 3 ニーファイ 9:17, 19-20; モーセ 5:5-8 参照
11. ヨハネ 6:51-57; 1コリント 11:24-26; 教義と聖約 20:40 参照
12. 使徒 20:7

13. 使徒 2:42
14. 3 ニーファイ 9:19-20; 18:1-11; 20:3-9; 26:13 参照
15. 3 ニーファイ 18:6
16. 3 ニーファイ 18:7
17. 教義と聖約 20:75; 27:2; 59:9-12 参照
18. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・フィールディング・スミス』88。「聖餐会は教会のあらゆる集会の中でも、最も聖別された、最も神聖な集会であると、わたしは考えています。」(『教え——ジョセフ・フィールディング・スミス』87)
19. アルマ 7:11 参照
20. ルカ 22:44; モーサヤ 3:7; 教義と聖約 19:18 参照
21. 詩篇 22:16; ヨハネ 19:33-34; 20:25-27; 3 ニーファイ 11:14; 教義と聖約 6:37; ジェームズ・E・タルメージ, *Jesus the Christ*, 第3版 (1916年) 669 参照
22. マタイ 28:6; ルカ 24:6, 39; ヨハネ 20:20; 教義と聖約 76:22-24 参照
23. ヨハネ 6:51-59; アルマ 11:42-44; 40:23; 3 ニーファイ 27:13-15 参照
24. ルカ 22:44; モーサヤ 3:7; 教義と聖約 19:18 参照
25. イザヤ 53:5; マタイ 26:67; 27:26, 29-30; マルコ 14:65; 15:15, 19; ルカ 22:63-65; ヨハネ 19:1; モーサヤ 15:5 参照
26. マタイ 27:35; マルコ 15:15; ルカ 23:33; ヨハネ 19:16, 33-34 参照
27. 教義と聖約 19:15
28. アルマ 11:42-45; 3 ニーファイ 27:13-15 参照
29. モーセ 6:55 参照
30. マタイ 5:27-28; 12:36; ヤコブの手紙 3:1-13; モーサヤ 4:29-30; アルマ 12:14 参照
31. モーセ 6:57。1コリント 6:9; エベソ 5:1 ニーファイ 10:21; 15:33-34; アルマ 7:21; 11:37; 40:26; 3 ニーファイ 27:19; 教義と聖約 1:31-32 も参照
32. アルマ 36:15。14 節も参照。黙示 6:15-17; アルマ 12:14 も参照
33. 3 ニーファイ 27:19-20
34. 2 ニーファイ 31:2-21; 3 ニーファイ 11:31-41; 27:13-22; 教義と聖約 76:40-42, 50-54, 69-70 参照
35. 3 ニーファイ 27:19 参照。黙示 1:5-6; 7:14-15; アルマ 5:21; 13:11-12; エテル 13:10-11; モーセ 6:59-60 も参照
36. 教義と聖約 20:77; モロナイ 4:3
37. ダリン・H・オークス, "His Holy Name" (1998年); ダリン・H・オークス「イエス・キリストのみ名を受ける」『聖徒の道』1985年7月号, 81-84 参照
38. 教義と聖約 20:77, 79; モロナイ 4:3; 5:2
39. ローマ 15:16; 1コリント 6:11; 2 ニーファイ 31:17; アルマ 5:54; 13:12; 3 ニーファイ 27:20; モロナイ 6:4 参照
40. 教義と聖約 93:6-20 参照
41. 教義と聖約 84:22



トーマス・S・モンソン大管長

あなたの足の道に 気をつけよ

イエスを模範として仰ぎ、その歩みに倣うならば、天の御父のみもとに無事帰ることができるのです。

愛 する兄弟姉妹の皆さん、今朝こうして皆さんの前に立つと、謙虚な気持ちになります。これからお話しするに当たり、わたしのために信仰の祈りをささげていただければ幸いです。

わたしたちは皆、霊の世界を去って、現世と呼ばれるこの難しい段階に入ったときから、すばらしいかけがえのない人生の旅を始めました。人がこの地上に存在するおもな目的は、骨肉の体を得て、天の両親から離れなければ経験できないことを経験し、戒めを守るかどうか試されることです。アブラハム書第3章にはこう書かれています。「そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」¹

わたしたちは地上に来るとき、選択の自由という神から頂いた偉大な賜物たまものを携えてきました。多くの点で自分で選ぶという特権があるのです。この世にあって、経験という厳しい教師からいろいろなことを学びます。善と悪を見分け、苦楽を味わい、どう判断するかが行く末を左右することを学びます。

わたしたちはきっと、なんとしても帰って来たいという思いで御父のみもとを離れたことでしょう。御父が計画してくださ

り、わたしたちも心から望む昇栄にあずかるためです。天の御父のみもとに戻る道は自分で見つけて歩まなければなりません。御父は指示も導きもなしにわたしたちを地上に送られたわけではありません。必要な手段を与えてくださっていますし、助けを求め、最後まで堪え忍んで永遠の命を得るために力の限り努力するならば、助けてくださいます。

わたしたちには指針となる神と御子の御言葉みことばがあり、聖文で読むことができます。神の預言者の勧告と教えがあります。とりわけ重要なのは、従うべき完全な模範が与えられているということです。主であり救い主であるイエス・キリストの模範です。わたしたちはこの模範に従うよう教えられてきました。救い主自ら、こう言うておられます。「わたしに従ってきなさい。」²「わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい。」³ イエスは「あなたがたはどのような人物であるべきか」と問いかけ、御自分でそれに答えておられます。「まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならない。」⁴ そして、「主は道を示し、……導かれました。」⁵

イエスを模範として仰ぎ、その歩みに倣うならば、天の御父のみもとに無事帰り、

永遠に神とともに住むことができるのです。預言者ニーファイはこう言っています。「人は生ける神の御子の模範に倣って、最後まで堪え忍ばなければ救われない。」⁶

ある女性は、聖地を訪れたときのことを話すたびに感情を込めてこう言ったものでした。「わたしはイエスの歩まれた所を歩いたのよ。」

この女性は、イエスが住んで、教えを説かれた場所の近くに行きました。恐らく、かつてイエスが立たれた岩の上に立ち、イエスが見渡された山々を見たのでしょう。彼女にとってはその経験そのものが胸躍るものでしたが、イエスが歩まれた場所を自分の足で歩くことは、イエスが歩まれたように歩むことほど大切ではありません。イエスの行動に倣い、その模範に従うことは、イエスがこの世で行き来された跡をたどろうとすることよりも、はるかに大切なのです。

イエスはある金持ちの男性に「わたしに従ってきなさい」⁷ とお求めになりましたが、それは、イエスの後をついて田園地帯の山や谷を巡ってほしいという意味ではありませんでした。

イエスが歩まれた場所を歩くためにガラヤの海辺やユダヤの丘を歩く必要はありません。主の御言葉によく耳を傾け、主の御霊みたまを心に満たし、主の教えを生きる指針として、現世の旅で主に従うことを選んでください。そうすることによって、わたしたちは皆、イエスが歩まれた道を歩むことができます。イエスの模範は道を照らします。イエスはこう言われました。「わたしは道であり、真理であり、命である。」⁸

イエスが歩まれた道について調べると、わたしたち自身が人生で出遭うのと同じ問題の多くに、主も直面されたことが分かります。

例えば、イエスは失望という道を歩まれました。多くの失望を経験されましたが、最も深い失望感は、民への務めを終える頃にエルサレムについて嘆かれた御言葉に表れています。イスラエルの子らは、イ



イエスが差し出された翼の下に来て庇護されることを拒みました。間もなく捨てられ、滅ぼされるこの町を見渡して、イエスは深い悲しみに襲われ、苦しみのあまり叫ばれました。「ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人々を石で打ち殺す者よ。ちょうどめんどりが翼の下にひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。」⁹

イエスは誘惑の道を歩まれました。悪しき者ルシフェルは、最大限の力を傾け、自分にできる最も魅力的な詭弁を使って、40日40夜断食されたイエスを試みました。イエスは屈することなく、それどころかどの誘惑もはねのけられました。最後に言われた言葉はこうです。「サタンよ、退け。」¹⁰

イエスは苦しみの道を歩まれました。ゲツセマネの場面を考えてください。イエスは「苦しみをだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。」¹¹ そして、残酷な十字架の上での主の苦しみは、誰も忘れることができません。

人は誰でも失望の道を歩むものです。好機を逸したことや権限の使い方を誤ったこと、あるいは愛する人や自分自身の判断が原因かもしれません。誘惑の道も誰もが通ります。教義と聖約第29章にはこうあります。「また、悪魔が人の子らを誘惑するのは必要である。そうでなければ、人の子らは自ら選択し行動する者とはなれない。」¹²

同様に、わたしたちも苦しみの道を歩みます。しかし、主の僕であるわたしたちは、甚だしい痛みと苦しみの末に現世の生涯を終えられた主ほどの苦しみを受けることはないでしょう。

行く手には深い悲しみがあるかもしれませんが、大きな幸せを見いだすこともできます。

イエスとともに従順の道を歩むこともできます。この道はいつでも楽に歩けるわけではありませんが、「見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる」¹³ というサムエルから受け継いだ言葉をモットーにしようではありませんか。不従順の行き着く果ては束縛と死であり、従順の報いは自由と永遠の命であることを忘れないようにしましょう。

イエスのように奉仕の道を歩むこともできます。イエスは人々の中で教え導かれました。その生き方からは、サーチライトの輝きのように善の光が放たれています。歩けない人の足に力を与え、見えない人の目を開き、聞こえない人の耳を開かれたのです。

イエスは祈りの道を歩まれました。「主の祈り」として知られるすばらしい祈りをささげて、祈る方法を教えてくださいました。それに、「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」¹⁴ というゲツセマネの祈りを忘れることのできる人がいるでしょうか。

救い主がわたしたちに授けられた他の教えは、聖典に収められており、いつでも読むことができます。山上の垂訓で、イエスは憐れみ深い者、謙遜な者、義にかなった者、心の清い者、平和を作り出す者になりなさい、と言われました。あざけられ、迫害されても勇気をもって信仰を擁護するよう教えられました。他の人がわたしたちを見て天の御父をあがめたくるよう光を輝かせなさいと言われました。心と行いにおいて道徳的に清くあるよう教えられました。地上に宝を蓄えるよりも天



でも一緒に過ごすことができると、この上ない幸せを感じたものです。

この二人は外見も平凡ですし、英語はたどたどしくて分かりにくく、家は質素なものでした。車もテレビもなく、世の人が普通関心を示すようなものは何一つ持っていませんでした。しかし、信仰深い人たちは、そこにある御霊を受けるためによく二人の家を訪れました。彼らの家庭はこの地上の天国であり、彼らが放つ光は、平和と善の光でした。

救い主の道を歩み、その完全な模範に従うならば、わたしたちもそのような御霊を受けて、それを世の人と分かち合うことができます。

箴言には「あなたの足の道に気をつけよ」¹⁹ という勧めがあります。この勧告に従うならば、イエスが歩まれた道を歩む信仰と望みを持つようになります。御父の望まれる道を歩んでいることに何の疑いも感じることがなくなることでしょう。救い主の模範はわたしたちのなす全ての事柄の規範となり、その御言葉は間違いなく正しい道に導きます。救い主の道を歩めば無事みもとに帰れるのです。この祝福をわたしたちが受けられますよう、わたしが愛し、仕え、証するイエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。■

注

1. アブラハム 3:25
2. ルカ 18:22
3. 3 ニーファイ 27:21
4. 3 ニーファイ 27:27
5. エライザ・R・スノー「高きに満ちたる」『賛美歌』112 番参照
6. 2 ニーファイ 31:16
7. ルカ 18:22
8. ヨハネ 14:6
9. ルカ 13:34
10. マタイ 4:10
11. ルカ 22:44
12. 教義と聖約 29:39
13. サムエル上 15:22
14. ルカ 22:42
15. マタイ 5, 6 章参照
16. ルカ 10:30 - 37 参照
17. マタイ 25:14 - 30 参照
18. ルカ 15:4 - 7 参照
19. 箴言 4:26

に宝を蓄えることの方がはるかに大切だと言われました。¹⁵

イエスのたとえによる教えには力と権威があります。良いサマリア人の話で隣人を愛し隣人に仕えることを教え、¹⁶ タラントのたとえでは自分を磨いて完全な者になる努力をするよう教えておられます。¹⁷ 迷い出た羊のたとえでは、道から離れ、道を見失った者を救出に行くよう教えておられます。¹⁸

イエスは人に永遠の命を得させるために亡くなりました。そして、わたしたちが主の御言葉を学び、主の教えに従い、主の歩まれた道を歩んでキリストを生活の中心にするよう努めるならば、御自身が持つておられるのと同じ永遠の命を与えると約束しておられます。これ以上の目標はありません。主の懲らしめを受け入れてイエスの弟子となり、生涯イエスの業

を行うことを選ぶべきです。それ以外の何を選ぼうとも、イエスがお与えになる祝福を受けることはできません。

救い主の模範に従おうと努め、その道を歩んだ人たちのことを考えると、グスタフ・ヴァッカーとマルガレーテ・ヴァッカーという名前がすぐに思い浮かびます。この二人は、わたしが知る中で最もキリストに似た人たちです。ドイツで生まれ育ち、カナダ東部に移民しました。彼らに会ったのは、わたしがその地で伝道部長を務めていたときのことでした。ヴァッカー兄弟は理髪師をして生計を立てていました。あまり裕福でなかったにもかかわらず、何でも人々と分かち合いました。子供はいませんでした。家に来る者は誰でも受け入れ、もてなしました。学識のある洗練された男女がこの貧しく無学な神の僕に会いに来て、この二人と1時間



十二使徒定員会
M・ラッセル・バラード長老

船にとどまり、 つかまっていなさい

ひたすら主に心を向けるなら、たとえようもないほどの祝福が約束されます。

最近、友人が自分の息子を連れて、ユタ州南東部にあるカタラクト渓谷を流れるコロラド川の川下りに出かけました。その渓谷は、14マイル（23キロメートル）におよぶ、時に非常に危険にもなる、急流下りで有名です。

この冒険の準備に、二人は国立公園事務局的ウェブサイトをじっくり研究しました。そこには個人の準備に関する情報と、多くの人が遭遇する隠れた危険についての重要な情報が載っていました。

出発時に経験豊富な川下りのガイドの一人が大切な安全指導を行い、グループが安全に急流を下るための3つのルールを強調しました。「ルール1: 船から離れないこと ルール2: 救命胴衣を常に身に着けていること ルール3: いつも両手でつかまっていること」そして再び、さらに力を込めて彼は言いました。「何よりも、ルール1を忘れないでください。船から離れないこと！」

この冒険は、現世における人生の旅路を思い出させます。わたしたちのほとんどが人生での穏やかな流れを楽しむ時期

を経験します。あるときは、急流に遭遇します。それは、カタラクト渓谷の14マイル（23キロメートル）の川下りでときどき出会う流れの激しい場所にたとえることができます。これらの苦難には、肉体的・精神的な健康問題、愛する人の死、砕けた夢や希望なども含まれます。人生の問題や疑問、疑いに直面して信仰が危くなる人もいでしょう。

慈悲深い主は、船や救命胴衣などの必需品や、経験豊富な川下りのガイドなどの助けを用意してくださいました。ガイドは安全に関する指示を伝えて、わたしたちが人生の川を下って最終目的地に着けるよう助けてくれます。

では、ルール1「船から離れない」について考えてみましょう。

ブリガム・ヤング大管長はよく、末日聖徒イエス・キリスト教会のことを「シオン号という名の古い船」と呼んでいました。

あるとき彼は言いました。「わたしたちは大海の上にあります。嵐が来て、水夫がこの嵐を乗り切るのは大変だと言うと、ある人が『船から降りたい。これは「シオン号」ではない』と言います。『でもここは





海の上ですよ。』『構うもんか。とにかく船から降りたい。』彼は海の中に飛び込みます。彼は溺れないでしょうか。溺れるでしょう。教会を離れる人も同じです。教会は『シオン号』です。この船にとどまりましょう。』¹

またあるときヤング大管長は、祝福を受けているとき、つまり、人生が順調であるときに道をそれて行く人たちについて心配していると言いました。「天気は穏やかで、シオン号はそよ風を受けて航行しています。船上も全てが静かです。そのとき、何人かの兄弟が小船で外に出て泳ぎたいと言いました。ある者は溺れ、ある者は流されました。ある者は船に戻って来ました。シオン号にとどまりましょう。船はわたしたちを安全に港まで運んでくれます。心配は無用です。』²

そして最後に、聖徒たちに言いました。「わたしたちはシオン号の上にあります。……〔神〕が舵を取り、ともにおられます。……万事大丈夫です。主がおられるのですから、ハレルヤと歌いましょう。主が命じ、導き、指図されます。神に絶対の信頼を置くなら、聖約も神も捨ててはいけません。神は正しく導いてくださいます。』³

困難に直面するとき、どうすればシオン号にとどまられるでしょうか。

答えはここにあります。一度ではなく、一生を通じて何度もイエス・キリストへの

信仰と福音に対する忠実さを増すことにより、改心し続ける必要があります。アルマは尋ねました。「さて見よ、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが心の変化を経験しているのであれば、また、贖いをもたらず愛の歌を歌おうと感じたことがあるのであれば、今でもそのように感じられるか尋ねたい。』⁴

今日の経験豊富な川下りのガイドは、教会の使徒や預言者、靈感を受けた地元の神権指導者や補助組織指導者にたどることができ、彼らは、安全に最終目的地に着くのを助けてくれます。

先日、わたしは新任伝道部会長セミナーで話をし、彼らに助言しました。

「伝道部の人々の目が教会の指導者から離れないようにしてください。わたしたちは皆さんを誤った方向に導きません。そのようなことはできないのです。

そして、宣教師にわたしたちから目を離さないよう教えるとき、彼らにこう教えてください。〔管理の鍵を持つ神権指導者を通して〕教会を運営なさる天の御父と主イエス・キリストより自分の方が教会の運営方法を知っていると考える人々には決して従ってはなりません。

わたしは務めを果たす経験を通して分かったことがあります。道に迷い、混乱する人のほとんどは、大管長会と十二使徒定員会が一つの声で話すとき、それがそ

の時代に対する主の声であることを忘れていているということです。主は言われます。『わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。』〔教義と聖約 1:38〕⁵

つまり、彼らはシオン号から離れているのです。航路を外れ、背教しているのです。悲しいことに、多くの場合、彼らは自分だけでなく家族にとっても、短期的ついには長期的に、意図していなかった結果を経験しています。

経験豊富な川下りのガイドのように、地元の教会の指導者たちは人生経験によって訓練され、使徒や預言者、その他の教会役員たちから教育と指導を受けています。何より重要なことは、彼らは主御自身から個人指導を受けているのです。

今年の5月には、CES ディポーショナル放送で、教会のヤングアダルトに話す機会があり、わたしはこのように語りました。

「教会指導者が世間から隔離された世界で生きていると思っている人がいるそうです。そのような人は、わたしたちがさまざまな場所に住み文化の異なる大勢の人と交わりながら経験を積んできたことを知らないようです。現在の割り当てによりわたしたちは文字どおり世界中を飛び回り、世界各地の政治、宗教、ビジネス、人道支援の指導者たちと会っています。ワシントン D.C. のホワイトハウスや世界各国の指導者を訪れることもあります。最も素晴らしい家庭を訪れ、貧しい人々と会い、仕えることもあります。……

わたしたちの生活や務めについて思慮深く考えるなら、わたしたちほど世界中を見て回り、経験を積んでいる人はそう多くないことが分かるはず。たいていの人よりも現実を知っていることに気づくでしょう。……

しかし、幹部の兄弟たちの知恵には慰めを与える特別な力があります。わたしたちは、さまざまな法律や政策の結果を味わってきましたし、落胆、悲劇、家族の死

など、あらゆることを経験してきました。皆さんの生活についてまったく知らないというわけではないのです。」⁶

今説明したルール1とともに、2番目と3番目のルールも忘れてはなりません。救命胴衣は常に着用し、両手でつかまる必要があります。主の言葉は、聖文の中や使徒と預言者の教えの中にあります。それらは、わたしたちに助言と指示を与えてくれます。そして、それに従ったとき、霊的な救命胴衣となり、両手でつかまる方法を知ることができます。

わたしたちは、「真理を深く知〔っていた〕」モーサヤの息子たちになる必要があります。わたしたちは「正しい理解力を備えた」男女になれますが、それを可能にするには「神の言葉を知るために、聖文を熱心に調べ」⁷なければなりません。

聖文とともに過去と現在の使徒と預言者の言葉を調べるときには、キリストの教義を研究し、実践し、その教義を愛することに集中すべきです。

個人で聖文を読むことを習慣とするだけでなく、モーサヤの息子たちのように「しばしば祈り、また断食」⁸を行うことも必

要です。

こうした簡単に測ることのできないことが非常に重要であるようです。これらの簡単な事柄に集中し続け、注意を他にそらさないようにしてください。

わたしは、試練や困難に遭ったときに船から離れ、両手でつかまらなかった人たち、あるいは、比較的平穏なときに船から離れた人たちを知っています。そうした人の多くが福音の重要な真理に対する関心を失うのを、わたしは見てきました。そもそもなぜ自分は教会に入ったのか、なぜ福音の標準を守り、人々を祝福するために心を注いで献身的に奉仕してきたのか、なぜこのようなことに全力を尽くしていたのか、自分の生活の中で教会がどのように「霊の養いと成長の場所」となっていたのか。彼らは、そのようなことから、注意をそらせていました。⁹

ジョセフ・スミスはこの中心となる真理を教えています。「わたしたちの宗教の基本原則は、キリストが『死んで、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られた』というイエス・キリストに関する使徒と預言者の証です。わたしたちの宗教に

関する他の全ての事柄は、それに付随するにすぎません。』¹⁰

ひたすら主に心を向けるなら、たとえようもないほどの祝福が約束されます。「したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。』¹¹

ときどき、忠実な末日聖徒も誠意ある求道者も、基本原則ではなく「付随する事柄」に注目してしまうことがあります。それは、回復された福音の簡単で分かりやすいメッセージから離れさせようとするサタン^{サタン}の誘惑です。こうして気持ちをそらせた人が、あまり大切でない活動や教えに思いを集中させたり、こだわったりして、聖餐^{せいさん}を取ることをやめてしまうことがよくあります。

自分が持つ疑問ばかりに思いを向ける人もいるでしょう。もちろん、献身的な弟子にとって、質問することも疑問を抱くことも悪いことではありません。近頃、大管長会評議会と十二使徒定員会は次の声明を出しました。「教会員は時折、教会の教義や歴史、活動について疑問を抱くことがあることをわたしたちは理解しています。そのようなときには真摯に理解を深めるために、気兼ねなく質問することができます。』¹²

ジョセフ・スミス自身にも疑問があり、その疑問から回復が始まりました。彼は答えを探し、そしてアブラハムのように人生で最も重要な質問の答えを見つけました。

重要な質問とは、最も大切な事柄、つまり天の御父の計画と救い主の贖罪に焦点が当てられた質問です。親切で優しく、愛に満ち、寛容で、忍耐強く、献身的な弟子になるよう導くものを、探し求めなければなりません。パウロが教えたように、進



んで「互に重荷を負い合い……キリストの律法を全う」¹³しなければなりません。

他の人の重荷を負うとは、全ての人を助け、支え、理解することです。全ての人の中には、病気の人、体の弱い人、霊的・物質的に貧しい人、何かを探し求めている人、悩みを抱えた人が含まれます。また、しばらくの間奉仕するよう主によって召された教会の指導者など、弟子として生きる会員も含まれます。

兄弟姉妹、船から離れず、救命胴衣を着用し、両手でつかまっています。気持ちをそらすものを避けましょう。それでも船から落ちてしまった人がいれば、その人を探し、見つけ、助けて、シオン号に引き上げましょう。父なる神と主イエス・キリストがシオン号の舵を取り、正しく導いてくださっています。イエス・キリストの御名によりへりくだり証します、アーメン。■

注

- 1.「歴代大管長の教え—ブリガム・ヤング」, 91
- 2.ブリガム・ヤング, "Discourse," *Deseret News*, 1858年1月27日付, 373
- 3.ブリガム・ヤング, "Remarks" *Deseret News*, 1857年11月18日付, 201
- 4.アルマ5:26
- 5.M・ラッセル・バラード, "Mission Leadership" (新任伝道部会長セミナーにおける説教, 2014年6月25日), 8
- 6.M・ラッセル・バラード「静まって、わたしこそ神であることを知れ」(教会教育システムデイポーショナル, 2014年5月4日); lds.org/broadcasts
- 7.アルマ17:2
- 8.アルマ17:3
- 9.大管長会および十二使徒定員会からの手紙, 2014年6月28日付
- 10.ジョセフ・スミス, *Elders' Journal*, 1838年7月, 44
- 11.2ニーファイ31:20
- 12.大管長会および十二使徒定員会からの手紙, 2014年6月28日付
- 13.ガラテヤ6:2



十二使徒定員会
リチャード・G・スコット長老

信仰を行使することを最優先とする

人生でどのような困難な問題に直面しようと、時間を取って積極的に信仰を行使しなければなりません。

アダムとエバがエデンの園にいたとき、日々の生活に必要なものは全て十分に与えられていました。困難な状態や難しい問題はなく、苦しみもありませんでした。不幸な思いをしたことがまったくなかったため、幸せになれることを知りませんでした。動揺したことが一度もなかったため、平安を感じる事ができませんでした。

後にアダムとエバは、善悪を知る木の実を食べるという命令に背いたため、罪のない状態ではなくなりました。事物には反対のものがあるという原則を、身をもって知るようになったのです。健康を損なう病を経験し、喜びとともに悲しみも味わうようになりました。

アダムとエバが禁断の実を食べたために、善悪の知識が世にもたらされました。彼らがこの選択をしたことで、人はこの地上に来て試されるようになりました。¹ わたしたちには選択の自由という祝福が与えられました。物事を自分で決めることができるようになり、決めたことに対して責任を負うようになったのです。この「墮落」の結果、人は人生で幸せと悲しみの

両方を味わうことができるようになりました。動揺を感じるようになったので、平安を理解することができるようになりました。²

天の御父は、このような変化が人に起こることを御存じでした。これは全て、御父の完全な幸福の計画に含まれているのです。御父は、完全に従順な御子であり救い主であられるイエス・キリストの生命と、主の贖罪によって、人が死すべき世で経験するあらゆる困難を克服する道を備えてくださいました。

わたしたちは困難な時代に生きています。この世にある悪の根源を全て列挙する必要はないでしょう。この死すべき世の一部として経験する困難な問題や苦悩を全て説明する必要はありません。人は誰でも、誘惑に立ち向かおうとする自分自身の戦いや苦しみ、そして悲しみがあることをよく知っています。

わたしたちがこの世に来る目的は、試しを受けて成長することであると前世で教わりました。³ 敵対する者の悪に直面することを知っていました。わたしたちはときどき、死すべき世に関する積極的な面より

も消極的な面に気づきやすいと感じるかもしれません。預言者リーハイはこう教えています。「それは、すべての事物には反対のものがなければならないからである。」⁴ 人生でどのような困難な問題に直面しようと、時間を取って積極的に信仰を行使しなければなりません。そのように信仰を行使すると、イエス・キリストの贖罪の力という完全で信仰に満ちた力を生活に招き入れることができます。

天の御父は、わたしたちがキリストのもとに来て、主の贖罪に対する信仰を働かせる助けとなる手段を与えてくださいました。その手段が基本的な習慣になると、死すべき世の困難な問題に遭って平安を見いだすための最も容易な方法となります。今日わたしは、そのような手段を4つ選びました。これから話すことに従って、それぞれの手段を自分がどのくらい活用しているかをよく考え、さらに有効に活用するにはどうしたらよいか分かるように主に導きを求めてください。

祈り

第1の手段は祈りです。天の御父と頻繁に話すようにしてください。毎日時間を作って、考えていることや感じていることを御父にお伝えするのです。心配していることを全て話してください。御父はあなたの生活のまったくありふれたことにも、とても大切なことにも、関心を持っておられます。感じていることや経験していることを何でも話してください。

天の御父は選択の自由を尊重しておられるので、御父に祈ることを強制されません。でも、その選択の自由を行使し、生活のあらゆる局面で御父の導きを求めるなら、あなたは心地よい平安に満たされ始めるでしょう。そのような平安があると、悩みを永遠の観点から見ようになり、その観点から困難な問題に対処できるようになるのです。

親である皆さん、朝と夜に家族の祈りの力で子供たちに武具を身に付けさせ、



彼らを守る手助けをしてください。子供たちは毎日、情欲、物欲、高慢、その他多くの罪深い行いなどの悪の攻撃にさらされています。家族で祈ることを通して注がれる力強い祝福によって、日々の世の影響力から子供たちを守ってください。家族の祈りは、日々の生活の中で妥協する余地のない最優先事項とするべきです。

聖文研究

第2の手段は、聖文にある神の言葉と、生ける預言者の言葉を研究することです。わたしたちは祈りを通して神に話し掛けます。ほとんどの場合、神は書き記された御自身の言葉を通してこたえてくださいます。神の声がどのように聞こえ、どのように感じるかを知るために、聖文を研究し、聖文について深く考えてください。⁵ 聖文研究を毎日の生活の中でなくてはならないものとしてください。子供たちが御霊の促しに気づき、それを理解し、その促しに従って行動するようになってほしいと願うなら、親は子供と一緒に聖文を研究

しなければなりません。

聖文を研究する時間がないなどというサタンの欺きに屈してはなりません。聖文を研究するための時間を取ってください。神の言葉を毎日よく味わうことは、睡眠や学校、仕事、テレビ番組、コンピューターゲーム、ソーシャルメディアよりも大切です。神の言葉を研究する時間を取るために優先順位を見直す必要があるかもしれません。もしその必要があれば、見直してください!

日々の聖文研究に伴う祝福について、多くの預言者が約束しています。⁶

この約束に、わたしの^{あかし}を付け加えましょう。毎日時間を取って個人でも家族でも神の言葉を研究するなら、皆さんの生活に平安が満ちるでしょう。平安は、外の世界から来るものではありません。それは、皆さんの家庭から、皆さんの家族から、皆さん自身の心から来るのです。これは、御霊の賜物です。その平安は皆さんから発散し、周囲の人々に影響を与えます。皆さんは、世に平安を増し加え

るという、非常に大切なことを行っているのです。

皆さんの生活から困難な問題がなくなると言っているではありません。思い出してください。アダムとエバが園にいたとき、困難な問題はありませんでした。幸せも喜びも平安も経験することができませんでした。⁷ 困難な問題は死すべき世の大切な部分です。日々たゆまず聖文を研究することによって、皆さんは不安な状況の中で平安を見だし、誘惑に対抗する強さを見いだします。神の恵みに対する強い信仰を育み、イエス・キリストの贖罪によって、神の定められたときに、全ての事物が正されることを知るでしょう。

家庭の夕べ

家族を強め、家庭に平安を増し加えようと努力する際に、第3の手段である、毎週の家庭の夕べを忘れてはなりません。家庭の夕べを忙しい1日の単なる付け足しにしないように注意してください。月曜の夜は、その夕べのために家族全員が皆家庭に戻る決心をしてください。家庭で家族と一緒に過ごす時間よりも大切になるような仕事、スポーツ、クラブ活動、宿題、その他の予定を入れないようにしま

しょう。

家庭の夕べの内容はともかく、家族で時間を共にすること、それこそが大切なことです。福音は改まった状況でも、打ち解けた状況でも教えるべきです。家族の誰にとっても有意義な経験となるようにしてください。家庭の夕べは安心して証を述べることのできる貴重な時間です。そこでわたしたちは教えること、計画すること、組織的に行動する技術を学びます。家族のきずなを強めます。家族の伝統を育みます。家庭内でお互いに話し合います。そして何よりも大切なのは、すばらしい時間を一緒に過ごすことです！

今年4月の大会でリンダ・S・リーブズ姉妹はこう断言しました。「わたしは毎日の聖文研究と祈り、それに毎週の家庭の夕べから受ける祝福を自分と夫の経験から知っているの、証しなければなりません。これらを実行することによってストレスから解放され、家庭に導きを受け、家庭に一層の守りをもたすことができます。」⁸ リーブズ姉妹は非常に聡明な女性です。これまで述べた3つの非常に重要な習慣について自分自身の証を得るよう皆さんに強く勧めます。

神殿参入

第4の手段は神殿参入です。この地上における神の神殿ほど平安を感じることのできる場所は他にないことをわたしたちは皆知っています。神殿推薦状を所持していない人は、ふさわしさを身につけて、神殿推薦状を取得してください。推薦状を取得したら、度々それを使ってください。⁹ 定期的に神殿に参入するように予定を立ててください。誰にも、そして何事にも神殿に行くことを妨げさせてはなりません。

神殿にいる間、儀式の言葉に耳を傾け、それについて深く考え、祈り、その意味を理解するように努めてください。神殿は、イエス・キリストの贖罪の力を理解するのに最適な場所の一つです。神殿で主を求めてください。自分の先祖の名前を携えて神殿に行くと、さらに多くの祝福が注がれることを忘れないでください。

この4つの手段は、イエス・キリストの贖罪の力の中で生活を守るために必要な基本的な習慣です。救い主が平和の君であられることを忘れないでください。この死すべき人生における平安は、救い主の贖いの犠牲^{あがな}によってもたらされます。たゆまず朝晩祈り、日々聖文を研究し、毎週家庭の夕べを開き、定期的に神殿に参入するとき、わたしたちは「わたしのもとに来なさい」という主の招きに積極的に応じていることとなります。わたしたちがこれらの習慣を育めば育むほど、サタンはわたしたちを損なおうとますます躍起になりますが、その力は次第に弱まります。これらの手段を使うことによって、わたしたちは選択の自由を行使し、主の贖いの犠牲のあらゆる賜物を受けることができるようになるのです。

これらのことを行うことによって、人生の悩みが全て解決すると言っているではありません。わたしたちがこの死すべき世に来たのは、試されることによって成長するためです。困難な問題を通してわたしたちは天の御父に似た者になること



メキシコ、クアウテモク



ができ、イエス・キリストの贖罪のおかげで、人は困難な問題を堪え忍ぶことができます。¹⁰ 積極的に主のもとに行くなら、わたしたちはあらゆる誘惑と苦悩、そして直面するあらゆる困難な問題を堪え忍ぶことができます。そのことをイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■

注

1. モーセ5:11 参照
2. モーセ4-5 章参照
3. アブラハム3:25 参照
4. 2 ニーファイ2:11
5. 教義と聖約18:36 参照。34-35 節も参照
6. 例えば、以下のような約束がある。

トーマス・S・モンソン大管長は次のように述べている。「聖文を読んで深く考えるとき、御霊が優しくささやきかけてくださるのを経験します。疑問に対する答えを見つけることができます。神の戒めを守ることからもたらされる祝福について学びます。天の御父と救い主イエス・キリストについて、そして御二方がわたしたちに寄せられる愛について確かな証を得ることができます。さらに祈りが加われば、イエス・キリストの福音が真実であることを確かに知ることができます。…… 祈りを忘れず、時間を取って聖文を調べるなら、わたしたちの生活ははるかに祝福され、重荷は軽くされます。」(「決して独りで歩いているのではない」『リアホナ』2013年11月号, 122)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように述べている。「わたしは皆さんに、何のためらいもなくはっきりと約束します。これまで何度読んだかに関係なく、皆さん一人一人がこの簡単なチャレンジを実行するなら、皆さんの生活や家庭の中に、さらに豊かに主の御霊が注がれるようになるでしょう。そして、主の戒めに従って歩もうとする決意が強められ、神の御子が確かに生きておられることがさらにはっきりと分かるようになるでしょう。」(「力強い、真実の証」『リアホナ』2005年8月号, 6)

ハワード・W・ハンター大管長は次のように述べている。「賢い父、母が子供たちを集め、と

もに聖典を読み、その物語や思想をそれぞれの理解力に応じて自由に話し合うとき、家族は大きな祝福を受けます。しばしば青少年や小さな子供たちが宗教の基本的な教えに関してはとっとするような理解や洞察を示すことがあるのです。」(「聖典を読む」『聖徒の道』1980年3月号, 88)

エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように述べている。「わたしたちはよくステーキでの活動のレベルを高めようと、大変な努力をします。また聖餐会の出席率を上げるために一生懸命働きかけます。さらに宣教師の数や神殿結婚の数を増やそうと努力します。もちろんこうした努力は立派なことですし、王国の発展のために大切なことです。けれども、もし各個人や家族が定期的に続けて熱心に聖典を読むならば、これらのさまざまな領域の活動は自動的に成し遂げられます。もっと証が深まり、人々はさらに熱心に参加するようになるでしょう。家族が強められ、個人のうに啓示が注がれることでしょう。」(「み言葉の力」『聖徒の道』1986年7月号, 81)

スペンサー・W・キンボール大管長は次のように述べている。「神との関係をなおざりにしているとき、また神がわたしの祈りに耳を傾けられず、わたしに話し掛けてくださらないと思えるとき、神からかなり遠くに離れていることが分かります。そのようなとき、もし聖文に没頭するなら、神との距離は縮まり、霊性が戻って来ます。心と思いと力を尽くして愛さなければならぬ御方をさらに強く愛するようになります。そして聖文を愛すれば愛するほど、聖文の勧告に従うのがさらに容易になります。」(「歴代大管長の教え」スペンサー・W・キンボール』66-67)

マリオン・G・ロムニー大管長は次のように述べている。「家庭にあって両親が、夫婦として、また子供を交えて家族として、ともに祈りをもって定期的にモルモン書を読むようにするならば、家庭の中はこの偉大な書物から湧き出る特別な力で包まれ、家族一人一人がその力強い影響を受けることでしょう。家庭の中はこれまで以上に敬虔な雰囲気^{敬虔な}に包まれ、一人一人が互いに尊敬し合い、関心を持つようになると思います。そしていがみ合うようなことがまったくなくなります。また両親は愛と知恵の中で子供たちを論ずようになり、子供たちは

以前にも増して両親の勧めに快く従うようになります。義は増し加えられ、信仰と希望、キリストの純粋な愛が家庭や日常生活に満ちて、平和と喜びと幸福がもたらされることでしょう。」(「モルモン経」『聖徒の道』1980年9月号, 102)

ボイド・K・バックナー会長は次のように述べている。「真実の教義を理解するならば、態度と行動が変わります。人の行いは、行動について研究するよりも、福音の教義を研究した方が早く改善されるのです。」(「恐れてはならない」『リアホナ』2004年5月号, 79)

デビッド・A・バドナー長老は次のように述べている。「1回1回の家族の祈り、1回1回の家族の聖文学習、1回1回の家庭の夕べが、心のキャンパスに描かれた1本の線なのです。心を打ち記憶に残る出来事などないように思えるかもしれませんが、黄色や、金色や、茶色の絵の具で描いた1本1本が補い合って印象的な傑作を生み出すように、一見取るに足りないことを一貫して行うことで、意義深い霊的な実が得られるのです。」(「家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わる」『リアホナ』2009年11月号, 19)

7. ニーファイ2:13 参照
8. リンダ・S・リーブズ「ボルノグラフィーからの保護—キリストを中心とする家庭」『リアホナ』2014年5月号, 16
9. ハワード・W・ハンター大管長は、次のように述べている。「この精神の下に、末日聖徒の皆さんが主の神殿を教会員であることの崇高な象徴とするようにお勧めします。わたしの心からの願いは、全ての教会員が神殿に参入するふさわしさを身につけることです。全ての成人教会員が有効な神殿推薦状を受けるにふさわしくあり、しかもそれを所持するなら、主は喜ばれることでしょう。神殿推薦状を得るためにすべきこととすべきでないことは、わたしたちが個人として、また家族として、幸福になるのを約束する事柄でもあるのです。」(「尊く、大いなる約束」『聖徒の道』1995年1月号, 9-10)
- 10.2 ニーファイ2:2 参照



七十人
カルロス・A・ゴイ長老

主はわたしたちのために 計画をお持ちです

今のままの生活を続けていたら、約束されている祝福は成就する
でしょうか。

総 大会で話者が自分の母国語で話すことを選べる、歴史的な瞬間に立ち会えることは何という特権でしょう。前回この壇上で話したときは、英語のなまりが心配でしたが、今日はポルトガル語のスピードが心配です。映し出される字幕よりも速く話しすぎないようにしたいと思います。

わたしたちのだけれども、過去に大きな決断の瞬間を迎えたことがあるでしょうし、あるいはこれから迎えるでしょう。どちらの仕事を選ぶべきか、伝道に行くべきか、この人は結婚するにふさわしい人かといった決断です。

このように、人生のさまざまな場面において、ほんのわずかな方角の違いが、将来の重大な結果に結びつきます。ディーター・F・ウークトドルフ管長の言葉によれば「何年にもわたって主に仕え……てわたしが学んだのは、ほんの小さな誤りが、しばしば個人、結婚、家族に幸福と悲劇のどちらをもたらすかを定める分かれ道になるということです。」（「わずかな誤差」『リアホナ』2008年5月号、58）

では、どうしたらこのようなわずかな誤差を避けられるのでしょうか。

わたし個人の経験を用いて、今日のメッセージをお伝えしたいと思います。

1980年代の終わり、わたしの家族にはわたしと妻のモニカ、そして今いる4人の子供のうち2人がいました。ブラジルのサンパウロに住み、よい会社に勤めています。



した。わたしは大学の学業を終え、かつて住んでいた地域のワードのビショップを解任されたばかりでした。全てが順調で、何の問題もなく思えました。それがある日、昔の友人の訪問を受けて、変わったのです。

帰り際に、友人から投げかけられた一言と質問で、わたしの思いは一変しました。彼は「カルロス、君自身も、家族も、仕事も、教会の責任も、何もかもうまくいっているようだね。でもね」と言った後、このように尋ねたのです。「もし君が今と同じ生活を続けたとしたら、君の祝福師の祝福で約束されている祝福は成就するだろうか。」

わたしは自分の祝福師の祝福についてそのように考えたことはありませんでした。折に触れて読んではいましたが、将来に約束されている祝福に目を向けて、自分が現在どのように生きているかを評価しながら読んだことはなかったのです。

友人と話した後、わたしは自分の祝福師の祝福に意識を向け、「もし自分たちが今のままの生活を続けていたら、約束されている祝福は成就するだろうか」と考えました。しばらく思い巡らした後、特にわたしの教育と仕事に関して、改善する必要があると感じました。

これは、何が正しく何が間違っているかという選びではなく、何が良く、何がより良いかという選びでした。ダリン・H・オークス長老は次のように語っています。「さまざまな選択肢を考慮するとき、『良い』というだけでは不十分であることを覚えておく必要があります。『より良い』選択肢もあれば、『最も良い』選択肢もあるのです。」（「良いこと、より良いこと、最も良いこと」『リアホナ』2007年11月号、105）

では、自分が最も良いことを選んでいることを、どのように確信できるのでしょうか。

わたしが学んだ原則を紹介しましょう。



原則 1—最終的な目標を思い描きながら、選択肢を検討する必要がある

わたしたちの人生や、愛する人々に影響を与えるような決断をする際、その決断によってどのような結果がもたらされるかについて、より広い視野を持たなければ、危険が伴います。しかし、その決断によって将来起こり得る結果を考えるなら、現時点でどれが最も良い道かが、さらにはっきりと見えてきます。

自分が何者であり、なぜここにいるのか、主はこの世でわたしたちに何を期待しておられるかを理解することによって、わたしたちに必要な、より広い視野が与えられます。

聖文の中には、より広い視野を持つことによってどの道を選ぶべきかがはっきりと示された例が出てきます。

モーセは顔を合わせて主とお話しし、救いの計画について学ぶことにより、イスラエルの集合を担う預言者としての自分の役割を、さらによく理解することができました。

「神はモーセに言われた。『見よ、わたしは全能の主なる神であり、……

わたしはあなたに、わたしの手で造られたものを見せよう。……

わたしはあなたに一つの業を用意している。』」(モーセ 1:3-4, 6)

これを理解することで、モーセは荒野で何年にも及ぶ艱難に堪え、イスラエルを祖国に導き戻すことができたのです。

モルモン書の偉大な預言者リーハイは、夢を見ました。その示現の中で、自分には家族を約束の地へ導く使命があることを知りました。

「そして、主は夢の中で父に、家族を連れて荒野へ出て行くように命じられた。

……父は自分の家や受け継ぎの地、金や銀、貴重品を後に残し……た。」(1ニーファイ 2:2, 4)

リーハイは、居心地よいエルサレムでの生活を捨てて、旅する中でさまざまな困難に遭っても、この示現に忠実であり続けました。

預言者ジョセフ・スミスはもう一人の偉

大な模範です。最初の示現をはじめとする多くの啓示を通して、あらゆるものを回復するという自分の使命を果たすことができました(ジョセフ・スミス—歴史 1:1-26 参照)。

では、わたしたちはどうでしょうか。主はわたしたち一人一人に何を期待しておられるのでしょうか。

それを理解するのに天使に会う必要はありません。わたしたちが導きを得て決断するために、聖文や神殿、生ける預言者、祝福師の祝福、靈感を受けた指導者、そして何よりも、個人の啓示を受ける権利が与えられています。

原則 2—やがて来る試練に備える必要がある

人生の最も良い道が最も平坦な道であることはめったになく、逆に、その反対であることがほとんどです。今わたしがお話しした預言者の模範に目を向けることができます。

モーセもリーハイもジョセフ・スミスも、



正しい決断をしましたが、平坦な道は歩みませんでした。

わたしたちは自分の決断に対して、進んで代価を払おうとしているのでしょうか。より良い場所にたどり着くために、慣れ親しんだ場所を後にする用意はできているのでしょうか。

わたしの祝福師の祝福の経験に話を戻しましょう。当時わたしは、さらに教育を受けるためにアメリカの大学の奨学金を申請すべきだという結論にたどり着きました。もし認められれば、仕事をやめ、持ち物全てを売り払い、アメリカに渡り、そこで2年間、奨学金を受けて学生として暮らすことになります。

TOEFL(トーフル)やGMAT(ジーマツト)(訳注——いずれも、アメリカの大学に留学する際に必要なテスト)などのテストが、最初に克服すべき試練になりました。3年という長い月日を準備に費やし、多くの大学から断られたり、可能性はあると言われたりし続けた後、ようやくある大学から許可をもらいました。3年目の終わりに、奨学金の担当者から受けた電話は今も忘れられません。

彼はこう言いました。「カルロスさん、いいニュースと悪いニュースがあります。いいニュースは、あなたが今年の最終選考の3人に選ばれたということです。」その年選ばれるのは、1人だけでした。「悪いニュースは、3人のうちの1人は、ある重要人物の息子で、もう1人も別の重要人物の息子さんです。そして、もう1人が

あなたです。」

わたしはとっさに答えました。「わたしは……神の息子ですよ」と。

幸い、この世の父親の七光りは効かなかったようで、わたしはその年、1992年の奨学生として選ばれました。

わたしたちは全能なる神の子供です。神はわたしたちの御父であり、わたしたちを愛し、わたしたちのための計画をお持ちです。わたしたちがこの世に生きているのは、ただ時間を無駄にし、年を取って死ぬためではありません。神はわたしたちが成長し、その可能性を最大限発揮するように望んでおられます。

トーマス・S・モンソン大管長は次のように語りました。「独身であるか結婚しているかに関わりなく、また年齢に関係なく、皆さん一人一人には学び成長する機会が与えられています。神から受け継いでいる可能性を最大限に発揮するために、知的にも霊的にも知恵を増し加えてください。」(『扶助協会の偉大な力』『聖徒の道』1998年1月号, 117)

原則3—このビジョンを、愛する人々と共有する必要がある

リーハイは、家族が選ぼうとしていた変化の大切さについてレーマンとレムエルが理解できるように何度も助けようとなりました。二人は父親の抱いていたビジョンを受け入れなかったため、旅の途中で何度もつぶやきました。一方、ニーファイは、父親が見たものを自分も見たいと思い、

主に願い求めました。

「わたしニーファイは、父が示現の中で見たこと……について、父の言葉をすべて聞いた後、わたし……もまた、聖霊の力によってこのようなことを見聞きし、また知りたかった。」(1ニーファイ10:17)

このビジョンがあったので、ニーファイは旅の試練を乗り越えられただけでなく、必要なときには家族を導くこともできたのです。

ほとんどの場合、わたしたちがある道を選ぶと決心するとき、わたしたちの愛する人々もその影響を受けます。その決断によって、わたしたちと同じ結果を身に受ける人もいます。いつもそうなるとは限りませんが、理想としては、その人々もわたしたちと同じビジョンと確信を持てるなら、旅はずっと容易になります。

先ほどお話ししたわたし自身の経験では、間違いなく妻の支えが必要でした。子供たちはまだ幼く、何か意見を言うことはありませんでしたが、わたしの妻の助けが不可欠でした。まず、妻のモニカが安心して決断できるまで、今後の計画の変更について二人でじっくり話し合う必要があったことを覚えています。ビジョンを分かち合うことによって、彼女はその変化を支えてくれるだけでなく、成功させるために不可欠な存在になりました。

この世で生活するわたしたちのために、主が計画をお持ちであることを知っています。主はわたしたちを御存じです。わたしたちにとって最も良いものは何かを御存じです。時折、全てが順調なときでも、もっと良い何かがあるのではないかと考える時間を取る必要があります。今のままの生活を続けていたら、約束されている祝福は、成就するのでしょうか。

神は生きておられ、わたしたちの御父であります。救い主イエス・キリストは生きておられます。主の贖いの犠牲によって、わたしたちは日々受ける試練を乗り越える力を見いだせると知っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



七十人
アラン・F・パッカー長老

家族の記録の書

家族歴史と神殿活動は、わたしたち個人の日常的な礼拝の一部となるべきです。

12 歳のボーイスカウト隊員だった頃、ずっと欲しかったスカウト用品を贈り物としてもらいました。それは厚い革製のカバーがついた手斧おのでした。次の夜通し歩くナイトハイクおののとき、わたしたちは日が沈んだ後で野営地に到着しました。深い雪道を歩いたせいで体が濡れ、冷え切っていました。わたしはごうごうと燃える大きなき火を作ることしか考えられませんでした。すぐさま新しい手斧を使って倒木を細かく切り始めました。木を切りながら、わたしはいらだててきました。手斧の切れ味が良いとは思えなかったからです。いらいらしながら、さらに力を入れて木を切りました。落胆しつつ、ほんの数本の薪を持って野

営地に戻ると、誰かがおこした火のおかげで、木を切れなかった原因が分かりました。手斧のカバーを外していなかったのです。その代わりに、カバーがすっかりずたずたに破れていました。ここから得た教訓は「他のことに注意を奪われているとこうなる」ということです。

昇栄に向かって努力するとき、わたしたちは全ての必要条件に取り組まなければならない。一つか二つの条件や、関係ない他の事柄に集中し、注意がそれるようなことがあってはなりません。神の国を求めることは、喜びや幸福につながります。¹ 必要であれば、わたしたちは喜んで変わる必要があります。小さな修正を頻繁に行う方が大きな軌道修正よりも痛み

や混乱が少なく済みます。

つい先頃、わたしとパッカー姉妹は数か国を訪問しました。パスポートとその他の書類を用意し、予防接種や健康診断を受け、入国ビザや必要な証印などをそろえました。現地に到着すると書類が詳しく調べられ、必要条件を全て満たしていると入国が許されました。

昇栄の資格を得るのは、外国に入国するのに似ています。それぞれ自分の霊的なパスポートを取得しなければなりません。わたしたちは必要な条件を定めるのではなく、一人一人が全ての必要条件を満たさなければなりません。救いの計画には、**全ての**人にとって昇栄の資格を得るために必要な全ての教義、律法、戒め、儀式があります。² それから「〔イエス・〕キリストの贖罪しよくざいにより、全人類は……救われ得る」³ のです。教会は支援しますが、わたしたちの代わりに行うことはできません。昇栄の資格を得ることは、わたしたちが生涯をかけて目指す目標となります。

キリストはわたしたちを助けるために御自身の教会を組織されました。主は15人の男性を召され、わたしたちは彼らを、教会を導き、人々を教える預言者、聖見者、啓示者として支持します。大管長会⁴ と十二使徒定員会⁵ は等しい力と権能を持ち、⁶ 前任使徒は大管長に任命されます。彼らを助けるために七十人が召されます。⁷ 教会の指導者が昇栄のための必要条件を定めたわけではありません。神が定められました。これらの指導者は、わたしたちが正しい道にとどまれるように教え、説き明かし、勧め、さらには警告さえもするために召されています。⁸

教会手引きにはこう説明されています。「教会は、個人と家族が昇栄する資格を得るよう助けるという目的を果たすため、神が定められた責任を果たすことに焦点を絞っている。これらの責任には、イエス・キリストの福音に従って生活するよう会員を助けることや、伝道活動を通じてイスラエルを集めること、貧しい人や助けの必要





な人の世話をすること、神殿を建設し、身代わりの儀式を行うことによって死者が救いを得られるようにすることが含まれる。」⁹ この4つの焦点と他の全ての律法、戒め、儀式は必要条件であり、取捨選択の対象ではありません。イエス・キリストの贖いを通して、そしてこれらの焦点の一つ一つを実行することにより、わたしたちは霊的なパスポートに必要な証印を加えていくのです。

この大会の間、わたしたち全員がよりよく備えるのに役立つ数々の変化について教えを受けています。

家族は救いの計画において中心を成すものです。だからこそ、「偉大な幸福の計画」¹⁰ とも呼ばれるのかもしれませんが。ボイド・K・バッカー会長はこう述べています。「教会における全ての活動の最終的な目的は、男性とその妻とその子供たちが家庭で幸せになれるようにすることです。」¹¹

スペンサー・W・キンボール大管長はこのように語りました。「個人的にも教会全体としても、わたしたちの成功はおもに、家庭で福音を実践することによってどの程度忠実に取り組んでいるかによって決まるのです。」¹² 神殿と家族歴史活動は、家庭で福音に従って生活する方法の一部であり、教会の活動である以上に家族の活動であるべきです。

大管長会と十二使徒定員会は、家族歴

史と神殿活動について改めて強調しています。¹³ この強調点を実践するなら、皆さん自身と皆さんの家族に、一層大きな喜びと幸福がもたらされることでしょう。

教義と聖約にはこうあります。「主の大いなる日は近づいています。……したがって、わたしたちは教会として、また民として、また末日聖徒として、義をもってささげ物を主にささげましょう。また、主の聖なる神殿〔に〕……わたしたちの死者の記録を載せた、そのまま受け入れるに値する書を……ささげましょう。」¹⁴

この家族の記録の「書」は、教会のファミリーツリーデータベースに保存されている名前と儀式の記録を使って用意されることになります。

わたしはこのデータベースを調べ、記録を追加しています。愛する家族全員の名前を記録の書に載せたいからです。皆さんも同じではないでしょうか。

教義と聖約128章にはこう書かれています。「〔わたしたちの先祖〕なしにはわたしたちが完全な者とされることはなく、またわたしたちなしには彼らが完全な者とされることはないのです。」¹⁵

家族歴史とは、系図とそれに関するきまりごとや、名前や日付や地名以上のものであり、過去に目を向けること以上のものです。わたしたち自身の歴史を記すとき、家族歴史に現在も含まれます。子孫を通して未来の歴史を作るとき、未来が含まれ

ていきます。例えば、子供に家族のエピソードを語り、写真を見せる若い母親は、家族歴史活動を行っているのです。

聖餐を受け、集会に出席し、聖文を読み、個人の祈りを行うのと同じように、家族歴史と神殿活動は、わたしたち個人の日常的な礼拝の一部であるべきです。預言者の勧めに対する青少年やその他の人々の姿は、わたしたちを鼓舞し、あらゆる年齢層の全ての会員がこの業を行う能力と義務があることを示しています。

クエンティン・L・クック長老が説明しているように、今や教義と、神殿と、テクノロジーがあります。¹⁶ この業は今では非常に簡単に行えるようになっていて、あとはこの業を優先する会員が増えさえすればよいのです。今でも時間と犠牲は必要ですが、誰でも行うことができ、ほんの数年前と比べても簡単になっています。

会員を支援するために、教会は記録を集め、ツールを提供して、この業の多くを各家庭やワード、そして神殿で行えるようにしました。ほとんどの障害が取り除かれています。これまでの認識がどうであれ、今の家族歴史活動は以前とは違います。

それでも、教会に取り除けない障害があります。それは、この業を行うことに対する個人のためらいです。必要なのは決意とわずかな努力です。長時間の作業は必要ありません。ほんの少し時間を使っ

て継続的に取り組みさえすれば、この業を行う喜びが湧いてきます。決意をして一歩踏み出し、方法を学び、支援を求めてください。必ず誰かが助けてくれます。皆さんが探し出して神殿に持って行く名前が、家族の記録の「書」¹⁷となるのです。

この業に携わる会員が著しく増えていますが、それでも自分の家族のために定期的に名前を探し出し、神殿の儀式を行っている会員は比較的少ないことが分かっています。¹⁸ **わたしたちの優先順位を変える必要があります。**この変化に抵抗せず、受け入れてください。変化は偉大な幸福の計画の一部です。

この業を行う必要があります。教会のためではなく、死者とわたしたち自身のためにです。わたしたちも、亡くなった先祖も、霊的なパスポートに証印をもらう必要があるのです。

世代を超えて家族を「結合」¹⁹ させることは、神殿における結び固めの儀式を通してのみ可能です。手順は簡単です。**先祖の名前を探し出して神殿に持って行くのです。**やがて、他の人の活動も手伝えるようになるでしょう。

わずかな例外を除いて、これは誰でも——**誰でも**——できます。

この業には確かな祝福が伴います。多くの親や指導者が、今の世界の状況や、それが家族や青少年に及ぼす影響について心配しています。

デビッド・A・ベドナー長老は次のように約束しています。「わたしは教会の若い人々に、エリヤの霊について学び、経験するよう勧めます。……わたしは約束します。皆さんはますます強まるサタンの影響から守られるでしょう。この聖なる業に参加し、これを大切にすると、青少年の時代にも生涯にわたっても守られるでしょう。」²⁰

兄弟姉妹の皆さん、今こそ手斧のカバーを取り外し、この業のために働く時です。あまり大切な事柄のために自分

や家族の昇栄を犠牲にはなりません。

この業は、会員であるかないかを問わず、老若男女を問わず、全ての人によって行われる神の業です。

最後に、賛美歌 324 番を、歌詞を少し変えて読みます。

立て、神の聖徒よ！

小さきこと行え。

心、精神、思い、力さざげ

王の王に仕えよ。²¹

イエス・キリストこそが、その王です！この御方についてわたしは証^{あかし}します。イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。■

注

2. ニューファイ 2:22 - 25; 9:18; モーサヤ 2:41 参照
- 『聖句ガイド』『贖いの計画』の項参照; scriptures.lds.org
- 信仰箇条 1:3
- 教義と聖約 107:22 参照
- 教義と聖約 107:23 参照
- 教義と聖約 107:24 参照
- 教義と聖約 107:25 - 26 参照
- 『聖句ガイド』『大管長会』『使徒』『七十人』の項参照; scriptures.lds.org
- 『手引き 第2部—教会の管理運営』(2010年) 2.2
- アルマ 42:8 参照
- ボイド・K・バックナー「証人」『リアホナ』2014年5月号, 95
- スベンサー・W・キンボールの言葉。L・トム・ベリー「弟子となること」『リアホナ』2001年1月号, 72 参照
- トーマス・S・モンソン「業を速める」『リ

アホナ』2014年6月号, 4-5; ヘンリー・B・アイリング「心を向けるという約束」『リアホナ』2014年7月号, 4-5; ラッセル・M・ネルソン, “It All Starts with Love” (ビデオ), lds.org/prophets-and-apostles/unto-all-the-world/it-all-starts-with-love; ラッセル・M・ネルソン, “Adding ‘Family’ to Family History Work” (ビデオ), lds.org/prophets-and-apostles/unto-all-the-world/adding-family-to-family-history-work; ラッセル・M・ネルソン「先祖と愛によって結ばれる」『リアホナ』2010年5月号, 91-94; リチャード・G・スコット「死者を贖う喜び」『リアホナ』2012年11月号, 93-95; クエンティン・L・クック「根と枝」『リアホナ』2014年5月号, 44-48; デビッド・A・ベドナー「子孫の心は向かうであろう」『リアホナ』2011年11月号, 24-27; ニール・L・アンダーセン, “A Classroom of Faith, Hope, and Charity,” (教会教育システム宗教教育者への講話), lds.org/broadcasts; ニール・L・アンダーセン, “Find Our Cousins,” (ルーツテック・ファミリー・ヒストリー・カンファレンスにおける講話, 2014年2月8日), lds.org/prophets-and-apostles/unto-all-the-world/find-our-cousins

14. 教義と聖約 128:24
15. 教義と聖約 128:18
16. クエンティン・L・クック「リアホナ」2014年5月号, 44-48 参照
17. 教義と聖約 128:24
18. クエンティン・L・クック「リアホナ」2014年5月号, 44-48 参照
19. 教義と聖約 128:18
20. デビッド・A・ベドナー「子孫の心は向かうであろう」『リアホナ』2011年11月号, 26, 27
21. “Rise Up, O Men of God,” *Hymns*, 324 番





七十人
ヒューゴ・E・マルチネス長老

個人的に愛をもって仕える

わたしたちが何らかの方法で助けることのできる人々の必要に気づくには、イエス・キリストの愛を指針とする必要があります。

末日聖徒 イエス・キリスト教会では、奉仕の機会と祝福が与えられます。わたしは会員として、これまで様々な方法で奉仕をしてきました。エンリケ・R・ファラベラ長老のお父さんのウディネ・ファラベラ兄弟が言っていたように、「奉仕する人は役に立つ人、奉仕しない人は役に立たない人」です。この言葉を覚え、心に留める必要があります。

わたしはこれまで、奉仕をする際に導きを求める度に、救い主が個人と家族に目を向けておられることを思い出し、慰めを得てきました。個人に向けられた主の愛と優しいまなざしは、主が天の御父の子ら一人一人に大きな価値を認めておられること、そしてイエス・キリストの福音によって一人一人に愛をもって仕え、彼らを強める必要があることを教えてくれました。

聖文にはこう記されています。

「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。

あなたがたは……生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。」¹

神の目から見てすべての人には大きな

価値があります。なぜなら、わたしたちは神の子であり、神のようになる可能性を持っているからです。²

わたしたちが何らかの方法で助けることのできる人々の必要に気づくには、イエス・キリストの愛を指針とする必要があります。主イエス・キリストの教えは、道を示してくれます。それこそが、わたしたちが個人的に愛をもって仕えるための第一歩です。まず必要に気づき、必要を満たすので

す。中央扶助協会会長のリンダ・K・バートン姉妹はこのような言っています。「まず気づき、それから仕える。」³

トーマス・S・モンソン大管長はこの原則のすばらしい模範です。2005年1月に大管長がプエルトリコの神権指導者大会を管理したときに、救い主とその僕たちが個人的に愛をもって仕えることを通して奉仕する手本を示してくれました。すばらしい集会の後、モンソン大管長は出席していたすべての神権指導者と挨拶を始めました。ふいに、大管長は遠くから一人でこの様子を眺めている人がいるのに気づきました。

モンソン大管長はその場を離れ、その兄弟に歩み寄って話しかけました。ホセ・R・サヤス兄弟は感極まり、大管長が自分のもって来てくれたことは奇跡であり、自分と妻のヨランダが集会の前にささげた祈りの答えだったと言いました。サヤス兄弟はモンソン大管長に、娘の健康状態が悪いことと、妻からモンソン大管長への手紙を託されていることを伝えました。サヤス兄弟は、忙しいモンソン大管長に手紙を渡すのは不可能だと妻に言っていたのです。モンソン大管長はこの話を聞き、手紙を受け取ると、黙って読





みました。それから、手紙をスーツのポケットに入れ、彼らの頼みを引き受けるとサヤス兄弟に言ったのです。

このようにして、その家族は主の僕を通して主イエス・キリストの影響を受けました。よいサマリヤ人のたとえの中で主が語られた言葉は、わたしたちにも向けられていると確信しています。「あなたも行って同じようにしなさい。」⁴

1998年9月21日、ハリケーン・ジョージがプエルトリコを襲い、甚大な被害をもたらしました。わたしは妻と5人の子供とともに家にとどまり、ひどい嵐とハリケーンによる強風を切り抜けました。わたしたちは、2週間水道と電気が使えない状態で過ごしました。

水が底をついたとき、水を手に入れるのはまだ困難でした。わたしは、貴重な水を提供することによって、愛をもって仕えてくれた兄弟たちや、優しく奉仕してくれた姉妹たちを決して忘れないでしょう。

ヘルマン・コロソ兄弟は水の入ったプラスチックタンクをトラックに積んで来てくれました。彼は、来てくれた理由をこう説明しました。「幼い子供さんたちには水が必要でしょう。」数日後、ノエル・ムノス兄弟とエルミニオ・ゴメス兄弟が3つの大きな水タンクをトラックに積んで来ました。彼らは不意に現れ、我が家の全ての瓶に飲料水を入れ、近所の人にも水を取りに来るように呼びかけてくれました。

わたしたちの祈りは、彼らが個人的に

愛をもって仕えてくれたことによってこたえられました。この3人の兄弟の表情には、イエス・キリストが抱いておられる愛が表れていました。また、彼らの奉仕、つまり彼らが個人的に愛をもって仕えてくれたおかげで、飲料水以上のものが生活にもたらされました。神のすべての息子娘にとって、自分に関心を寄せ、自分の福利に注意を払ってくれている人がいることを知ることは大切なことです。

天の御父と主イエス・キリストがわたしたち一人一人を個人的に御存じであることを証します。そのため、御二方はわたしたちの必要を満たし、わたしたちがあるべき姿に到達できるよう機会を与えてください。御二方は、道の途中にわたしたちを助けてくれる人々を置かれます。また、わたしたちは御二方の御手に使われる者となるときに、啓示により御二方から明らかにされる人々に仕え、彼らを助けることができます。

主イエス・キリストは、このような方法で天の御父のすべての子らに手を差し伸べられます。よい羊飼いは御自分のすべての羊を、一匹ずつお集めになりますが、その際、一人一人が選択の自由を正しく用いることで、それが成し遂げられるのです。まず、主の僕の声聞き、彼らから愛に満ちた奉仕の業を受けます。そして彼らは主の声に気づき、主に従います。そのように個人的に愛をもって仕えることは、バプテスマの聖約を守るうえで欠かせま

せん。

同様に、イエス・キリストの弟子として良い模範を示すことは、主の福音を伝える相手へ福音を紹介する最高の手紙になります。わたしたちが口を開いて回復されたイエス・キリストの福音を伝えるときに、わたしたちは「主の牧場の羊と群れの中の子羊を養う責任を与え」⁵られた羊飼いとなります。「弱い……純朴な」⁶、「人間をとる漁師」⁷になるのです。

わたしたちの奉仕と、個人的に愛をもって仕える業は、この地上に生きている人たちのためだけでなく、死者のためにもできます。今は霊界にいて、地上にいたときにイエス・キリストの福音の救いの儀式を受ける機会がなかった人たちのために行うことができます。また、日記を書き、家族歴史をつづることで、生者の心を先祖に向けてと同時に、「生者に対して」も生者の心に向けることができます。一世代ずつ、永遠のきずなで家族を結ぶのです。そうするときに、わたしたちは「シオンの山」の「救う者」⁸となります。

わたしたちには、神の御手に使われる者となる特別な機会があります。夫婦や家族、友人や仲間としてそうなることができます。それこそ、イエス・キリストの真の弟子として、個人的に愛をもって仕える業なのです。

「そして、すべての国民をその前に集めて、羊飼いが羊とやぎとを分けるように、彼らをより分け、

羊を右に、やぎを左におくであらう。

そのとき、王は右にいる人々に言うであらう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。

あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。』

そのとき、正しい者たちは答えて言うであらう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。

いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。

また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか。』

すると、王は答えて言うであらう、『あなたに言っておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』⁹

わたしたちがそれを実行できるよう、イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 18:10, 15, 強調付加
2. 『聖句ガイド』「人（霊を持つ存在としての）」の項：scriptures.lds.org 参照
3. リンダ・K・バートン「まず気づき、それから仕える」『リアホナ』2012年11月号, 78
4. ルカ 10:37
5. アレクサンダー・B・モリソン「キリストの群れを養う」『聖徒の道』1992年7月号, 14
6. 教義と聖約 1:23
7. マタイ 4:19
8. オバデア 1:21
9. マタイ 25:32-40



七十人

ラリー・S・ケーチャー長老

神聖なものを軽んじ ないようにしなさい

次のように自問することによって自分の選択を吟味〔してください〕。「わたしの選択はイエス・キリストの福音という豊かな土壌にしっかりと根ざしたものでしょうか。」

兄 弟姉妹の皆さん、わたしたちがこの世で下す判断は、永遠の人生の道筋を大きく左右します。そして、目に見える力と見えない力の両方が、選択に影響を与えます。このことを痛感したのは、5年ほど前に危うく命を落としかけた経験がきっかけでした。

わたしたちは家族や友人たちとオマーンの南部を旅していました。そしてインド洋に面する海岸でくつろぐことにしました。到着するとすぐ、16歳の娘のネリーが、砂でできた島のように見える所まで泳いで行っていいか聞きました。三角波が立っているのを見たわたしは、危険な潮流があるかもしれないと思い、まず自分が行くと言いました。

少し泳いだところで、砂の島に近づいているか聞くために妻に大声で尋ねました。「とっくに過ぎてしまっているわよ」と彼女は答えました。気づかないうちに、わたしは沖へ向かって流れる離岸流¹に巻き込まれ、あっと言う間に流されていたのです。

どうすればいいかわからず、向き直って岸まで泳いで戻ることしか思いつきませんでした。しかし、それは最もしてはいけな

いことでした。不安の中、自分ではどうにもできない力によって、ますます沖へ流されていました。そしてさらに悪いことに、妻はわたしの判断を信じ、わたしについて泳いできてしまったのです。

兄弟姉妹の皆さん、わたしは危うく命を失うところで、わたしの判断によって妻の命まで犠牲にするところでした。しかし、神の助けがあったのでしょうか。懸命な努力の末、何とか海底の砂に足が届き、友人や娘のもとまで安全に歩いて戻ることができたのです。

この世の人生には多くの流れがあり、安全なものも危険なものもあります。スペンサー・W・キンボール大管長は、人生には強大な力が働いていて、それは見えない海流とよく似ていると教えました。² その力は現実のもので、その力を無視してはなりません。

ここで、わたしの人生にとって大きな祝福となった別の流れ、すなわち神聖な流れについて話したいと思います。わたしは改宗者です。改宗する前はスキー競技に人生を懸けており、望みをかなえるため、高校卒業後にはヨーロッパへ旅立ちました。夢のような数か月を過ごした後、わ

たしはそこを離れるべきだと感じました。そのときは、その気持ちがどこから来るのか分かりませんでした。それに従おうと決めました。最終的にわたしはユタ州プロボに住むことになり、わたしと同じく、この教会の会員ではない何人かの親しい友人ができました。

プロボでは、わたしとはまったく異なる生き方をしている人たちに会いました。なぜかは分かりませんでした。引きつけられました。最初はその気持ちに逆らっていましたが、しばらくして、それまで知らなかった平安と慰めを見いだしました。わたしはそれまでとは違う流れを受け入れ、愛にあふれた天の御父と御子イエス・キリストについて次第に理解するようになりました。

わたしは1972年に友人とともにバプテスマを受けました。イエス・キリストの福音という、わたしが従うことを選んだ新しい流れは、わたしの人生に方向性と意味を与えてくれました。しかし、試練がなかったわけではありません。初めは全てが新しいものばかりでした。戸惑いや困惑を覚えることもあり。友人や家族から、疑問や異議をぶつけられることもあり。

わたしは選択に迫られました。彼らの疑問には、疑いや不安を生じさせるものもありました。その選択は重要なものでした。どこに答えを求めべきかという選択です。わたしの生き方が間違っていると説得しようとする人も多くいました。それは、幸福をもたらす平安な流れから引き離そうとする「離岸流」のようなものでした。わたしは「すべての事物には反対のものがある」という原則と、自ら行動し、選択する権利を他人に任せないことの大切さをはっきりと学びました。³

わたしはこう自問しました。「この大きな慰めを与えてくれたものから離れる理由がどこにあるだろうか。」主はオリバー・カウドリに言われました。「わたしはこの件についてあなたの心に平安を告



げなかったであろうか。」⁴ わたしも同じ経験をしました。そこで、わたしはより固い決意をもって、愛にあふれた天の御父や、聖文、信頼できる友人に頼ることにしました。

しかし、わたしが答えられない質問はまだ多くありました。そのような質問がもたらす不安に、どう対処すればいいのでしょうか。わたしは自分の人生に訪れた平安と幸福が打ち壊されることのないように、それらをしばらく脇に置き、主の時に全てが明らかにされると信じることにしました。主が預言者ジョセフ・スミスに言われた御言葉に慰めを見いだしました。「見よ、あなたがたは幼い子供であり、今はすべてのことに耐えることはできない。あなたがたは恵みと真理の知識とにおいて、成長しなければならぬ。」⁵ わたしは真実だと知っているものを捨てず、「離岸流」となり得る不確かさで疑わしい流れに従わないことを選びました。N・エルドン・タナー管長が教えたように、「福音の単純な真理を受け入れ、……自分で……説明できないことを信仰によって受け入れることは、[非常に]賢明ですばらしいこと」⁶ であるということを選びました。

しかしそれは、素直に尋ね求める余地

がないということなのでしょうか。聖なる森に入り、どの教会に入るべきか知りたく望んだ少年の例を見てみましょう。教義と聖約を手にとれば、この靈感を受けた記録の中で明らかにされたことの多くが、真理を謙虚に求めた結果であることが分かるでしょう。ジョセフは「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、……惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい」⁷ ということに気づきました。わたしたちが誠意をもって質問し、神からの答えを求めるときに、「教えに教え、訓戒に訓戒」⁸ を受け、知識と知恵が増し加えられるのです。

わたしたちが問うべきことは「正直で誠実に尋ね求める余地はあるのだろうか」ということではなく、「疑問があったときに、どこに真実を求めればよいのか」「多少の疑問があっても、真実だと知っていることから離れないという賢明な判断ができるだろうか」ということです。わたしたちは、初めから終わりまで全てを御存じの神から答えを得ることができると証します。全てものは神とともにあります。⁹ 聖文は、神が「曲がった道を歩まず、……また述べたことからそれることは」なさらないと証しています。¹⁰

この世の旅において、わたしたちの選



扱が自分だけに影響すると考えてはなりません。最近、ある若い男性がわたしの家を訪ねました。彼は感じの良い人でしたが、教会の活動にあまり参加していない雰囲気を漂わせていました。彼の話によると、彼は福音を中心とした家庭で育ちましたが、父親の不貞が原因で両親が離婚し、きょうだい全員が教会に疑問を持ち、離れてしまったということでした。この若い父親と話していたとき、彼が父親の選択に影響され、今では尊い霊たちをイエス・キリストの福音の祝福から離れたところで育てていることを思い、心が悲しみに沈みました。

また、かつて忠実な教会員であった別の男性は、ある教義に疑問を持っていました。彼は天の御父に答えを求めるのではなく、指針を得るのにこの世の情報だけに頼ることを選びました。人の誉れと思われるものを求めるうちに、彼の心は間違った方向を向くようになりました。彼の自負心は少なくとも一時的には満たされたかもしれませんが、彼自身が天の力から切り離されてしまったのです。¹¹ 真理を見つける代わりに、証を失い、家族の多くを道連れにしてしまいました。

この二人の男性は見えない離岸流に巻き込まれ、多くの人を道連れにしました。

反対に、わたしの妻の父ルー・ミラーと母ルイズは、この世間的な財産をあまり持っていませんでしたが、回復された福音の純粋な教義を子供たちに教え、毎日の

生活の中でそれを実践することを選びました。そのおかげで、彼らの子孫は祝福を受け、福音の実と永遠の命に対する希望を得ています。

彼らは家庭の中で、神権を尊び、愛と調和の精神にあふれ、福音の原則に導かれた生活を確立しました。ルイズとラーは互いに協力しながら、イエス・キリストを模範とした生活がどのようなものかを行い示したのです。子供たちは、人生においてどの流れが平安と幸福に導くものなのかをはっきりと知ることができ、それに基づいた選択をしました。キンボール大管長はこう教えました。「もしわたしたちが義にかなった生活という目標に向かって流れる強く確実な海流を、……生み出せたならば、親も子供も、困苦や落胆や誘惑……の逆風にも負けずに、前進できるでしょう。」¹²

わたしたちが行う選択は重要でしょうか。それは自分だけに影響するものでしょうか。回復された福音という永遠の流れに沿った生き方をすると固く決めているでしょうか。

今でもときどき、恐ろしい想像が頭をよぎります。あの9月の日に、インド洋の海岸でくつろいでいたとき、娘のネリーに「うん、いいよ。砂の島まで泳いでおいで」と言っていたら、もしくは、娘までわたしについてきて、戻れなくなっていたとしたら、そして、娘が離岸流によって沖に流され二度と帰れなくなったのが自分のせいだと知り

ながら人生を送ることになっていたとしたら、どうなっていたことでしょうか。

どの流れに従うか決めるのは大切なことでしょうか。わたしたちの模範は重要でしょうか。

天の御父は、わたしたちの選択を導くために聖霊という神聖な賜物を与えてくださいました。そして、わたしたちがふさわしく生活するときに靈感や啓示を受けられると約束してくださいました。皆さんに勧めたいのは、この神からの賜物を十分に活用し、次のように自問することによって自分の選択を吟味するということです。「わたしの選択はイエス・キリストの福音という豊かな土壌にしっかりと根ざしたものでしょうか。」そして、大小にかかわらず、必要な修正を行い、皆さんと皆さんの愛する人たちのために備えられた天の御父の計画が約束する永遠の祝福を得られるようにしてください。

イエス・キリストがわたしたちの救い主、贖い主であられることを証します。また、主と交わす聖約が神聖なものであることを証します。わたしたちは神聖なものを軽んじることがないようにしなければなりません。¹³ わたしたちがいつも忠実にいられるよう、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。■

注

1. 離岸流—「海岸の波打ち際から沖に向かってできる強い流れ。波浪によって生じる。遠浅の海岸を中心に局地的に発生する。突堤やヘッドランドなどの構造物付近でも発生しやすい。リップ-カレント。」(三省堂『大辞林』)
2. スペンサー・W・キンボール「家族に流れる海流」『聖徒の道』1984年6月号、1-7参照
3. 2ニーファイ2:11、16参照
4. 教義と聖約6:23
5. 教義と聖約50:40
6. N・エルドン・タナー、Conference Report、1968年10月、49
7. ヤコブの手紙1:5
8. 教義と聖約98:12
9. モーセ1:6参照
10. 教義と聖約3:2
11. 教義と聖約121:35-37参照
12. スペンサー・W・キンボール「聖徒の道」1984年6月号、2
13. 教義と聖約6:12参照



十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー長老

きてごらんなさい

イエス・キリストの教会は、これまでも、またこれからも、
伝道し続ける教会です。

わたしは特に末日聖徒イエス・キリスト教会の会員でない皆さんに向けてお話ししたいと思います。皆さんの多くは次のような疑問を抱いておられるかもしれません。「末日聖徒の会員は、なぜそれほど熱心に、自分の信じていることを伝えたり、教会について学ぶように勧めたりするのか。」わたしはその根本的な疑問にお答えしたいと思います。

主の御霊^{みたま}の助けにより、この大切な疑問に対するわたしの答えをきちんとお伝えできるように、そして皆さんにはっきりとご理解いただけるように祈っています。

神聖な務め

イエス・キリストの献身的な僕^{しもべ}は、これまでも、またこれからも、常に雄々しい宣教師であり続けます。宣教師はキリストの弟子であり、キリストが贖^{あがな}い主であられることを証^{あかし}し、キリストの福音の真理を宣べ伝えます。

イエス・キリストの教会は、これまでも、またこれからも、伝道し続ける教会です。救い主の教会の会員はそれぞれ、主から使徒へ与えられた神聖な務めが果たされるように助けるといふ厳粛な義務を引き受けています。その務めについて、新約聖書にこう記されています。

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊と

の名によって、彼らにバプテスマを施し、

あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ 28:19-20)

末日聖徒は、主イエス・キリストについて、また、主の回復された福音についてあらゆる国のあらゆる人々に教えるというこの責任を、真剣に捉えています。救い主が古代にお立てになったのと同じ教会が、末日に、再び救い主によって地上に立てられたと信じています。主の福音の教義、原則、神権の権能、儀式、聖約が、今日、主の教会の中に見られます。

わたしたちが皆さんに対して、教会に

一緒に出席するように、あるいは専任宣教師から学ぶようにお勧めするとき、何か商品やサービスを売ろうとしているわけではありません。教会の会員として、天国のコンテストで賞やボーナス得点がもらえるわけでもありません。また、単に教会の規模を拡大しようとしているわけでもありません。そして何よりも大切なことですが、皆さんにわたしたちと同じことを信じるように強制しているわけではありません。まずイエス・キリストの福音の回復された真理について聞いていただき、お伝えしていることが真実かどうか、御自身でよく調べ、思い巡らし、祈り、そして知っていただきたいのです。

皆さんの中には、「でも、わたしはもうイエス・キリストを信じているし、その教えに従っています」あるいは「本当に神が存在するのかどうか、よく分かりません」と言う方もいらっしゃるかもしれません。わたしたちはお勧めすることで皆さんの宗教上の伝統や人生経験をないがしろにするつもりはありません。皆さんが知っておられるあらゆる真理、好ましいこと、称賛に値することに基づいて、わたしたちのメッセージを調べてみていただきたいのです。イエスが弟子の二人に「きてごらんなさい」と言われたのと同じように(ヨハネ 1:39)、わたしたちも皆さんにお勧めします。イエス・キリストの回復された福音が、皆さんが既に真実であると知っておられる物事をさらに広げ、さらに豊かにするものかどうかを、ぜひ来て御覧になってください。

確かに、わたしたちはこのメッセージをあらゆる国民、部族、国語の民、民族に携えて行くという厳粛な責任を負っていると感じています。そして、その業を成し遂げるために、現在150以上の独立国において、8万8千人の専任宣教師が働いています。このすばらしい男性や女性は、教会の会員がイエス・キリストの永遠の福音を宣言するという、神から一人一人に与えられた責任を果たせるように助けたい





ます（教義と聖約 68：1 参照）。

霊的な義務以上のこと

しかし、わたしたちがメッセージをお伝えすることに熱心なのは、霊的な義務感からだけではありません。皆さんにイエス・キリストの回復された福音をお伝えしたいという望みは、むしろこの真理が自分にとっていかに大切かを表しています。わたしたちが自分の信じることを熱心にお伝えする理由をご説明するために、何年も前に妻とわたしが二人の息子とともに経験した出来事をお話ししましょう。

ある晩、妻のスーザンとわたしは、家の窓のそばに立って、二人の幼い息子たちが外で遊ぶ様子を眺めていました。夢中で遊んでいるうちにちょっとした事故が起こり、弟が軽いけがをしてしまいました。大したけがではないことが分かったので、わたしたちはすぐには手を貸さず、それまで家族で話し合ってきた「兄弟愛」が、二人の心にどれだけ根付いているかを見てみることにしました。その後起こった出来事は、興味深く、多くのことを教えてくれました。

兄は弟を慰め、弟を注意深く家に連れて戻りました。スーザンとわたしは台所の近くに立って、さらに体に危険が及ぶよ

うなことや大事故が起こりそうな場合にはすぐに助けに入れるように用意しながら、次に起こることを見ていました。

兄は椅子を台所の流しまで引きずって行き、椅子に上りました。手を貸して弟も椅子に上らせた後、水を流しました。そして、弟のけがをした方の腕に食器用洗剤をたっぷりかけました。泥を優しく洗い流すために最善を尽くしたわけです。このときの弟の反応は、次の聖文の言葉がぴったりでした。「そして、彼らは泣きわめき、涙を流し、嘆き悲しみ、歯ぎしりをするに違いない。」（モーサヤ 16：2）実際、弟の泣き叫び方は、すさまじいものでした。

汚れを落とす作業が終わり、腕を丁寧にタオルで拭いてもらった頃には、弟はもう泣き叫ぶのをやめていました。兄は次に、台所のカウンターに上って棚の扉を開けると、塗り薬の新品のチューブを見つけました。弟の傷はそれほど大きくなかったのですが、兄はチューブの中身をほとんど全部出して、けがをした方の腕全体に塗りました。弟は、洗剤の洗浄効果よりも、痛みを和らげる塗り薬の効果の方が明らかに気に入ったのでしょう。もう泣き叫ぶことはありませんでした。

兄は塗り薬を見つけた棚に戻ると、新

品の絆創膏^{ばんそうこう}の箱を探し出しました。そしてその封を開けると、手首から肘まで腕全体に絆創膏を貼ってあげました。緊急事態が収束し、洗剤の泡と薬と絆創膏の包み紙を台所中に散らかしたまま、二人は、それはうれしそうに、笑顔を輝かせながら、椅子から飛び降りました。

一番重要なのは、次に起こったことです。けがをした弟は、残りの絆創膏をかき集め、ほぼ空になった塗り薬を手にして、外に出て行きました。そしてあっという間に何人も友達を見つけると、その腕に薬を塗り、絆創膏を貼り始めたのです。スーザンとわたしは、彼が示した、誠実で、熱意に満ちた、素早い行動に胸を打たれました。

この子はなぜそのようなことをしたのでしょうか。けがをしたときに自分の役に立ったのとまったく同じ物を友達にもあげたいという気持ちが、すぐに、そして自然に、心に湧き起こったという点に注目してください。せかさされたり、要求されたり、促されたり、強制されたりしたわけではありません。人にも分けてあげたいという望みは、大きな助けや益を得たという経験を自分自身がすることで、自然に心に湧いてきたものなのです。

わたしたち大人も、長い間受けてきた

苦痛を癒やしてくれる治療法が見つかったり、カウンセリングを受けて、問題に勇氣をもって臨み、忍耐強く困難に立ち向かえるようになったりしたときには、多くの人がこの若い二人とまったく同じことをするでしょう。自分にとって最も意義あることや役に立ったことを人に伝えることは、ごく当たり前のことなのです。

霊に関する非常に大切で重要な事柄については、そのことが特に顕著に現れます。例えば、モルモン書として知られる聖典の中に、古代の預言者であり指導者であったリーハイが見た夢について描かれている箇所があります。リーハイの夢の中心テーマは、命の木です。この命の木は神の愛を象徴しており、「どんなものよりも好まし〔く〕」「人にとって最も喜ばしい」ものでした（1ニーファイ11：22－23。1ニーファイ8：12、15も参照）。

リーハイは次のように説明しています。

「そこで、行ってその木の實を食べると、それは、今までに味わったどんな実よりもずっと甘いことが分かった。またその木の實は白く、今までに見たどんな白いものにも勝って白かった。

そしてその木の實を食べると、わたしの心は非常に大きな喜びに満たされた。それでわたしは、家族にも食べてほしいと思い始めた。」（1ニーファイ8：11－12、強調付加）

神がその子供たちに対して抱いておられる愛は、主イエス・キリストの地上での務め、贖いの犠牲、そして復活に最もよく表れています。この木の實は、救い主の贖罪しよくざいによる祝福を象徴していると考えられます。

リーハイは、木の實を食べて大きな喜びを味わった後、すぐに、家族に分かち合いたい、そして、家族に仕えたいという望みに満たされました。キリストに心を向けたとき、愛と奉仕の心が外に向けられたのです。

モルモン書にはもう一つ大切な出来事が描かれています。それは、エノスという

人が心から熱心に願い求め、神がその祈りを聞き届けられた後の出来事です。

エノスはこう言いました。

「すると、わたしの霊は飢えを感じた。それで、わたしは造り主の前にひざまずき、自分自身のために熱烈な祈りと懇願をもって造り主に呼び求めた。わたしは一日中造り主に呼び求めた。また夜になっても、声が天に届くように、まだ大きな声を上げていた。

すると、わたしに声こゑが聞こえた。『エノスよ、あなたの罪は赦された。あなたは祝福を受けるであろう。』

わたしエノスは、神は偽りを言われるはずがないので、わたしの罪がすでにぬぐい去られたのを知った。

それでわたしは、『主よ、それはどうしてですか』と尋ねた。

そこで、主はわたしに言われた。『あなたが、これまでに声を聞いたことも見たこともないキリストを信じているからである。……それゆえ、行きなさい。あなたの信仰があなたを罪のない者としたのである。』



さて、この御言葉みことばを聞いたとき、同胞ほらからであるニーファイ人の幸いを願う気持ちがわいてきた。それでわたしは、彼らのためにわたしの心のすべてを神に注ぎ出した。（エノス1：4－9、強調付加）

エノスが「十分に固い決意をもって」主に心を向けたとき（2ニーファイ31：13）、同時に、家族や友人や仲間の幸いを願う気持ちが増しました。

この二つの出来事から学べる永遠の教えは、自身の生活でイエス・キリストの贖罪がいかに大きな祝福かを味わって初めて、単なる形だけの行いをはるかに超えた、心からの真の奉仕ができるようになるということです。リーハイやエノス、また先にお話した息子のように、わたしたちも末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、信仰の迷いや罪から来る苦しみを感じたことがあります。そしてまた、救い主の福音の原則を学び、生活に生かすことによってしか得られない、清めや心の平安、霊的な癒やしや再生、導きも経験しました。

イエス・キリストの贖罪は、わたしたち

が清く、汚れない状態になるための洗剤となり、霊的な傷を癒やし、罪悪感を消し去る薬となり、状況が良いときも悪いときも忠実でいられるための守りとなってくれるのです。

完全な真理は存在する

わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員でない御家族や友人の皆さんに向けて、わたしたちがなぜ宣教師であるかという理由について基本的な事柄をお伝えしようとしてきました。

絶対的な真理をますます軽蔑し、否定する世の中にあっても、絶対的な真理は存在します。将来、「あらゆるものがひざをかがめ、また、あらゆる舌が、『イエス・キリストは主である』と告白して、栄光を父なる神に帰する」日が来るでしょう（ピリピ2：10－11）。イエス・キリストは確かに、永遠の父なる神の独り子であります。わたしたちはイエス・キリストの教会の会員として、主が生きておられ、主の教会が末日に完全な形で回復されたことを証します。

わたしたちのメッセージを学び、試してくださいよう、皆さんにお勧めするのは、わたしたちの生活がイエス・キリストの福音によって良い影響を受けてきたからです。わたしたちは皆さんに対して、ぎこちなかったり、ぶっさらぼうだったり、しつこかったりすることさえあるかもしれません。わたしたちの望みはただ、自分にとってかけがえのない価値を持つ真理を皆さんと分かち合うこと、それだけなのです。

主の使徒の一人として、精力を込めて、キリストの神性と、実に生きておられることを証します。皆さんに、「来て御覧になる」ようにお勧めします（ヨハネ1：39参照）。主イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。■



トーマス・S・モンソン大管長

また逢う日まで

わたしたちが皆、ここで耳にした真理について深く考えることができますよう、そして、その真理によって、もっと雄々しい弟子となることができますように。

兄 弟姉妹の皆さん、わたしたちは靈感あふれるメッセージに耳を傾ける輝かしい2日間を経験しました。大会の各部会を通じて注がれた御霊にあずかることで、わたしたちの心は満たされ、わたしたちの信仰は強められました。この大会を終えるに当たり、わたしたちは天の御父が数多くの祝福を与えてくださったことに感謝します。

わたしたちは全ての部会で演奏された美しい音楽に鼓舞され、靈感を受けました。ささげられた祈りは、わたしたちをより一層天に近づけてくれました。

この大会で解任された兄弟たちに、教会全体からの心からの感謝の意を伝えたいと思います。彼らがいなくなると寂しくなります。彼らはこれまで主の業に多大なる貢献をしてきました。その貢献はこれから何世代にもわたって感じられることでしょう。

わたしたちがこれまでよりももう少し善い人になろうという決意を胸に家庭へ戻ることができますように。もう少し親切で、思いやりのある人になることができますように。わたしたちの同胞だけでなく、異なる信仰を持つ人々にも手を差し伸べ、





中央扶助協会会長
リンダ・K・バートン

助けとなることができますように。そのような人々と交わるとき、尊敬の念を示すことができますように。

難題を抱え、毎日苦しんでいる人々がいます。そのような人々に関心を向け、助けの手を差し伸べましょう。互いを思いやる時、わたしたちは祝福を受けるのです。

年配の方々や家の外に出られない方々を思い起こすことができますように。時間を割いて彼らを訪問することにより、彼らは愛され、大切に思われていることを知ることができます。「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強めなさい」¹ という戒めに従うことができますように。

いつでも、どんな状況にあっても、義を行おうと努力する、正直かつ高潔な人となることができますように。キリストに忠実に従う者となり、義の模範を示し、「世の光」² となることができますように。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんがわたしのためにささげてくださる祈りに感謝しています。その祈りのおかげで、わたしは強められ、鼓舞され、全身全霊をもって神の御心^{みこころ}を行い、神と皆さんに仕えることができるのです。

この大会を終えるに当たり、天の祝福を皆さん一人一人のうえに注ぎます。家から離れている方々は、安全に帰宅し、全ての無事を確認できますように。わたしたちが皆、ここで耳にした真理について深く考えることができますよう、そして、その真理によって、この大会が始まったときよりも、もっと雄々しい弟子となることができますように。

6か月後に再びお会いするときまで、主の祝福が皆さんに、また、まことに、わたしたち全員にあるように、わたしたちの主、救い主、イエス・キリストの聖なる御名^なにより祈ります、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 81:5
2. ピリピ 2:15 参照

まったく知られて いなかった方法で 備えをしていた

救いの儀式をふさわしい状態で受けるために一滴ずつ自らを備え、
関連する聖約を心から守ることができますように。

末 娘が初めて小学校に行き帰って来たとき、わたしは「どうだったの?」と聞きました。

娘は「よかったよ」と答えました。

ところが翌朝、学校へ行くのに起こすと、娘は腕組みをしてきっぱりこう言いました。「もう学校には行ったもん。」どうやらわたしは娘を備えさせていなかったようです。つまり、学校に行くことは1度きりのことではなく、これから何年も、何年も、毎週5日間学校に行くことを説明していなかったのです。

備えるという原則について考えながら、次の光景を一緒に思い浮かべてみてください。あなたは神殿の日の栄えの部屋に座っています。すると、この世と永遠にわたる結婚をするために順番を待つ大勢の花嫁と花婿が部屋の中へ、あるいは外へと恭しく案内されていることに気がつきます。花嫁は愛する人の手を取って日の栄えの部屋に入ります。簡素ながらも美しい神殿のドレスに身を包み、静かで穏やかな、優しいほほえみをたたえていま

す。きちんとした着こなしで、目障りではありません。彼女は腰を下ろして部屋の中を見回すと、突然感極まって涙を流します。今、自分がいる場所に対して、そしてこれから最愛の人と臨む神聖な儀式に対して抱いている畏怖、畏敬の念から、涙が込み上げてきたのです。花嫁の様子から次の心境が伺えます。「今日、主の宮に来て、準備のできた状態で愛する永遠の伴侶と永遠の道を歩み始められることに本当に感謝しているわ。」彼女は、結婚式だけでなくそれ以外のことのためにも備えていることが分かります。

我が家の10代のかわいい孫娘が最近、わたしの枕元にメモを残して行きました。そこにはこうありました。「神殿に入って強く感じたことは、神殿にとどまる穏やかで愛のあふれる御霊^{みたま}だった……人は靈感を受けるために神殿に行くことができるんだね。」¹ 孫娘の言うとおりで。神殿では、靈感や啓示、そして人生の逆境に立ち向かう力を得ることができます。自分の家族ネームを持参して定期的に神殿の



バプテスマと確認の儀式を受けて、孫娘が神殿について学んでいることは、彼女自身と幕の向こう側にいる人々をさらなる神殿の儀式と聖約、そして祝福に備えることでしょう。

ラッセル・M・ネルソン長老はこう教えています。「神殿が人々のために備えられているように、人々も神殿のために自分を備える必要がある。」²

モルモン書の中で司令官モロナイについて再度読んでいて、わたしは次のことを再認識しました。すなわち、モロナイの最大の功績の一つは、恐ろしいレーマン人の軍隊に抵抗できるよう、ニーファイ人を入念に備えさせたことです。モロナイが自分の民を非常によく備えたことが書かれています。「見よ、[レーマン人が]まったく驚いたことに、ニーファイ人はこれまで……まったく知られていなかった方法で、レーマン人に対する備えをしていた。」³

わたしが特に注目したのは、「まったく知られていなかった方法で……備えをしていた」という言葉です。

神聖な神殿の祝福を受けるために、どうしたらもっとよく備えられるでしょうか。主は「さらにまた、……わたしはすべてのことに関して規範を与えよう」⁴と教えられました。よく備えるうえで助けとなる、霊的な規範について考えてみましょう。敵に対するモロナイの備えには、一貫し

た、忠実な勤勉さが必要でした。霊的な規範にも同じことが必要になります。

救い主が語られた5人の思慮深いおとめと5人の思慮の浅いおとめのすばらしいたとえには、飽きることがありません。このたとえは救い主の再臨に備えることについて述べていますが、神殿の祝福に備えることにも当てはめることができます。よく備えている人にとって神殿の祝福は、霊のごちそうとなり得るのです。

マタイによる福音書第25章にはこうあります。

「そこで天国は、十人のおとめがそれぞれあかりを手にして、花婿を迎えに出て行くのに似ている。

その中の五人は思慮が浅く、五人は思慮深い者であった。……

思慮深い者たちは、自分たちのあかりと一緒に、入れものの中に油を用意していた。

花婿が来るのがおくれたので、彼らはみな居眠りをして、寝てしまった。

夜中に、「さあ、花婿だ、迎えに出なさい」と呼ぶ声がした。

そのとき、おとめたちはみな起きて、それぞれあかりを整えた。

ところが、思慮の浅い女たちが、思慮深い女たちに言った、『あなたがたの油をわたしたちにわけてください。わたしたちのあかりが消えかかっていますから。』

すると、思慮深い女たちは答えて言っ

た、『わたしたちとあなたがたとに足りるだけは、多分ないでしょう。店に行って、あなたがたの分をお買いになる方がよいでしょう。』

彼らが買いに出ているうちに、花婿が着いた。そこで、用意のできていた女たちは、花婿と一緒に婚宴のへやにはいり、そして戸がしめられた。

そのあとで、ほかのおとめたちもきて、『ご主人様、ご主人様、どうぞ、あけてください』と言った。」

「しかし彼は答えて、『はっきり言うが、あなたがたはわたしを知らない』と言った。」⁵

特に、心の優しい人の中で、この思慮の浅い若い女性を気の毒に思わない人はいないと思います。中には、思慮深い若い女性に対して、「皆が幸せになれるように分けてあげられないの?」と言いたい人もいるでしょう。しかし、考えてみてください。これは救い主が語られたお話です。主が、5人を「思慮深い」者、そして5人を「思慮の浅い」者と呼ばれたのです。

このたとえを、神殿への備えの規範として考えるとき、「霊的な備えの油は、分かち合うことができない」⁶と教えた末日の預言者の言葉について考えてください。スペンサー・W・キンボール大管長は、5人の「思慮深い」若い女性が、5人の「思慮の浅い」若い女性に明かりの中の油

を分けることができなかつた理由を明確にしています。「聖餐会せいさんに出席することで、年月をかけて一滴ずつ、わたしたちのランプに油が加えられます。断食、家族の祈り、ホームティーチング、肉体的な欲求を抑制すること、福音を宣べ伝えること、聖文の研究、これら一つ一つの献身と従順の行いは、わたしたちの中に加えられる一滴なのです。親切な行い、什分の一と献金を納めること、思いや行動の清さ……こういったことも大いに油をためることになり、夜中に消えかかるランプに油を補給できるのです。」⁷

一滴ずつという備えの規範を理解することができますか。これは自分自身や他の人のために神聖な儀式を受ける備えにおいて、さらに勤勉になるにはどうすればよいか考えるのに役立つものです。備えのランプに貴重な霊の一滴を加えるために、わたしたちが行える小さな簡単なことには、他にどのようなことがあるでしょうか。

リチャード・G・スコット長老から、「個人的なふさわしさは、神殿の祝福を享受するための欠くことのできない必要条件です……ふさわしい人格は、主の教えを基とする一貫した正しい選択を行ってきた人生によって、最良の形で形成されます。」⁸ わたしは一貫したという言葉が好きです。一貫したとは、安定していて、絶え間なく続き、信頼できるということです。ふさわしさの原則を何とよく説明していることでしょう。

『聖書辞典』(Bible Dictionary)には、「神聖さにおいて、神殿に匹敵できるのは家庭のみである」⁹と書かれています。わたしたちの家やアパートはこの説明に当てはまるでしょうか。先日、わたしたちのワードの、すてきな若い女性が我が家を訪ねました。彼女の兄が伝道から帰ったばかりであると知っていたので、お兄さんが帰って来てどうかと尋ねました。彼女は、とてもうれしいけれど、時々、自分がかけている音楽の音量を下げてもらえないかと頼まれると言いました。彼女はこ

う付け加えました。「しかも、悪い音楽じゃないんですよ。」時々自分のことを吟味して、家庭が御霊を感じるために備えられているかを確認する価値があるかもしれません。家庭を御霊のとどまる場所となるように備えるなら、主の宮に参入するときに、より「心休まる」気持ちを感じられるでしょう。

わたしたちがふさわしい状態で神殿に参入する準備をし、神殿の聖約に忠実であるとき、主はわたしたちに「多くの祝福」¹⁰を注いでくださいます。最近、わたしの良き友人のボニー・オスカーソン姉妹は、聖句の語順を逆にして「多く求められる者にはさらに多く与えられる」¹¹と言いました。全くそのとおりです。神殿に行くのは永遠の祝福を受けるためですから、その祝福にあずかるために高い標準が求められることは決して不思議なことではありません。ネルソン長老はこう教え

ています。「神殿は主の宮ですから、参入の標準は主が定められ〔ま〕す。神殿に参入する人は、主の賓客として参入します。神殿推薦状を持っているということは、実に貴重な特権であり、また、神とその預言者たちに従順であることを示す、目に見えるしるしでもあるのです。」¹²

世界一流のスポーツ選手や博士課程の学生は、何時間、何日、何週間、または何年もかけて備えます。頂点に立つには、日々の備えの一滴が欠かせません。同じように、日の栄えの王国に昇栄する資格を得たい人は、より高い従順の標準を守って生活するように求められるのです。

一貫して、勤勉に、これらの小さな簡単なことを行いながら霊的なランプに一滴ずつ油を加えるときに、思いがけない備えでわたしたちのランプの芯を「切りそろえて火をととも〔す〕」¹³ことができます。ステーク会長であるわたしのすてきな夫は、



神殿に参入する備えができていてふさわしい人をほとんどの場合見分けることができると言っていました。そういう人は、神殿推薦状を求めて来るときに「部屋に明かりをとす」からです。

カートランド神殿の奉献の祈りで、預言者ジョセフ・スミスは主にこう嘆願しました。「主の宮の敷居を越えて入って来るすべての者が、あなたの力を感じ、……彼らがあなたにあって成長し、聖霊の全きを受け、……すべての必要なものを得るために備えられますように。」¹⁴

神殿に行くことがわたしたちにとって、1度だけの行事ではなく、それ以上のものとなりますように。救いの儀式をふさわしい状態で受けるために一滴ずつ自らを備え、関連する聖約を心から守ることができますように。そうするときに、家庭でも個人の生活でも聖霊の全きと主の力という約束の祝福を受けるにふさわしくなることを知っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. アイディア・ケイリー・メロからリンダ・K・パートンへの個人的な手紙、2014年8月31日付
2. ラッセル・M・ネルソン「神殿の祝福のために備える」『リアホナ』2010年10月号、41
3. アルマ49:8、強調付加。6、7節も参照
4. 教義と聖約52:14
5. マタイ25:1-2、4-11；ジョセフ・スミス訳マタイ25:12から和訳（欽定訳マタイ25:12、注釈a）
6. マービン・J・アシュトン、「A Time of Urgency,」*Ensign*, 1974年5月号、36
7. スペンサー・W・キンボール、*Faith Precedes the Miracle*, (1972年) 256
8. リチャード・G・スコット「神殿の祝福を受ける」『リアホナ』1999年7月号、29
9. Bible Dictionary, “temple” の項
10. 教義と聖約104:2
11. ボニー・L・オズカーソン “Greater Expectations” (セミナーおよび宗教教育インスティテュート衛星放送、2014年8月5日)；lds.org/broadcasts。ルカ12:48；教義と聖約82:3も参照
12. ラッセル・M・ネルソン「神殿の祝福を受けるための個人の備え」『リアホナ』2001年7月号、38
13. 教義と聖約33:17
14. 教義と聖約109:13, 15



中央初等協会会長第一顧問
ジーン・A・スティーブズ

神の聖約の娘たち

神の娘が、神殿と神聖な聖約に主眼を置くとき、神は各人に力強い方法で祝福を注ぐことができになります。

姉妹の皆さん、皆さんを心から愛しています。世界のどこにいても、皆さんが今、一人一人のうえに注がれる主の愛と、美しい聖歌隊の歌に込められたメッセージを証する御霊を感じられるよう願っています。わたしも、主は生きて、わたしたち一人一人を愛しておられると歌う聖歌隊の賛美歌に自分の証を付け加えます。

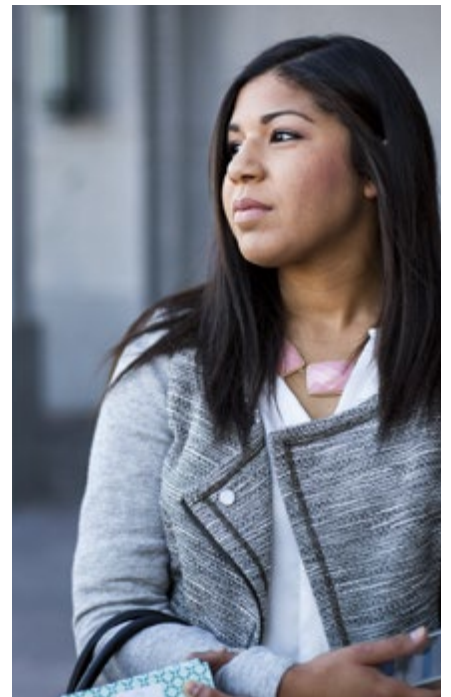
今晚わたしたちは神の聖約の娘として集っています。年齢や境遇、性格の違いはあっても、一致しています。わたしたちは何よりもまず、神の娘であり、いつも御子を忘れないという聖約を交わしているからです。

3週間前、この個人的な聖約の力が自分の心に刻まれる経験をしました。あるバプテスマ会に出席したときのことです。わたしの前には8人のかわいらしい子供たちが座っていました。ついに特別な日を迎え、敬虔な態度で期待に胸を膨らませていました。子供たちのうれしげな顔を見ながら、子供たちのことを単に一つのグループとして見ることはありませんでした。そうではなく、一人一人を見たのです。恐らく主もそのように御覧になったと思います。エマ、ソフィア、イアン、ローガン、エイデン、ウィリアム、ソフィー、マイカの姿です。一人ずつ、バプテスマの聖約を交わします。白い衣を着て、一人一人が8歳の子供として精いっぱい心構えと

意欲をもって、初めて神と聖約を交わすのです。

皆さんも自分がバプテスマを受けた日のことを思い出してください。詳しく覚えているかどうかにかかわらず、自分が個別に交わした聖約の重要性について考えてみてください。皆さんは自分の名前を呼ばれて水に沈められた後、神の娘、すなわち聖約の娘として水から出ました。すなわち、進んで御子の御名によって呼ばれる者、神に従い、神の戒めを守ると約束する者となったのです。

神との聖約は、自分が本当は何者であるかを知る助けとなります。聖約により、わたしたちは御父と個別に結ばれ、神の





目から見た自分の価値と、神の王国における自分の役割が分かるようになります。わたしたちには完全に理解できない方法で、神はわたしたち一人一人を御存じであり、愛しておられます。考えてみてください。神にとって一人一人が大切な存在なのです。わたしたちがみもとへ帰る道を選ぶよう神は願っておられます。

バプテスマの聖約はなくてはならない大切なものですが、出発点にすぎません。永遠の命へ向かう道の門なのです。その先には、神殿での聖約と神権の儀式が待っています。デビッド・A・ベドナー長老が指摘しているように、「バプテスマの水の中に立つとき、わたしたちは神殿に心を向けます。」¹

永遠の命を受けるために備えるには、聖約を交わすだけでなく、それらの聖約を忠実に守る必要があります。永遠の命はわたしたちの希望であり、目標であり、喜びです。

わたしは福音を愛し実践した、義にかなった両親の姿を目にして、聖約の力について証を得ることができました。愛する

母親が、神の聖約の娘として日々決断する様子をはっきりと目にする特権に恵まれたのです。幼いころでさえ、母の決断は彼女の優先順位を反映しており、母がイエス・キリストの真の弟子であることを示していました。人生を歩みながら神聖な聖約を交わして守るときに、平安と力、守りが生活に注がれるのが分かりました。この地上における母の人生は、救い主に対する愛と主に従いたいという願いを示すものでした。わたしは心から母の模範に従いたいと思います。

わたしの両親の結婚生活は、普通とは違った形で始まりました。1936年、二人が結婚を前提に交際していたとき、父のもとに専任宣教師として南アフリカで奉仕するよう勧める手紙が届いたのです。手紙には、奉仕するのにふさわしく、またその意志があるなら、ビショップに連絡してくださいと書かれていました。当時は宣教師に召される過程が今とはだいぶ異なっていたことがお分かりでしょう。父はその手紙を恋人のヘレンに見せました。二人は迷うことなく、父が伝道へ出ることを

を選びました。

出発前の2週間、父と母は毎日、ソルトレーク・シティーの中心に近いメモリーグロブで戸外のランチを楽しみました。そのようなある日、断食と祈りを通して導きを求めた後、母は父のクラロンに、もし父の結婚の意志が変わらないのなら、出発する前に結婚したいと言いました。教会の初期の頃、男性が伝道に召され、妻子を家に残して出かけることが時折ありました。わたしの両親もそうだったのです。二人は神権指導者の承認を得て、父が伝道に出る前に結婚することにしました。

母はソルトレーク神殿でエンダウメントを受け、その後二人はデビッド・O・マッケイ大管長の司式により永遠の結婚をしました。二人の門出は質素なものでした。記念写真も、美しいウェディングドレスも、花束も披露宴もありません。二人が何より優先したのは神殿と聖約でした。二人にとっては聖約が最も重要だったのです。わずか6日間の結婚生活の後、涙ながらのお別れをして、父は南アフリカへ出発しました。



フィリピン・ラスピナス

しかし、二人の結婚生活は互いへの深い愛に根差していただけではありません。主に対する愛と主に仕えたいという願いに満ちていました。二人が神殿で交わした神聖な聖約は、2年間の別離に耐える強さと力を与えてくれました。人生の目的と、聖約に忠実な者に約束された祝福について考える永遠の観点を持つことができました。こうしたすべての祝福は、短期間の犠牲と別離に勝るものだったのです。

結婚生活を始めるに当たって、それは確かに容易な道ではありませんでしたが、永遠の家族を育むための土台を築く理想的な方法だったことがあとになって分かりました。子供が増えるにつれ、わたしたちは両親にとって最も大切なものが何かを知りながら育ちました。それは主に対する愛と、主と交わした聖約を守るという揺ぎない決意でした。両親はもう亡くなりましたが、両親の義になかった模範のおかげで、わたしたち家族は今なお祝福を受けています。

両親の生活の模範は、リンダ・K・バートン姉妹の言葉によく表れています。「現在あるいは将来の家庭を強める最善の方法は、聖約……を守ることです。」²

両親の苦難と試練の時はその後も続きました。父が伝道から戻ってから3年後、第二次世界大戦が勃発し、他の多くの人と同様、父も軍隊に入りました。そしてさらに4年間家を離れ、太平洋に配備された海軍の戦艦に乗務したのです。

両親にとって再び離れ離れになることはつらい経験でした。でも母にとっては、

寂しく心配で不安な日々は、苦難のさなかにあって永遠の約束、慰めと平安について語りかける御霊のささやきに耳を傾ける日々でもありました。

こうした苦難にもかかわらず、母は幸福と喜び、愛と奉仕に満ちた豊かな人生を送りました。生活の様子から、母が救い主を愛していたことが分かります。天とのきずなが非常に深く、周囲の誰にでも愛と祝福を与える賜物と能力に恵まれていました。神を信じる母の信仰と希望は、トーマス・S・モンソン大管長の「これらの祝福を受けるためにいかなる犠牲、いかなる代価、いかなる苦勞もいといません」という言葉に映し出されています。³

人生のあらゆる時にあって、主に対する愛と、忠実に交わして守った聖約により、母は強められ祝福されたのです。

もちろん、皆さんの人生は母の人生とは細かな点でいろいろと異なるでしょう。しかし、母の人生から学べる原則は誰にでも当てはまります。神の娘が、神殿と神聖な聖約に主眼を置くとき、神は各人に力強い方法で祝福を注ぐことがおできになります。わたしにとって母の模範がそうであるように、聖約を信じて守る皆さんの選択は、皆さんの子孫に信仰の豊かな受け継ぎを残すでしょう。では愛する姉妹の皆さん、神殿の聖約の力と祝福を得るにはどうすればよいでしょうか。そのような祝福に備えるには今何をしたらよいでしょうか。

わたしは各地を回るうちに、あらゆる年代のあらゆる状況に置かれた姉妹たちが

いることが分かるようになりました。彼女たちの人生がこうした問いに答えてくれます。

わたしは8歳の誕生日を迎えたばかりのメアリーに会いました。他の多くの人のように、メアリーは家族歴史に喜んで取り組み、1000人を超える名前を神殿に提出しました。今は12歳になって神殿に入るという祝福のために備えています。

ブリアンナは13歳で、家族歴史と神殿の業が大好きです。彼女は、神殿に名前を持っていくというニール・L・アンダーセン長老のチャレンジ⁴を受け入れ、何百もの名前を神殿に出せるよう準備し、自分だけでなく家族や友達も誘って死者のバプテスマを行いました。この神聖な業に携わりながら、ブリアンナは地上の先祖だけでなく、天の御父にも心を向けています。

アンフィサは仕事をしながら大学院に通う忙しいヤングアダルトですが、毎週神殿に参入する時間を作っています。主の宮で奉仕するとき、啓示を求め平安を見いだしています。

カーチャはウクライナに住む姉妹で、神殿が大好きです。キエフに神殿が建つ前は、彼女も支部の会員たちもドイツにある



神殿へ年に1度参入するために36時間もバスに乗るといった犠牲を払っていました。このような献身的な聖徒たちは道中で、祈り、聖文を研究し、賛美歌を歌い、福音について話し合いました。カーチャはこう語っています。「やっと神殿に着いたとき、わたしたちは主が授けてくださるものを受ける備えができていました。」

神が心から惜しみなく与えてくださる全ての祝福を受けたいと思うなら、わたしたちは地上で神殿へ向かう道を歩まなくてはなりません。神殿は神の愛の表れです。神は全ての人に、神殿に来て神について学び、神の愛を感じ、みもとで永遠の命にあずかるために必要な神権の儀式を受けるように勧めておられます。それぞれの聖約は一人ずつ交わされます。主にとって大事なものは一人一人の心の変化です。また、そのような変化は皆さんの人生を大きく変えるでしょう。なぜなら、主の聖なる宮へ行くとき、わたしたちは「〔御父の〕力を帯びて出て行く〔ことができ〕……、〔御父の〕御名が〔わたしたちの〕うえにあり、〔御父の〕栄光が〔わたしたちの〕周りにあり、〔御父の〕天使たちが〔わたしたちに〕対する務めを果た〔す〕」ことができるからです。⁵

天の御父が生きておられると確かに証します。神殿に関わるあらゆる望み、約束、祝福が成就するのは、神の御子イエス・キリストを通して行われます。わたしたちが神と神との聖約を信じる信仰を持てますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. デビッド・A・ベドナー「名と地位を立派に維持する」『リアホナ』2009年5月号, 98
2. リンダ・K・バートン「求む——御業を速める手と心」『リアホナ』2014年5月号, 123
3. トーマス・S・モンソン「聖なる神殿——世界に輝くかがり火」『リアホナ』2011年5月, 90
4. templechallenge.lds.org 参照
5. 教義と聖約 109:22



中央若い女性会会長会第二顧問
ニール・F・マリオット

光を分かち合う

わたしたちは信仰を固く守り、声を上げて真の教義を宣言しなければなりません。

今夜はわたしたちが担う二つの大切な責任について考えたいと思います。一つ目は生活において福音の光と真理を着実に増すこと、そして二つ目はその光と真理を分かち合うことです。

姉妹の皆さん、皆さんがどれほど大切な存在であるか御存じですか。一人一人が、今、天の御父の救いの計画において貴い、かけがえのない存在です。わたしたちにはするべきことがあります。そして、回復された福音が真実であることを知っています。その真理を擁護する準備はできていますか。わたしたちは福音に従って生活し、福音を分かち合う必要があります。信仰を固く守り、声を上げて真の教義を宣言しなければなりません。

『リアホナ』2014年9月号で、M・ラッセル・バラード長老はこうに書いています。「わたしたちは女性が持っている

特別な影響力のある声と信仰をもっと多く必要としています。女性は全てのことの真理について証を述べる（あかし）ことができるように、教義を学び、わたしたちが信じていることを理解する必要があります。」¹

姉妹の皆さん、皆さんはイエス・キリストに対するわたしの信仰を強めています。皆さんの模範を目にし、皆さんの証を聞き、ブラジルからボツワナに至るまで、皆さんの信仰を肌で感じてきました。皆さんはどこへ行っても周りの人に影響を及ぼします。家族や、携帯電話の電話帳に載っている人たち、ソーシャルメディアでつながっている友人、今夜隣の席に座っている姉妹に至るまで、周りにいる人たちは皆さんの影響を感じています。ハリエット・ウークトドルフ姉妹の次の言葉に、わたしも同感です。「生き方を通して、福音が喜びあふれる知らせであることを示す皆さんは……ますます暗くなる世の中に





あって鮮やかに、そして熱く輝くかがり火です。』²

トーマス・S・モンソン大管長は「人に光を与えたいと望むのならば、自分の光を輝かせなくてはならない」と述べました。³ どうすれば自分の中に真理の光の輝きを保つことができるでしょうか。時に自分が消えかかっている電球のように感じる場合があります。どうすれば光を増すことができるでしょうか。

聖文はこう教えています。「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。』⁴ この聖句にあるように、わたしたちは神のうちにいつもいなければなりません。光の源である天の御父とイエス・キリスト、そして聖文に頼る必要があります。神殿にも行くことができます。神殿の中のすべてのことはキリストとキリストの偉大な贖いの犠牲を指し示すからです。

神殿が周辺にどのような影響を及ぼしているか、考えてみてください。神殿は街中の景観を美しくし、高い丘の上から光を放ちます。神殿が周りを美しくし、輝いているのはなぜでしょうか。それは、聖文にあるように「真理は輝いている」⁵ からで、神殿には真理と永遠の目的があるからです。皆さんも同じです。

1877年に、ジョージ・Q・キャンノン管

長は言いました。「全ての神殿は……地上におけるサタン力を弱めています。』⁶ 地上のどこであっても、神殿が建つと、暗闇が押し戻されるとわたしは確信しています。神殿の目的は、人類に貢献し、天の御父のみもとへ帰ってともに住む力を御父の全ての子供たちに授けることです。この奉獻された建物、すなわち主の宮と、わたしたちの目的は似ていないでしょうか。わたしたちの目的は、人々に仕え、暗闇を押し戻して、天の御父の光のもとへ帰るのを助けることではないでしょうか。

聖なる神殿の業は、キリストを信じるわたしたちの信仰を増し、それによってわたしたちは人の信仰にも良い影響を及ぼせます。神殿で感じる養いの御霊により、わたしたちは生活の中で救い主の贖罪の真实性と、それがもたらす力と希望を知ることができます。

何年前か、我が家は大きな困難にぶつかりました。わたしは神殿に行って、助けを求めて熱心に祈りました。すると、決定的な瞬間が訪れました。自分の弱さをはっきりと思い知らされて、衝撃を受けました。霊的な教えを受けたその瞬間に見えたのは、必ずしも主の方法ではなく自分の方法で物事に対処し、何かうまくいったことがあればひそかに自分の功績として、高慢な女性の姿でした。それが自

分であることをわたしは分かっていました。そして、心の中で「あの女性になりたくありません。どうすれば変われるでしょうか」と天の御父に嘆願しました。

神殿の清い啓示の霊を通して、わたしは自分に贖い主が絶対不可欠であることを教えられました。すぐに救い主イエス・キリストに心向けると、苦悩が溶けてなくなっていく、心に大きな希望が湧き上がるのを感じました。主はわたしの唯一の希望であり、主のみしっかりとつかまっていたいと切望しました。自己陶醉する、生まれながらの女性は「神〔と周りの人〕の敵である」⁷ ことがはっきりと分かりました。その日、イエス・キリストの贖罪を通してのみ、わたしの高慢な性質が変わり、善を行う力を受けられるということを経験しました。主の愛をとて強く感じ、ためらわず心のすべてを主にささげれば、主は御霊を通して教えてくださり、わたしを変えてくださることを知りました。

自分の弱さとの戦いはまだ続いていますが、贖罪によってもたらされる天の助けを信頼しています。この純粋な教えは、わたしが聖なる神殿に参入し、慰めと答えを求めたから与えられたのです。神殿に入るときは重荷を背負っていましたが、全能で、愛にあふれる救い主がおられると確認して出てきました。心は軽くなり、喜びに満たされていました。主の光を受け、わたしに対する主の計画を受け入れたからです。

世界各地に建つ神殿は、それぞれ異なる外観と設計ですが、内側には同じ永遠の光と目的と真理があります。コリント人への第一の手紙3章16節にはこうあります。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」神殿と同じように、わたしたちも神の娘として世界各地に置かれ、それぞれ異なる外見をしています。また、神殿と同じように自らの内に霊的な光を持っています。この霊的な光は、救い主の光を受けて輝くものです。人々はその

光に引きつけられるでしょう。

わたしたちは地上で、娘、母親、指導者、教師、姉妹、一家の大黒柱、妻など、いろいろな役割を担っていて、一人一人が影響力を持っています。福音の真理と神殿の聖約が生活に反映するとき、それぞれの役割において道德的な力を持ちます。

D・トッド・クリストファーソン長老は「どのような状況にあらうとも、母親なら他の誰にもできない、他の人間関係ではできない影響力を発揮することができます」と述べています。⁸

子供たちが小さい頃は、わたしは夫のデビッドと1隻の船の共同艦長を務めているような思いがしました。港で11人の子供が小船隊のようにわたしたちの周りに浮かび、世界の大海原に旅立つ準備を整えている姿を思い描きました。デビッドとわたしは、わたしたちの小船隊とともに航海するのに最も良い方角を求めて、毎日主の羅針盤に頼る必要があると感じていました。

わたしの日課は、洗濯物を畳んだり、子供の本を読んであげたり、夕食にキャセロールを作ったりなど、記憶に残らないようなことであふれていました。港である家庭では、家族の祈り、聖文学習、家庭の夕べをはじめ、簡単な、いつもと変わらない行いから大いなることが成し遂げられるとは思えないことがあります。しかし、まさにこれらの行いにこそ、永遠の意義があることを証します。これらの小さな船、すなわち子供たちが、大海を力強く進む船舶に成長し、福音の光に満たされ、「神の務めに出で立」⁹つ準備ができたとき、大きな喜びが訪れることでしょう。信仰と奉仕のささやかな行いにより、わたしたちのほとんどが神のうちにいつもいて、やがて家族と友人と周りの人に永遠の光と栄光をもたらすことができます。皆さんは本当に周りの人にとって大きな影響力となれるのです。

初等協会の少女の信仰が家族にどのような影響を及ぼせるか考えてみてください

い。遊園地で幼い息子が迷子になったとき、我が家の娘の信仰は家族を祝福しました。家族で必死に息子を探し回っていると、10歳の娘がわたしの腕を優しく引っ張り、「お母さん、祈った方がいいんじゃない?」と言いました。娘の言うとおりでした。見物人に囲まれて、子供が見つかるよう家族で祈りました。そして、息子は見つかったのです。初等協会の女の子たちをお願いします。祈ることを忘れないように、いつも両親を助けてください。

今年の夏、わたしはアラスカで900人の若い女性のキャンプに参加する特権にあずかりました。彼女たちからわたしは大きな影響を受けました。モルモン書を読み、「生けるキリスト——使徒たちの証」を暗記した彼女たちは、霊的に準備してキャンプに臨みました。キャンプの3日目の夜、900人の若い女性全員で立って、この使徒の証を全部、一言一句暗唱しました。

大きな講堂が御霊に満たされ、わたしも一緒に暗唱したいと思いましたが、できませんでした。暗記する努力を払っていませんでした。暗記する努力を払っていませんでした。

この姉妹たちのように、わたしも「生けるキリスト」を覚え始めました。彼女たちのおかげで、キリストについての使徒たちの証を繰り返し唱えるたびに、救い主を常に覚えるという聖餐の聖約をより存分に味わっています。わたしにとって、聖餐はさらに深い意味を持つようになりました。

12月25日までに「生けるキリスト」を暗記し心にとっかりと刻んで、それを救い主への今年のクリスマスの贈り物にしたいと思っています。アラスカの姉妹たちがそうであったように、わたしも良い影響力になりたいです。

皆さんは「生けるキリスト」の次の言葉に自分の姿を見ることが出来ますか。「イエス・キリストはすべての人々に、御自身が示す模範に従うよう熱心に勧められ



ました。イエス・キリストは病人を癒やし、目の不自由な人々の目を見えるようにし、死人をよみがえらせながら、パレスチナの道を歩まれました。」¹⁰

教会の姉妹であるわたしたちは、病人を癒やしながらかパレスチナの道を歩みませんが、弱くなり、壊れかかった人間関係に贖罪の癒やしの愛があるように祈り、その力をもたらすことができます。

救い主のように目の不自由な人を見えるようにすることはできませんが、霊的に見えなくなっている人に救いの計画について証できます。永遠の聖約において神権の力が必要であることについて、その人の理解の目を開くことができます。

救い主がなさったように死者をよみがえらせることはできませんが、神殿の業を行うために名前を探し出して死者に祝福をもたらすことはできます。そうすれば、死者を実際に霊の獄からよみがえらせ、永遠の命の道を彼らの前に開くことができます。

生ける救い主イエス・キリストがおられること、そしてキリストの力と光によって世の暗闇を押し戻すことができ、自分たちが知っている真理を宣言でき、主のみもとに来るよう人々に影響を与えられることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. M・ラッセル・バラード「男性と女性と神権の力」『リアホナ』2014年9月号、36
2. ハリエット・R・ワークトドルフ、*The Light We Share* (Deseret Book Company) (2014年) 41、許可を得て引用。
3. トーマス・S・モンソン「わたしは盲人であったが、今は見えるということです」『リアホナ』1999年7月号、69
4. 教義と聖約 50:24
5. 教義と聖約 88:7
6. ジョージ・Q・キャノン、*Preparing to Enter the Holy Temple* (冊子、2002年)、36で引用
7. モーサヤ 3:19
8. D・トッド・クリストファーソン「道徳に及ぼす女性の力」『リアホナ』2013年11月号、30
9. 教義と聖約 4:2
10. 「生けるキリスト——使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号、2



大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

喜んで福音に生きる

イエス・キリストの救いの力を信頼し、主の律法と戒めを守ってください。つまり、喜んで福音に生きてください。

わたしの大切な友でありイエス・キリストの祝福された弟子である愛する姉妹の皆さん、末日聖徒イエス・キリスト教会の総大会を開会するに当たり、皆さんとともに集う機会を頂き光栄に思います。来週、大管長会と十二使徒は全ての中央幹部と中央補助組織の指導者に会うことになっています。そして、全世界に向けたこの教会の総大会のその他の部会は、来週の土曜日と日曜日に引き続き行われます。わたしたちの時代の預言者トーマス・S・モンソン大管長から、大管長会を代表して教会の姉妹たちに話すように依頼されたことを、わたしは心から感謝しています。

何を言うべきか考えていると、わたしの人生を形作り、試練のときに助けてくれた女性たちに、わたしの思いは向かいました。わたしは、何十年も前に家族全員をモルモン教徒の聖餐会に連れて行く決断をしてくれた祖母に感謝しています。また、ドイツ人の年配の独身女性、エービヒ姉妹に感謝しています。彼女の名前を翻訳すると「永遠の姉妹」となります。彼女はわたしの祖母を教会に招くという勇氣あるすばらしい行いをしてくれました。わたしは第二次世界大戦の混乱の中で4人の子供を導いてくれた母に心から感謝しています。また、娘と孫娘、そしていつの日かその後続く未来の忠実な女性たちのことも考えています。

もちろん、妻のハリエットへの感謝は尽きることがありません。彼女は10代のときにわたしを魅了し、結婚して母親となり、育児や子育てという重荷を一番に担ってくれました。妻としてわたしの傍らに立ち、子供や孫やひ孫を愛し大切にしています。順風のときも逆風のときも、家族の支えとなってくれました。妻は、彼女をよく知る全ての人の人生に光をもたらしています。

最後に、神の王国を築くために多くのことをしている、何百万もの世界中のあらゆる世代の忠実な姉妹たちに心から感謝しています。皆さんは周りの人々をさまざまな方法で励まし、養い、祝福しています。

神の娘たち

わたしは神の多くの娘とともにいることをうれしく思います。「神の子です」を歌うとき、その歌詞はわたしたちの心にしみ込みます。「自分は天の両親の子供である」¹という真理について考えると、自分の起源と、目的と、行く末についての思いが心に満ちてきます。

「わたしはいつも神の子である」と意識するのは良いことです。その知識は、困難な時期をしのげるように助けてくれ、すばらしい事柄を成し遂げるように励ましてくれるでしょう。しかし、永遠の両親の娘という身分は自分が勝ち取ったものでも、将来失われるものでもないということを



覚えておくのも大切です。皆さんは、永遠にわたって常に神の娘なのです。御父は皆さんに高い望みを持っておられますが、天与の起源を持つだけでは天の受け継ぎを得ることは保証されません。神が皆さんをここへ送られたのは、想像を絶する未来に皆さんを備えるためです。

忠実な人には、靈感と栄光に満ちた祝福が約束されています。その祝福には、「王位、王国、公国、および力、主権、すべての高い所と深い所」²も含まれます。人知を超えたその祝福を受ける者となるには、霊的な出生証明書や「神の子会員カード」以上のものがようになります。

では、どうすればそこに到達できるのでしょうか。

救い主はこの時代に、その答えを与えられました。

「あなたがたはわたしの律法に従わなければ、この栄光に達することができない。

昇栄……に至る門は狭く、その道は細い。……

……それゆえ、あなたがたはわたしの律法を受け入れなさい。」³

だからこそ、わたしたちは弟子としての道のりを歩むことについて話すのです。

神の戒めに従順に従うことについて話

すのです。

心と力と思いと精神を尽くし、喜んで福音に生きることについて話すのです。

神はわたしたちが知らないことを御存じである

しかし、神の戒めに従うことは、常に喜びに満ちているわけではないと感じる人もいます。事実を正直に受け入れましょう。中には難しい戒めや、気乗りしない戒めもあるでしょう。健康に良くても嫌いな野菜が目前に出された子供のように感じる戒めです。もっと楽しいことに移れるようにと、鼻をつまんで、我慢して飲み込むように従っているのです。

そのようなときに、こう思うかもしれません。「神の戒めは本当に全部従う必要があるのかしら。」

その問いに対するわたしの答えは簡単です。

神はわたしたちの知らない、理解を超えた事柄を御存じであるとわたしは思います。天の御父は永遠の御方であり、わたしたちと比較にならないほど偉大な経験と知恵と英知を備えておられます。⁴さらに、永遠の愛と哀れみに満ち、人の不死不滅と永遠の命をもたらすという神聖な一つの

目的に常に心に向けておられます。⁵

つまり、皆さんにとっての最善を御存じで、その最善を皆さん自身が選ぶようにと望んでおられるのです。

天の御父の最大の使命は御自分の子供たちに昇栄と栄光を与えることであり、御父はそのための最善の方法を御存じであると心から信じるなら、難しそうに思える戒めでも受け入れて従うことは、道理にかなっていないのでしょうか。この世の闇や試練の中を導くために神が与えてくださったともしびを大切にすべきではないのでしょうか。そのともしびは天の家へ帰る道を示しています。天の御父の道を選ぶことにより、皆さんは、神の娘として進歩するために生涯にわたって祝福となる神聖な土台を据えていることになるのです。

わたしたちの試練となっているのは、神は祝福を天の大きな雲の中に閉じ込めていて、御自分が定めた厳しいおきてに従わない限りその祝福を下さらないのだと想像していることだと思います。しかし、戒めとはまったくそのようなものではありません。実際には、天の御父は絶えず祝福を注いでおられるのです。その祝福をまるで傘のように遮っているのは、わたしたちの恐れや疑いや罪なのです。

神の戒めは、その傘を閉じて、絶えず注いでいる天の祝福を受けなさいという、愛に満ちた教えであり神聖な助けなのです。

神の戒めは、単なる良い考えのリストではないことを受け入れる必要があります。それはインターネットのブログに掲載される「ライフハック」やピンタレストのボードに載っている啓発される言葉ではありません。それは「この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を」⁶ もたらす永遠の真理に基づいた神の助言なのです。

選択肢があります。一方には、絶え間なく変わる理論と、疑わしい動機に満ちた、この世の意見というものがあります。もう一方には、神の子供たちへの神の御言葉、すなわち神の永遠の英知、確かな約束、栄光と愛と威厳に包まれて御前に帰って来るように招く、愛に満ちた神の教えがあります。

選ぶのは皆さんです！

大海と砂と無数の星々の創造主が、まさに今、手を差し伸べておられます！幸福と平安と永遠の命を得る方法を差し出しておられるのです！

この輝かしい祝福を得るには、へりくだり、信仰を働かせ、キリストの御名を受け、言葉と行いで主を求め、決然として「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、……神の証人になる」⁷ ことが必要です。

従順であるべき理由

神と神の戒めの真の性質を理解すると、自分自身のことと自分が存在する神聖な目的を、さらに理解できるようになるでしょう。それにより、戒めに従う意欲に変化が生まれます。喜んで福音に生きることが、心からの望みになるのです。

例えば、教会に出席することを、神への愛を深め、平安を見だし、人を高め、御霊を求め、イエス・キリストに従う決意を新たに私の方法だと考える人は、単に椅子に腰掛けて時間を過ごしている



だけだと考える人よりも、ずっと豊かな経験をしていることでしょう。姉妹の皆さん、日曜日の集会に出席することはとても大切ですが、天の御父は、わたしたちの出席率よりも、信仰と悔い改めの方へずっと関心を持っておられるとわたしは確信しています。

もう一つの例を紹介しましょう。

二人の小さな子供を持つひとり親の姉妹が、最近水ぼうそうにかかりました。当然ながら、子供たちにもすぐに感染しました。この若い母親にとって、独りで自分と小さな子供の世話をするのは大変なことでした。きれいにしていた家は、散らかってしまいました。汚れた皿が流し台に重ねられ、洗濯物も回り一面に積み上げられました。

自分も泣きたいと思いつつ、泣きじゃくる子供に苦勞していると、誰かがドアをノックしました。それは彼女の訪問教師でした。彼女たちには、この若い母親の苦しみが見て取れました。家と台所の様子が見えました。子供の泣き声も聞こえました。

さて、この姉妹たちが毎月訪問することだけを考えていたとしたらどうでしょう。彼女にクッキーを渡して、「先週の扶助協会でお会いできなくて寂しかったわ」と言い、「わたしたちにできることがあったら何でも言ってね」というような言葉を掛けて、今月も100%訪問できたことに感謝しながら、朗らかに家路に就いていたか

もしれません。

幸いなことに、彼女たちはキリストのまことの弟子でした。自分たちの姉妹の必要に気づき、自分たちの多くの才能と経験を有効に活用しました。台所や部屋を片付け、家の中に光と清潔さをもたらし、それから、友人に電話をして必要な食料品を持って来てもらいました。ひと仕事終えた彼女たちが、挨拶をして立ち去ったとき、この若い母親の目には感謝と愛の涙が浮かんでいました。

そのときを境に、この若い母親の家庭訪問に対する考え方が変わりました。「わたしは、単に誰かの『やることリスト』のチェック項目ではないことが分かりました。」

確かに、訪問教師が毎月訪問することは必要ですが、この戒めが与えられている最大の理由である、神と隣人を愛することを忘れてはなりません。

戒めを守ることや神の王国を築くことを、「やることリスト」の項目をこなすかのように扱うならば、わたしたちは弟子としての心を失うことになってしまいます。喜んで天の御父の戒めに生きることによって得られる、成長の機会を逃してしまうのです。

弟子としての道のりを歩むことは、必ずしも苦しい経験ではありません。それは「どんな甘いものよりも甘【い】」⁸ のものです。人を苦しめる重荷ではありません。弟子の道は、霊を高め、心を軽くしてくれます。信仰と希望と慈愛で、励ましてくれ

ます。闇や悲しみに包まれているときでさえ、光と平安で霊が満たされます。

神の力と永続する喜びを与えてくれるのです。

喜んで福音に生きる

福音における愛する姉妹の皆さん、8歳の人にも108歳の人にも、心から理解し、知ってほしいことが一つあります。

皆さんは愛されています。

皆さんは、天の両親にとって大切な存在です。

無限にして永遠なる、光と命の創造主は、皆さんを御存じです！皆さんを心に留めておられます。

今まさに、そしていつも、神は皆さんを愛しておられます。

皆さんが弱点や悪い習慣を克服できたら愛そうと思っておられるのではありません。皆さんの困難を完全に理解したうえで、今、愛しておられます。希望に満ちた心からの祈りの中で皆さんが神に近づこうとしているのを御存じです。皆さんが闇の中で、消えてしまいそうな光をつかんで信じたときのことを御存じです。皆さん

の苦しみを御存じです。力が足りず、失敗したときの皆さんの苦しみを御存じです。それでも神は、皆さんを愛しておられるのです。

神は、皆さんの成功を御存じです。皆さんには小さく見えることでも、その一つ一つを認め、大切にしておられます。人々に手を差し伸べる皆さんを愛しておられます。自分の重荷と闘いながら、人の重荷を軽くしようとして手を差し伸べる皆さんを愛しておられるのです。

神は皆さんの全てを御存じです。皆さんがはっきりと見え、ありのままの皆さんを御存じです。そのうえで、今も、そしていつも愛しておられるのです！

天の御父が皆さんの化粧や服や爪が完璧かどうかを気になさると思いますか。インスタグラムやピンタレストのフォロワーの数で、皆さんの価値をお決めになると思いませんか。誰かがフェイスブックで皆さんを友達から解除したり、ツイッターのフォローを解除したりするのを、皆さんが心配し落胆することを望んでおられると思いますか。外見的魅力や服のサイズ、人気などが、宇宙を創造された御方に

とっての皆さんの価値に、ほんのわずかでも影響を与えたいと思いませんか。

神はまさに現在の皆さんをありのまま愛し、さらに、皆さんがなりたいと望み、その可能性を秘めている、栄えある輝かしい皆さんをも愛しておられるのです。

皆さんが行くべき道を全うし、天の家に立派に帰って来ることを、皆さんの想像が及ばないほど、御父は切望しておられます。

天の家に帰るには、利己的な願望や不適切な野心を、犠牲と奉仕という祭壇にささげなければならないことを^{あかし}証します。姉妹の皆さん、イエス・キリストの救いの力を信頼し、主の律法と戒めを守ってください。つまり、喜んで福音に生きてください。

皆さんが生活の中で、もう一度新たに、これまで以上に、神の美しい愛を経験できるようにお祈りします。神の戒めを学び、それを宝とし、喜んで福音に生きる信仰と決意を心の中に見いだすことができますように。

そうするときに、最高の、本当の自分を見いだせることを約束します。あらゆる義の主である永遠の神の娘であることが本当に意味することは何かを見いだせることでしょう。そのことを証し、主の使徒として皆さんを祝福します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 神は統治者、創造者であられるばかりか、天の御父でもあられます。全ての男性、女性は、文字どおり神の息子娘です。ジョセフ・F・スミス大管長は「人が霊として天の両親から生まれ、御父の永遠の住まいで成熟するまで育てられた後に、死すべき状態を経験するために肉体を得て地上にやって来た」と教えています（『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』335）。
2. 教義と聖約 132：19
3. 教義と聖約 132：21 - 22, 24
4. イザヤ 55：9 参照
5. モーセ 1：39 参照
6. 教義と聖約 59：23
7. モーサヤ 18：9
8. アルマ 32：42



ブラジル・ソブラル

大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談をいくつか選びました。個人の研究や家庭の夕べ、その他の教える機会に活用してください。数字は説教が掲載されている最初のページを示しています。

話者	実話や物語
ニール・L・アンダーセン	(28) ニール・L・アンダーセンは、一人の帰還宣教師のジョセフ・スミスについての証 ^{あかし} を強める。
M・ラッセル・バラード	(89) ある川下りのガイドは、人々が急流下りの旅に備えていたとき、「船を離れない」よう警告する。
デビッド・A・ベドナー	(107) デビッド・A・ベドナーの息子は、軽いけがの手当てを受けた後で、同じような手当を友達にしてあげる。
リンドン・K・パートン	(111) ある専任宣教師は、その心と勢力、思い、力を主にささげた後、清められた心を携えて伝道を終える。
タッド・R・カリスター	(32) ベン・カーソンの母親は、息子の人生を一転させる。あるレバノンの少女は、母親から福音を学ぶ。タッド・R・カリスターの両親は、彼に福音を教える。
クレーグ・C・クリステンセン	(50) 数人の執事が、モンソン大管長を尊敬する理由を語る。クレーグ・C・クリステンセンは、モルモン書の研究を通して証を得る。
D・トッド・クリストファーソン	(16) ヘンリー5世は臣下に、一人一人が自分自身の魂の主人であると語る。自分自身の面倒を見るのを拒む男が、墓に連れて行かれることに同意する。
クエンティン・L・クック	(46) 漫画『ピーナッツ』の一コマに登場するルーシーは、ボールを落としたことへの言い訳をする。ある若い男性は、伝道に出る、神殿で結婚するといった自身の目標にそぐわない選択をする。大学の監督との会見が、父親の助言に従おうというクエンティン・L・クックの決意を固める。
ディーン・M・デイビーズ	(53) フィリピンにおける壊滅的な台風の後、教会と教会員は教会内外の人々を救済する。
チェリル・A・エスプリン	(12) ある若い女性の指導者は、聖餐 ^{せいさん} がもたらす人に能力を授ける力について学ぶ。ある96歳の男性は、聖餐を取ることができるように教会に出席する。
ヘンリー・B・アイリング	(59) ある新しい改宗者は、年若いヘンリー・B・アイリングとその兄が神権の奉仕に備えるのを助ける。ヘンリー・B・アイリングの父親とビショップは、アイリング少年に助けを求めることによって信頼を示す。あるホームティーチングの先輩同僚は、ヘンリー・B・アイリングの息子に信頼を示す。 (70) ヘンリー・B・アイリングの母親は、息子が母親の忠告の中に神の言葉を聞き取るよう祈る。アメリカ合衆国アイダホ州の教会指導者たちは、洪水の被災者を助けるために啓示を受ける。結び固めを執り行う力を受けたある男性の妻は、啓示を通して夫が神によって召されたことを知る。
エドアルド・ガバレット	(37) 専任宣教師として、エドアルド・ガバレットは、救い主の声に従うことについての教訓を学ぶ。ウルグアイに住む14歳の少女の両親ときょうだいは、彼女の模範に従って教会に加わる。エドアルド・ガバレットの両親は、宣教師とそのメッセージを受け入れる。
カルロス・A・ゴドイ	(96) 祝福師の祝福の中で約束された祝福を受けるために、カルロス・A・ゴドイは、妻の助けを得てさらなる教育を求める。
ロバート・D・ヘイルズ	(80) 年若いロバート・D・ヘイルズは、両親や教師、聖文、聖霊から神について学ぶ中で証を得る。
ジェフリー・R・ホランド	(40) トーマス・S・モンソンは、自身の靴や予備のスーツとシャツを与えた後、スリッパ履きでドイツから帰国する。
ラリー・S・ケーチャー	(104) ラリー・S・ケーチャーとその妻は離岸流に巻き込まれたが、神の計らいのおかげで海岸にたどり着く。二人の男性は、家族を教会から離れさせるような選択をする。ラリー・S・ケーチャーの義理の両親は、福音に従って生活し、子供たちに福音を教えることによって子孫に祝福をもたらす。
ヨーク・クレビンガット	(34) ヨーク・クレビンガットは、ウクライナ・キエフ伝道部で働く一人の姉妹宣教師に、自分の弱さのために身動きが取れなくならないよう忠告する。
ニール・F・マリOTT	(117) ニール・F・マリOTTは、救い主を信頼できるという確信をもって神殿を後にする。ニール・F・マリOTTの娘は、家族の幼い息子が迷子になった後、祈るよう家族を励ます。アラスカに住む900人の若い女性は、「生けるキリスト」を暗唱する。
ヒューゴ・E・マルチネス	(102) モンソン大管長は、病気の娘を持つ一人の父親に仕える。兄弟たちが、ハリケーンの後、マルチネス家族に水を運んで来る。
トーマス・S・モンソン	(67) 1発の魚雷が戦艦「ビスマルク」の舵に打撃を与え、予定されたコースを進めなくする。 (86) カナダの教会員たちは、ある移民のドイツ人夫婦の家庭を頻りに訪れ、そこで平安に満ちた雰囲気を楽しむ。
ラッセル・M・ネルソン	(74) ラッセル・M・ネルソンは、スペンサー・W・キンポール大管長に手術を施した後、キンポール大管長が将来預言者になるという証を受ける。
ダリン・H・オークス	(25) 妻の忍耐と思いやりのおかげで、ある教会員ではない夫がバプテスマを受ける決心をする。
アラン・F・パッカー	(99) 木を切ることに集中する一方で、アラン・F・パッカーは、手斧 ^{ておの} のカバーを外すのを忘れる。
ボイド・K・パッカー	(6) ある女性は、彼女が被ったひどい間違いに対して、救い主が既に償ってくださったことに気づく。
L・トム・ベリー	(43) ハロルド・B・リー大管長の孫は、寝る前の祈りの大切さについて母親に思い起こさせる。
リン・G・ロビンズ	(9) ボイド・K・パッカー会長は、リン・G・ロビンズに、どちらを向いているかと尋ね、自分が人々に対し預言者を代表していることを思い起こさせる。
ジーン・A・スティーブンス	(114) ジーン・A・スティーブンスの両親は、自分たちが交わした聖約と主への愛を確固として保つ。若い女性たちは、神殿の聖約に備える。
ディーター・F・ウークトドルフ	(56) ある男性は、隣人宅の庭に生えている1本のタンポポへの思いにとりつかれる。ある銀行強盗は、カメラに映らなくなると信じて、自分の顔にレモンジュースを塗る。表面上は強いワードで、11組の夫婦が離婚する。 (120) 家庭訪問教師が、二人の子供が病気になり悪戦苦闘しているひとり親の母親のもとにやって来て手助けする。



総大会の日曜午後の部会で話すトーマス・S・モンソン大管長

「靈感あふれるメッセージに 耳を傾ける輝かしい2日間」

「わたしたちは靈感あふれるメッセージに耳を傾ける輝かしい2日間を経験しました」と、トーマス・S・モンソン大管長は2014年10月5日の日曜日、第184回半期総大会を閉じるに当たって述べた。

メッセージでは、いかなる状況でも耐えられるようにしてくれる証を育てること、救い主の道に従い献身的な弟子になること、預言者に従い支持すること、選択の自由を賢明に行使すること、家庭を愛のある、安全で、模範と福音を学べる場所にするなどなどの大切さが教えられた。

土曜日の開会の言葉で、モンソン大管長は教会が発展し続けていることに触れ、次のように語った。「現在会員は1,500万を超え、その数は増加の一途をたどっています。伝道の業もひるむことなく前進しています。8万8,000人の宣教師が世界各地で奉仕し、福音のメッセージを分かち合っています。」

土曜の午後の部会では、七十人第一委員会のカロス・H・アマードー長老とウィリアム・R・ワーカー長老が解任され、名誉中央幹部に任命された。

アライク・V・ミナシャン長老とガビド・センカンス長老は、地域七十人から解任された。

また総大会では初となる、英語を主要言語としない話者数人による母国語での説教が行われた。

黄^{ウオン}(サム)志^チ康^{ホン}長老は広東語で、エドアルド・ガバレット長老とヒューゴ・E・マルチネス長老はスペイン語で、カルロス・A・ゴドイ長老はポルトガル語でそれぞれ話した。

アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーにある2万1,000席を有するカンファレンスセンターは、総大会の全ての部会で満席となり、入り切れなかった人々がテンプルスクウェアの他の会場を埋め尽くした。総大会の各部会の様子は90を超える言語に通訳され、170以上の国と領土に向けて放送された。

さらに、テレビ、ラジオ、衛星放送、インターネットで提供され、携帯機器への配信も行われている。

今総大会は、総大会のラジオ放送開始から90周年、テレビ放送開始から65周年という、節目の大会であった。■

ジョセフ・スミス に関する映画が Huluに

預言者ジョセフ・スミスを称える教会制作の映画を、数百万人の人々が視聴できるようになった。

預言者ジョセフ・スミスの生涯と受け継ぎを描いた映画「ジョセフ・スミス—回復の預言者」が、現在動画配信サービス Hulu から無料で視聴できるようになっている。

教会制作の映画が Hulu のような大手動画配信サービスに進出したのはこれが初めてである。Hulu には約 400 万人が登録しており、Roku, Apple TV, Xbox, プレイステーションのほか、インターネットに接続するスマートフォンやタブレットを通してビデオをオンデマンドで視聴することができる。

Hulu で配信することにより、教会員が視聴しやすくなるだけでなく、末日聖徒でない人が視聴して教会について知る機会が増える。

教会員がこの映画を視聴してコメントを残し、ランク付けすれば、他の人たちが映画を見つけやすくなるのである。■

神殿建設の業, さらに前進する

「既に発表された神殿全てが建設され、奉獻されると、世界中で170の神殿が運営されることになります」と、トーマス・S・モンソン大管長は2014年10月の総大会で述べた。

「既に発表された神殿を完成させることを優先しているため、現時点では新たな神殿建設の発表はありませんが、将来、必要を見定め、土地を見つけて、さらなる神殿の建設が発表されるでしょう。」

2014年9月、モンソン大管長がユタ州オグデン神殿を再奉獻したことで、現在儀式の行われている教会の神殿は、全世界で143となった。

フロリダ州フォートローダーデール神殿は、2014年5月、大管長会第二顧問のディーター・F・ワークトドルフ管長によって奉獻されている。

2014年11月16日にはアリゾナ州フェニックス神殿の奉獻が予定されており、2015年には少なくとも5つの神殿が奉



写真：サラ・シエーン・ウィバー、チャーチニュース

ユタ州オグデン神殿は2014年9月21日に再奉獻された。

献あるいは再奉獻されることになっている。■

「仕え、教え、導くためのリソース」、評議会構成員による利用が可能に

ステークおよびワードの評議会の構成員が ministering.lds.org にある「仕え、教え、導くためのリソース」という教会の新しいウェブページを活用して、困難な問題、慎重に扱うべき問題を含む物質的および霊的問題を抱える個人や家族を助けることができるようになった。

現在ステークまたはワードの評議会に出席するべき召しを受けている人は、LDS アカウントを使ってこのサイトにアクセスすることができる。

これは、以前はビショップとステーク会長以外は見ることのできなかったリソースだが、更新され、拡大されて、虐待の被害者、依存症に苦しむ人、親になろうとしている独身者、同性に引かれる性質を持つ人、財政や職業上の問題を抱える人を助ける方法についての具体的な助言も記載されるようになった。

ビショップの指示の下でワード評議会は「仕え、教え、導くためのリソース」を使い、ワード内の個人や家族を助けるために話し合うとよい。■

わたしたちの時代のための教え

2014年11月から2015年3月までの間、メルキゼデク神権および扶助協会の第4日曜日のレッスンは、2014年10月の総大会の説教の中から一つあるいは複数の説教を選んで準備してください。

2015年4月の第4日曜日のレッスンについては、2014年10月または2015年4月のどちらの総大会から選んでもかまいません。

ステーク会長および地方部会長は、それぞ

れの地域で使う説教を選んでください。あるいは、その責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。

第4日曜日のレッスンに出席する人は、選ばれた説教を事前に研究するよう奨励されています。

これらの説教は、conference.lds.org から多くの言語で視聴および閲覧できます。

■

訳注—— ldschurch.jp からアクセスできる。「福音ライブラリー」「総大会」の順にクリックする。「リアホナ」総大会号を閲覧するには「福音ライブラリー」「機関誌」「リアホナ」の順にクリックし、2014年11月号のアイコンをクリックする。





愛する人の依存症に悩む人のための リソース

愛する人の依存行動に悩む伴侶や家族は、新しいオンラインガイドにアクセスして、助けと希望と癒やしを見いだすことができる。

AddictionRecovery.lds.org からアクセスできる「伴侶および家族支援ガイド」(英語)は、愛する者が麻薬やアルコール、ポルノグラフィーその他の有害な物質や常習癖に依存していることで苦しむ伴侶や家族が癒やされるよう助ける目的で作られた。

英語に加え、当サイトは近々、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、ロシア語、中国語、日本語、韓国語で利用可能となる。

このガイドは12のセクションに分かれており、癒やし、希望を高め、イエス・キリストを通して力を見いだすことを中心に展開している。

限界と規則の決め方、愛する者の依存症と立ち直りについて本人と話し合う方法、再発したときの適切な対応など、実用的な提案が数多く載っている。

このガイドは、LDS 家族サービスが非公開で提供する伴侶と家族支援グループの集まりで、話し合いに使われている。

個人が勉強のために使ったり、教会指導者が面接やカウンセリングの際に使ったりすることもできる。■

アメリカ合衆国ユタ州プロボにあるブリガム・ヤング大学マリOTTセンターで
ディボーショナルの説教に耳を傾けるヤングアダルト

ヤングアダルト対象のディボーショナル の変更, 1月より実施

大 管長会と教会教育管理会は、ヤングアダルトを対象とするディボーショナルの開催頻度、会場、公開方法の変更を発表した。この変更は2015年1月より実施される。変更内容は以下のとおり。

名称——ヤングアダルト対象の世界規模のディボーショナル：(話者の名前)との夕べ

頻度——1月の第2日曜日、5月の第1日曜日、9月の第2日曜日の年3回

対象——既婚・未婚を問わず全てのヤングアダルトが参加するよう招かれている。

高校または同等の学校の卒業を控えた生徒も、出席することができる。

会場——1月のディボーショナルはプロボのブリガム・ヤング大学またはBYU アイダホ校、BYU ハワイ校のいずれかで行われる。

5月のディボーショナルはソルトレーク・シティーのカンファレンスセンターまたは教会本部にあるその他の会場で行われ、9月のディボーショナルはアメリカ合衆国内のその他の場所で行われること

になる。

公開方法——各ディボーショナル開催後数日以内に、説教の英語による文書、音声、映像がLDS.org および、「福音ライブラリー」のアプリ内に新たに作られる「ヤングアダルト」コレクションから利用可能となる。

その後、その他の言語でも随時公開される。

説教の要旨が『リアホナ』に掲載されるだけでなく、いろいろな文書の引用、画像付き引用(インターネット・ミーム)、ハイライトビデオも、ディボーショナルの最中および終了後に公開される。これは、話者独自のソーシャルページを含む教会のソーシャルメディアチャンネルを通して行われる。

話者は引き続き、教会の中央幹部および中央役員の中から大管長会を選ぶ。

以上の変更は、2014年11月2日のCES ディボーショナルにおいてヤングアダルトに発表されたほか、2014年8月28日付の大管長会からの手紙で2015年放送スケジュールとともに神権指導者に通知済みである。■

LDS慈善事業団 による支援

回復のごく初期の時代から、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、苦しんでいる人々に固い決意の下で手を差し伸べ、力づけることで知られてきた。

近年、教会員と支援者はその惜しみない寄付を通して、教会が世界中の人々の生活を祝福するために行っている人道支援サービスプログラムの実施に必要な手段を提供してきている。

2013年だけでも、LDS人道支援プログラムは、130か国に住む1,050万人以上の人々を支援した。

この活動は、快適な生活と生命維持に必要な物資の提供から、きれいな水プロジェクト、何千人もの新生児の命を救えるようにする助産師や医師の訓練、車椅子の寄贈まで、多岐にわたっている。

さらに、教会では視力改善と訓練、予防接種、地域社会で栄養価の高い野菜を栽培できるよう助ける活動も行っている。

難民支援

教会は難民支援に加え、紛争や食糧難で苦しむ人々を助けるために、一貫して多大な支援を行ってきた。

近年行ってきた支援――

- 教会はチャドに住む家族に数千のテントと基本的な食糧を寄付し、ブルキナファソの難民キャンプでは手押しポンプの井戸、トイレ、シャワー施設の建設を行った。
- LDS慈善事業団は、ヨルダン、シリア、レバノン、イラク、クルド人居住地域に

おいて、食糧パケット、毛布、医療用品、衛生キット、寝具、防寒着を配給している。

イラクとクルド人居住区では、紛争で負傷した人々に車椅子など、自分で動けるようにする補助器具を送ってきた。

- ガザ地区の中央病院には、薬剤、医療用品、粉ミルクを寄贈した。
- イスラエルでは、医療施設に超音波診断装置を寄贈した。
- ウクライナとロシアで教会は、国連開発計画と提携して、内戦のさなかに家を失った3万人に食糧と寝具、衣服、衛生キットを提供した。

LDS慈善事業団は、政治的に中立の立場を維持し、宗教を問わず、誰にでも支援を行っている。

救援活動

教会はまた、自然災害の発生時に救援活動も行っている。

- シエラレオネとリベリアで教会は、1,600人の地元ボランティアを動員して、エボラ出血熱の予防法について訓練し、食糧と基本的な衛生・医療用品を提供した。
- 巨大なモンスーンのためにパキスタンとインドで洪水が起きた際に教会は、食糧と衛生キット、医療用品を提供した。
- トンガでは、サイクロンによって教会員の116家族を含む数百戸が倒壊した。教会員は倒壊した家の建て直しを手伝っている。自分の住まいを建てられるよう訓練を受けたら、次に最低4人の他の人が自分たちの家を建てるのを助けるよう求められている。教会はまた、作物を元の状態に戻し、家庭でできる野菜作りの訓練を提供している。



写真：サラ・ジェーン・ウィバー、チャーチニュース

難民と話をする、ヨルダン・アンマン地方部 会長と彼の娘(右)

- メキシコでハリケーンのために数千の家屋が損壊または全壊した際、地元の教会指導者は、被災した会員に食糧と水を提供した。また、教会は州政府と協力して食糧キットを配布した。

あなたにできること

人道援助基金に寄付することで、教会は迅速に危機に対応できるようになる。

さらに、どこに住んでいようと、会員はどのような人に対してもキリストのような愛を示し、奉仕をして、全ての人に敬意を払えるようにすることができる。

自分の町にいる難民や移民、個人的な大きな不幸を乗り越えようとしている人に気づき、彼らに友情と関心を示し、彼らを受け入れる環境を作ることはキリストのような行いであり、決して無駄にはならない。

教会は人道支援部門を通して、トーマス・S・モンソン大管長の次の勧告を実現しようと努力している。「わたしたちは互いに強め合い、気づかれていない人に気づく能力があります。」

わたしたちに見る目と、聞く耳と、人の気持ちを理解する心があれば、自分が担当する人々に手を差し伸べて、助けることができます。」「(「主に仕える召し」『リアホナ』2001年1月号、58) ■



「聖なる祈り」 リンダ・カーリー・クリステンセン画

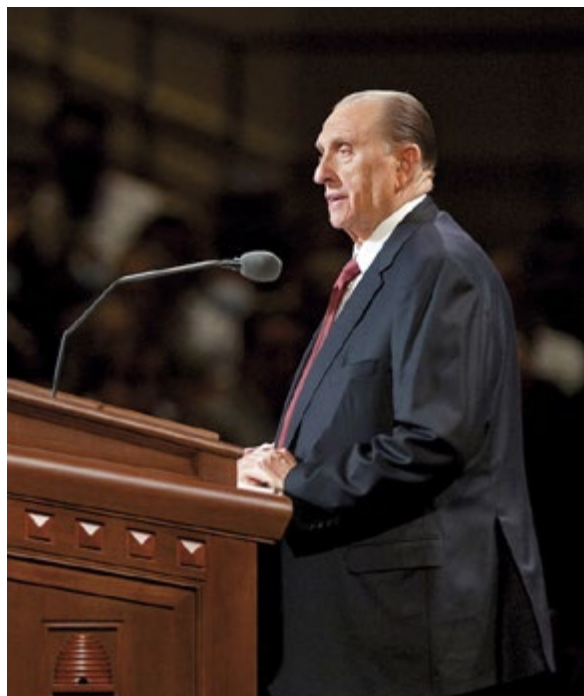
預言者ジョセフ・スミスは、14歳のときの聖なる森での経験について次のように記している。

「わたしは……人目を避けて森に入って行った。それは千八百二十年の早春、美しい晴れた日の朝のことであった。

……わたしは不安のまっただ中にあっても、声に出して祈ろうとしたことはまだ一度もなかったからである。

わたしは……辺りを見回し、自分一人であることを確かめると、ひざまずいて、心の願いを神に告げ始めた。」

(ジョセフ・スミス—歴史1:14 - 15)



「イエスは人に永遠の命を得させるために亡くなりました。
そして、わたしたちが主の御言葉を学び、主の教えに従い、
主の歩まれた道を歩んでキリストを生活の中心にするよう努めるならば、
御自身が持っておられるのと同じ永遠の命を与えると約束しておられます。」
第 184 回半期総大会でトーマス・S・モンソン大管長はそう語った。

「これ以上の目標はありません。
主の懲らしめを受け入れてイエスの弟子となり、
生涯イエスの業を行うことを選ぶべきです。
それ以外の何を選ぼうとも、
イエスがお与えになる祝福を受けることはできません。」

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

